日本医療大学年報

第 8 号 2022 年



日本医療大学

目次

1.	使命	•	目	的	等	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
2.	学生	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	15
3.	教育	課	程	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	48
4.	教員	•	職	員	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	60
5.	経営	•	管	理	ح	財	務	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	68
6.	内部	質	保	証	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	73
7.	大学	が	独	自	に	設	定	し	た	基	準	に	ょ	る	自	己	評	価	•	•	•	77
8.	社会	貢	撤	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	88
9.	顕彰	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	90
10.	委員	会	等	活	動	報	告	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	91
11	数昌	മ	白	구.	占	烚	•	証	価	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	154

1. 使命・目的等

1-1. 使命・目的及び教育目的の設定

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

日本医療大学(以下、本学)及びその母体となる学校法人の使命・目的については、各種規程にて具体的かつ明確に示されている。

まず、学校法人の使命・目的について、「学校法人日本医療大学寄附行為」第3条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学を設置して学校教育を行うことを目的とする」と規定している。さらに、本学の使命・目的について、「日本医療大学学則」第1条(目的)に「日本医療大学は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の精神に基づき、深く専門の学術を教授及び研究し、人間尊重を基盤とした専門職業人を育成して、社会の発展に寄与するとともに人々の健康及び生活の向上に貢献することを目的とする」と規定している。また、同学則第6条第5項には、学部及び学科の教育上の目的について、「生命の尊厳の理念に基づき、豊かな感性と教養で人間性を高め、高度な知識と技術を学修し、倫理的及び論理的な実践力で、地域社会に貢献する専門職業人を育成する」と規定している。

1-1-② 簡潔な文章化

上述の使命・目的は、建学の精神、基本理念、教育理念というかたちで簡潔に文章化されている。また、各学科のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)、アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)にも反映させ、学生及び教職員に分かり易く示している。

○建学の精神

共生社会の実現〜病める人や障がいを持つ人を含む全ての人々が自立し、その尊厳が重んぜられ暮らせる社会の実現を目指す〜

○基本理念

「人は人を愛し、人にふれることによって、自らも成長する」

医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学は、学生が、高度な専門知識と技術の修得に とどまらず、医療・福祉の現場と一体になったキャンパスで、高齢の方や障がいを持った 方々と日々ふれあいながら学修することで、人のこころの痛みや思いがわかり自らも成長 していく人材を養成します。

○教育理念

- 1 「職業人になる自覚をもとう」実践的教育を通して職業人としての自覚や誇りを育む。
- 2 「自律した人間になろう」 己に厳しく、自ら考え、自ら行動する。
- 3 「確かな専門知識・技術を修得しよう」 社会や時代の要請に応え、専門的な知識と技術を体系的に修得する。
- 4 「社会に貢献できる専門職になろう」 医療・福祉に携わる人として、社会からの信頼を得る。
- 5 「問題解決能力を身に付けよう」 自ら課題を発見し、活動し、振り返ることによって問題を解決する。

三つのポリシー

○看護学科

【ディプロマ・ポリシー:DP】

看護学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や 能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与 できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、対象者に必要な看護を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、看護学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー:CP】

看護学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる能力を育成するために、「社会と健康支援」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する

- 3 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「健康と疾病」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
- 4 高度で専門的な看護の実践能力の育成のため、看護の基本、対象の特徴と看護実践、 看護の統合学習について学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 将来の看護職業人としての自覚を持ち、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・ 協働して働くための豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数 指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー:AP】

看護学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

- 1 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、看護学の学修に意欲と熱意を持つ人
- 2 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
- 3 人の健康に関心を持ち、地域の保健医療福祉、社会に貢献する意志のある人
- 4 人に関心を持ち、あたたかい心で人とコミュニケーションができる人
- 5 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
- 6 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

○リハビリテーション学科

【ディプロマ・ポリシー:DP】

リハビリテーション学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中 に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与 できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4-1 対象者の運動機能を改善するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な理学療法を提供できる能力(理学療法学専攻)
- 4-2 対象者の主体的な生活を支援するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な作業療法を提供できる能力(作業療法学専攻)
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、理学療法学・作業療法学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー:CP】

リハビリテーション学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的 に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適し た形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献できる資質を育成するために、基 礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、 「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法の実践に必要な基礎的な知識を修得するため、「人体の構造と機能および心身の発達」、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4-1 対象者の運動機能の改善を目的とした、高度で専門的な理学療法の実践能力育成のため、理学療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する(理学療法学専攻)
- 4-2 対象者の主体的な生活を支援することを目的とした、高度で専門的な作業療法の 実践能力育成のため、作業療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置す る(作業療法学専攻)
- 5 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー:AP】

リハビリテーション学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲 のある人材を求める。

- 1 理学療法士・作業療法士を志している人
- 2 理学療法学・作業療法学を学ぶために必要な基礎学力のある人
- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 他者を思いやる心がある人
- 5 何事にも根気強く臨み、責任を持って最後までやりとげる人
- 6 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人
- 7-1 人の運動や動作のメカニズムに関心を持っている人(理学療法学専攻)
- 7-2 人の生活を専門的な視点から支援し、社会に貢献したいと思っている人 (作業療法学専攻)

○診療放射線学科

【ディプロマ・ポリシー:DP】

診療放射線学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の 資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与 できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、放射線の画像診断と放射線治療を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、診療放射線学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー:CP】

診療放射線学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実験・実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎 教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、 「保健医療福祉と診療放射線」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた診療放射線の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体 の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「保健医療における理工学的基礎並びに放射線の科 学と技術」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4 高度で専門的な診療放射線の実践能力を育成するため、診療放射線検査法、放射線治療法、放射線安全管理法について学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー:AP】

診療放射線学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

- 1 診療放射線技師を志している人
- 2 診療放射線学を学ぶために必要な基礎学力のある人

- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
- 5 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
- 6 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

○臨床検査学科

【ディプロマ・ポリシー:DP】

臨床検査学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与 できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、良質な臨床検査を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、臨床検査学を発展させる能力
- 6 臨床検査室の品質マネジメントシステムの構築及び実践できる能力

【カリキュラム・ポリシー:CP】

臨床検査学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する 能力を養うため、講義、実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成 する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質を育成するために、基礎 教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するため、 「保健医療福祉と医学検査」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた臨床検査の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の 構造と機能」、「医学検査の基礎とその疾病との関連」、「医療工学及び情報科学」につい て学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4 高度で専門的な臨床検査の実践能力、発展させる能力を育成するため、「臨床病態学」、「各臨床検査法」、「卒業研究」を学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 臨床検査室の品質マネジメントシステムの構築及び実践できる能力を育成するため 「検査総合管理学」、「医療安全管理学」を配置する

【アドミッション・ポリシー:AP】

臨床検査学科は、本学の建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある 人材を求める。

- 1 臨床検査技師を志し臨床検査学の学修に意欲的に取り組むことができる人
- 2 臨床検査学を学ぶために必要な基礎学力のある人
- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 他者の意見や考え方に触れ、自らの意見を整理し表現するための思考力・判断力・表現力を有している人
- 5 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

○臨床工学科

【ディプロマ・ポリシー:DP】

本学の基本理念、「臨床工学科の養成する人材像」および教育目標に基づき、臨床 工学科における卒業時の到達目標は、以下のとおりとする。在学中に下記の資質や能力を 培った者に卒業を認め、学士(臨床工学)の称号を与える。

- 1 相手を思いやる豊かな人間性を有し、科学的な思考力を基に共生社会の発展に貢献す る資質
- 2 適切なコミュニケーション能力、協調する力を身につけ、常に患者を意識し他職種の 医療従事者と連携・協働ができる能力
- 3 臨床工学の専門的な知識や技術を身につけ、多様化・高度化する医療機器の適切な操作や安全に管理できる能力
- 4 工学的な研究の基礎を身につけた能力
- 5 生涯にわたり自己研鑽する意欲と自己学修力を身につけている

【カリキュラム・ポリシー:CP】

本学科では、本学の基本理念に基づき、人間を尊重する態度とチーム医療の一員として必要な高い倫理観を持ち、専門分野の基礎・基本となる知識及び技術を高めることで医療機器を適切に操作できる確かな実践力と態度を身につけ、医療安全の確保と医療機器を用いた質の高い診療支援ができる臨床工学技士の育成を教育研究上の目的とする。また、臨床工学分野に関する学術研究の発展に寄与できる人材を育成するために、工学的な研究の基礎を修得したうえで医療機器の操作や安全管理における現象の解明や真理を発見するた

めの実践力を磨くことで、臨床工学を学問として追求できる科学的思考と問題解決能力を 有した人材育成を目指す。これらの教育目的を達成するための本学科カリキュラム・ポリ シーは次に示す通りである。

- 1 豊かな人間性を持ち、科学的思考力を基に共生社会の発展に貢献できる医療人材の育成のため適切なコミュニケーション能力や協調性、科学的思考力の修得を目的として、基礎教育科目である「人間と生活」、「科学的思考の基盤」の必修および選択科目を学修して、高い倫理観と人間力を醸成する科目を配置する(本学科のディプロマ・ポリシー①に対応)
- 2 チーム医療において、常に患者を意識して最善の医療を提供するためには、医学と工学を総合的に理解した医工学のスペシャリストとして他職種と連携・協働することが必要であり、その基盤を形成するために「臨床工学に必要な医学的基礎」、「臨床工学に必要な医療情報学とシステム工学の基礎」、「生体機能代行技術学」、「医用安全管理学」について学ぶ専門基礎教育科目、専門教育科目の科目を配置する(本学科のディプロマ・ポリシー②に対応)
- 3 医療機器の適切な使用のために専門的な知識と技術を修得し、幅広い領域において医学的、または科学的根拠に基づいた良質な診療支援技術を提供できる人材育成のために、「人体の構造と機能」、「臨床工学に必要な医学的基礎」および「関連臨床医学」、「医用機器学」、「生体機能代行技術学」について学ぶ専門基礎教育科目、専門教育科目の科目を配置する(本学科のディプロマ・ポリシー③に対応)
- 4 多様化・高度化する医療機器の安全使用を確保することで、医療安全の推進に寄与できる知識と技術を持った人材育成のために「臨床工学に必要な医学的基礎」、「医用生体工学」、「医用安全管理学」、「医用機器学」、「生体機能代行技術学」について学ぶ専門基礎教育科目、専門教育科目の科目を配置する(本学科のディプロマ・ポリシー③に対応)
- 5 医療機器の効果的な活用や安全使用など臨床工学分野で直面する課題を発見し、科学的に解明するための能力を磨くため、「科学的思考の基盤」、「臨床工学に必要な理工学的基礎」、「臨床工学に必要な医療情報学とシステム工学の基礎」、「医用生体工学」、「医用機器学」、「医用安全管理学」などの科目により工学的な研究の基礎を身につけたうえで「卒業研究」を必修科目とすることで医療機器に関連した課題について新たな知見を発見するための研究を遂行する(本学科のディプロマ・ポリシー④に対応する)

6 常に発展し続ける医療機器を管理する臨床工学技士には、生涯にわたり学修を継続することが必要であり、自ら主体的な学びの意欲を引き出すためのアクティブ・ラーニングを実践するため、「プロジェクトスキルⅠ」、「プロジェクトスキルⅡ」、「チーム医療」、「臨床実習」および「卒業研究」を配置して段階的に学びの価値を追求する(本学科のディプロマ・ポリシー⑤に対応)

【アドミッション・ポリシー:AP】

- 1 他者を思いやる心、相手の立場に立って物事を考えられることができる人
- 2 基本的なコミュニケーション能力を有している人
- 3 学ぶ意欲や挑戦する意欲があり、主体的に学修する意思がある人
- 4 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人
- 5 高等学校等において能動的に幅広く学び、入学後の学修に必要な基礎学力を身につけ ている人

○介護福祉マネジメント学科

【ディプロマ・ポリシー:DP】

介護福祉マネジメント学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人間を尊重する態度と高い倫理観を養い、人間を統合的な存在として理解する能力を身につける
- 2 利用者のアセスメントから生活課題を明らかにして、介護計画を作成、実施、評価ができ、それを他の介護職に指導できる能力を身につける
- 3 介護計画の作成・実施において、多職種等と協働して支援する能力を身につける
- 4 介護職員のリーダーとして、チームで介護業務を遂行していくことができる能力を身 につける
- 5 社会福祉施設・医療機関等の運営管理、サービスの維持や開発に関わることができる 能力を身につける

【カリキュラム・ポリシー:CP】

介護福祉マネジメント学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、各年次で学修した知識 と技術を体系的に修得し、年次を追って発展できるよう教育課程を編成する。

- 1 人権や多様な人間性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために基礎となる知識 と豊かな人格を涵養することを重視した科目を基礎教育科目に配置する
- 2 包括的・重点的支援に必要な専門職の知識を修得させるため、「社会福祉の基礎」及 び「経営の基礎」に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
- 3 専門職のための技能を修得するための専門教育科目を配置する
- 4 主体的に学べるケーススタディ、問題解決型学習などのアクティブ・ラーニングを用いて、実践力を育てる
- 5 学習成果の評価は、学力3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・ 多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

【アドミッション・ポリシー:AP】

介護福祉マネジメント学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意 欲ある人材を求める。

- 1 介護福祉に関わる専門的知識を学べる基礎学力を有する人
- 2 差別や偏見をなくし、地域共生社会の実現のために貢献したいと思う人
- 3 自立困難な人や生活のしづらさを抱えている人の人生を豊かにできる人
- 4 社会福祉施設、医療機関等の組織の経営、運営管理について論理立てて考える力がある人
- 5 新しいソーシャルビジネスやサービスを開発・企画することを論理立てて考える力が ある人

○ソーシャルワーク学科

【ディプロマ・ポリシー:DP】

ソーシャルワーク学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に 右記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える

- 1 人間を尊重する態度と高い倫理観を養い、人間を統合的な存在として理解する能力を 身につける
- 2 保健・医療・福祉・介護・就労・教育等に関わる専門的知識や技術に関する能力を身 につける
- 3 利用者主体の生活支援として、ソーシャルワークの展開過程を実施できる能力を身に つける

- 4 利用者やその家族等の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施(個別支援・集団支援)する能力を身につける
- 5 地域の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施(地域支援)する能力を身 につける
- 6 個別支援・集団支援から地域支援へ、地域支援から個別支援・集団支援への連続した 支援ができる能力を身につける

【カリキュラム・ポリシー:CP】

ソーシャルワーク学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に 学修する能力を養うため、講義、実習、演習を組み合わせ、科目に適した形態の授業を編 成する

- 1 人権や多様な人間性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために、基礎となる知識と豊かな人格を涵養することを重視した科目を基礎教育科目に配置する
- 2 包括的な支援に必要な専門職かつチームの一員として、社会福祉と経営の基礎に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
- 3 福祉サービスを必要とする人の支援を可能とするため、ソーシャルワーク及び経営に 関する科目を専門教育科目に配置する
- 4 ケーススタディ (CS) や問題解決型学習 (PBL) を通して、アクティブ・ラーニング による問題解決プログラムに関する科目を配置する
- 5 学習成果の評価は、学力3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・ 多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

【アドミッション・ポリシー:AP】

ソーシャルワーク学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める

- 1 保健・医療・福祉に関わる専門的知識を学べる基礎学力を有する人
- 2 差別や偏見をなくし、地域共生社会の実現のために貢献したいと思う人
- 3 自立困難な人や生活のしづらさを抱えている人の人生を豊かにできる人
- 4 社会福祉施設や医療機関等の支援システムの運営管理に関心のある人
- 5 本人や地域の課題解決について考える力がある人

1-1-③ 個性・特色の明示

本学の歩みは、昭和59(1984)年に札幌市豊平区月寒に開設した「特別養護老人ホーム幸栄の里」に始まる。「特別養護老人ホーム幸栄の里」では、デンマークから学んだノーマライゼーションを日本で実践するために、入所の方々だけでなく在宅の方々へのサービスも初めて事業化した。しかし、事業展開する中で、医療と福祉の高度な人材育成の必要性を痛感し、平成元(1989)年に本学の前身となる「日本福祉学院」を開校した。本学は、社会福祉法人ノテ福祉会を中心とする10法人とともに「つしま医療福祉グループ」を形成し、各種医療・福祉施設と大学施設が複合したコミュニティ「アンデルセン福祉村」をキャンパスの本拠地としていた。そして、令和3(2021)年4月に札幌市豊平区月寒東の月寒本キャンパスへ移転し、現在に至る。

このような歴史を背景にして生まれた精神と理念は、全ての人々が安心して暮らすことができる「共生社会の実現」をめざし、「医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学」をキャッチフレーズとして、その使命・目的及び教育目的・目標に反映されている。

1-1-④ 変化への対応

大学教育改革の中の柱として『三つのポリシーに基づく大学教育改革の実現』において、「三つのポリシーを一貫性及び整合性あるものとして一体的に策定することにより、選抜・教育・卒業の各段階における目標を具体化し、大学教育の質的転換を図ること」として、平成29(2017)年から三つのポリシーを策定・公開することが義務付けられた。それを踏まえ、本学では学科(2専攻を含む)の三つのポリシーについて、SYLLABUSや大学HPなどにおいて公開し、周知を図っている。

令和7 (2025) 年にはいわゆる「団塊の世代」がすべて75歳以上となり、我が国における高齢化は一層進行していくものと予想されていることから、このような社会情勢を見据えた「医療介護総合確保推進法」が施行され、地域における効率的かつ質の高い医療や介護の提供を総合的に確保する「地域包括ケアシステム」の構築が求められている。本学では、こうした多様化する社会の要請に応えることのできる医療専門職を育成するため、新たな学部・学科の増設を含め、組織構成及び関係諸規定等の見直しを継続的に検討・実施している。

1-2. 使命・目的及び教育目的の反映

1-2-① 役員、教職員の理解と支持

本学の建学の精神、基本理念、5つの教育理念の見直しについては、平成28 (2016) 年に理事長、学長、常務理事、事務局長、経営戦略企画室長で構成する本法人の中長期経営計画プロジェクトにおいて検討し、理事会で承認を得ている。また、三つのポリシーの見直しは、運営会議で審議した後、教授会に提案し意見を求めており、建学の精神、基本理念、教育理念、使命・目的等を改正する場合は、運営会議・教授会・理事会に諮り決定しており、役員・教職員の理解と支持を得る体制となっている。この他、使命・目的及び教育目的は、学則に明示しているほか、CAMPUS GUIDE、ホームページ、大学案内にも掲載している。

1-2-② 学内外への周知

使命・目的及び教育目的は、ホームページ、CAMPUS GUIDE (教職員、学生に配布)、大学案内等に明記するとともに、校舎内の主要な場所に掲示するなどして周知徹底を図っている。

その他、入学式、学位記授与式、入学生ガイダンス、オリエンテーション、オープン キャンパスなどにおいて説明の機会を設けている。

1-2-③ 中長期的な計画への反映

本法人の中長期経営計画に建学の精神、基本理念、教育理念が反映されるよう、平成28 (2016) 年7月からの中長期経営プロジェクトにおける審議を経て、同計画を見直した。

1-2-④ 三つのポリシーへの反映

三つのポリシーが、本学の建学の精神、基本理念、教育理念を反映した内容となるよう、学科会議、運営会議における審議を経て、教授会に意見を求め、見直しを実施した。

1-2-⑤ 教育研究組織の構成との整合性

本学の保健医療学部は、看護学科、リハビリテーション学科(理学療法学専攻・作業療法学専攻)、診療放射線学科、臨床検査学科及び臨床工学科の5学科から構成される。また、総合福祉学部は、介護マネジメント学科及びソーシャルワーク学科の2学科から構成される。学部の他に附属施設として、図書館、認知症研究所、キャリアセンターを設けている。

それぞれの学部には、必要な教員を配置するとともに、円滑な運営を図るため各種委員会を設置しており、使命・目的及び各学科の教育目的の実現のため、それぞれの委員会の審議内容を教授会及び学科会議で共有するなど、組織間の連携強化に努めている。

2. 学生

2-1. 学生の受け入れ

2-1-① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知

本学は開学時(平成 26 (2014) 年度)より「本学の教育理念に共鳴し、自らの成長を自己推進していくことができる学生を求めています。養成する人材が卒業後に札幌地域のみに貢献するのではなく、北海道全体、ひいては日本国内、また広く国際的な視野を持ちつつ活動していくことができる人材を求めます。さらに北海道という地域特性に鑑み、医療の地域偏在をなくすため、各地域・へき地においても人々の健康な生活を支援することに貢献できるたくましい人材を募集します」といった内容を日本医療大学のアドミッション・ポリシーとして示してきた。加えて、令和元(2019)年度からは学科ごとにアドミッション・ポリシーを策定し求める人材像を示している。

アドミッション・ポリシーについては、ホームページや大学案内、学生募集要項、それ ぞれの学科の SYLLABUS に掲載し、高校生、保護者、高校教諭、在学生等に幅広く周知を 図っている。また、大学案内、学生募集要項はホームページ上にデジタルパンフレットと して公開している。

2-1-② アドミッション・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証

本学の入学者受け入れ方針の周知については、本学が開催するオープンキャンパス、一日体験入学、高校訪問、出前講義、学校説明会、進学相談会等において、多くの時間をかけて実施している。特に高校訪問については、教職員が一体となり、北海道内287校のうち約240校の高等学校を訪問し、オープンキャンパスや一日体験入学を案内するとともに、高校生の進路動向の情報収集を実施している。高校訪問は1期(4月から6月)、2期(8月から10月)、3期(12月から2月)と定期的に行い、1期は「在学生の学生生活状況の報告」と「オープンキャンパス参加誘導」、2期は「総合型選抜・学校推薦型選抜出願の誘導」、3期は「一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜の出願誘導」と位置づけている。

本学の入学者受け入れの基本方針については、入学試験委員会で審議決定する旨規定されている。

本学で実施する入学試験は、平成 26 (2014)・27 (2015) 年度入試においては、一般入 試(前期・後期)・推薦入試(前期)の2つの入試区分であったが、平成29 (2017) 年度 入試から A0 入試(リハビリテーション学科のみ)、平成30 (2018) 年度入試から大学入試 センター試験利用入試(前期・後期)・推薦入試(後期)を看護学科、リハビリテーショ ン学科、診療放射線学科で導入した。令和元(2019)年度入試から指定校推薦入試・大学入試センター試験利用入試(中期)・A0入試(全学科)を導入した。さらに、令和2(2020)年度入試からは、A0入試(後期)をリハビリテーション学科のみに導入し、一般入試(前期)では札幌に加えて函館にも試験会場を設置した。令和4(2022)年度は帯広にも試験会場を設置し、道南、道東方面の受験生の利便を図った。

令和3 (2021) 年度入試では、これまでの看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科に、令和3 (2021) 年度からの設置認可が得られた臨床検査学科を加えて、一般選抜 (旧一般入試 (前期・後期)、学校推薦型選抜 (旧推薦入試 (公募前期・公募後期)、総合型選抜 (旧 A0 入試 (前期・後期)、大学入学共通テスト利用選抜 (旧大学入試センター試験利用入試 (前期・中期・後期)、学校推薦型選抜 (指定校)の5つの区分で入学試験を実施した。

令和4 (2022) 年度入試では、令和4 (2022) 年度からの設置認可が得られた臨床工学科、総合福祉学部の介護福祉マネジメント学科、ソーシャルワーク学科を加えて、一般選抜(旧一般入試(前期・後期)、学校推薦型選抜(旧推薦入試(公募前期・公募後期)、総合型選抜(旧 A0 入試(前期・後期)、大学入学共通テスト利用選抜(旧大学入試センター試験利用入試(前期・中期・後期)、学校推薦型選抜(指定校)の5つの区分で入学試験を実施した。保健医療学部の新学科である臨床工学科においては総合型選抜の後期実施後に自己アピール形式の入学試験を行った。

大学入学共通テスト利用選抜を除いた本学独自で実施する4区分の入学試験においては、将来、医療従事者として社会に貢献するという目的意識や本学アドミッション・ポリシーの理解、基本的なコミュニケーション能力をみる目的で、個人面接を必須としている。個人面接においては、面接委員間で受験生に対する対応や質問内容に大きな差異が生じないよう「面接マニュアル」を作成し、面接の手順、評価の基準、評価項目ごとの質問例を記載し、面接委員に周知している。

入試問題に関しては、入学試験実施規程第7条(入学試験問題の作成の原則)に基づき、1科目に対し大学から依頼された複数人で問題を作成している。また、問題作成に関しては、入試問題作成ミスを防止するために、第三者による点検を2回に分けて実施している。

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受け入れ数の維持

入学定員は、平成30(2018)年度まで看護学科80人、リハビリテーション学科80人 (理学療法学専攻40人、作業療法学専攻40人)、診療放射線学科50人であったが、「地 域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法規の整備等の法律」(平成 26 (2014) 年 6 月 18 日成立、平成 26 (2014) 年 6 月 25 日公布)では地域における質の高い医療を確保し、基盤整理を行うことを目標としていることから、令和元 (2019) 年度、看護学科の入学定員を 80 人から 100 人、リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員を 40 人から 80 人に増員した。令和3 (2021) 年度からは、月寒本キャンパスへの移転を機に、看護学科の入学定員を 150 人、診療放射線学科を 100 人に増員し、臨床検査学科を入学定員 60 人で新設した。さらに令和4 (2022) 年度からは、リハビリテーション学科理学療法学専攻を 100 人に増員し、保健医療学部に臨床工学科(定員 60 人)を加え、新学部として総合福祉学部(介護福祉マネジメント学科 40 人、ソーシャルワーク学科 80 人)を設置した。令和5 (2023) 年度入試の入学定員充足率は、看護学科が102.7%、リハビリテーション学科が95.7% (理学療法学専攻109.0%、作業療法学専攻62.5%)、診療放射線学科が103.0%、臨床検査学科が103.3%、臨床工学科が60.0%、介護福祉マネジメント学科が10.0%、ソーシャルワーク学科が11.3%となった。

総合型選抜の後期試験に自己アピール型の入試を加え定員確保を図った。すべての入試 区分で理学療法学専攻と作業療法学専攻の併願を認め、一般入試と大学センター試験利用 入試でも2学部7学科2専攻すべての併願を認めることとし、出願者数を増やす対策を とっている。また、令和4(2022)年度入試からインターネットによる出願も開始し、コ ロナ禍においても出願しやすい環境としている。

2-2. 学修支援

2-2-① 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備

本学における学修支援組織として、大学事務局・学務グループを設置している。各学部に専任職員を配属し、教員と共同しながら学修支援および学生に対するサポートを行っている。大学の講義に関するものは教務委員会、学生の生活、健康に関するものは学生委員会、保健管理委員会をはじめとした各委員会と連携しながら、学生教育およびサポートの具体的内容を検討し、検討内容を教授会で審議し、学長の許可を得た後、全教員への周知を行っている。

保健医療学部

【学生対応】

保健医療学部で学修する学生を支援するために教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は SYLLABUS、HP上、大学案内等に掲載し、周知の徹底を行っている。また、各学科における教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)についても1-2-②の通り設置されており、各学科のカリキュラムの構成概念は大学案内に掲載しており、教育課

程の編成方針は SYLLABUS に掲載し学生に周知している。

保健医療学部は各学科(リハビリテーション学科においては各専攻)に学年担任を複数名配置し、学生の教学上及び生活上の問題の早期発見、早期対応を心掛けている(表2-2-①-a)。それぞれの学科において学科会議にて学生の動向や状況を報告し、事務局学務 G と連絡を取りながら様々な対応を行っている。また、体調不良を訴えるものには保健室(専任保健師 1 名)が対応し、心理的不安を訴える学生についてはカウンセリングルームの設置を案内している。また、障害・疾患などを有し合理的配慮を希望する学生には、保健管理委員会にて面談を行い、学生の希望を聴取し必要に応じた対応を行っている。各担任は、ハラスメントの相談窓口も兼ねており、学生からの訴えがある場合には、ハラスメント委員会へ連絡する役割も担っている。

学内の各種委員会の構成員は、教員とともに事務職員も加わり、学生の抱える学業や生活についての問題を共有するとともに、起こり得る・起こり得た問題事項に関し解決に向けた 方策を講じている。

【教職員の研修】

教員の学修支援のさらなる意識向上ために FD 研修会を令和 4 (2022) 年度は 3 回開催している。今年度は成績評価、研究に関する研修会を実施した。職員への研修である SD 研修は 12 回開催し、大学関連の法律からハラスメントまで幅広い研修を行った。

【入学前対応】

学修支援の一環として、総合選抜型入試および推薦入試合格者に対し、本学教員による入 学前教育を行っている。

【入学時対応】

新入生オリエンテーションは、4月初旬の2日間、大学生としての心構えをはじめ、教務委員会・学生委員会からのオリエンテーション(履修登録・大学における学修に関すること、学生生活に関すること、図書室や学生相談室の利用方法など)を実施している。さらに、学年担任が中心となって、専門性の異なる学科別の特徴に応じたオリエンテーションを行い、本学学生として必要な情報を伝え、新しい環境に早期に適応できるよう努めている。看護学科では更に1日追加して新入生オリエンテーションを実施する新たな取り組みも行っている。最後に、教務委員会が作成した「学修ハンドブック」を配布し、アカデミア・スキルの定着を促している。

【在学生対応】

在学生については、ガイダンスを前期始業前に実施し、新学年での心構えや注意事項について指導している。また、各学科において日々の学習支援に加え、日本医療大学後援会の支援も受けながら国家試験対策として全国模擬試験を実施し、学習の動機づけを行っている。これら学修支援に直接的に関与する委員会は、「教務委員会」、「学生委員会」、「入学者選抜委員会」、「FD 委員会」、「図書及び学術振興委員会」、「キャリアセンター運営委員会」である。日々の活動はこれまで述べてきた通りであるが、年度活動状況については、年度末に

大学へ各委員会報告書として記載している。

【令和4(2022)年 学籍に関する状況】

体学、退学、をはじめとする学籍に関する実態は、次のような傾向が見られた。令和4 (2022) 年度の退学者は、80 名で、うち1年生と2年生が61名と全退学者の約75%となっている。これら1年生と2年生の退学理由として約84%が進路変更となっている。つまり、高校生からの進路選択にも影響しているのではないかという事が推測される。したがって、入学前イメージと入学後の実体験で大きな違いを認識し進路変更とつながっている可能性が考えられた。さらに全学年の退学理由を見ると80名中72名が進路変更となっている。詳細を見ると、学業不振や進路熟慮といった休学を経た後や留年が決定してからの退学が大半であり、学業不振が大きく影響していると思われた。休学者は、令和4(2022)年度の休学者は51人で前年度から約2倍となっていた。休学理由は進路熟慮が30名、次いで、疾病6名、その他5名、学業不振4名、学生生活への不適応3名となっていた。休学、退学等の学籍異動にあたっては、あらかじめ学年担任が学生と面談し、学年担任の所見を付した書類の添付を求めている。その後教務委員会を経て、教授会で意見を求めた後、学長が最終決定している。保護者とは、必要に応じて面談を行い、理解を得るようにしている。休学者については、定期的に学年担任に現況を連絡することが課され、休学中の学生の生活状況等の把握・指導や支援については、学年担任が中心となり教職協働により行っている。

表 2 - 2 - ① - a 令和 4 (2022) 年度学生担当教員

学科	学年	学生担当教員				
看護学科	1年A	○滋野・松村・溝部				
	1年B	○井上・和田・佐藤予右子				
	2年A	○草薙・柏民				
	2年B	○松本・原田				
	3年A	○河原畑・服部				
	3年B	○吉野・中澤				
	4年A	○佐々木・中村				
	4年B	○浅井・相馬				
リハビリテーション学科	1年理学療法学専攻	近藤・新開谷・松崎				
	1年作業療法学専攻	及川・合田				
	2年理学療法学専攻	西山・三浦・坂口				
	2年作業療法学専攻	岸上・村上				
	3年理学療法学専攻	渋川・泉水				

	3年作業療法学専攻	清本
	4年理学療法学専攻	石橋・矢口・小林
	4年作業療法学専攻	村上
診療放射線学科	1年	○俵・樋口・西山
	2年	○黒蕨・島・木村
	3年	○白石・福山・菊地
	4年	○阿部・藤田・小笠原
臨床検査学科	1年	○德永・岡田
	2年	○磯辺・林・魚住
臨床工学科	1年	○齊藤・竹内・高平

〇:主担任

総合福祉学部

【学生対応】

総合福祉学部で学修する学生を支援するための教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は、SYLLABUS、HP、大学案内等に掲載されており、かつ各学科における教育課程編成・実施方針は1-2-2の通り設置されている。また、各学科カリキュラムの構成概念は大学案内に、教育課程の編成方針はSYLLABUSに掲載され、学生全体に周知をしている。

総合福祉学部は各学科に学生担任および副担任を一名ずつ配置しており、学生の教学上、生活上の問題の早期発見、早期対応を心掛けている(表2-2-①-a)。各学科の学科会議にて、学生の動向や状況を報告し、大学事務局・学務グループと連携を取りながら様々な対応を行っている。

健康管理の点では、体調不良を訴える学生については真栄クリニック(医師1名)が対応し、心理的不安を訴える学生については保健医療学部と同様にカウンセリングルームの利用を案内している。また、障害・疾患などを有し合理的配慮を希望する学生に対しては、保健管理委員が面談や希望聴取など、必要に応じた対応を行っている。加えて、各担任はハラスメントの相談窓口も兼ねており、学生からの訴えがあった場合にはハラスメント委員会へ連絡する役割も担っている。

学内の各種委員会構成員は、教員に加え大学事務局員も関わり、学生の抱える学業や生活についての問題を共有するとともに、起こり得る、ないしは起こり得た問題事項に関して、解決に向けた方策を講じている。

【教職員の研修】

教員の学修支援のさらなる意識向上のため、FD 研修会を令和4 (2022) 年度は3回開催した。

今年度は成績評価、ハラスメント、研究に関する研修会を実施しており、職員への研修であ

るSD研修は7回開催している。

【入学前対応】

学修支援の一環として、総合型選抜入試および推薦入試合格者に対し、本学教員による入 学前教育を行っている。

【入学時対応】

新入生オリエンテーションは、4月初旬の2日間、大学生としての心構えをはじめ、教務 委員会、学生委員会からのオリエンテーション (履修登録、本学における学修に関すること、 学生生活に関すること、図書室やキャリアセンター、真栄クリニックなどの利用方法につい て)を実施している。

さらには学生担任が中心となり、専門性の異なる学科別の特徴に応じたオリエンテーションを行い、本学部生として必要な情報を伝え、新しい環境へ早期に適応できるよう努めている。

【在学生対応】

在学生については、ガイダンスを前期始業前に実施し、新学年での心構えや注意事項について指導している。また、各学科において日々の学習支援に加え、日本医療大学後援会の支援も受けながら国家試験対策として全国模擬試験の実施し、学習の動機づけを行っている。

これら学修支援に直接的に関与する委員会は、「教務委員会」「学生委員会」「入学者選抜委員会」「FD 委員会」「図書及び学術振興委員会」「キャリア学修支援センター運営委員会」である。日々の活動はこれまで述べてきた通りであるが、年度活動状況については、年度末に大学へ各委員会報告書として記載している。

【令和4(2022)年 学籍に関する状況】

休学、退学、除籍、復学、その他学籍異動に関する実態について、令和4(2022)年はいずれも0名であった。

休学、退学等の学籍異動が発生した場合は、あらかじめ学生担任が学生と面談をし、学生 担任の所見を付した書類の添付を求めることにしている。必要に応じて保護者とも面談を 行い、双方が理解を得られるようにしている。

なお休学者については、定期的に学生担任へ現況を連絡することが課され、休学中の生活 状況等の把握や指導、支援について、学生担任が中心となり教職協働で対応している。

学科	学年	学生担当教員
介護福祉マネジメント学科	1年	○織田 なおみ、伊藤 一
ソーシャルワーク学科	1年	〇忍 正人、笹岡 眞弓

表 2-2-1—a 令和 4 (2022) 年度学生担当教員

〇:主担任

2-2-② TA (Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実 保健医療学部

TA については、本学は大学院を設置しておらず、今後の課題である。ただし、上級学年が下級学年の学生へのアドバイスする場面を設定している学科が複数あり、今後より有機的に機能するように検討している所である。

臨床実習開始前の期間は、上級年次生が SA を担当し、科目担当教員の指導の下に検査測定などの技術指導やアドバイスを行うことでサポートしている。

これらがより組織的に取り組めるようになることが今後の課題である。

教務委員会では、各教員のオフィスアワーを半期ごとに大学システムであるユニバーサルパスポートにて学生に周知し、講義内容や学生生活に関する相談ができるように促している。また多くの教員は、オフィスアワー以外の時間にも可能な限り学生に対応している。

令和元(2019)年度に、リハビリテーション学科に聴覚に障がいを持つ学生が1名入学し 在籍している。聴覚状況は先天聾で人工内耳(右)を装用、左耳からの聴覚はないものの、右 聴覚と読唇で会話の理解は可能である。当該学生の入学前より、学科会議等において、聴覚 状況、授業環境、配慮事項を確認し、学科の全教職員が当該学生の障がいに対する理解を深 め、適切に対応できるように準備し、実施している。具体的には、教室においては中央から やや左側前列に席を配置し、科目担当者に対しては、口述や板書での配慮事項を説明し、徹 底して実施している。令和4 (2022) 年度も同様の対応を継続している。

その他、合理的配慮を求める学生には、保健管理委員会を通して適宜対応を検討している。

2-2の改善・向上方策(将来計画) 休退学者への対応を構築する事 上級学年が下級学年へのサポートを構築する事

総合福祉学部

TA(Teaching Assistant)については、本学は大学院を設置していないため、今後の課題となっている。そのため本学部では、アクティブ・ラーニングやチューター制度、オフィスアワー制度等を導入・活用し、より有機的な環境となるよう取り組んでいる。

アクティブ・ラーニング(ケーススタディ=CS、問題解決型学習=PBL)は文部科学省が学習・指導方法の改善として推進している教育手法であり、学生自身がグループワークやディスカッションを通じて能動的に授業に参加できる体制となっている。特に演習科目などにおいては、課題研究や問題解決型学習(PBL)、プレゼンテーションなど、学生が主体となる形態を採用しており、ICT機器なども活用しながら教員と学生が双方向につながることができる授業を実施している。また、授業の中で議論し、結論をまとめる能力を学修し「知識の定着」や「知識活用による問題解決能力(PBL)の育成」につなげ、さらにはコミュニ

ケーション能力をも身に付けることができるよう、可能な限り取り組んでいる。

チューター制度は、学生全員が入学と同時に少人数のグループに振り分けられ、所属し、 専任教員がそれぞれのチューターとして配置される制度である。個別面談や授業、生活を含 めて常に相談相手となっている。

オフィスアワー制度は、専任教員および兼担教員が学生からの授業や履修、学生生活などの質問、相談に応じるため特定の時間帯を設ける制度である。多くの教員はオフィスアワー 以外の時間でも、可能な限り学生対応を行っている。

以上のように、TA(Teaching Assistant)が設置されていない分、アクティブ・ラーニング やチューター制度を設け、学生同士のみならず、教員も一体となって学修支援の充実を図っ ている。

2-3. キャリア支援

2-3-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備

本学キャリアセンター(以下「センター」という)は、それまでの「就職・進路対策委員会」を改組し名称「キャリア学修支援センター」として平成29(2017)年4月発足した。その後、令和3(2021)年4月キャンパス(月寒本キャンパス)への移転を機に、その名称を「日本医療大学キャリアセンアー」に改称のうえ、「学生の職業観や勤労観を育み、学生一人ひとりが社会の中で自分らしいキャリアビジョンを実現していくため、その目標達成にむけた総合的支援を行うことを目的とする」(キャリアセンター規程:第1条)に則り、全学部全学科の学生に対する就職・キャリア支援に特化する形で規定の見直しを含めた体制整備を図った。この規定改訂に伴い、専従のセンター事務員(同第4条第3項及び第7条)を配置し、本学として本学学生へのキャリア支援に対するサービス強化を以て体制づくりを整えた。

令和4 (2022) 年度 看護学科は開設 10 年目を迎えた。平成 29 (2017) 年度 1 期生の卒業以来 本年度は 6 期生 102 人が卒業した。リハビリテーション学科は開設 9 年目となり、平成 30 (2018) 年度 1 期生の卒業以来、5 期生 60 人 (理学療法学専攻 43 人・作業療法学専攻 17 人)が卒業した。診療放射線学科は開設 8 年目となり、令和元 (2019) 年度 1 期生が卒業し、4 期生 44 人が卒業した。以上により本年度の卒業生は、合計 206 人である。そのほか、令和 3 (2021) 年 4 月に設置された臨床検査学科は本年度 2 学年在学となった。令和 4 (2022) 年 4 月には、臨床工学科が新規設置され 1 年生を迎え入れたことにより、保健医療学部は、5 学科となった。また、本年 令和 4 (2022) 年 4 月 真栄キャンパスにおいて「総合福祉学部」を開設し、介護福祉マネジメント学科およびソーシャルワーク学科の 2 つの学科が加わった。

以上により、センターは、本年度より2学部7学科の学生に対し、社会人そして専門職業人として必要なキャリア教育を行い、学生が個々人の可能性を最大に発揮し時代を生き抜くことが出来るような支援を学科部門員と連携のうえ取り組んできた。

社会的・職業的自立に関する就職・進路対策については、職種や業種により異なる部分も あるため、学部学科ごとの取り組みに分けて述べていく。

「1] 保健医療学部としての取り組み

センターは、学科部門員との連携のもと、社会的・職業的自立に関するキャリア教育、 就職対策のための支援体制を構築している。

定期に開催している「キャリアセンター運営委員会」では、センター長をはじめ、各部門員、センター事務員、大学事務局職員参加のもと、必要な業務連携や協議を行っている。日頃より就職・進学、キャリア支援に関する学生対応については、センター事務員がその学科における部門員と連携し、相談窓口となり、個別性ある支援・助言を行っている。採用活動状況、求人件数管理、キャリア講座の実施状況、病院等の本学来訪情報などは運営委員会にて報告書として適宜共有している。

教育課程外でセンターが実施しているキャリア教育の取り組みとして、オリエンテーション、各種キャリア講座の開講、就職ガイダンスの開催、オンラインでの情報発信、『就職ガイドブック』(本学オリジナルのガイドブックをデータ化し配信)の作成等がある。また、求人票はキャリアセンター資料室での掲示、ファイリングのほか、求人検索システム「求人 NAVI」を令和4(2022)年6月本格導入・運営が図られたことにより学生へのサービス向上が進んだ。本学指定の履歴書様式は令和4(2022)年にトライアル運用を図り、本年度から全学科共通の本学履歴書様式として本格導入・無料化されたことは大きな改革であった。

本学は医療専門職の育成を目指す大学であることから、教育課程においてはキャリア教育に繋がる科目である「臨地実習」、あるいは「臨床実習」を設定している。これらは、通常のインターンシップ以上に学生が働く目的を考え自己成長を促す機会となっている。「臨地実習」と「臨床実習」の時間数、回数、実施学年などは学科ごとに異なるが、センターではこれらの実習と連動させて実習前マナー講座などを企画・実施している。

そのほか新入生オリエンテーションや学部学科別の在学生向けガイダンスを通し、本学 キャリアセンターの役割や大学生としての時間の過ごし方、キャリアビジョンを描くため の心構え等を説明し、積極的なセンターの利用を促している。保護者には入学式における 保護者説明会、後援会総会などで、キャリアセンターの紹介や学科としての取組み、卒業生の就職実績、採用市場等の説明が行われており、保護者の理解と学生支援を促している。また近年では、コロナ禍に本学学内で導入され運用している Office365 Teams の機能を最大限活用し、学生個々からの質問や相談、情報の発信にオンラインを活用することで、よりスムーズでスピーディーな回答や周知が図られ利便性が構築されている。また、履歴書や小論文等の個別添削作業をオンライン上で行うなど手厚い支援が出来ていることが他大学にはない大きなメリットとなっている。

次に、学科別の取り組みについて述べていく。

【看護学科】

看護学科は、幅広い知性と豊かな感性を大切に人材の育成が図られ、人の尊厳や命に真摯に向き合う高い倫理観や人間性、そして人間を統合的な存在として理解する能力、他者への理解と援助的人間関係の構築能力、チーム医療、また他職種との連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力をバランスよく育成するために、看護学の専門的知識と技術に裏づけされた看護実践能力の向上を図っている。そのため、教育課程内外においてキャリア教育についても積極的に取り組んでいる。

看護学科では、1年次から4年次までのカリキュラムにおいて臨地実習を取り入れている。臨地実習は、看護の実践場面における科学的根拠に基づく実践教育であると同時に キャリア教育の役割を果たしている。最終学年の統合実習は、既修得科目の知識・技術を 統合し、多様な課題に取り組んでいる実習である。

このようなカリキュラムを踏まえ、センターでは低年次からキャリア支援に取り組んでいる。令和4 (2022) 年1月に初めて卒業生1期生と3期生の2人を講師として招聘し「卒業生トーク会」を実施した。各オリエンテーションやガイダンスのほか2年次には「実習前マナー講座」、「就活スタートアップ講座」、3年次には「実習前マナー講座」「就職活動講座(履歴書・小論文・面接対策)、4年次には個別に応募書類の添削支援や面接対策の実施を行っている。このプロセスで学生は将来に向け自己の課題を明確にし、臨地実習に取り組みながら自らの進路を選択していく。看護の採用市場は、年々早期化・短期化しており札幌圏の求人採用は激戦区のエリアとなっているため、学生の希望が実現できるよう個別支援の強化を図っている。病院施設からのパンフレットや求人、奨学金情報のほか卒業生の受験報告書(就職および進学)は、学生がいつでも自由に閲覧できるようキャリアセンター資料室にて格納し整備している。

令和4 (2022) 年度卒業の6期生は、就職者88人(札幌市70人、札幌市外の道内9人、道外9人)、うち第1希望の病院への就職内定率は、84.1%と高い結果となった。進学者は5人(助産師専攻2人、保健師専攻3人)であった。なお、国家試験合格率は93.8%である。

以上のように、医療専門職として社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得 し、社会で活躍できるよう丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

【 リハビリテーション学科 】

リハビリテーション学科(理学療法学専攻及び作業療法学専攻)では、多くの学生が卒業後、理学療法士及び作業療法士として就職することを希望している。幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、他職種との連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての態度を育成するために教育課程内外において、キャリア教育に積極的に取り組んでいる。

リハビリテーション学科では2年次から4年次までの教育課程の中で臨床実習を取り入れている。臨床実習は臨床現場における教育であり、同時にキャリア教育やインターンシップの代替としての役割を果たしている。臨床実習は臨床実習指導者と教員との密接な連携のもとに進めている。

1年次では初年次教育のキャリア講座を実施し、期待されるセラピスト像を描けるよう 大学生活へのモチベーションに繋げる講座を実施した。2年次以降は臨床実習に合わせた 実習前マナー講座を実施し、相手の理解や自己理解、想像力を高める力を養っている。3 年次も同様、実習前マナー講座を実施し、より主体性を大切に伝える積極性、情報の受取 と発信、聴き方や接遇、怒られる力等を学べる内容としている。最終学年である4年次に は春と秋に先輩の就職実績や採用市場のほか、「就職オリエンテーション」として面接や 履歴書対策に特化した内容を行った。

求人情報はキャリアセンター資料室で整備し、病院施設からのパンフレットや求人、奨 学金情報は、学生がいつでも自由に閲覧できるように整備している。

リハビリテーション学科では、本学キャリアセンターで作成した「就職ガイドブック」のほか、リハビリテーション学科の学生に「就職活動のルール」を用いてガイダンスを行った。臨地実習から戻った9月後半から就職活動が本格的にスタートする。例年「学内就職説明会」を開催している。令和4(2022)年度の就職説明会には、理学療法学専攻及

び作業療法学専攻の4年生のみならず、一部 希望する3年次の学生も参加した。札幌を はじめ道内外から91施設(午前の部51施設・午後の部40施設)が参加している。会場 では、感染対策を徹底のうえ環境に配慮のうえ、個々学生は興味のある病院や施設等の説 明を直接担当者から聞ける好機会であり、熱心に取り組んでいた。就職説明会は、学生の 就職意欲向上と病院との連携強化を図る機会ともなっている。学生が就職活動を行う前に は専攻において部門員及び担当教員が随時窓口となり、病院の事情に詳しい教員にも相談 できるような連絡体制をとっている。

令和4 (2022) 年度卒業のリハビリテーション学科5期生就職者は54人(札幌市内32人、札幌市外の道内17人、道外5人)であった。なお、他職種として、2人は介護職への就職・医療メーカーの販売従事者としての就職がいた。なお、国家試験合格率は91.4%(理学療法学専攻92.7%・作業療法学専攻88.2%)である。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修 得し社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

【 診療放射線学科 】

診療放射線学科の学生の多くは卒業後 診療放射線技師として活躍することを希望している。放射線医療におけるモダリティ技術の高度化、また患者の多様化に対応するため、基礎的な知識と技能の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成している。また、継続的な自己研讃力や自主的に学び、考え、行動し続ける研究能力を身につけた専門職業人を育成している。

科学的に裏付けされた専門的知識と技術で放射線診療の実践能力向上のためのキャリア 教育を行っている。

初年次教育をはじめ、各学年における教育課程の中で必要となる講座の実施を行っている。実習はインターンシップの代替としての機能を持ち、社会人・職業人の自立に向けたキャリア教育の役割を果たしている。臨床実習は臨床実習指導者と教員との密接な連携のもとに進めている。医療人および社会人としての「接遇」「コミュニケーション」をテーマに実習前マナー講座を行っており、併せて就職活動に向けて、卒業生の実績や採用市場の傾向と対策、また専門職業人として就労意識を高める機会としてキャリア講座を実施している。

令和4 (2022) 年度卒業の4期生就職者は40人(札幌市内20人、札幌市外の道内15人、道外5人)であった。診療放射線技師としての採用市場は、退職者補充を以て新卒求

人が出されることもあり年々厳しく就職エリアは北海道のみならず東北や関東に拡充しつ つあるため早めの対策が必須となっている。なお、大学院進学者が2名。国家試験合格率 は93.2%である。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修 得し社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

【臨床検査学科】

臨床検査学科は令和3 (2021) 年4月に開設し1年生を迎え入れた。本年度は2年次が在学となった。学生の多くは卒業後病院等における臨床検査技師として活躍することを希望している。臨床検査技術の高度化や多様化、また新たな感染症に対応するべく検査などにも対応するため、基礎的な知識と技能の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成する。

1年次には大学生活を考える(行動計画と思考の転換)と題し、大学生のタイムマネジメントと脳の習慣、将来の夢実現に向けたプロセスとして思考力についてキャリア講座をセンター事務員が行った。2年次には、社会人基礎力としての求められる力、組織のなかで活躍する能力のほか、採用市場と就職活動にむけて広がる活躍の場と2年次にやるべき事柄の組立てをベースに思考力に係るキャリア講座を実施した。卒業実績が本学では無いため、今後市場の開拓や一期生輩出に向けた動き出しが必須である。今後も学科との連携を図りながら必要なキャリア教育を実施し人材育成に努める。

【 臨床工学科 】

臨床工学科は令和4 (2022) 年4月に開設し1年生を迎え入れた。学生の多くは卒業後臨床工学技士として活躍することを希望している。近年のコロナ禍により医療現場において注目されている職業の一つであり、医療技術者として生命維持管理装置の人工呼吸器、血液浄化装置、人工心肺装置など益々医療技術の高度化や多様化に対応すべき能力、また医療機器の保守・点検を行うため、基礎的な知識と技能の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成している。

1年次には大学生活を考える(行動計画と思考の転換)と題し、大学生として身に付けるべき力(社会人基礎力)、大学生活の4年間を考えるタイムマネジメント、なりたい自分を実現するための思考と行動をテーマに初年次キャリア講座をセンター事務員が行った。

卒業実績が本学では無いため、今後市場の開拓や一期生輩出に向けた動き出しが必須である。今後も学科との連携を図りながら必要なキャリア教育を実施し人材育成に努める。

[2]総合福祉学部としての取り組み

新たに真栄キャンパスにて「総合福祉学部(介護福祉マネジメント学科・ソーシャルワーク学科)」が令和4(2022)年4月新設した。本年度センターは、資料室のみ設置した。学科部門員との連携のもと、社会的・職業的自立に関するキャリア教育を初年次より実施した。

定期に開催している「キャリアセンター運営委員会」にて、保健医療学部各学科と情報 共有の連携を図り協議を行っている。ただ、キャリアセンターの専従となる事務員を配備 していない状況により、全ての学科教員が個々学生の相談窓口となり日頃より就職・進 学、キャリア支援に関する学生対応の実務を行っている。

福祉分野での人手不足が喫緊の課題であるため、入学年次より外部福祉施設からの注目は大変高い状況である。本学部の特色として、基礎専門領域を目指しコースの選択、そして資格取得が可能であること、また施設運営に必要となる経営マネジメントの知識を学べる福祉人材の育成である。

本学部には2学科があるが本年度は全て学科共通として部門員と連携のうえ初年次キャリア講座を実施した。

【 介護福祉マネジメント学科 】

介護福祉マネジメント学科では、介護と経営を複合的に学び、併せて組織の管理・経営に関する専門知識を学び、これからの日本に必要となる保健・医療・福祉の分野におけるエキスパートの育成を目指している。

初年次教育として、入学時より今後のキャリアを築いていけるよう福祉分野の可能性をもとに気付きを大切にした学びの時間とした。まずは、時間の意識として大学4年間という限られた時間でのタイムマネジメント、自分が学んでいる大学という環境において身に付ける教育が生みだす可能性と自分の可能性への拡がり、最後に自分の将来のキャリアを描けるよう書き出しの思考術を講座で実施した。部門員からは、後半より具体的なイメージを持てるようこれまでの振り返りを書き出し、大学生活を応援するキャリア講座を実施した。また、部門員の調整により、1年次から福祉現場でのインターンシップとして職業体験を行った学生もいた。

少子高齢化社会が益々加速するなかで、福祉分野への人材確保は喫緊の課題であるが、 若者の福祉離れにより入学者の確保が本学として重要である。より柔軟性ある学びや資格 取得を以て 今後 福祉での活躍するフィールドや市場価値を生み出していけるような新し いカリキュラムに則り個々学生のニーズや多様性あるキャリア支援を実践していく。

【ソーシャルワーク学科】

ソーシャルワーク学科は、これからの社会において誰もが暮らしやすい地域共生社会を支えるべく、医療、介護、福祉、就労、教育、住宅保障等のサービスを総合的に提供していく能力を養い、地域共生社会のソーシャルビジネスを学んでいく。

初年次教育として、入学時より今後のキャリアを築いていけるよう福祉分野の可能性をもとに気付きを大切にした学びの時間とした。まずは、時間の意識として大学4年間という限られた時間でのタイムマネジメント、自分が学んでいる大学という環境において身に付ける教育が生みだす可能性と自分の可能性への拡がり、最後に自分の将来のキャリアを描けるよう書き出しの思考術を講座で実施した。部門員からは、後半より具体的なイメージを持てるようこれまでの振り返りを書き出し、大学生活を応援するキャリア講座を実施した。また、2年次からの臨床実習に備えマナー講座などの実施を行っていく。

少子高齢化社会が益々加速するなかで、福祉分野への人材確保は喫緊の課題であるが、若者の福祉離れにより入学者の確保が本学として重要である。より柔軟性ある学びや資格取得を以て 今後 福祉での活躍するフィールドや市場価値を生み出していけるような新しいカリキュラムに則り個々学生のニーズや多様性あるキャリア支援を実践していく。

2-4. 学生サービス

2-4-① 学生生活の安定のための支援

[1] 学生サービス、厚生補導のための組織の設置とその機能

学生サービス、厚生補導のための組織として本学では「学生委員会」を設置している。 委員は各学科2人の教員と学生・教員サポートグループの職員で組織し、学長指名の委員 長が委員会を運営している。委員会については委員長が招集し、原則月1回(第2水曜日 保健医療学部は16時30分から、総合福祉学部は15時30分から)の定期開催のほか、緊 急な議題が生じた場合は持ち回りの会議等で対応している。令和4(2022)年度は10回 開催した。保健医療学部では、コロナ禍のため、第2回(5月)は teams を用いた遠隔で 実施した。 活動は大きく分けて、1. 通常の学生委員会業務、2. 学生委員会主催行事、3. 学友会支援に分かれている。これに沿って単年毎の実施計画案を審議し、年度末に大学に提出している。

本学では大学設置後、学科増設や定員の増員を経て、令和4 (2022) 年度には保健医療学部に臨床工学科、総合福祉学部が新設され、2学部7学科体制となった。学生委員会は増大する学生のニーズに合わせて毎年改善を繰り返し、より良い学生サービス、厚生補導に努めてきた。ここ数年はコロナ禍の影響により、学内施設の利用禁止、学内団体の活動自粛等の問題が継続して発生し、課題となっていたが、学内の活動は徐々にコロナ禍前に近づいてきた。また、ユニバーサルパスポート (ユニパ) を通じて『学生委員会からのおしらせ』を保健医療学部は4月、8月、9月の計3回、総合福祉学部は7月、11月の計2回配信した。具体的内容としては、感染対策はもとより「ハラスメント規定」「ガイドライン」の改定について、「学内団体の設立や運営について」、「長期休暇の注意事項」などであった。

[2] 通常の学生委員会業務

学生サービス、厚生補導に関する学生委員会の通常サービスとしては以下の活動を実施 している。

1)環境整備やその美化

学生の居場所作りの整備、各棟の共同利用スペースの環境整備に関しては、例年は共用スペースへのイス・テーブル等の設置の拡充に努めてきた。コロナ対策のための学生食堂の三密を避けるアクリル板の設置や学内各所への消毒液等の設置、その後の施設利用に関する注意喚起を実施した。

2) 防災活動、災害時行動マニュアルの作成、配布

災害時行動マニュアルを作成し、毎年入学式後のオリエンテーションにて配布している。災害時の避難経路や緊急避難の方法、留意点等が名刺大の折り畳み式の冊子になっており、学生には学生証と同様に携帯を勧めている。

平成29 (2017) 年に札幌市と本学の間に「福祉避難所等に関する学生ボランティア協定」が締結され、希望学生の登録募集は「学生委員会からのお知らせ」を通して毎年募集をかけていたが、今年度は募集を行わなかった。そのため大学側の責務である研修等の開催も実施しなかった。今年度現在に至るまで、協定に則った福祉避難所からの学生ボランティアの招聘は一度も発生していない。

3) 学内の保安

学内における遺失物に関しては事務局で管理しているが、明らかに盗難等の被害を受けた場合は、被害届を大学に提出してもらうと同時に本人、保護者と話し合い、警察に届け出ることもある。届け出た場合は警察の事情聴取や捜査に協力を行う。これまで保護者から警察に届けた例は、ノートパソコンの置忘れによる遺失物が1件であるが〔平成30 (2018) 年4月〕、別の場所から翌日に見つかり、被害届を取り下げている。

今年度は学生、教職員に対して掲示板やポータルサイト等で私物の自己管理に関する注 意喚起を実施した。

- 4) 奨学金、学生の顕彰に関する業務
- ・ 学内奨学金授与者の選考業務

各種奨学金の応募者が推薦人数を超えた場合、学内での選考を学生委員会で実施するが、案件によっては各学科に選考を依頼することもある。今年度の当委員会が関わる奨学金案件はなかった。

・学生顕彰の選考業務と顕彰状授与式の挙行

人材育成の一環として、Grade Point Average (GPA) が優れ、学修態度において顕彰に値するとして教員の推薦を受けた学生又は、ボランティア活動や地域振興等の社会貢献活動において顕著な成果を残した学生および団体に対して、学生顕彰を行い副賞として図書券1万円を授与する。成績優秀による顕彰は毎年各学科・各学年上位10%とし、社会貢献による顕彰学生は毎年全学2人、あるいは2団体としている(上限数であり、該当学生がいない場合もある)。選考は、年度末に成績優秀上位者一覧を各学科に示し、学科の推薦を得た学生を学生委員会でさらに検討して対象者案を決定する。今年度の具体的な活動に関しては[5]の1)、4)に記した。

5) 学生アンケート

令和4(2022)年度の学生アンケートは、7~10月の期間で実施した。単純集計の結果を保健医療学部は12月、総合福祉学部は1月の教授会にて報告の上、アルファオフィスを用いて全教職員に共有した。学生からの回答として、新校舎が綺麗で気持ちよく学生生活が送れていることや学食の味や量への満足度が高い意見の一方で、通信環境(Wi-Fi環境)の改善や空きコマや放課後に自由に学習できる場の設置を望む意見・要望が多かった。IR 室や外部委託によるデータの解析によりアンケートの結果を学生のキャンパスライフへ反映することが、本学が掲げる「学生ファースト」の観点を具現化できるものと考える。

6) 情報発信

学生への情報発信として、今年度は次のことを実施した。

- ① 「学生委員会からのお知らせ」配布
- ② 入学式、各学科のオリエンテーションおける学生生活の説明

[3] 学生委員会主催行事の実施

学生委員会の主催行事は、開学年度から計画的に開催し、今年度に至るまでにその<u>9</u>回目を迎えることになっていた。12月から1月に実施されてきた「命を学ぶイベント」はコロナ禍の罹患状況を見ながら、以下の日程で実施した。

「命を学ぶイベント」

第9回「いのちのパネル展」交通事故被害者遺族の会

月寒本キャンパス:12月12日(月)~12月16日(金)

真栄キャンパス : 12月5日(月)~12月12日(月)

第9回 命の講演会

講師:高室 典子先生 (助産院 エ・ク・ボ 院長)

1月11日、19日 学生参加合計 149名

他の主催行事が中止・遠隔となる中で、両行事とも対面で実施することができた。パネル展は三密を避けての閲覧をお願いし、講演会は間隔をあけての着席をお願いしての実施となったが、例年をはるかに超える数の学生が参加する結果となった。

ニュースレター「あずまし」は、総合福祉学部とも情報共有・協議は行ったものの、発刊には至らなかった。ニュースレターのあり方について協議することは今後の課題である。

[4] 学友会活動への支援

日本医療大学学友会は、平成 26 (2014) 年 4 月 24 日施行の「日本医療大学学友会会則」に則って設置された。会則第 2 条により学友会は日本医療大学に在籍する学生全員をもって組織されている。前年度決算案、今年度予算案は、年間活動計画案、本部会役員案は4 月の対面での定期総会が中止となったため、遠隔で 5 月 14 日 (土) に新入生歓迎会と合わせて実施した。

33

学友会会長は全会員の選挙によって毎年1月に選ばれ、今年度会長は9代目の会長が各行事を主宰し、本部会は会長が指名した各学科1人の副会長と、年度初めのオリエンテーションやガイダンスで選抜される学科各組の代表者2人のうちの1人から組織される。

年間を通しての主な学友会主催行事は、新入生歓迎会、体育祭、および今年度から始まった日医大フェスあった。また卒業式では卒業生への記念品の配布は実施できたが、その後の卒業を祝う会は中止となった。

「5] 奨学金などの学生に対する経済的支援の実施

1) 日本学生支援機構奨学金、その他

意欲と能力のある学生が、経済的理由により修学をあきらめることがないよう支援することを目的とした国が実施する奨学金制度である。本学の対象人数は以下のとおりである。(令和5 (2023) 年3月31日現在)

その他、地方公共団体や各種団体、病院等が実施している奨学金制度などの情報を学生に 周知し、個別相談や申請手続きの支援を行っている。病院等の奨学金制度を利用し、修学 している学生は複数人いる。

学科	給付	第一種奨学金	第二種奨学金	合計	
		(無利子)	(有利子)		
看護学科	95 件	141 件	225 件	461 件	
リハビリテーション学科	78 件	116 件	158 件	352 件	
診療放射線学科	47 件	82 件	125 件	254 件	
臨床検査学科	19 件	39 件	51 件	109 件	
臨床工学科	8件	10 件	11 件	29 件	
介護福祉マネジメント学科	2件	2件	2件	6件	
ソーシャルワーク学科	1件	1件	2件	4件	
合計	250 件	391 件	574 件	1215 件	

2) 国の「修学支援新制度」

「修学支援新制度」は令和2(2020)年4月より、高等教育の無償化によって授業料・入学金を免除または減額される制度である。本学での対象人数は以下の表のとおりである。

授業料・入宅	授業料・入学金を免除または減免された人数								
学科	入学金免除	授業料	授業料						
		(前期)	(後期)						
看護学科	31	91	85						
リハビリテーション学科	18	76	71						
診療放射線学科	17	47	43						
臨床検査学科	11	17	15						
臨床工学科	7	7	6						
介護マネジメント学科	1	2	2						
ソーシャルワーク学科	0	1	1						
合計	85	241	223						

3) 日本医療大学 特待生制度

学校法人日本医療大学特待生制度規程により、入学試験における合格者のうち優秀な成績をもって入学する者に対して入学後1年間の授業料の半額相当額を給付する制度を実施している。平成27 (2015)年から施行し、平成28 (2016)年度の入学生から適用しているが、今年度の入試を経て年度末までに選考された対象学生人数は以下のとおりであった。

年度	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	臨床検査学科	合計
令和4	1	2	2	1	
(2022)	臨床工学科	介護福祉マネジメント学科	ソーシャルワーク学科		7
年度	1	0	0		

4) 総合福祉学部の特待生制度(特別給付奨学金)

総合福祉学部の入学試験において、成績優秀者(上位合格)として合格し、入学するもの(特に総合型選抜[前期]および学校推薦型選抜[公募・指定校]の合格者から優先的に選抜)に対して、入学金及び初年次の「前期」授業料の全額を免除する制度を実施した。今年度の入試を経て年度末までに選考された対象学生人数は以下の通りであった。

年度	介護福祉マネジメント学科	合計
令和4	4	13
(2022)	ソーシャルワーク学科	
年度	9	

5) 日本医療大学ファミリーサポート制度

ファミリーサポート制度は、日本医療大学に入学しようとする者のうち、保護者や兄弟 姉妹が日本医療大学又は前身の専門学校の卒業生又は在学生である場合、もしくは、「つしま医療福祉グループ法人又は関連法人」の役職員の家族である場合に、検定料及び入学金を免除する制度である。今年度の入試を経て、年度末までに選考された対象学生人数は以下のとおりであった。

年度	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	臨床検査学科	合計
令和4	9	7	2	1	
(2022)	臨床工学科	介護福祉マネジメント学科	ソーシャルワーク学科		21
年度	1	0	1		

6) 日本医療大学 学生顕彰

学生の表彰として、日本医療大学年度別学生顕彰を実施している。学科学年別にそれぞれの学科から年間の成績をもとに成績優秀学生の推薦を受けて行う成績優秀賞と、通年全学科の教員の推薦を受けて行う社会貢献賞の2つからなっている。令和4年度は前年度の成績をもとに、看護学科39人・リハビリテーション学科33人・診療放射線学科18人、臨床検査学科7人が成績優秀賞に選ばれ、令和4(2022)年4月27日に実施された顕彰状授与式には代表学生のみが出席した。令和4年度の社会貢献賞は該当がなかった。

[6] 学生の課外活動支援

課外活動の支援は、主に学内団体の設置と活動に関するものである。学内団体は現在7月末と翌年の1月末までに設置申請を受け付け、学生委員会の審査を経て学長の承認によって設置が許可される。基本的な備品に関しては設置許可後に各団体からの申請を受けて学生委員会の予算で購入しているが、活動の予算は学友会からの支援と個々の会費の徴収で行っている。

令和4 (2022) 年度は新設された団体は8団体であった。既存の2団体は、昨年度末に活動報告と決算報告を提出し、活動を継続している。コロナ禍によって、学生の課外活動は大きく影響を受けていたが、徐々に元通りの活動を行えるようになってきている。

[8] 学生委員会関連各種規程、覚書、ガイドラインの作成と改正

「日本医療大学 SNS に関するガイドライン」を作成し、新入生オリエンテーション、ガイダンス時に注意喚起と啓発を行った。令和 5 (2023) 年度版の CAMPUS GUIDE の当該箇所への加筆・修正を実施した。

2-4-② 学生の心身に関する健康管理、学生相談、障害等のある学生への合理的配慮

令和4 (2022) 年度から、前身の学生相談センターを改組し、保健管理委員会が設置され、規程が改定された。規程には、保健管理委員会が保健室、カウンセリングルーム、障害学生支援部署を統括し、学生の保健管理、学生相談および障害等のある学生への支援を実施することを目的とすることが示され、保健医療学部と総合福祉学部の各学科から委員が選出され、全学の保健管理を担える体制を整え、稼働を開始した。

1) 保健室

保健室の業務は多岐にわたり、多忙を極めた。中心は健康診断の円滑な実施とD判定学生への指導、小児感染症およびB型肝炎抗体価検査後の基準値未満者へのワクチン接種指導、健診結果とワクチン接種結果の管理、また、学内・登下校中の学生の傷病への応急手当と受診先病院の紹介、加えて、前年度に引き続きコロナ罹患者・濃厚接触者対応であった。前年の2021年度の学生数は1,251人から2022年度は1,508人と1.2倍に増加し、保健室利用者数は703件から3,097件へと対前年比4.4倍に急増した。増加の要因は学生数の増員に加え、ワクチン接種指導を徹底したことによる。

前年度からの懸案事項であったワクチン接種指導の集団形式での実施については、学科ごとに6月から7月にかけワクチン接種指導講習会を行った。内容は保健室に提出するワクチン接種管理表の書き方指導および抗体価基準値未満の学生への接種の促しであった。一斉指導したことによる効果としては、ワクチン接種管理表の提出への意識があがったことがあげられるが、その一方で理解不足の学生もおり、保健室職員一人では手に余る状況が出現した。また、期限までにワクチン接種管理表を提出しない学生に対し、保健管理委員および学担を通して頻回にアナウンスする事態となった。

今後の保健室運営上の課題は、①学生自身が罹患歴およびワクチン接種歴を理解できるよう電子フォームを作成し、必要なワクチン接種回数を自己管理できる方法と指導の開発、②学内で緊急事態が生じた場合のすみやかな搬送と隔離室環境の向上である。

2) カウンセリングルーム

臨床心理士による心の相談は、カウンセリングルームが対応している。昨年度から実施している電話相談と Teams による遠隔相談を継続し、対面を苦手とする学生も利用できるように配慮した。利用件数は対面相談が 61 件、その他の方法による相談は 0 件である。カウンセリングルームは学生たちにとっては守秘義務が保たれる独立部署の安心感がある反面、事前にカウンセラーとの接点がなく、カウンセラーの人となりがわからず、利用につながりにくいことが考えられる。また、学科によっては、学科内の教員が学生たちに丁寧な対応を行っており、なじみの先生と話す方が好まれる傾向が考えられる。悩みを抱える学生が安心して話せる場としてカウンセリングルームがより機能することが今後の課題である。

3) 障害学生支援

障害のある学生等の支援については、何らかの合理的配慮を希望する学生は「支援申請書」を提出し、支援担当教員が面談を行い、具体的な配慮事項を決定し、本人が周知を希望する範囲で情報共有を行った。多くの場合、学担と保健室と事務方で情報を共有している。また、講義時や定期試験時に合理的配慮を希望する学生からの申出を、事務方から文書で各科目担当者に配信し、協力を得ている。令和4(2022)年度は2学部の全学科のうち、4学科の6名の学生が対象であった。

4) その他

保健室ミーティングを隔週で実施し、保健室担当職員、事務部署(学務グループ)、保健管理委員長の三者が、円滑な保健室の運営と、大小さまざまな心身の健康相談や、学修や進級も含む悩みごと相談に関し、可能な範囲で情報共有し、改善に向け、他部署と連携している。

健康診断については、健診実施機関との煩雑なスケジューリングを事務部署が行い、6 月には全学科の健診を終了することができた。一方で、実施結果の返却は、B型肝炎ワク チンの集団接種や、病院実習の開始時期の都合もあり、血液検査・尿検査を先行し、個人 票は別途返却することとなった。結果として、個人票の返却は11月までの期間を要する こととなった。また、B型肝炎ワクチンの集団接種は全学科のほぼ全員の学生が接種を要するため、健診同様実施機関との時間調整が難航した。学生たちに個別接種を推奨し、集団接種人数を縮小した結果、実施の目処がたち、6月から12月にかけ、集団接種希望者に対し、1シリーズ3回の接種を終了した。このように、健康診断およびB型肝炎ワクチンの集団接種に関しては、実施に際してのスケジュール設定・調整に課題があり、学内の他、外部の実施機関を含めての事前の計画と調整が次年度以降の課題といえる。

保健室への来室者の増加やサポートが必要な学生への需要は高まり、保健室職員1名でケアすることが限界となっている。各学科の保健管理委員のサポートがあっても、増え続ける保健室利用者への対応を円滑に行うための方略が求められる。

2-5. 学修環境の整備

2-5-① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理

本学のキャンパスは、札幌市営地下鉄東西線と東豊線の2路線の沿線に位置し、「南郷13丁目駅」「月寒中央駅」「福住駅」のいずれの駅からも徒歩約10~15分の好アクセスな環境にある月寒本キャンパスと、北海道札幌市の南東部、札幌市営地下鉄東豊線「福住駅」からバスで約15分の自然豊かな環境に位置する真栄キャンパス、新千歳空港と札幌市を結ぶJRの路線上に位置する恵み野キャンパスを校地として所有している。

表 2-5-1 に示すように、校地の面積は 3 キャンパスを併せ 121, 638 ㎡、また、表 2-5-2 に示すように、校舎等の面積は 50, 098. 82 ㎡であり、大学設置基準上必要な面積を満たしている。

表2-5-1 校地の面積

【月寒本キャンパス】

(単位: m²)

		大学収容定員数(学部合計) 1,460人							
	区分	専用	共用	計	収容定員一人 当たりの面積	設置基準上必要 な面積			
	校舎敷地	65, 249	_	65, 249	51. 40	14, 600			
+++ 1.14 /r/+	運動用用地	9, 790	_	9, 790	31.40	14,000			
校地等	小計	75, 039	_	75, 039					
	その他	0	_	0					
	合計	75, 039	_	75, 039					

【真栄キャンパス】 (単位:㎡)

		大学収容定員数(学部合計) 120人							
	区分	専用	共用	計	収容定員一人 当たりの面積	設置基準上必要 な面積			
	校舎敷地	20, 945	_	20, 945	288, 80	1, 200			
+÷ 1.14 /**	運動用用地	13, 710	-	13, 710	200.00	1, 200			
校地等	小計	34, 655	_	34, 655					
	その他	3, 058	_	3, 058					
	合計	37, 713	_	37, 713					

【恵み野キャンパス】 (単位: ㎡)

		大学収容定員数(学部合計) 30人							
	区分	専用	共用	計	収容定員一人 当たりの面積	設置基準上必要 な面積			
	校舎敷地	8,886	_	8,886	296. 2	300-			
++- LIL	運動用用地	0	_	0	290. 2	300-			
校地等	小計	8,886	_	8,886					
	その他	0	_	0					
	合計	8,886	_	8,886					

【大学全体】 (単位: m²)

		大学収容定員数(学部合計) 1,610人							
	区分	専用	共用	計	収容定員一人 当たりの面積	設置基準上必要 な面積			
	校舎敷地	95, 080	-	95, 080	73, 65	16, 100			
++- LIL	運動用用地	23, 500	-	23, 500	75.05	10, 100			
校地等	小計	118, 580	-	118, 580					
	その他	3, 058	-	3, 058					
	合計	121,638	_	121, 638					

表 2-5-2 校舎等の面積

【月寒本キャンパス】 (単位:m²)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
1階	7, 034. 09	111.74		7, 145. 83	930.00		8, 075. 83
2階	8, 034. 15		1, 358. 82	9, 329. 97			9, 392. 97
3階	7, 384. 33			7, 384. 33			7, 384. 33
4階	7, 384. 33			7, 384. 33			7, 384. 33
PH階	36.00			36.00			36.00
小計	29, 872. 90			31, 343. 46			32, 273. 46

【真栄キャンパス】 (単位: ㎡)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
旧看護棟計	2, 492. 78	456. 41	359. 94	3, 309. 13	660.00		3, 969. 13
1階	366.61	263. 27	359. 94	989. 82	660.00		1, 649. 82
2階	761.39			761.39			761. 39
3階	682.39			682.39			682.39
4 階	682.39			682.39			682.39
5 階	0	193. 14		193. 14			193. 14
研究棟計	1, 425. 00			1, 425. 00			1, 425. 00
小計	3, 917. 78	456. 41	359. 94	4, 734. 13	660.00		5, 394. 13

旧放射線棟	4, 694. 77	167. 26	4, 862. 05	549. 23	5, 411. 28
1階	1, 589. 77	167. 28	1, 757. 05	549. 23	2, 306. 28
2階	1, 035. 00		1, 035. 00		1,035.00
3階	1, 035. 00		1, 035. 00		1, 035. 00
4階	1,035.00		1, 035. 00		1, 035. 00
研究棟計	455. 30		455. 30		455.30
小計	5, 157. 07	167. 26	5, 317. 35	549. 23	5, 866. 58

【恵み野キャンパス】 (単位: ㎡)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
1号館	3, 742. 92	496. 52	105. 07	4, 344. 51	556. 10		4, 900. 61
1階	810.63	496. 52	105. 07	1, 412. 22	556. 10		1, 968. 32
2階	1, 228. 82			1, 288. 82			1, 228. 82
3階	1, 253. 12			1, 253. 12			1, 253. 12
4階	450.35			450.35			450.35
2号館	1,664.04			1,664.04			1,664.04
1階	651. 54			651. 54			651.54
2階	698.70			698.70			698.70
3階	313.80			313.80			313.80
小計	5, 406. 96	496. 52	105. 07	6, 008. 55	556. 10		6, 564. 65

【大学全体】 (単位: ㎡)

校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
大学全体 44,347.71	1, 231. 95	1, 823. 83	47, 403. 49	2, 146. 10	549. 23	50, 098. 82

2-5-② 実習施設、図書館等の有効活用

[1] 図書館

令和4(2022)年度の総合福祉学部の開学に伴い、真栄キャンパスに真栄分館が設置され、 月寒本館と二館体制で運営している。

蔵書構成は、大学の前身である専門学校日本福祉看護・診療放射線学院、専門学校日本福祉 リハビリテーション学院、専門学校日本福祉学院の蔵書を基礎とし、開学以来段階的に整備 を重ねている。

令和 5 (2023) 年 3 月 31 日現在の蔵書数は 39,336 冊 (電子書籍含む)、うち和書は 38,292 冊、洋書は 1,373 冊である。令和 4 (2022) 年度時点で継続受入している雑誌タイトルは、106 種 (うち洋雑誌は 23 種) である。また、「メディカルオンライン」「最新看護索引 Web」等のオンラインデータベースを導入し、利用者の学術情報への主体的なアクセスを可能としている。

令和4 (2022) 年度における購入資料数は表2-5-3のとおりである。

表 2-5-3 購入資料数

	購入資料数					
年度	和図書 (冊)	洋図書 (冊)	和雑誌 (誌)	洋雑誌 (誌)	視聴覚	
					(タイトル)	
令和 4 (2022)	4, 403	212	83	23	33	

図書館の規模、令和 4 (2022) 年度の開館日数・入館者数、開館時間等の統計は表 2-5-4 から表 2-5-6 に示すとおりである。

表 2-5-4 環境の整備状況

面積		座席数	収容可能冊数	
月寒本館	1, 358. 82 m²	277 席	52,000 冊	
真栄分館	328 m²	94 席	23,000 冊	

表 2-5-5 開館日数、入館者数

年度	分館 開館日数(日)		入館者数総計(人)	
令和4	月寒本館	247	21, 675	
(2022)	真栄分館	235	3, 655	

※入館者数は人数カウンターを設置した令和 4 (2022) 年 9 月より令和 5 (2023) 年 3 月までの数値

表 2-5-6 開館時間

	開食	官時間	休館日
日金木館	平日	9:00-20:30	日曜祝日、大学休業期間、
月寒本館	土曜日	9:00-17:00	その他館長が認めた日
真栄分館	平日	9:00-17:00	土曜日(真栄分館)

館内は、個人学習用の閲覧席や、グループで利用する場合の個室等、多様なスタイルに応じた学習環境を用意している。データベースの閲覧や蔵書検索に利用できる端末は月寒本館に 10 台、真栄分館に 10 台ある。視聴覚資料の視聴が可能な個人視聴覚ブースは月寒本館に 5 台設置してある。

令和4 (2022) 年度における貸出状況は表 2-5-7、契約中のオンラインデータベースの令和4 (2022) 年度の利用状況は表 2-5-8 のとおりである。

表 2-5-7 令和 4 (2022) 年度の貸出状況 (冊数)

年度	区分				
干及	学生	教職員	その他		
令和 4 (2022)	2, 212	900	121		

表 2-5-8 契約中のオンラインデータベースの利用状況 (検索回数)

	データベース					
年度	医中誌 Web	最新看護索引	メディカル	CINAHL with	MEDLINE with	
	PZ PD 1100	Web	オンライン	Full Text	Full Text	
令和 4 (2022)	29, 716	115	13, 257	32	78	

令和4(2022)年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、学外者の利用を制限している。ただし、グループ職員・卒業生には、事前連絡等それぞれ条件を設定し部分的に来館利用を認めている。

令和3 (2021) 年度のコロナ禍より開始したオンラインデータベースの学外アクセス開放は引き続き実施し、利用者の利便を図っている。

また、利用者の健康に配慮し、館内飲食禁止の措置を緩和し、ペットボトル・水筒などの密閉容器に入った飲料の館内持ち込みと飲用を認めた。

利用者により適切なサービスを提供できるように、館内環境やオンラインアクセスの環境を整えるとともに、コロナ禍後の学術支援に求められる図書館職員の専門性を高めるこ

とが今後の課題である。

2-5-③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性

校舎入り口の段差をなくすなどバリアフリーに配慮しているほか、エレベーターや身障 者用トイレを設置して車いす利用者等へ配慮している。

また、月寒本キャンパスにはコンビニ、レストラン、フィットネスジムなどの施設を隣接 し、専門職業人を育てる大学として健康面からも学生生活を支えている。

2-5-④ 新型コロナウイルス感染症への対策に伴う学修環境の整備

令和3 (2021) 年度は、オミクロン株等の感染力の強い変異株が発生したことで、依然として全国的に感染拡大に歯止めがかからない状況が継続し、本学の所在する北海道にあっては、令和3 (2021) 年5月にまん延防止等重点措置適用後、短期間のうちに緊急事態宣言に移行した。このような状況の下始まった令和3 (2021) 年度は、本学にあっても引き続き感染症拡大防止対策と、学修環境の維持という両面の対策が求められる年となった。

令和3 (2021) 年度当初より、本学にあっては国・道の示す指針・対策に則り、遠隔授業を中心に講義等を行い、登校が必要な実習等についても必要最低限の登校となるよう調整しつつ、適切な社会的距離の確保、講義室等の消毒等を行い、感染拡大防止対策を実施しながら、コロナ禍においても安心・安全な学習環境の維持に努めた。

2-5-⑤ 授業を行う学生数の適切な管理

授業実施にあたっては、講義、演習、実習・実験など講義形態に則して教育効果が高められるように、履修者数が多い学科・学年においては、2~3クラスに分けて、複数の教員が少人数グループを指導する形態を組み入れている。

看護学科は、令和3 (2021) 年度から入学定員が100人から150人となったため、「日本語表現」や「英語I」などの語学系演習科目をはじめ、専門基礎教育科目や専門教育科目の演習科目は、授業科目や内容により、2~3クラス展開でクラスサイズは50人から75人前後で授業を実施している。

また、「看護研究演習」などのクラスサイズは 10 人以下であり、少人数での指導で教育効果を高める努力をしている。

リハビリテーション学科は理学療法学専攻と作業療法学専攻があり、「共通・連携科目」 等では両専攻が合同で授業を実施している。

「日本語表現」や「英語 I」などの語学系演習科目をはじめ、専門基礎教育科目や専門教育科目の演習科目は、授業科目や内容により、理学療法学専攻は2~3クラス展開でクラスサイズは50人から75人前後、作業療法学専攻は2クラスの場合は20人前後で少人数グルー

プでの授業を行っている。

診療放射線学科は、令和3 (2021) 年度から入学定員が50人から100人となったため、「英語I」などの語学系演習科目は2クラスに分けて50人前後で授業を実施している。また、専門教育科目の実験系科目などは、複数の教員が少人数グループを指導する授業形態を組み入れている。

令和3 (2021) 年度に開設された臨床検査学科は入学定員が60人で、専門基礎教育科目 や専門教育科目の演習科目、実習科目などは複数の教員が少人数グループを指導する授業 形態を組み入れている。

令和4 (2022) 年度に開設された臨床工学科は入学定員が 60 人で、専門基礎教育科目や専門教育科目の演習科目、実習科目などは複数の教員が少人数グループを指導する授業形態を組み入れている。

総合福祉学部の介護福祉マネジメント学科(入学定員40人)およびソーシャルワーク学科(入学定員80人)は、令和4(2022)年度開設である。両学科共に基礎教育科目と専門基礎教育科目の共通科目である「人間関係とコミュニケーション」、「日本語表現」、「英語」などは、合同講義を実施している。合同授業が多いことから4月当初は120人収容教室で講義を実施した。その後、授業を行う学生数の適切な管理ができるように年度途中より適正な収容人数の教室(15人規模)に変更した。その結果、各講義において少人数教育で効果を高める努力を行うことができ退学に至る学生はいなかった。

各学部・学科とも基礎教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目の学内演習、実習・実験では、授業科目や内容によりグループワークを取り入れ、10人前後の少人数グループを複数の教員が分担して指導を行っている。

また、看護学科の「看護研究演習」「看護ゼミナール」や、リハビリテーション学科の共通・ 連携科目「卒業研究」などのゼミナール方式の科目などにおいても、教員1人につき10人 前後の学生を担当しており、各学科とも少人数での指導で教育効果を高める努力をしてい る。

2-6. 学生の意見・要望への対応

2-6-① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

本学では、毎年5月から6月にかけて、全学対象の学生アンケートを実施してきたが、令和4 (2022) 年度は、7月から10月にかけて実施した。方法はMicrosoftのFormsを利用し、学生には対面でのホームルームや授業時間内等に手元のスマートフォンから回答を入力・送信してもらった。

このアンケートの記述式の回答が、毎年最も直接的な学生からの意見・要望を把握する機会であるが、その対応に関しては複数年を要するものや、対応が現実的に困難なものも数多い。特にコロナ禍の現状では、意見・要望に応える状況にはなく、感染予防対策の徹底などについてポータルサイトを利用したお知らせ等を利用した注意喚起に努めることにとどまった。また、全学的に医療従事者ないし福祉関係者を目指す学生として、自己の健康観察の依頼やその強化をお願いし、登校後体調が良好でない学生は保健室の経過観察とともにより安全な方法で、帰宅させる等の対応を行った。

2-6-② 心身に関する健康相談に関する学生の意見・要望の把握・分析の検討結果の 活用

心身に関する健康相談については、学生委員会が実施したアンケートから一部抜粋し、記述する。

まず、「入学してから大学の中で孤独感を感じることがありますか」に関して、「とても感じる」が53件、「やや感じる」が124件であり、全回答数1073件、割合では16.4%となっている。6人に1人は孤独感を感じているということは、決して少ない人数ではないことを意味する。

続いて、「現在、個人的な悩みを打ち明けたり、相談できたりする相手は誰ですか(複数 回答可)」に関しては「友人や知人」830件、「両親」が607件、「兄弟・姉妹」214件のよう に、全回答数 1910 件に対して 8 割以上が家族や友人等であったのに対し、「SNS のみで繋 がっている友人知人」が45件、「特にいない」が96件とあり、一部の学生は相談先を得て いないことが推察される。本結果からは、孤独感と相談先がないこととの関連を見出すこと ができないが、今後、孤独感を持つ学生が誰ともつながれていないのかの把握が必要である。 次に、「学生の相談部署として保健室、カウンセリングルーム、障害学生支援、キャリア センター、各学科学生担任、事務部署、ハラスメント相談、性暴力被害相談があることを知っ ていますか?」について全回答数 1071 件のうち、「知っている」が 782 件、割合では 73.0% の認知度であった。利用したことのあるものとしては「保健室」251件、「各学科学生担任」 134 件、「事務部署」94 件、「キャリアセンター」81 件であり、利用したことがある 578 件 のうち 43.4%が「保健室」、次いで「各学科学生担任」の 23.2%であった。しかし、応急処 置や欠席届の押印などで訪れる場合が含まれ、必ずしも相談割合を示しているのではない。 学生相談のシステムの満足度については「すべてに満足している」が 181 件、「ほぼ満足 している」が 286 件、「どちらともいえない」が 564 件であり、全体の満足度が高くない。 回答した学生たちにとって、学生相談のシステムが何を指すかがわかりにくく、「どちらと もいえない」を選択したことが推測される。

次年度以降の学生アンケートでは、①孤独を感じる学生が相談先を得ているのかと、② 個々の相談部署の認知度と満足度を測る必要がある。

2-6-③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

施設・環境に関しては学生アンケートで主に学生生活に関する施設や学食に関する項目 がほとんどで、その改善には様々に努めてきた。

アンケートで要望の多かった Wi-Fi 環境の強化をはじめ講義室の音響環境の検証および モニターの増設などを実施した。今後も学生の声に耳を傾けながら、時代の流れにあった 学修環境の整備を継続する。

また、平成30 (2018) 年度から、人権擁護委員会の提案で制度化された定期試験結果の 試験の合否、成績に関する再確認の申し立ては、令和4 (2022) 年 (2022) 度前期試験で 2件(看護学科1件、診療放射線学科1件)、後期試験は0件であった。即時担当事務局 と関連する委員会で対応し解決した。

3. 教育課程

3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定

3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

本学の建学の精神である「共生社会の実現」の達成に向け、各学部でディプロマ・ポリシーを設定している。保健医療学部のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)、保健医療学部5学科のディプロマ・ポリシー1-2-④に記載しているので割愛する。保健医療学部のディプロマ・ポリシーは、共生社会の実現に向け、科学的思考、根拠に基づき、他者、多職種を尊重し、地域社会に貢献する医療職を育成していくことの重要性を示したものである。ディプロマ・ポリシーは、大学ホームページ等で公表し、学生募集要項、SYLLABUSにも記載し、新入生ガイダンスでも周知している。

3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修 了認定基準等の策定と周知

【単位認定基準】

各教科目の成績評価方法は、科目責任者によって SYLLABUS に明記し、授業の冒頭に科目責任者が学生に説明し、学生と合意の上で適用している。SYLLABUS には、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施し、科目ごとの具体的な評価方法や配点を明記している。評価は、履修の手引きに明記されている客観的な基準に従い、公正かつ厳正に評価を行っている。これらの内容と履修上の注意点は、各学年のオリエンテーションにて学生への周知徹底を図っている。単位の認定に関しては、教務委員会で審議し、教授会に意見を求め学長が認定している。なお、本学の成績表記は、表 3-1-1 のとおりである。

#	0 1 1		•
オゲ	3-1-1	. 成績評価	I

成約	漬評価	評 点(点)		単位付与
AA	(秀)	90-	-100	
A	(優)	80	-89	۸ ۱۶
В	(良)	70	- 79	合格
С	(可)	60	-69	
D (D (不可)		以下	不合格

【進級判定基準】

進級要件は、履修規程第7章第19条の進級要件により、(1)~(4)のように定められている。

- (1) 1年次から2年次への進級
- (2) 2年次から3年次への進級
- (3) 3年次から4年次への進級

(4) 「基礎教育科目の選択科目」

【卒業判定基準】

卒業要件は、本学学則第33条(卒業)に、「本学に4年以上在学し、別表第2に定める所 定の授業科目及び単位を修得し、卒業認定基準を満たした者には、学長が教授会に意見を求 め卒業証書・学位記を授与する。」と規定している。

表 3-1-2 卒業の要件

(単位)

学	科	看 護	リハビリテーション	診療放射線	臨床検査	臨床工学
必(修	104	理学 109 作業 112	105	118	124
選	択	21	理学 17 作業 16	23	10	14
合言	計	125	理学 126 作業 128	128	128	138

これらの基準は履修の手引きにて周知されている。

3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

単位認定、進級及び卒業認定は、学則に定められた基準に従って厳正に行っている。単位認定や成績評価は、学則第28条(単位数の計算方法)、第29条(試験)、第30条(成績の評価)で規定している。他大学等の授業科目の履修や入学前の既修得単位の認定については、学則第31条32条に規定されている。卒業や学位の授与についても同第33条、第34条に示されている。また、学則第26条、第28条、第30条及び第31条の規定に基づき、履修規程を別に定めている。

履修規程には、授業科目、単位、履修登録、重複履修の禁止、試験、試験の種類、定期試験、追試験、再試験、追実習、不正行為、成績評価、GPA (Grade Point Average、総合平均点)、単位授与、進級要件、仮進級要件、臨地・臨床実習科目の履修要件、資格取得のために必要な要件、他の大学等における履修等、他の大学との協議に基づく学生の履修等、認定単位の上限、出願の手続き、単位の認定、修業年限、再入学した者の既修等を示している。

本学における履修は、日々の学修の積み重ねを重視している。成績評価については、GPA制度による総合成績評価を導入している。GPAは、学期ごと、年度ごとに通算の値を算出している。履修の手引きにて、その説明を記載し、成績票に表示して学修評価の参考となるようにしている。また、GPAは、奨学金制度の適用、成績優秀者を選定する際の参考資料、進路指導等に有効に用いている。本件は、履修規程第6章第17条第1項、第2項や履修の手引きに記載している。

また、各学科で履修の上限単位 (CAP) を設け、1年間に履修できる授業単位を制限することで、1単位に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化を図っている。本件は、履修規程第3章第4条第2項をCAMPUS GUIDEに記載している。

令和4 (2022) 年から、これまでの仮進級制度から履修規程第19条の2に定めた仮進級

制度へ変更した。この仮進級制度により、65 名の学生は留年せず進級することが出来ており、効率的な学修への支援が可能となっている。また、学則第 34 条、第 35 条の定めにより、履修規程第8章に、資格取得のために必要な要件を規定している。

卒業要件は、本学学則第33条(卒業)に、「本学に4年以上在学し、別表第2に定める所定の授業科目及び単位を修得し、卒業認定基準を満たした者には、学長が教授会に意見を求め卒業証書・学位記を授与する。」と規定している。卒業判定は毎年2月、進級判定は毎年3月に学長によって教授会で意見が求められ、厳正に決定されている。

成績結果については、学期毎(9月と3月)に保護者と学生に通知しており、結果について令和4(2022)年度から「成績確認願い」及び「疑義申し立て」を制度化している。疑義申し立てについて、人権擁護委員会で審議が行われる。

これらは、履修の手引き等に明示し、学生及び教職員に周知している。

3-2 教育課程及び教授方法

3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

文部科学省の「三つのポリシーの策定と運用にかかるガイドライン(平成27年12月)」に基づき、令和元(2019)年に保健医療学部の看護、リハビリテーション、診療放射線の各学科の3ポリシーを策定している。また、臨床検査(2021年)・臨床工学(2022年)・総合福祉学部(2022年)の介護福祉マネジメント及びソーシャルワークも学科の新設と同時に各学科で三つのポリシーを策定し現在に至っている。

本学の建学の精神である「共生社会の実現」を達成すべくディプロマ・ポリシーが策定され、カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーの達成を目標に策定されている。

カリキュラム・ポリシーは、大学ホームページ、学生募集要項、SYLLABUS 等で公表している。各学科のカリキュラムの構成概念については、大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針は履修の手引きに掲載し学生に周知している。

保健医療学部

看護学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき、

- 1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する。
- 2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる能力を育成するために、「社会と健康支援」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する。

- 3. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「健康と疾病」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する。
- 4. 高度で専門的な看護の実践能力の育成のため、看護の基本、対象の特徴と看護実践、 看護の統合学習について学ぶ専門教育科目を配置する。
- 5. 将来の看護職業人としての自覚を持ち、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・ 協働して働くための豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数 指導を重視した教育を行う。

以上5項目を掲げている。

看護を実践の科学として位置づけ、「人間」、「環境」、「健康」、「看護」の四つの基本概念からなる教科目でカリキュラムを構成している。看護学は、人がよりよく生きることを支える実践科学である。人間が病むこと、人間がより健康に生活するための課題を問い続けるとともに、人びとの健康の保持・増進と障がいを持つ人びとへの生活を支援する看護師に必要な教科目を配置している。

リハビリテーション学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき、

- 1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する。
- 2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、 「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」について学ぶ専門基礎科目を配置する。
- 3. 科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能および心身の発達」、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」について学ぶ専門基礎科目を配置する。
- 4-1. 対象者の運動機能の改善を目的とした、高度で専門的な理学療法の実践能力育成のため、理学療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する。
- 4-2. 対象者の主体的な生活を支援することを目的とした、高度で専門的な作業療法の 実践能力育成のため、作業療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を 配置する。
- 5. 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う。

以上5項目を掲げている。

リハビリテーション学科のカリキュラムは、医療技術の高度化、多様化に対応できる幅 広い教養とグローバルな視野を持ち、主体的に学び、考え、行動する人材の育成及び地域 医療・福祉に貢献できることができるように構成している。

診療放射線学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき、

- 1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する。
- 2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために 「保健医療福祉と診療放射線」について学ぶ専門基礎科目を配置する。
- 3. 科学的根拠に基づいた診療放射線の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「保健医療における理工学的基礎並びに放射線の科学と技術」について学ぶ専門基礎科目を配置する。
- 4. 高度で専門的な診療放射線の実践能力を育成するため、診療放射線検査法、放射線治療法、放射線安全管理法について学ぶ専門教育科目を配置する。
- 5. 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う。

以上5項目を掲げている。

診療放射線学科のカリキュラムは、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけ、専門職業人としての知識・技術・態度を教授することを教育上の目的とし、必要な教育科目を配置している。

臨床検査学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき

- 1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質を育成するため、基礎教育科目を配置する
- 2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するため「保 健医療福祉と医学検査」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3. 科学的根拠に基づいた臨床検査の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能」、「医学検査の基礎とその疾病との関連」、「医療工学及び情報科学」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4. 高度で専門的な臨床検査の実践能力、発展させる能力を育成するため、「臨床病態学」、「各臨床検査法」、「卒業研究」を学ぶ専門教育科目を配置する

5. 臨床検査室の品質マネジメントシステムの構築及び実践できる能力を育成するため 「検査総合管理学」、「医療安全管理学」を配置する

以上5項目を掲げている。

臨床検査学科のカリキュラムは、医療人として必要な一般教養とともに臨床検査技師として求められる知識と技術を確実に習得することを教育上の目的として必要な教育科目を配置している。

臨床工学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき、

- 1. 豊かな人間性を持ち、科学的思考力を基に共生社会の発展に貢献できる医療人材の育成のため適切なコミュニケーション能力や協調性、科学的思考力の修得を目的として、 基礎教育科目である「人間と生活」、「科学的思考の基盤」の必修および選択科目を学修して、高い倫理観と人間力を醸成する科目を配置する。
- 2. チーム医療において、常に患者を意識して最善の医療を提供するためには、医学と工学を総合的に理解した医工学のスペシャリストとして他職種と連携・協働することが必要であり、その基盤を形成するために「臨床工学に必要な医学的基礎」、「臨床工学に必要な理工学的基礎」、「臨床工学に必要な医療情報学とシステム工学の基礎」について学ぶ専門基礎教育科目の科目を配置する。
- 3. 医療機器の適切な使用のために専門的な知識と技術を修得し、幅広い領域において医学的、または科学的根拠に基づいた良質な診療支援技術を提供できる人材育成のために、「人体の構造と機能」および「関連臨床医学」、「医用機器学」、「生体機能代行技術学」について学ぶ専門基礎教育科目、専門教育科目の科目を配置する。
- 4. 多様化・高度化する医療機器の安全使用を確保することで、医療安全の推進に寄与できる知識と技術を持った人材育成のために「医用生体工学」、「医用機器安全管理学」、「医用機器学」、「生体機能代行技術学」について学ぶ専門教育科目の科目を配置する。
- 5. 医療機器の効果的な活用や安全使用など臨床工学分野で直面する課題を発見し、科学的に解明するための能力を磨くため、工学的な研究の基礎を身に付けたうえで「卒業研究」を必修科目とすることで医療機器に関連した課題について新たな知見を発見するための研究を遂行する。
- 6. 常に発展し続ける医療機器を管理する臨床工学技士には、生涯にわたり学修を継続することが必要であり、自ら主体的な学びの意欲を引き出すためのアクティブ・ラーニン

グを実践するため、「プロジェクトスキルⅠ」、「プロジェクトスキルⅡ」、「チーム 医療」、「臨床実習」および「卒業研究」を配置して段階的に学びの価値を追求する。

以上6項目を掲げている。

臨床工学科では、科学的な専門的な知識を安全に取り扱う専門知識と共にチーム医療や 建学の精神である共生社会の実現へ向け、必要な科目でカリキュラムが構成されている。

総合福祉学部

介護福祉マネジメント学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき、

- 1. 人権や多様な人間性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために基礎となる知識と豊かな人格を涵養することを重視した科目を基礎科目に配置する
- 2. 包括的・重点的支援に必要な専門職の知識を習得させるため、「社会福祉の基礎」及び「経営の基礎」に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
- 3. 専門職のため技能を習得するための専門教育科目を配置する
- 4. 主体的に学べるケーススタディ、問題解決型学習などのアクティブ・ラーニングを用いて、実践力を育てる
- 5. 学習成果の評価は、学力3要素「知能・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・ 多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

という5項目を掲げている。

介護福祉マネジメント学科のカリキュラムは、初年次より対人マネジメント・経営教育・ 介護技能などの基礎能力を充実させた後、医療・福祉制度及び公共政策等の理解、さらに 実践的なフィールドにおける地域医療、福祉・介護施設の経営に関して必要な科目を配置 している。

ソーシャルワーク学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき、

- 1. 人権や多様な人間性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために、基礎となる知識と豊かな人格を涵養することを重視した科目を基礎教育科目に配置する
- 2. 包括的な支援に必要な専門職かつチームの一員として、社会福祉と経営の基礎に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
- 3. 福祉サービスを必要とする人の支援を可能とするため、ソーシャルワーク及び経営に 関する科目を専門教育科目に配置する
- 4. ケーススタディ (CS) や問題解決型学習 (PBL) を通して、アクティブ・ラーニング による問題解決プログラムに関する科目を配置する

5. 学習成果の評価は、学力3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・ 多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

という5項目を掲げている。

ソーシャルワーク学科のカリキュラムは、大学教育を修めた社会人として必要な基礎知識とともに、福祉や医療分野で働く専門職に求められる知識・技術の修得を目指し、さらには、ケーススタディ(CS)や問題解決型学習(PBL)を通じて、より実施に基づいた高い実践力を育てることを教育上の目的として必要な科目を配置している。

先で示したようにカリキュラム・ポリシーは大学 HP 上に掲載しており、いつでも学生や保護者、受験生も確認できるように情報を公開している。

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを一体的で整合性あるものとして策定するとともに、三者の関係をわかりやすく、大学ホームページ、履修の手引き等において示している。

ディプロマ・ポリシーを本学の教育によって「何ができるようになるか」に力点を置き、学生が身に付けるべき資質・能力を明確化し、カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法について基本的な考え方を具体的に示す内容とした。

さらに、カリキュラムマップ(ディプロマ・ポリシーと科目の整合表)を策定し、履修 の手引き等にて学生に周知している。

3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

各学科の教育課程については、履修の手引きにおいて、カリキュラムの特色と構成概念、教育課程の編成、教育課程進度表(楔形配置、学年の特徴、臨地・臨床実習、主体的学修)について述べている。

本学の教育課程は、授業科目を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」及び「専門教育科目」に区分し編成している。カリキュラムマップを整備し順序立てて履修できるように 年次配当し、体系的編成を行っている。

保健医療学部

看護学科では、基礎教育科目を5領域(32教科目)、専門基礎教育科目を2領域(29教科目)、専門教育科目を3領域(52教科目)に区分し教科目を配置している。看護学科で

は基礎教育科目が他学科に比較して多くなっている。看護学学修の導入科目として「スタートアップ講座」など、看護について考える問題意識の明確化を目的とした独自のカリキュラムを編成している。

リハビリテーション学科では、令和元(2019)年度から新たな教育課程での授業を実施 しており、基礎教育科目を3領域(32教科目)、専門基礎教育科目を3領域(29教科目) に、専門教育科目を6領域(理学47教科目、作業42教科目)に区分し授業科目を配置し ている。

診療放射線学科では、基礎教育科目を3領域(28教科目)、専門基礎教育科目を3領域(34教科目)、専門教育科目を9領域(4445教科目)に区分し授業科目を配置している。

臨床検査学科では、基礎教育科目を3領域(26教科目)、専門基礎教育科目4領域(23教科目)、専門教育科目を9領域(64教科目)に区分し授業科目を配置している。

臨床工学科では、基礎教育科目を3領域(28教科目)、専門基礎教区科目を4領域(36教科目)、専門教育科目を7領域(45教科目)に区分し授業科目を配置している。

総合福祉学部

介護福祉マネジメント学科では、基礎教育科目を4領域(33教科目)、専門基礎教育科目を2領域(36教科目)、専門教育科目を5領域(59教科目)に区分し授業科目を配置している。

ソーシャルワーク学科では、基礎教育科目を4領域(33教科目)、専門基礎教育科目を 2領域(31教科目)、専門教育科目を4領域(42教科目)に区分け授業科目を配置してい る。

以上の様に編成しているが、国家試験受験資格を得るために必要なカリキュラム構成となっている。したがって、指定規則の変更に合わせて適宜変更を行っている。また、卒業生を対象に国家資格のコアカリキュラムの内容を含んだ学修達成度のアンケートを行い、現カリキュラムが学生に有益に機能しているのかについて確認を行っている。

シラバスについては、毎年シラバスマニュアルを改訂しながら必要な情報を付け加えている。令和4 (2022) 年度は講義の予習、復習時間の明記、アクティブ・ラーニングの記載、授業の概要がわかりやすく表現されているのかなどの記載の明確化に取り組んでいる。さらに講義内容、成績評価についても学生が明確に理解できるように記載方法を工夫している。

3-2-④ 教養教育の実施

本学の教養教育は各学科においての共通科目と各学科の独自で必要な教養科目を「基礎教育科目」として設定している。

保健医療学部

医療従事者となる基礎的知識として、看護学科では「導入」、「人間の理解」、「人間と社会」、「生活と情報」、「語学」で構成されている。リハビリテーション学科、診療放射線学科、臨床検査学科、臨床工学科では、「科学的思考の基礎」、「人間と生活(の理解:工学のみ)」、「語学」で構成されている。

総合福祉学部

介護福祉マネジメント学科・ソーシャルワーク学科では、「人間と文化」「人間と社会」 「健康科学」「語学」で構成されている。

カリキュラム委員会において、教養教育についての検討に関する全学方針を検討し、学科構断的な視座から基礎教養科目の運用、科目名や開講時期等の統一化を図っている。

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

本学は、医療従事者を養成する教育機関であるため、基礎的知識の上に応用的知識や技術を積み重ねていく教育形態をとっている。すなわち、専門性が高くなる前に基礎教育科目の単位修得が必須となる。医療現場での見学や実習は、低学年から実施しており、学生の学修意欲の高揚を目的としている。

また、教授方法の工夫については、各教員の意識と方法に委ねられているが、シラバスマニュアルで、アクティブ・ラーニングの要素があるものはシラバスに記載するように依頼している。また、自主的、問題解決型授業の展開や映像などを利用し視覚への強調を行っている教員が多い。2022年度はFD研修会にて、成績評価に関する研修が行われ、原則全教員が参加し、教育能力を高め、適正な評価が実施できるための実践的方法の向上を図る試みがなされている。

3-3. 学修成果の点検・評価

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

保健医療学部

三つのポリシーを踏まえた学修成果を点検し評価する方法の確立にはある程度の時間が必要であり、各学科で学修成果を点検・評価する方法を確立すべくデータを蓄積している。

三つのポリシーのうちの一つ、カリキュラム・ポリシーはカリキュラム委員会がカリキュラムマップを作成し、看護、リハビリテーション、診療放射線、臨床検査、臨床工学の各学科において授業構成とカリキュラム・ポリシーがどのように符合しているかを履修の手引きで示している。

三つのポリシーのうちカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーとも関連する、学修成果を把握しようとする取り組みも継続・拡充している。看護学科では、卒業を迎える学生に向けてWeb上でカリキュラム評価のアンケートを実施しており、教員を対象としたアンケートも行った。リハビリテーション学科でも同様に卒業を迎える学生に向けて学修到達度アンケートを実施している。診療放射線学科でも、国家試験終了後に学修到達度を確認するアンケートを実施している。第1期生の卒業が令和6(2024)年度となる臨床検査学科と令和7(2025)年度となる臨床工学科でも第1期生卒業時にこのような経緯を踏まえた検討がなされていくものと思われる。

三つのポリシーのうち特にディプロマ・ポリシーの点検・評価に関連が深いものとして卒業生の特性の把握が挙げられる。このためには学生の卒業後の状況をある程度把握したり卒業生に学生時代を振り返ってもらったりすることが考えられる。カリキュラム委員会では、すでに実施している離職状況調査に加えて、卒業生の就職先の管理的立場にある方へ向けた卒業生の特性に関するアンケートについて検討するとともに、卒業生に大学での学修内容の過不足を問うアンケートについても検討を継続している。

総合福祉学部

三つのポリシーを踏まえた学修成果を点検し評価する方法の確立にはある程度の時間が必要であり、本学部は開設初年度でもあり、各学科で学修成果を点検・評価する方法を確立すべくデータを蓄積している。

3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果 のフィードバック

本学では、各科目の最後の授業で学生を対象に授業アンケートを実施している。その結果は、各教員がWeb上で担当講義のアンケート結果を参照し、学生に向けてのコメントを入力できるようになっている。

保健医療学部

3-3-①で述べたような4年次の卒業を前にした学生を対象に学修到達度を確認するアンケートについては、これらの結果を学科内で共有するとともに、各学科のカリキュラム検討の際、包括的にカリキュラム構成と内容を点検する視点から、可能なものについてはカリキュラム改訂に反映させている。令和4(2022)年度は、看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科、臨床検査学科において指定規則等の変更に伴うカリキュラム改訂が実施された。臨床検査学科においてはAC期間終了後の令和7(2025)年度にカリキュラム改訂を予定しており、看護学科、リハビリテーション学科においてもカリキュラム見直しの検討が進められている。

総合福祉学部

開設初年度であり、カリキュラム改訂は原則できないが、AC 期間終了後に向けたカリキュラム改訂を視野に、アンケートの結果を学科内で共有している。

4. 教員・職員

4-1. 教学マネジメントの機能

4-1-① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの 確立・発揮

大学の意思決定について学長は、「日本医療大学学則」第42条の2に「校務をつかさどり、所属職員を統督する」と規定している。

学長が判断を適正に行いリーダーシップを発揮するための補佐体制として、「学校法人 日本医療大学組織規程」第5条に基づき学長のガバナンスの強化、本学の意思決定及び本 学運営の円滑化を図ることを目的に運営会議を設置している。

運営会議は、「日本医療大学運営会議規程」第2条の規定に基づき、本学運営に関する 企画立案及び学内の意見調整、理事会に要望する事項、教授会に諮問する事項、その他本 学運営に関する事項について審議し、必要な業務を行っている。学長、学部長、各学科 長、事務局長を構成員とし、学長が会議を招集し、議長となり、月1回開催している。

4-1-② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメント体制の構築

本学の使命・目的の達成のため、権限の適切な分散と責任の明確化に配慮し、「学校法 人日本医療大学組織規程」、「学校法人日本医療大学事務組織規程」、「学校法人日本医療大 学事務分掌細則」、「学校法人日本医療大学職務権限規程」、「日本医療大学運営会議規 程」、「日本医療大学教授会規程」等の諸規程を整備している。

学長は、本教授会規程に基づき学位の授与、卒業及び課程の修了、学生の入学、その他 教学に関する重要事項等の決定に際しては、教授会に意見を求めて決定している。

教学マネジメントを支える基盤の一つとして、学長の下に、本学の教育、研究、その他 諸活動に関する学内外の情報やデータ等を収集及び分析し、本学の運営のための計画策 定、政策決定等を支援することを目的に IR 室を設置している。

学生の表彰及び懲罰に関する事項については、それぞれ「日本医療大学学生の表彰に関する規程」、「日本医療大学学生の懲戒等に関する規程」を整備している。

4-1-③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメント

本学の使命・目的達成のため、「学校法人日本医療大学組織規程」、「学校法人日本医療 大学事務組織規程」、「学校法人日本医療大学事務分掌細則」等に基づき事務体制を構築し ており、本体制は適切に機能している。 本学の事務職員数は、81人〔令和4(2022)年5月1日現在〕であり、事務職員の採用は、「学校法人日本医療大学就業規則」に基づき理事長が行っており、各部署の業務内容及び業務量に応じ、職員の年齢、キャリア、能力等を勘案し、適材適所に配置している。

4-2. 教員の配置・職能開発等

4-2-① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置 教員の採用及び昇任は、日本医療大学教員任用規程及び日本医療大学教員の選考に関す る細則に従い、教員選考委員会規程により人格、健康、教育研究上の経歴及び研究業績な どを考慮して選考することとしている。募集方法は原則公募としている。

専任教員数は、大学設置基準第 13 条及び各職業資格関連の指定基準の規程に定められた必要な専任教員数を確保している。

4-2-② FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施

本学では、教職員の教育課程・体制の開発向上及び教員の教育方法の向上、研究力の向上等を目指してFD委員会が組織されている。FD委員会では、FD全般にわたる事項について審議し、必要な業務を行っている。

FD 委員会は各学科代表者9名と大学事務局1名の10名で組織され、FDセミナーの企画 運営や授業評価アンケート実施等の取組みを行っている。

FD セミナーについては、令和4 (2022) 年度は、下記3回のセミナーを開催した。全教員がいずれかのセミナーに参加し、教育力及び研究力の向上を図った。また、セミナーの実施方式は対面及び、リモート配信のハイブリッド形式とし、当日参加できない教職員にはオンデマンド配信の方法で視聴できるようにしている。

第1回: 令和4 (2022) 年5月23日 (月曜日) 午後4時30分~午後5時30分 「科研費獲得に向けて~研究計画調書の書き方~」

講師:白澤 政和 氏(国際医療福祉大学大学院 教授)

第2回:令和4(2022)年7月22日(金曜日)午後4時30分~午後5時30分 「科学研究費申請に向けた勉強会」

講師:保健医療学部 看護学科 溝部 佳代 准教授

総合福祉学部 ソーシャルワーク学科 松浦 智和 准教授

第3回: 令和4 (2022) 年11月11日 (金曜日) 午後4時30分~午後5時30分 「成績評価への組織的な対応~アセスメントプランの策定と運用~」 講師:田中 正弘 氏(筑波大学 大学研究センター 准教授)

学生による授業評価アンケートについては、令和2 (2020) 年度より学内ポータルサイトを使用したWebアンケートに移行した。移行初年度は、新型コロナウイルス感染拡大によるオンライン講義内でのアンケート実施となったことなどの要因から、回収率の低下が課題となったが、令和4 (2022) 年度は学生への複数回のアナウンスを行い、また、最終講義時にアンケート回答の時間を設けることを、全教員へ要請した。これらの取組みにより、全学科において前年度と比較し回答率が向上している。ただし、全学的に回答率が低い傾向にある科目については、ワーキンググループを中心とし、検討改善を行っていく。

また、令和4 (2022) 年9月2日 (金曜日) に開催された北海道 FD・SD 協議会・北海道大学大学院教育推進機構高等教育研修センター主催の「北海道 FDSD フォーラム 2022」に FD 委員が出席した。その他、北海道 FD・SD 協議会から案内される FD に関する学外セミナー情報を教職員ポータルサイトで教職員に周知するなど、積極的に情報提供を行っている。

4-3. 職員の研修

4-3-① SD (Staff Development) をはじめとする大学運営に関わる職員の能力向上に資する取組み

私立大学をめぐる環境が激変する中、大学の経営戦略の構築及び管理運営機能の強化並びに教育・研究機能の活性化が重要課題とされている。

こうしたことから、事務職員を対象とした管理運営、教育・研究支援などに関する事務 処理能力の向上に資するよう、学内において SD の一環として各種の研修を実施してい る。

また、大学職員として求められる専門性の向上や効率的な業務処理手法の修得に資するよう、北海道地区 FD·SD 推進協議会に加入し、情報を収集するとともに、日本私立大学協会北海道支部が開催する研修会への参加促進などに努めている。令和2 (2020) 年度以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響から、これら学外での研修会のほぼ全てが中止となってしまったが、令和4 (2022) 年度に一部再開した。併せて、学内における研修環境を充実させるべく、令和4 (2022) 年 10 月以降、事務職員向けの SD 研修会を集中的に開催、事務職員の知識レベルの底上げに取り組んでいる。

加えて、事務局内においては学内外で経験を積んだベテラン職員を各グループの要所に 配置し、業務を通じた後進への知識経験の承継を継続して実践している。 他方、事務職員の人事評価制度を導入するなど、「職員の意欲や能力の向上」、「組織の活性化」、「効率的な業務運営」などに向けた取組みを進めるとともに、個人の業務目標の設定や評価者による個人面談などを通じて、職員のモチベーションの向上、人材育成などに努めている。

4-4-① 研究環境の整備と適正な運営・管理

本学では、科学研究費助成事業をはじめとする競争的研究費等の配分機関のルールに則って、「研究費使用ガイドライン」を定めて、研究費に関する適正な運営・管理を行っている。令和4 (2022) 年度はこの「研究費使用ガイドライン」の内容を見直し、より実態に近い形として、令和4 (2022) 年9月6日より施行し、教員が参照しやすいようにした。また、出張命令書様式につき、令和4 (2022) 年8月3日に改訂を行い、物品購入(支出)依頼書様式についても、令和5 (2023) 年1月10日に改訂を行い、申請時の便宜を図った。また、科学研究費の管理につき、従来利用されていなかった、「科研費プロ」のシステムを活用して、教員がいつでもWeb上で残額や使用状況等を確認できるようにした。

さらに、アルファオフィスのワークフローを利用した電子決裁システムの試験的導入を 行い、決裁状況の見える化や決裁のスピードアップを図った。

4-4-② 研究倫理の確立と厳正な運用

本学では、学術研究倫理に関し、研究倫理委員会規程、不正行為に関する取扱規程、研究活動行動規範等を制定し、研究活動に係わる倫理意識の向上に取り組んできた。また、研究倫理審査申請の審査を通じて、意識の向上を図ると共に、審査のシステム化による環境整備にも取り組んでいる。

令和2 (2020) 年度から国の倫理指針に沿った倫理審査申請書の様式作成のためのマニュアルを作成しているが、今年度はその見直し作業を進めると共に、倫理申請の流れを示したチャート表等の作成準備を進めている。また、実際の手続きの見直しも行い、審査前のチェック体制の強化や、多機関共同研究の迅速審査への導入、申請締め切り日の事前通知、承認後の発議処理の整理・迅速化を行うことができた。

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン (実施基準)」の改正 (令和3 (2021)年2月)を受け、本学でも研究活動上の不正行為の防止と不正行為の疑惑が生じた場合に適正な対応を行うことを目的として、不正行為に関する取扱規程を制定している。

なお、不正防止に関する規程類及び体制については、内部監査での指摘もあり、文科省ガイドラインに沿った形で不備を解消し、適正な運用を行うための準備を進めている。

研究倫理研修については新型コロナウイルス感染状況も踏まえ、e-learning 形式で実施しており、大学事務局はオンライン上にて教員の受講状況を把握している。また令和3 (2021)年より施行の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(経済産業省・文部科学省・厚生労働省)一部改正を受け、本学における研究の多様化も踏まえて、より効果的な研修を提供するため内容の精査を開始した。全体としての研修は実施できなかったが、喫緊の対策として申請者への個別相談体制を充実させることができた。

4-4-3 研究活動への資源の配分

本学では、全教員に対して個人研究費を交付するほか、専門分野における専任教員の学術研究及び教育向上に資するための研究費(学術助成費、教育向上研究費)が交付される。

日本医療大学研究費審査委員会規程で研究費審査委員会の組織及び運営に関し必要な事項を定め、本学の学術助成費及び教育向上研究費の交付は研究代表者から提出された計画調書を研究費審査委員会が審査し決定する。令和4 (2022) 年度は、学術助成費は 27 件、教育向上研究費は 14 件の研究に対し交付を行った。

○保健医療学部

< 看護学科 >

【学術助成費】

- 1. 新型コロナウイルス感染症の蔓延が医療系大学の学生に及ぼす心理的影響 -診療放射線学、理学療法学、作業療法学を専攻する学生に焦点を当ててー 講師 吉田 香
- 2. 病院に就業する看護実績経験2年目看護師の「死—看取り」の体験に関する研究 教授 佐々木 由紀子
- 3. アジア諸国言語における文法化現象も記述的、類型的研究 教授 山田 敦士

【教育向上研究費】

1. 本学における学生の職業的アイデンティティの形成に関する研究 助教 柏民 圭太

< リハビリテーション学科 >

【学術助成費】

- 1. 軟式野球選手における投球数と肘関節内側側副靭帯の緩みの関係について 准教授 及川 直樹
- 2. 運動器変性疾患における作業療法介入の有効性に関する検討・日常生活の行動変容に向けた作業療法介入の検討

准教授 清本 憲太

3. 動作解析ソフト Kinovea を用いた股関節の伸展角度の信頼性と妥当性

講師 合田 央志

- 4. 歩行時の反応性方向転換動作における運動戦略と注視点移動の潜時の関連 助教 渋川 佳彦
- 5. 地域在宅高齢者における社会参加がフレイルの発生リスクに及ぼす影響の検証 講師 松崎 由里子
- 6. マーカーレスモーションキャプチャーニョル氷雪寒冷圏域在住高齢者の歩行分析 講師 新開谷 深
- 7. 大学生における被害妄想的観念に自閉スペクトラム症傾向と逆境体験が及ぼす影響 講師 村上 元

< 診療放射線学科 >

【学術助成費】

- 1. 非接触型管電圧計の校正技術の制度に関する研究 講師 黒蕨 邦夫
- 2. 進化的アルゴリズムを用いた画像再構成フィルタの適応に関する基礎的検討 講師 阿部 国史
- 3. 大学および大学院における国際的な教育を行うための研究活動 教授 樋口 健太
- 4. 学生への基礎原理の理解の促進を促す MRI に関する磁気共鳴現象の再現による 可視化のための演習処理を活用したコンテンツの開発 教授 俵 紀行

【教育向上研究費】

- 2. 大学教員において学習機材が学修効果に及ぼす影響 助教 小笠原 凌介
- 3. 医療系大学における医工学学習の動機付けを喚起する学習環境の構築と実践 講師 加川 宗芳

< 臨床検査学科 >

【学術助成費】

- 1. ホルモン受容体陽性乳がんの最適治療選択に向けた免疫病理学的解析 教授 淺沼 広子
- 2. 抗好中球細菌外トラップ抗体測定系の標準化 講師 魚住 諒
- 3. 血流依存性血管拡張反応と関連する動脈硬化指標の探索 講師 岡田 一範
- 4. LC-MS/MS を用いて PBP 2 の検出 講師 林 泰弘
- 5. 質量分析法による認知症の血液バイオメーカーの構築 教授 梅森 祥央

6. 北海道内で検出される ESRL 産生大腸菌および各種病原細菌の薬剤感受性率調査 および分子疫学解析

教授 品川 雅明

< 臨床工学科 >

【学術助成費】

- 1. ヒトの視覚機能に基づく医療機器表面の異常検知手法の研究 講師 齊藤 高志
- 2. 敗血症性急性腎障害の治療効果向上に関する研究 准教授 工藤 元嗣
- 3. 災害時における地域に特化した血液透析治療についての現状の問題点に関する研究 講師 斉藤 徳

【教育向上研究費】

1. 熱希釈法を用いた心配出量測定に関する教育用シミュレーション開発とその学習効果の評価

助教 高平 昂

2. 論理思考能力向上のための教育プログラムの構築と評価教授 竹内 文也

○総合福祉学部

< 介護福祉マネジメント学科 >

【学術助成費】

- 1. 高等教育機関に所属する学生のライフスタイルと健康教授 志渡 晃一
- 2. 技能実習生が修得する移転対象となる業務区分内容の習熟化に関する研究 准教授 平野 啓介
- 3. 介護施設の経営に関する競争戦略上の成功要因の規定要因分析について 教授 伊藤 一
- 4. 訪問看護ステーションの経営品質と個人と組織の能力向上に関する研究 教授 照井 レナ

【教育向上研究費】

- 1. シミュレーションによる医療経営人材育成のための学習方法の分析および改善助教 坂野 大樹
- 2. 日本における職業訓練と介護福祉士養成校大学3年次編入に関する研究 〜短期大学士や専門士保有者の研鑽に向けての方法〜 助教 髙橋 銀司
- 3. 福祉施設における看護師・介護福祉士・介護支援専門員の連携・協働構築への示唆 〜目指すべきサービスの在り方の検討〜 講師 佐藤 恵

4. アクティブ・ラーニングの教育方法等の実施による学生満足度向上および教育効果の調査の研究

教授 加藤 敏文

5. 医療・福祉系学部のためのポジティブ・デス・ムーブメントに則した「死生学」の 授業内容の検討とテキスト案の作成

教授 林 美枝子

6. 介護実習区分Ⅱにおける実習生の学びの特徴 〜実習学生の実習報告書の内容とアンケート調査から〜 助教 織田 なおみ

< ソーシャルワーク学科 >

【教育向上研究費】

- 1. 社会福祉教材開発及び活用に向けた取り組み―地域貢献センターの活動を通して― 講師 越石 全
- 2. 上川・空知地域におけるソーシャルワーク・スーパービジョン・システム構築に関する実証的研究

准教授 松浦 智和

5. 経営・管理と財務

- 5-1. 経営の規律と誠実性
- 5-1-① 経営の規律と誠実性の維持
- 5-1-② 法人の使命・目的の実現への継続的努力

本法人は、建学の精神を「共生社会の実現」とし、「学校法人日本医療大学寄附行為」第3条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学を設置して学校教育を行うことを目的とする。」と定めている。また、この目的の達成に必要な組織を整備するとともに、組織を適切に運営するための諸規程を定め、規律ある堅実な経営を行っている。

教職員に対しては、「学校法人日本医療大学就業規則」及び「学校法人日本医療大学賞罰規程」において服務規律、懲戒事由等を明示し、法令及び関係規程等を遵守し業務を行うことを義務付けている。

会計処理は、学校法人会計基準に則って行われている。財務会計は、「学校法人日本医療大学経理規程」、「学校法人日本医療大学経理規程取扱細則」、「学校法人日本医療大学授業料等取扱規程」、「日本医療大学授業料等取扱規程に関する細則」、「学校法人日本医療大学寄附受入規程」、「学校法人日本医療大学固定資産及び物品管理規程」、「学校法人日本医療大学資産運用規程」を整備し、適切に処理されている。

組織の倫理については、「日本医療大学研究倫理委員会規程」、「日本医療大学不正調査委員会規程」、「日本医療大学人権擁護委員会規程」、「学校法人日本医療大学公益通報者保護規程」、「学校法人日本医療大学個人情報の保護に関する規程」、「日本医療大学ハラスメントの防止等に関する規程」等を整備するとともに、本学に研究倫理委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、ハラスメント防止委員会等を設置して、体制の整備を行っている

その他、教育研究活動や財務等に関する情報をホームページで公表することなどを通じて、法人の運営に関する透明性の確保に努めている。

5-1-3 環境保全、人権、安全への配慮

本学では、キャンパスの整備に当たって、良好な自然環境の保全に向けて、建築物及び工作物の設置、宅地造成、土地開墾などに配慮している。また、開学時から夏季にはクールビズを実施しているほか、節電や節水等注意喚起のポスターを校舎内の各所に掲示するなど、本学全体の省エネ意識の向上に努めている。

人権については、「日本医療大学研究倫理委員会規程」、「日本医療大学人権擁護委員会規程」、「学校法人日本医療大学個人情報の保護程」、「学校法人日本医療大学個人情報の保護に関する規程」、「日本医療大学ハラスメントの防止等に関する規程」等を制定するとともに、研究倫理委員会、人権擁護委員会、ハラスメント防止委員会を設置するほか、各種の苦情や相談に対応する相談員を配置するなど人権擁護の周知・徹底に努めている。

また、本学では、火災、地震その他の災害の予防及び人命の安全並びに防止を図ることを 目的に、消防計画、危機管理マニュアルを定めている。令和4(2022)年度については、新 型コロナウイルス感染拡大の影響から実地の避難訓練は見合わせたものの、文書で訓練の要諦、心構えの周知を図った。また学内での防災意識醸成を目的に「防災の日」を実施した。

他方、平成 30 (2018) 年9月の北海道胆振東部地震を契機に、各キャンパスに災害用食品の備蓄を行い毎年更新している。

加えて、令和2(2020)年度以降、新型コロナウイルス感染防止のため、学内における消毒液の配置、施設・設備の消毒、遠隔・分散授業実施などに全学一丸となって取り組んでいる。

5-2. 理事会の機能

5-2-① 法人の使命・目的の達成と適切な運営に資する意思決定を可能とする体制の 整備とその機能

法人の使命・目的の達成と適切な運営に資する意思決定ができるよう「学校法人日本医療大学寄附行為」に基づき、理事会、評議員会を設置している。理事会は寄附行為第7条に規定する選任区分に従い選任された理事8人によって構成され、理事長が議長となり、会議を運営している。令和4(2022)年(2022)度は年6回開催した。

監事は、同寄付行為第8条の規定に従い2人が選任され、寄付行為第17条に掲げる職務を行い、理事会に出席して意見を述べている。

外部の役員として、理事には行政書士と企業経営者、監事には司法書士と公認会計士 (計4人)を選任しており、本外部役員の高い見識と幅広い経験を活かしながら、法人の 使命・目的の達成と適切な運営を行うための体制を整えている。

評議員は、同寄附行為第27条に規定する選任区分に従い選任された評議員17人によって構成され、評議員の互選により議長を選任し、会議を運営している。

その他、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した理事は、出席者と見なすこととしている。

5-3. 管理運営の円滑化と相互チェック

5-3-① 法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化

令和4 (2022) 年度の理事会は、年6回開催し、主な議事内容は、事業計画、予算、規程の改正、事業報告、決算報告、各学校の状況報告等であり、適切に審議、議決している。また、法人の運営の実務にあたる事務局の役職者が、事案に応じて理事会に臨席することにより、施策の実効性を確保し得るよう運営している。

令和4 (2022) 年度の評議員会は、年6回開催し、評議員の出席率は89.9%であった。 主な議案は、予算・事業計画の諮問、各学校の状況報告等であり、適切に審議、議決、答 申している。

「学校法人日本医療大学寄附行為」第13条には、「理事長は、この法人を代表し、その 業務を総理する。」と規定している。

一方、「日本医療大学学則」第42条の2に、「学長は、校務をつかさどり、所属職員を 統督する。」と規定されているとおり、学長は、大学全体の教育、授業計画、入試、学生 支援、研究、教職員の人事等を統括する。

教学と法人の一体的経営を図り、現下の厳しい競争的環境へ迅速に対応し、法人及び大学の財務基盤を強化することにより、教学への支援をより一層充実することを目的に経営戦略会議を設置している。経営戦略会議は、理事長、総長、学長、事務局長及び外部の有識者2人が構成員となり、本法人の経営・教学全体に関する事項について審議している。

また、法人の理念及び建学の精神を踏まえ、理事会が決定した経営方針に基づき業務を執行し、法人の経営基盤の一層の強化を図ることを目的に、執行役員会及び学校連絡会議を設置している。執行役員会は、理事長、副理事長に加え、理事会及び評議員会の同意を得て理事長が委嘱する学内教職員による執行役員、さらに事務局の各幹部職員による准執行役員から構成される。また、学校連絡会議は、理事長、副理事長に加え、学長、学科長、事務各部門責任者などから構成される。

5-3-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性

監事は、「学校法人日本医療大学寄附行為」第17条に掲げる職務を行い、理事会・評議員会に出席して意見を述べるとともに、理事長や常勤の理事から業務執行状況について報告を受けるほか、監査の執行等に際して必要に応じ説明を求めている。また、重要な書類を閲覧し、業務執行が法令及び寄附行為等に則って適正に行われているか、経営方針に従って適切・適正に行われているかについて随時検証している。

評議員会は、同寄附行為第23条により17人の評議員をもって組織されており、理事会で審議される事項のうち、同寄附行為第25条に規定している諮問事項について理事長に意見を述べている。また、同寄附行為第26条に「この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。」と規定しており、諮問機関としての役割を果たしている。

また、監事による監査のほかに、理事長が選任した職員による監査本部を設置し、監事と連携して業務監査及び会計監査を実施している。

5-4. 財務基盤と収支

安定した財務基盤確立の観点より、本学は、専門学校を継承して平成26 (2014) 年4月に、新たに日本医療大学として開学して以来、組織運営体制を整備することに注力してきたが、本学が将来に向けて安定した経営を維持しながら、大学としての使命を果たしていくために、収支構造の見直しを行い、本法人の経営を学生納付金等の収入の範囲内で行うこととした。すなわち、従来の予算要求の積み上げ中心の運営から、収入予算枠内で事業を組み立てる方式に変更するとともに、共通経費等を見直し、非効率で無駄な経費の縮減を徹底するほか、選択と集中による予算の重点的な配分によって、事業活動収支の黒字転換を図ることを予算編成の基本方針とした。

また、教学への支援の充実強化に向けて、教学と法人の一体的経営を図り、現下の厳しい競争的環境にも迅速に対応し得るよう財務基盤を一層強化することなどを目的として、平成30(2018)年4月に外部委員を含めた経営戦略会議を設置し、経営及び教学全体に関する事項について検討している。

さらに、予算編成の基本方針を全うし得るよう、収容定員に対する学生数 100%の確保 に努めるとともに、公的研究費や民間の助成金に関する説明会を実施し、外部資金獲得に 向けた取組みを併行して促進している。

中長期的な財務運営の観点では、専門学校を閉校したことによる影響を除き、平成 26 (2014) 年に大学を設置して以来、事業活動収入は着実に増加しており、令和 4 (2022) 年度の事業活動収支計算書では、収入合計が 3,344,927 千円となっている。

一方、同年度の基本金組入前当年度収支差額は175,558千円の収入超過となっている。 平成26(2014)年度に開学して以来、毎年度、特別寄附金を受贈するとともに、収入に見合った経費の支出を考慮した運営を継続していることから、この8年間全てで収入超過となっており、収支のバランスは保たれている。

以上のとおり、財務に関しては、中長期事業計画を踏まえた収支計画に則り、盤石な基 盤形成に向けた取り組みを進めている。

5-5. 会計

5-5-① 会計処理の適正な実施

本学にあっては、「学校法人会計基準」、「学校法人日本医療大学経理規程」、「学校法人 日本医療大学経理規程取扱細則」等に基づき、会計処理を適正に行っている。

学内の会計処理で判断に難しい事例が生じた場合は、日本私立学校振興・共済事業団、 公認会計士、税理士等に確認するなどして、適切に対応している。

予算については、事務局予算編成担当が、各部署のヒアリングを行うなどして予算原案をとりまとめた上で、理事長が総合的に調整して予算案を策定し、3月末までに評議員会の意見を聞き、理事会において審議、決定している。

また、補正予算についても、必要に応じ同様の手続きを経て措置している。

5-5-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

会計監査は、公認会計士による監査、監事による監査及び内部監査が行われている。 公認会計士による監査は、当該年度の9月、11月~12月、3月、次年度の4月、5月 に実施されており、会計処理に関する指導、助言があった場合には、速やかに対応している。

監事は、「学校法人日本医療大学寄附行為」第9条にもとづき2人が選任されており、 その業務は同寄附行為及び「学校法人日本医療大学監事監査規程」により定められている。

また監事は、理事会、評議員会に出席し、本法人の業務や財産状況について把握するとともに、本学の業務執行内容等について、適宜意見を述べている。

さらに、内部監査においても、監査本部が主体となって会計監査の監査項目を定めた内部監査計画書に基づいて監査を実施し、報告書を作成の上、理事長へ報告するとともに、 所要の対応策を提示している。

6. 内部質保証

6-1. 内部質保証の組織体制

6-1-① 内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立

本学は、建学の精神として掲げている「共生社会の実現」の精神に基づき、「日本医療 大学学則」第3条に、「本学は、教育水準の向上及び活性化を図り、その目的と社会的使 命を果たすため、教育研究活動等について自己点検及び評価を行う」と定め、内部質保証 のための組織を整備するとともに、責任体制を確立している。

具体的な本学の内部質保証に関わる事項等は、開学以降「日本医療大学自己点検評価委員会規程」に即して、自己点検・評価委員会が中心となり点検及び評価を実施している。 同委員会の発足は平成27(2015)年4月であり、同年11月25日に初回の会議が開催された後、毎月第4水曜日を定例会議日としている。

第一回目の会議開催時点では、診療放射線学科は開設されていないことから、看護学科教員33人、リハビリテーション 学科教員33人、事務局長で委員会を構成していたが、現在は、看護学科長、リハビリテーション学科長、診療放射線学科長、臨床検査学科長、臨床工学科長、介護福祉マネジメント学科長、ソーシャルワーク学科長、各学科(リハビリテーション学科においては各専攻から)から12人ずつ選出された教員78人、法人グループ長、の1,613人を構成員として委員会を運営している。

同委員会では、受審認証評価機関の選定、年報の作成、教員の自己点検・評価の実施、全学的な委員会活動に対する点検を行い、円滑な PDCA サイクルを実行するために、学内から幅広く情報を収集する体制を整えた。また、より広義の内部質保証活動については、学内の各種委員会などにおいて継続的に実施している。例えば、授業内容の向上・改善を目的とした「学生による授業評価アンケート」は、FD 委員会が中心となって実施し、結果をホームページや掲示板に公表しているほか、学生委員会を中心に、大学における学生の生活環境の向上を目的として、「学生生活全般についての満足度調査」を実施するなどして、学生からの要望を採択するための仕組みを整えている。

このように各委員会において提起された問題点や改善点を次年度の事業計画に反映する ことなどを通じて、毎年度の目標設定や自己点検を行う内部質保証の充実に努めており、 今後もこれを強化する。

6-2. 内部質保証のための自己点検・評価

6-2-① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有

各委員会は、毎年の活動内容を自己点検・評価した上で委員会活動報告書を作成し、自己

点検評価委員会に提出している。自己点検評価委員会では各委員会から提出された内容の 実行状況と総括のチェックを行い、年報という形で公表している。各委員会は自己点検評価 委員会による検証結果に基づき改善を行い、これをまとめて次年度の事業計画案を作成し、 最終的に学長から次年度大学事業計画として、年度末の「大学方針説明会」において説明を 行っている。

学校教育法第 109 条に基づき、本学ではエビデンスに基づいた自己点検・評価に努めており、自己点検評価委員会によって、全教員を対象に教員の自己点検・評価を実施している。この自己点検・評価は、教員自身の活動について自己点検・評価を行うことにより、自己の主体的な能力開発や教育、研究などの活動の活性化を促進し、更なる教育研究の高揚を図ることを目的としている。自己点検・評価する分野は、「教育」、「研究」、「大学業務」、「社会貢献」の4分野とし、教員自らが、年度当初に目標を立て、「教員自己点検・評価表」に記入し、上司(看護学科においては、分野の教授を分野に属する准教授、講師、助教、助手の上司とし、学科長を教授の上司とする。診療放射線学科においては、学科長を教授、講師、助教の上司とし、学科長を教授の上司とする。診療放射線学科においては、学科長を教授、権教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長の上司は学部長とし、学部長の上司は学長とする)と協議の上、同意を得る。年度末には、教員自己点検・評価表に年度目標に対する成果等を記入し、再度上司と面談の上、自己点検・評価結果が確定する。

この教員の自己点検・評価は、平成28 (2016) 年度から毎年度実施し、教員自己点検・評価表の結果に関しては、自己点検評価委員会がまとめ、本学の年報及び、ホームページ上にて公表している。

また、各委員会から年度末に提出される「活動報告」や次年度の「活動計画」について内容の吟味を行っている。これまでに実例はないが、吟味の結果、「日本高等教育評価機構」の基準を充たさない事象が認められた場合、委員会に是正を求めることにしている。

毎年、「日本高等教育評価機構」から公表される、「判断例」について、本学の実態と照合し適否を確認している。

6-2-② IR (Institutional Research) などを活用した十分な調査・データの収集と 分析

平成 30 (2018) 年 6 月 27 日開催の自己点検・評価委員会において IR 組織の設置が提案 されたことを受け、教授会において同委員会の下部組織として「IR 専門部会」を設置することを決定した。第 1 回 IR 専門部会において、各委員会における活動記録(議事録や調査 関係書類等)を同部会に提出するよう依頼した。しかし、平成 30 (2018) 年 10 月 22 日開催の運営会議において、IR 組織は自己点検・評価委員会の下部組織ではなく、独立した組織にすべきとの方針が示され、同月 24 日開催の第 3 回 IR 専門部会において、同部会を平成 30 (2018) 年度末に廃止することを決定した。そして平成 31 (2019) 年 1 月 23 日開催の

教授会において、平成31(2019)年度から自己点検IR室をより上位の組織として位置づけ、一層の機能強化に向けた取組みを推進することが承認された。こうした背景を踏まえて設置されたIR室は、同年4月1日に設置された運営会議に並ぶ上位組織として位置付けられ、現在は、同会議と同じ構成員(学長、学部長、学科長、事務局長等)により運営されている。IR室の設置により、IRを推進する環境が整い、今後の運営が期待される。

本学では、教育・学修支援に関する調査・分析のために、FD 委員会が中心となって「学生による授業評価アンケート」を実施している。このアンケートは、平成 28 (2016) 年度に見直しを実施したところであるが、各教員は、同アンケートの結果を今後の教育にどう反映させるかを書面で提出するとともに、アンケート結果は学生にも公開し、教員・学生間の意見交流の機会としている。

また本学では、学生委員会が例年5月に全学生を対象として実施している「学生の生活に 関するアンケート」を通じて、学生生活の実態と大学に対する要望を把握するとともに、学 生がより一層充実した大学生活を送ることが出来るよう種々の改善に努めている。アン ケートは従来行っていたマークシート方式からWeb方式に変更し、より学生が回答しや すい方式に改めた。本アンケートは無記名とし、基本的属性、入学に至る経緯、大学生活の 現状、大学生活全般についての満足度、学生気質などに関する回答については、設問項目の 見直しを図り、複数ある回答から選択する方式に変更したことにより、学生の意識を体系的 に把握出来るようになった。本学への要望(整備、改善、充実して欲しいこと)や期待する こと、入学して良かったことや本学に対して評価している点などを、自由により具体的に記 述する回答方法を採用した。今年度のアンケートは「令和4 (2022) 年度 入学と生活に関 するアンケート調査」と銘打ち、令和4(2022)年7月から実施し、1,076人の学生から届 いた声を 11 月末で集計、その結果を 12 月に学内のグループウエアを通じて全教職員が共 有した。 これらの取り組みにより、 学生の生の声を集約し本学の実施すべき案件を整理する 体制が整った。アンケート結果に関しては、毎年、教授会に報告するとともに、学生には学 生ポータルサイトで発信しているニュースレター「あずまし」を通じて周知している。また、 この「あずまし」には、学生から提案のあった改善案に対する取り組みについても紹介して いる。

6-3. 内部質保証の機能性

6-3-① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体の PDCA サイクルの仕組みの確立とその機能性

本学の内部質保証は、「自己点検評価委員会規程」に基づき、自己点検評価委員会が中心となって計画(Plan)、実施(Do)した自己点検・評価の結果を、自己点検評価委員会や教授会で報告・検討(Check)し、その結果を全学の教職員が教育研究活動に反映し、改善を図り(Action)、さらにそれを点検・評価に結び付けていくという内部質保証のた

めの PDCA サイクルは確立している。前述のように、大学全体として、自己点検・評価は毎年度継続的に実施し、その結果についても日本医療大学年報及び、ホームページ上で共有しており、大学の運営に反映させている。令和4 (2022) 年度には IR 室が機能し始め、自己点検・評価された結果を検討し、大学運営に反映させる取り組みがなされている。

本学は、開学から1年ごとに新学科が増設された経緯があり、旧ディプロマ・ポリシーに沿った教育を展開してきた。しかし、開学後4年を経過した平成30(2018)年頃から建学の精神などと三つのポリシーを、改めて全面的に見直す必要性が生じてきた。平成30(2018)年度6月から10月にかけ、学長のリーダーシップのもと、自己点検評価委員会委員である各学科長を構成員とする運営会議を中心に三つのポリシーの見直しの原案を作成し、さらに学科会議・教授会等関係会議において検討を重ね、新たな三つのポリシーが策定された。これによって、入学選抜、教育、卒業の各段階の目標の具現化を図った。

それに伴い、カリキュラム委員会において、カリキュラム委員会委員長のもと、自己点検評価委員会委員も構成員として加わり、カリキュラムマップの原案を作成し、各学科において検討を重ねた。平成30(2018)年度12月の教授会においてカリキュラムマップが提示され、ディプロマ・ポリシーの内容をカリキュラムに反映した。SYLLABUSにおいては、令和元(2019)年度から、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、科目レベルにおいても各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施している。

本学の内部質保証は三つのポリシーを起点とした内部質保証の取り組みが開始されている。令和2 (2020) 年度までは、年報の完成に時間を要し、年報の中身について点検・評価が疎かになっていた。しかし、令和2 (2020) 年度より年報の作成を早め、大学評価機構の評価基準に照らし合わせて年度内に自己点検・評価を行った。令和3 (2021) 年度3 月には、今後の大学運営・設置計画について方針説明会として、理事長から「サクセスロードプラン」が示され、大学運営の中長期計画、事務局改革などが示された。

7. 大学が独自に設定した基準による自己評価

7-1. 認知症研究所

7-1-① 目的

本研究所の目的は、認知症を惹起する疾患の制圧を達成するため、これら疾患に関する研究及び各種事業を行い、もって国民の健康福祉の増進に寄与することとする。

7-1-② 研究内容

研究:「アスパラガス茎抽出物 (ETAS®50)の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証 II」、「スヌーズレン」に関する研究、認知症介護者支援への小規模多機能型居宅介護事業所の新たな展開に関する研究

基準項目「研究」に関して、(1)株式会社アミノアップからの受託研究として、ノテ福社会の介護事業所の入居者、利用者を対象に、アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の臨床効果を図るための試験を 2018年10月から開始し、2020年2月で終了した。研究成果を2022年3月にジャーナル「Evidence-based Complementary and Alternative Medicine」に投稿し、査読中である。(2)ノテ福社会と共同し、八田研究員と新岡研究員を中心に、「スヌーズレン」に関する研究を行っている。(3)小規模多機能型居宅介護事業所の応談機能の向上を目指して作成したアセスメント・シートによる、家族介護者の負担感軽減効果の有無を明らかにするために介入研究の成果論文である。分析対象は介入群が19件、非介入群は14件であった。介入群と非介入群の間にはいずれの変数項目に関しても有意な差はなかったが、介入群の面談担当のケアマネジャーに対するインタビューではシート利用の面談への高い評価が得られ、より長期間での、あるいは利用頻度を上げた介入での効果の有無の確認が必要であろう。

7-2. 教員の自己点検・評価に対する分析

本学では教育、研究、大学業務、社会貢献の各分野に対して職位別に重み付けの目安を設定している。それをもとに各教員はウエイトや具体的な目標を年度当初に設定し、それに対する成果を年度末に報告している。目標に対する達成度*を評価5から評価1までの5段階で自己評価している。その結果を集計し分析したものを公表する。結果は1から5を図表で、分析については特記事項のみを提示している。

全教員のウエイト設定と分野達成度を結果1に示す。教育のウエイトは平均が37.8%で、それに対する分野達成度の平均は3.6の評価であった。研究のウエイトに対する平均は31.9%、それに対する分野達成度の平均は3.1の評価であった。大学業務のウエイトに対する平均は21.6%、それに対する分野達成度の平均は3.5の評価であった。社会貢献のウエイトに対する平均は9.1%、それに対する分野達成度の平均は3.4の評価であった。全項目において自己評価は3.0を上回っており、目標は達成されていた。

学科別のウエイト設定と分野達成度を結果2に示す。ソーシャルワーク学科を除いた6 学科及び別科は教育におけるウエイトが最も高く、次いで研究のウエイトが高くなっていた。ソーシャルワーク学科は研究におけるウエイトが最も高く、次いで教育のウエイトが高くなっていた。分野達成度は研究、社会貢献の一部を除き3.0を上回っており、概ね目標は達成されていた。

職位別のウエイト設定と分野達成度を結果3に示す。教育に対するウエイト設定は教授、助教において高く設定されていた。研究へのウエイト設定は講師、助教が高く設定されていた。大学業務に対するウエイト設定は教授が最も高く、社会貢献に対するウエイト設定は教授と准教授が高かった。職位別の全体的な分野達成度は3.0から3.5の範囲にあり、概ね目標を達成できていたが、社会貢献の分野では助手の分野達成度が2.5と低かった。

学科・職位別のウエイト設定を結果 4-1、4-2 に示す。教育のウエイト設定は、7学科及び別科間で大きな差が見られなかったが、臨床検査学科の助教において高く設定されていた。研究は、臨床工学科の助教において高く設定されていた。大学業務では、診療放射線学科の教授において高く設定されていた。社会貢献では、リハビリテーション学科の准教授及び留学生別科の助教において高く設定されていた。

学科・職位別の分野達成度を結果5に示す。全体的な自己評価は、概ね達成できたとされる3.0を示しているが、留学生別科の助教において全体的に3.0を下回っているほか、7学科については、特に、研究において3.0に達していない自己評価が見られた。

*達成度

評価5:目標を大きく上回る成果があった

評価4:目標を上回る成果があった

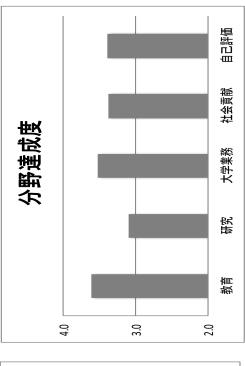
評価3:目標を達成できた

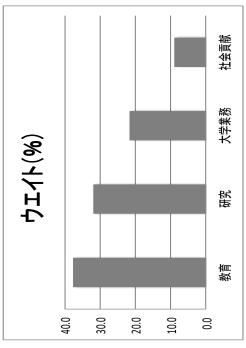
評価2:目標を少し達成できなかった

評価1:目標をほとんど達成できなかった

結果1 全教員のウエイト設定と分野達成度

	トエク	۲(%)		•		分野達成度		
縆	研究	大学業務	社会貢献	教育	研究	大学業務	社会貢献	自己評価
37.8	31.9	21.6	9.1	3.6	3.1	3.5	3.4	3.4
8.2	10.2	9.9	5.7	0.8	1.0	0.0	1.1	0.7
70	50	75	30	5	5	5	5	5
15	5	8	0	2	1	1	1	2
40	30	20	10	4	3	3	3	3





10.0 留学生別科 留学生別科 介護福祉マネジメント学科 45.0 20.0 30.0 30.0 介護福祉マネジメント学科 30.0 20.0 ソーシャルワーク学科 38.9 6.0 50.0 ソーシャルワーク学科 31.9 9.6 45.0 20.0 32.5 10.0 5.0 ルビリテーション 学科 | 診療放射線学科 | 臨床検査学科 | 臨床工学科 臨床工学科 社会貢献(ウエイト) 単税(ウエイト) ルビリテーション 学科 診療放射線学科 臨床検査学科 35.5 8.6 45.0 20.0 40.0 5.0 2.6 31.3 12.6 45.0 5.0 35.0 20.0 33.0 10.7 50.0 25.0 30.0 9.0 6.6 0.0 10.0 29.7 11.1 50.0 30.0 5.6 0.0 結果2 学科別ウエイト 看護学科 看護学科 ウエイト(%) 20.0 30.0 15.0 留学生別科 33.3 35.0 30.0 35.0 留学生別科 ーシャルワーク学科 介護福社マネジメント学科 介護福祉マネジパト学科 50.0 20.0 40.0 7.4 15.0 33.3 3.5 30.0 35.0 ノーシャルワーク学科 20.0 20.0 40.0 11.6 60.0 30.0 37.5 6.4 30.0 10.0 22.5 臨床工学科 ハビリテーション学科 診療放射線学科 臨床検査学科 臨床工学科 教育(ウエイト) ハビリテーション学科 診療放射線学科 臨床検査学科 8.1 15.5 20.0 36.3 8.3 50.0 15.0 25.3 18.8 75.0 6.2 50.0 25.0 23.7 10.6 50.0 10.0 25.0 35.0 8.4 70.0 30.0 9.1 看護学科 看護学科 SD 最大値 最小値 SD 最大値 最小値 中央値 中央値 30.0 10.0 20.0

特限主学器

は赤なームバルベーバ

持华工和超

科学查券末顯

は学くEベーモリコハリ

特限主学留

性素な一ムパネベーム

科学查券末顯

拝学/Eベーモリコハリ

特尼主学器

性素なームバネベーバ

拝学査券末盟

各学生別科 科学競音

性素な一ムパネベーム

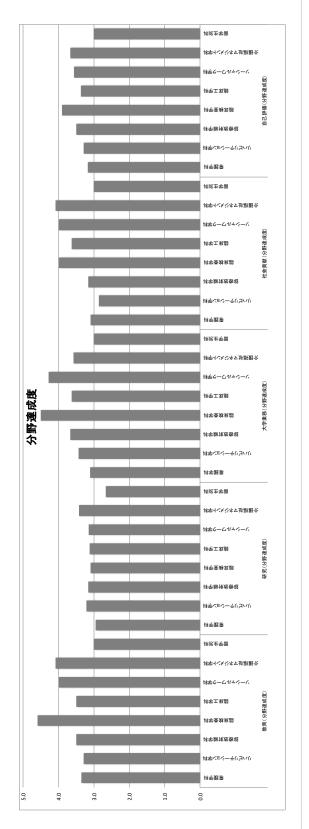
科学查券末期

0.0

研究(ウエイト)

結果2 学科別分野達成度

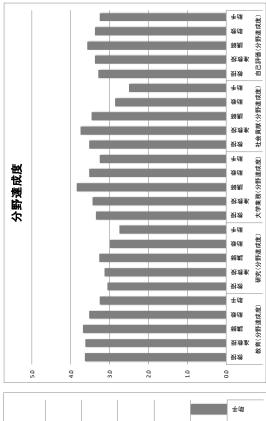
			教育(分野	野達成度)							研究(分野達成度	野達成度)			
	看護学科	リハビリテーション学科 診療放射線学科	学科 臨床検査学科	臨床工学科	ソーシャルワーク学科	体率イベジネンな影響が	留学生別科	看護学科	リハビリテーション非粋	診療放射線学科	臨床検査学科	臨床工学科	ソーシャルワーク学科	介護福祉マネジメント学科	
平均	3.4	3.3	3.5 4.6	3.5	4.0	4.1	3.0	2.9	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.4	
SD	0.6	0.6	0.8	7 0.8	0.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.0	1.2	0.8	0.7	1.2	
最大値	5.0	4.0	5.0 5.0	5.0	4.0	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0	5.0	
最小値	2.0	2.0	2.0 3.0	3.0	4.0	3.0	2.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
中央値	3.0	3.0	3.5 5.0	3.0	4.0	4.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
			// 然兼报十	世代学品人							士世 篇// 非州 夕t4	仕代学品へ			
	看護学科	リンパファーンコン学科 診療放射線学科	福	7 ず年次 臨床工	ンーツャラワーグ非数	か 関係性マネジ ガト学科	留学牛別科	看護学科	リンパリテーション非常	診療放射線学科	125	7 軒 年次 臨床工	ンーツャラローケ非粋	ケ臓猫科マギジグ 下針科	图
타 전	3.1	3.4	3.7 4.5		4.3	3.6			2.9			_	4.0	4.1	٠
SD	, O	0.8	1.0 0.7	7 0.5	0.5	6:0	2.0	1.0	1.3	6:0	1.3	0.7	1.4	6.0	
最大値	5.0	5.0	5.0 5.0	0,4.0	5.0	2.0	5.0	5.0	4.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	
最小値	2.0	2.0	2.0 3.0	3.0	4.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	3.0	1.0	3.0	
中央値	3.0	3.0	3.5 5.0	0.4	4.0	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	4.5	3.5	4.0	4.0	
								_							
			自己評価(分	分野達成度)											
	看護学科	リハビリテーション学科 診療放射線学科	学科 臨床検査学科	臨床工学科	ソーシャルワーク学科	介護福祉マネジメント学科	留学生別科								
平均	3.2	3.3	3.5 3.9	3.4	3.6	3.7	3.0								
SD	0.0	0.0	0.7	7 0.5	0.5	6.0	1.0,1								
最大値	4.0	4.0	4.0 5.0	0,4.0	4.0	2.0	4.0								
最小值	2.	2.0	2.0 3.0	3.0	3.0	2.0	2.0								
中央値	3.0	3.0	4.0	30	4.0	40	30								

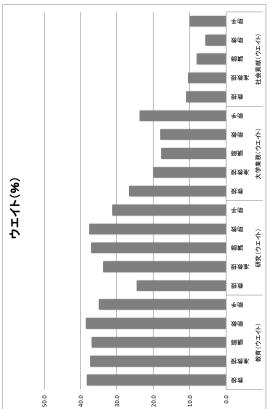


結果3 職位別ウエイト設定と分野達成度

		教育	教育(ウエイト)	?			母況(花(ウエイト)	Î			大学業務	業務(ウエイ	7			社会貢献	Ð	H/T)	
1 "	教授 准	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手
	38.3	37.4	36.9	38.6	35.0	24.6	33.8	37.1	37.6	31.3	26.7	19.9	17.9	18.1	23.8	11.0	10.4	8.1	5.7	10.0
	10.3	7.3	4.7	11.7	4.1	10.3	7.4	5.7	11.8	10.3	13.0	8.3	4.9	6.9	14.4	6.3	4.9	3.8	4.9	10.0
1	70.0	50.0	50.0	0.09	40.0	50.0	50.0	50.0	50.0	40.0	75.0	30.0	30.0	30.0	45.0	30.0	25.0	20.0	20.0	25.0
	15.0	25.0	30.0	30.0	30.0	5.0	25.0	30.0	15.0	20.0	10.0	8.0	10.0	10.0	15.0	0.0	2.0	5.0	0.0	5.0
	35.0	40.0	37.5	40.0		25.0	30.0	40.0	40.0	32.5	25.0	20.0	20.0	20.0	17.5	10.0	10.0	7.5	5.0	5.0

		教育((分野達成)	度)			母税()	(分野達成)	(重)			大学業別	務(分野達)	成度)			社会貢献	献(分野達)	成度)			自己評価	6(分野達)	成度)	
	教授	准教授	講師	助教	野手	教授	准教授	講師	助教	野手	教授	准教授	講師	助教	野手	教授	准教授	講師	助教	即手	教授	准教授	講師	助教	助手
中	3.6	3.6	3.7	3.5	3.3	3.1	3.1	3.3	3.0	2.8	3.4	3.4	3.8	3.5	3.3	3.5	3.8	3.5	2.9	2.5	3.3	3.4	3.6	3.4	3.3
SD	1.0	1.2	0.8	1.0	1.0		1.0	1.2	1.1	1.0	1.2	1.3	0.8	1.1	1.5	1.2	1.2	1.1	1.5	9.0	6.0	1.0	0.7	1.0	1.0
最大值	5.0	5.0	2.0	5.0	4.0		4.0	2.0	2.0	4.0	2.0	5.0	2.0	2.0	4.0	5.0	2.0	5.0	2.0	3.0	2.0	4.0	2.0	5.0	4.0
最小值	2.0	2.0	2.0	3.0	2.0		2.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	3.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
中央値	3.0	4.0	4.0	3.0	3.5		3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	4.0	3.0	4.0	3.0	3.0	4.0	3.0	2.5	3.0	3.0	4.0	3.0	3.5





結果4-1 学科・職位別ウエイト設定

	留学生別科	助教	35.0	#DIV/0!	35.0	35.0	35.0
	图学	講師	32.5	3.5	35.0	30.0	32.5
	.सं	助教	37.5	21.8	40.0	35.0	35.0
	ジメント学	講師	40.0	#DIV/0!	40.0	40.0	40.0
	介護福祉マネジメント学科	准教授	35.0	7.1	40.0	30.0	35.0
	小護	教授	35.8	10.2	20.0	20.0	37.5
		助教	30.0	0.0	30.0	30.0	30.0
	一 ク学科	講師	32.5	3.5	35.0	30.0	32.5
	ソーシャルワーク学科	准教授	35.0	5.0	40.0	30.0	35.0
	٠ -	教授	35.0	0.0	35.0	35.0	35.0
		助教	40.0	#DIV/0!	40.0	40.0	40.0
	棒	講師	32.5	3.5 #1	35.0	30.0	32.5
	臨床工学科	准教授	30.0	#DIV/0!	30.0	30.0	30.0
		教授権	46.3	13.8 #D	0.09	30.0	47.5
£		助教	0.09	IV/0i	0.09	0.09	0.09
教育(ウエイト)	臨床検査学科	講師 具	38.3	2.6 #DIV/0!	40.0	35.0	40.0
##P	臨床移	教授調	40.0	8.7	20.0	35.0	35.0
		助教	37.5	3.5	40.0	35.0	37.5
	科	講師 財	33.3	2.9	35.0	30.0	35.0
	診療放射線学科	准教授 講	43.3	5.8	20.0	40.0	40.0
	線		32.5	11.9	40.0	15.0	37.5
		教授	33.8	4.8	40.0	30.0	32.5
	学科	師助教	35.0	5.0	40.0	30.0	35.0
	ハパヴリテーション	艦	33.8	1.1	20.0	25.0	30.0
	リハビリ	准教授	35.0	1.1	40.0	30.0	35.0
		教授	35.0	2:0	40.0	30.0	35.0 3
		助手	40.6	8.8	60.0	30.0	40.0
	本	助教	41.4	3.8		40.0	40.0
	看護学科	講師	41.3 41	2.5 3	45.0 50.0		
		准教授	7	11.0		.0 40.0	.0 40.0
		教授	39.	11.	70.0	30.0	40.0
			計 茲	SD	最大値	最小値	中央値

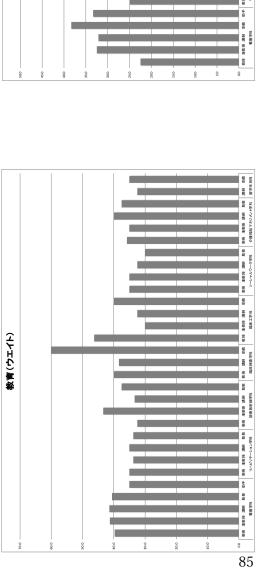
	t別科	助教	25.0	#DIV/0!	25.0	25.0	25.0	
	留学生別科	端部	35.0	7.1	40.0	30.0	35.0	
	菜	助教	35.0	20.2	35.0	35.0	35.0	
	介護福祉マネジメント学科	講師	35.0	#DIV/0!	35.0	35.0	35.0	
	長福祉マネ	准教授	37.5	10.6	45.0	30.0	37.5	
	一部个	教授	25.0	4.5	30.0	20.0	25.0	
		助教	35.0	7.1	40.0	30.0	35.0	
	1-7学科	端師	40.0	0:0	40.0	40.0	40.0	
	ソーシャルワーク学科	准教授	40.0	10.0	50.0	30.0	40.0	
	7	教授	40.0	0.0	40.0	40.0	40.0	
		助教	45.0	#DIV/0!	45.0	45.0	45.0	
	本	端師	40.0	0.0	40.0	40.0	40.0	
	臨床工学科	准教授	30.0	#DIV/0i	30.0	30.0	30.0	
		教授	25.0	7.1	35.0	20.0	22.5	
(1)		助教	20.0	#DIV/0i	20.0	20.0	20.0	
研究(ウエイト)	臨床検査学科	講師	40.0	3.2	45.0	35.0	40.0	
	世盟	教授	31.7	10.4	40.0	20.0	35.0	
		助教	40.0	0.0	40.0	40.0	40.0	
	操学科	講師	38.3	7.6	45.0	30.0	40.0	
	診療放射線学科	准教授	35.0	8.7	40.0	25.0	40.0	
	-	教授》	18.8	13.1	30.0	5.0	20.0	
		助教	40.0	10.0	20	30	40	
	マヨン手琴	講師	40.0	3.5	30	25	28	
	リハビリテーション	准教授	28.8	4.5	40	30	30	
	,í.	教授	25.0	7.3	40	20	25	
		助手	33.3	11.5	40.0	20.0	40.0	
		助教	38.3	10.6	50.0	15.0	40.0	
	看護学科	編	32.1	3.9	40.0	30.0	30.0	
	析	准教授	32.5	6.5	40.0	25.0	32.5	
		教授	22.5	10.6	50.0	10.0	20.0	
	<u> </u>		中	SD	最大値	最小值	中央値	

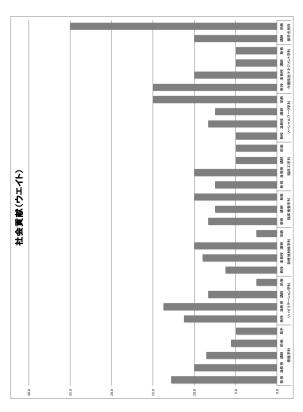
														大	大学業務(ウエイト)	[4]F)													
		144	看護学科			1	リハビリテーション	コン単型		622	診療放射線学科	極極		臨床楼	臨床検査学科		200	臨床工学科			ズーへ	ソーツャルワーク学科	林		介護福祉マネジメント学科	マネジメン	ト極型	in the second	留学生別科
	教授	准教授	塩艦	助教	助手	教授	准教授	出記	助教	教授	准教授	編制	助教	教授職	講師財	助教教	教授 准教授	(発)	師助教	教	准教授	勝	1 助教	教授	准教授	講師	n 助教	島艦	助教
	26.7	16.3	17.9	15.6	26.7	28.8	23.8	16.7	23.8	42.5	12.7	18.3	20.0	20.0	14.2	10.0	21.3	30.0	22.5	10.0	20.0	20.0	20.0	20.0	24.2 23	25.0	20.0	22.5 2:	22.5 15.0
	10.6	9.5	4.9	3.9	16.1	16.5	9.5	5.8	7.5	25.3	6.4	2.9	0.0	0.0	3.8 #DI	#DIV/0!	4.8 #DIV/0!	10/.	3.5 #DIV/0!	10//	0.0	0.0	0.0	0.0	9.7	7.1 #DIV/0!		13.2	10.6 #DIV/0!
	40.0	30.0	25.0	20.0	45.0	20.0	30.0	20.0	30.0	75.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	10.0	25.0	30.0	25.0	10.0	20.0	20.0	20.0	20.0 40	40.0	30.0	20.0	25.0 30	30.0 15.0
	10.0	10.0	10.0	10.0	15.0	10.0	10.0	10.0	15.0	20.0	8.0	15.0	20.0	20.0	10.0	10.0	15.0	30.0	20.0	10.0	20.0	20.0	20.0	20.0	15.0 20	20.0	20.0	20.0	15.0
1	25.0	12.5	20.0	15.0	20.0	27.5	27.5	20.0	25.0	37.5	10.0	20.0	20.0	20.0	15.0	10.0	22.5	30.0	22.5	10.0	20.0	20.0	20.0	20.02	22.5 29	25.0	20.0	20.0	22.5 15.0

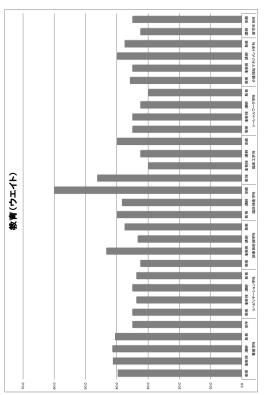
														社5	社会貢献(ウエイト)	17F)													
1		-15	看護学科			ļ.,	ハビリテーション	マヨン手萃			診療放射線学科	本		臨床	臨床検査学科			臨床工学科	李		ر ا بر	ソーツャルワーク学科	7季科		介護福祉	介護福祉マネジメント学科	ン・事権	rúm.	留学生別科
	教授	准教授	編	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	教授准教	准教授講	講師助	助教教授	-	准教授講	講師 助教	教講師	師 助教
平均	12.8	10.0	8.6	5.6	5.0	11.3	13.8	8.3	2.5	6.3	9.0	10.0	2.5	8.3	7.5	10.0	7.5	10.0	5.0	2.0	5.0	8.3	7.5	15.0	15.0	10.0	5.0	5.0	10.0
S	6.3	1.4	3.8	3.0	0:0	4.8	7.5	2.9	2:0	2.5	9.9	8.7	3.5	2.9	2.7 #DIV/0!	i0/AIt	2.9 #D	#DIV/0i	0.0	#DIV/0i	0.0	5.9	3.5	7.1	8.9	0.0 #DIV	#DIV/0i	2.9	0.0 #DIV/0!
最大値	20.0	15.0	15.0	10.0	5.0	15.0	25.0	10.0	10.0	10.0	15.0	20.0	5.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	5.0	2.0	5.0	10.0	10.0	20.0	30.0	10.0	5.0	2:0	10.0
最小値	0.0	2.0	2:0	0.0	2.0	2:0	10.0	2:0	0:0	2.0	2.0	2.0	0.0	2.0	5.0	10.0	2.0	10.0	5.0	2.0	5.0	2.0	2.0	10.0	2.0	10.0	2.0	2:0	10.0
中央値	10.0	10.0	001	C IC	0.5	12.5	0 01	100	C	C IC	100	0.5	2.5	001	7.5	0	7.5	0 01	C L	, r	C L	0 01	7.	0 11	10.8	100	C Ir	O. C.	0

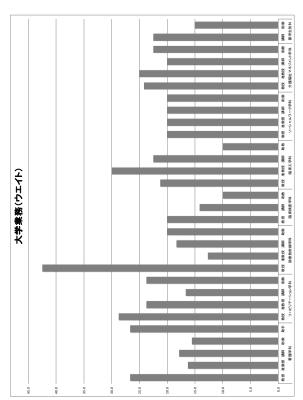
結果4-1 学科・職位別ウエイト設定

母院(ウエイト)









結果5-1 学科-職位別分野達成度

			61		٠,	~	61
	三別科	助教		#DIV/0i	.7	. 7	,,
	留学生5	講師	3.5	0.707107	4	က	3.5
	,al	助教	3.666667	1.154701	5	က	8
	マネジメント学科	講師	4	#DIV/0i	4	4	4
	・護福祉マネシ	准教授	4	414214 #	2	က	4
	小護	教授	1.333333	.516398 1.	2	4	4
		助教	4 4.	2.828427 0.	4	4	2
	ク学科	講師	4	0 2.	4	4	4
	ソーシャルワーク学科	教授	4	.309401	4	4	4
	7	教授准	4	0 2.3	4	4	4
		助教	4	i0/AI	4	4	4
	献	講師財	3	O #DIV	3	က	8
	臨床工学科	嵌	4	i0/A	4	4	4
	et2d	教授 准教	3.5	1 #DIV/	2	m	3
5			5.0	i0//	5.0	2.0	5.0
育(達成度)	香学科	師 助教	4.7	0.5 #DIV,	5.0	4.0	5.0
教	臨床検査	授 講師	4.3	1.2	5.0	3.0	5.0
		教	4.0	0.0	4.0	4.0	4.0
	献	師助教	2.7	9.0	3.0	2.0	3.0
	療放射線学科	艦	4.0	1.0	5.0	3.0	4.0
	診療]	准教	3.5	9.0	4.0	3.0	3.5
		教授	3.5	0.6	4.0	3.0	3.5
	幸	助教	3.3	0.8	4.0	3.0	3.0
	ハバリテーション事料	講師	3.0	0.8	4.0	2.0	3.0
	リハビリテ	准教授		1.7			
		教授	7 3.3	0.6	0 4.0	0 3.0	0 3.0
		助手	3.		0 4.0	3.0	0 4.0
		助教	3.1	0	4	6	3.
	看護学科	講師	3.6	0.5	4.0	3.0	4.0
		准教授	3.5	1.0	4.0	2.0	4.0
		教授	3.3	0.7	0'9	2.0	3.0
			平均	S	最大値	最小値	中央値
_							ш

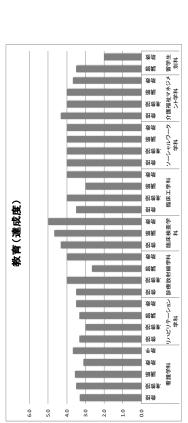
_																														
			看護学科				リハビリテー	ハビリテーション学科	本		診療放射	放射線学科		盟	床検査学科	皷		臨床工	1学科			ソーシャルワーク学科	ワーク学	並	7,	ト護福祉マ	マネジメント	ト学科	₽ ⊞	业
	教授	准教授	蛽韅	幹咱	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	教授	蛽鶀	助教	教授	准教授	蛽鯹	助教	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教	講師	
平均	2.9	9 2.8	2.9	3.1	3.0	2.3	3.3	4.0	3.3	3 3.0	3.3	3.7	2.5	2.7	3.5	2.0	3.25	4	2.5	3	3 2.5	3.5	3.5	2	3	4 2.9	2			
SD	1,1	0.1	1.3	1.1	1.0	1.3	3 0.5	0.5	5 0.5	5 0.8	3 0.6	1.5	0.7	0.6	1.4	#DIV/0i	0.957427	#DIV/0!	0.707107	#DIV/0i	0.707107	2.081666	0.707107	7 2.12	132 0.894427	7 0.70710	1 #DIV/0i	1.732051	1.41421	
最大値	5.0	0 4.0	5.0	4.0	4.0	3.0	4.0	5.0	4		0 4.0	5.0	3.0	3.0	5.0	2.0	4	4	3	3	3	4		-	3	2	3	4)		4
最小値	1.0	0 2.0	1.0	1.0	2.0	2.0	3.0	3.0	3.0	0 2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2	4	2	3)	3	3	- /	3	3	3	2			~
中央値	3.0	0 2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	3.0	4.0	3.0	3.0	3.0	4.0	2.5	3.0	3.5	2.0	3.5	4	2.5	,	3 2.5		3.5	_	.5	2.	2.5			(-)

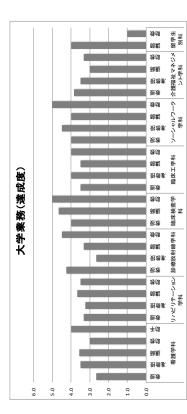
$\overline{}$	_	_	_	_	_	_	_
	ない。	助教		#DIV/0i	1	_	_
	留学生別	講師	4	414214 #	5	က	4
		助教	3.333333	1.527525	5	2	က
	メント学科	講師	3	#DIV/0! 1.	3	က	က
	介護福祉マネジメン	准教授	3.5	701107	4	က	3.5
	介護	教授	3.833333	0.752773 0.	5	က	4
		助教	5 3.	3.535534 0.	5	2	2.5
	-ク学科	講師	4	0 3.5	4	4	4
	ソーシャルワーク学科	准教授	4.5	2.645751	5	4	4
	1	教授准	4	0 2.6	4	4	4
		助教	4	#DIV/0!	4	4	4
		講師 財	3.5	0.707107 #DI	4	က	3.5
	臨床工学科	EDX	4		4	4	4
	RDH	医 准数排	3.5	0.57735 #DIV/0!	4	က	3.5
度)		数 教授	2.0		5.0	5.0	2.0
養務(達成度)	本	5 助教	4.7	0.5 #DIV/0!	5.0	4.0	5.0
大学業務(臨床検査学	語	4.0	1.0	5.0	3.0	4.0
		教授	1.5	7.0	5.0	0.1	1.5
		助教	3.3	0.6	10	3.0	3.0
	診療放射線学科	講師	2.7	9.	.0	0.	0.
	診療加	准教授	4.3	0 0.1	5.0 3	3.0	4.5
		教授		1.	4.0 5.		
	本	助教	7 3.5	3 0.	4	3.0	3.5
	ーション事料	講師	3.7	1.	4.0	3.0	4.0
	リハビリテーシ	准教授	3.3	1.3	5.0	2.0	3.0
	_,	教授	3.3	1.7	4.0	3.0	3.0
		垂傾	4.0	0.0	4.0	4.0	4.0
		助教	3.0	0.0	3.0	3.0	3.0
	看護学科	講師	3.6	1.0	5.0	2.0	4.0
	***	准教授	3.5	1.0	4.0	2.0	4.0
86	6	教授	2.7	1.0	2.0	2.0	2.5
۲	<u> </u>		平均	SD	最大値	最小値	中央値

	学生別科	助教	3.5 2	7107 #DIV/0!	4 2	3 2	3.5 2
	鑩	講師	4	1 0.7071	2	3	4
	ト学科	助教	4	i0/	4	4	4
	・護福祉マネジメント学科	受 講師	4	4 #DIV	5	3	4
	介護福祉-	准教授	29	1.41421	5	3	1.5
		教授	4 4.166667	27 0.983192	4	4	2
	核	助教	4	0 2.828427	4	4	4
	ノーシャルワーク学科	講師	5	=	5	5	2
	ソーシャ	准教授	3	7 2.886751	5	1	3
		教授	3	2.828427	3	3	3
		助教	2	7 #DIV/0!	4	3	2
	臨床工学科	講師	5 3.5	0.707107	2 2	2	3.5
	臨床.	准教授		#DIV/0!	1 2	3 5	
		教授	3.5	0.57735		.,	3.5
((達成度)	本	助教	5.0	5 #DIV/0!	5.0	5.0	5.0
社织真献	床検査学科	講師	3.7	11	5.0	1.0	4.0
	盟	教授	4.3	1.2	5.0	3.0	5.0
		助教	2.5	2.1	4.0	1.0	2.5
	療放射線学科	講師	3.7	9.0	4.0	3.0	4.0
	診療放射	准教授	3.0	0.0	3.0	3.0	3.0
		教授	3.3	1.0	4.0	2.0	3.5
		助教	1.5	1.0	3.0	1.0	1.0
	Jテーション学科	講師	3.7	0.5	4.0	3.0	4.0
	ハビリテー	准教授	3.8	0.5	4.0	3.0	4.0
	Ų,	教授	2.7	1.8	4.0	1.0	2.0
		助手	2.7	9.0	3.0	2.0	3.0
		助教	2.8	1.3	2.0	1.0	3.0
	青護学科	講師	2.9	1.3	2.0	1.0	3.0
	看	准教授	3.3	0.5	4.0	3.0	3.0
		教授	3.4	6.0	2.0	2.0	3.0
			女女	SD	最大値	最小値	中央値

			平均	SD	最大値	最小値	中中価
		教授	3.0	0.7	4.0	2.0	20
	挿	准教授	3.0	0.8	4.0	2.0	3.0
	青護学科	講師	3.4	0.5	4.0	3.0	0 %
		助教	3.2	0.4	4.0	3.0	0 %
		助手	3.7	9.0	4.0	3.0	-
	ΛŲ	教授	2.7	1.4	3.0	2.0	0.00
	ピリテー	准教授	3.5	9.0	4.0	3.0	2
	ション事数	講師	3.7	9.0	4.0	3.0	0.0
		助教	3.3	0.5	4.0	3.0	0 %
	spile:	教授 准	3.8	0.5	4.0	3.0	-
	診療放射線学科	准教授	3.3	9.0	4.0	3.0	0 %
	学科	講師 月	3.0	1.0	4.0	2.0	0.0
		助教	4.0	0.0	4.0	4.0	0
	臨床検引	教授	3.7	9.0	4.0	3.0	0.4
自己評価	検査学科	講師	4.0	0.9 #	2.0	3.0	0 7
担		助教	4.0	#DIV/0i 0.	4.0	4.0	0 7
		教授准	3.5	0.57735 #DIV	4	3	2
	臨床工学科	准教授 講	4	IV/0!	4	4	-
	*	講師 助教	3	0 #DIV	3	3	۰
		教教授	8	N/0i	3	3	
	ンーグ	受 准教授	3	0 2.0816	3	3	~
	ソーシャルワーク	授講師	3.5	1666	4	3	2
	-ク学科	助教	4	0 2.828427	4	4	
	7	教授	4 3.833333	772577	4	4	٥
	介護福祉マ	准教授	3.5	3 0.70710	2	3	,
	マネジメント	講師	2	7 #DIV/0!	4	3	· ·
	シト 事数	助教	3.333333	1.527525	5	1 2	٠
	留学生	講師	3.5	0.707107	4	3	2 2
	別科	助教	2	#DIV/0!	2	2	c

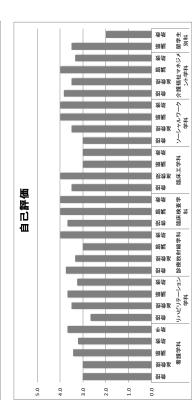
結果5-1 学科·職位別分野達成度

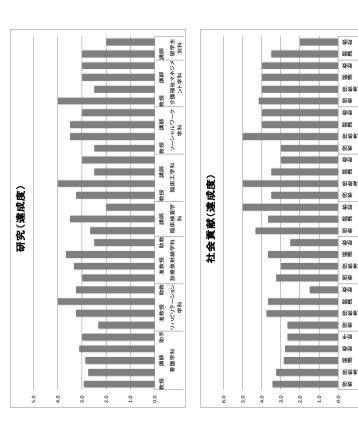




臨床工学科

臨床検査学 科





8. 社会貢献

8-1 生涯学習講座

○生涯学習講座及び公開講座の企画・実施

本学では、社会貢献の一環として、学びの機会を提供する生涯学習講座及び公開講座を 企画、実施している。令和4(2022)年度の実績は下表のとおりとなった。

令和4 (2022) 年度 生涯学習講座

開催年月日	開催地	テーマ	講演者	参加人数
令和4 (2022) 年 04月23日	札幌市	多死社会の到来に備える自分らしい死の 迎え方について 一地域住民の死生観調査報告から一	林 美枝子	8
令和4(2022)年 05月28日	札幌市	あなたが、家族が倒れた時、相談できる 専門家は誰?	笹岡 眞弓	5
令和4(2022)年 06月25日	札幌市	実感!自然治癒力 一こころもからだも温かくなる。マッ サージ体験—	鶴木 恭子	8
令和4(2022)年 07月23日	札幌市	レントゲン 〜見えているものがすべてではない!〜	樋口 健太	8
令和4(2022)年 08月27日	札幌市	高齢者とスポーツ	向井 康詞	12
令和4(2022)年 09月17日	札幌市	認知症を学び地域で支えよう (認知症サポーター養成講座)	銭本 隆行	10
令和4(2022)年 10月29日	札幌市	お薬との上手な付き合い方	宮本 篤	7
令和4(2022)年 11月26日	札幌市	転倒予防とリハビリテーション	石橋 晃仁	3
令和4(2022)年 12月24日	札幌市	あんしん生活支援技術 -からだに負担をかけないために—	平野 啓介	8
令和5(2023)年 01月28日	札幌市	生活習慣病と検査数値の見方 〜メタボリックシンドロームを中心に〜	梅森 祥央	8
令和 5 (2023)年 02 月 25 日	札幌市	医療と機械 一命をつなぐ ECMO と脳を調べる MEGー	竹内 文也	8
令和 5 (2023)年 03 月 25 日	札幌市	介護保険の仕組みと介護サービスの種類 ~いざという時に知っておきたい知識~	織田なおみ	10

令和4 (2022) 年度 公開講座

開催年月日	開催地	テーマ	講演者	参加人数
令和4(2022)年 06月18日	札幌市	血圧管理で脳心腎、認知症を守ろう 心血管病の予防から最新の治療まで	島本 和明	203

8-2 学生ボランティア

8-2-① 医療関係者として人間尊重、相互扶助の精神を育む

○課題教育活動の企画・実施

本学では、医療に従事する者として、人間尊重と相互扶助の精神を涵養するための行動を各種行っている。その中でも啓発的な教育活動である「いのちのパネル展」、講演会「命」は今年度も実施した。

8-2-② 学生自らが課題を見つけ、解決のために行動することができる

○課題解決型の行動を自主的に行動

上記のような課題教育を受けるかたちで、学生は個人または学内団体の一員として自ら 課題を探し、それを解決すべく様々な場にて行動するようになっている。

学友会においては今年度も募金活動やフードバンク活動、各種イベントへのボランティア参加などが予定されていたが、新型コロナウイルスの影響で活動を自粛したり、個人での参加にとどまった。

9. 顕彰

教職員の表彰として、永年勤続表彰(勤続 10 年)、名誉教授称号授与があり、令和 4 (2022) 年度該当教職員数については、以下のとおりである。

永続勤続表彰(勤続10年):5名

名 誉 教 授 称 号 授 与:なし

また、懲戒について、令和4 (2022) 年度は戒告以上に該当する教職員はいなかった。

10. 委員会等活動報告

教授会および各種委員会の活動について以下に示す。

令和4 (2022) 年度 保健医療学部教授会

回		議案:報告事項	開催日時
01	意見を求	1. 退学・休学について	令和4(2022)年
	める事項	2.令和4(2022)年度非常勤講師委嘱について(リハ)	4月13日
		3. 教員の公募について	15:30~16:10
			講義室 1327
	報告事項	1. 仮進級者の科目登録について	構成員 52 人
		2. 令和4 (2022) 年度学生顕彰対象者一覧と授与式について	出席者 51 人
			欠席者 1人
	その他	1. オフィスアワーについて	
		2. その他教務委員会からの報告について	議事録署名人
		3. その他教員から事務局(法人)への要求	宮本 篤
02	意見を求	1. 退学・休学について	令和4(2022)年
	める事項		4月27日
			15:30~15:45
	報告事項	1. 成績発表日について(放射)	講義室 1327・WEB
		2. 令和4 (2022) 年度 学術助成費および教育向上研究費の公	構成員 52 人
		募について	出席者 48 人
		3. 令和4 (2022) 年第1回「FDセミナー」の開催について	欠席者 4人
	その他	1. Teams のチームについて	議事録署名人
			森口 眞衣

03	意見を求	1. 退学について	令和4(2022)年
	める事項	 2. 履修者一覧について 	5月25日
	のの事項		
		3. 令和4(2022)年度前期定期試験時間割4年生(放射)につ	
			講義室 1327 · WEB
		4. 実習施設変更承認申請について(リハ)	構成員 52 人
		5. 仮進級者試験の受験資格について(看護)	出席者 50 人
		6. 仮進級者試験の早期実施について(看護)	欠席者 2人
		7. リハビリテーション学科理学療法学専攻の定員増について	
			議事録署名人
	報告事項	1. 履修登録遅延提出(不備一覧)について	矢口 智恵
		2. 定期試験の早期実施について	
		3. 「令和4 (2022) 年度学生顕彰対象者一覧と授与式につい	
		て」の追加修正について	
	その他	1. 日医大フェスティバルについて	
		2. 6月のオープンキャンパス・一日体験入学について	
		3. 臨床検査学科 澁谷 斉先生の令和4 (2022) 年春の叙勲受賞	
		について	
		4. 学生が熱を発症した場合の扱いについて	
		5. 科研費への申請について	
04	意見を求	1. 令和4 (2022) 年度学術助成費および教育向上研究費の交付	令和4(2022)年
	める事項	について	6月8日
		2. 教員選考結果について	15:30~16:00
			講義室 1327・WEB
	報告事項	1. 試験実施要領(不正行為の取扱い)について	構成員 52 人
		2. 仮進級者試験について	出席者 46 人
		3. 定期試験の早期実施について	欠席者 6人
	その他	1. 今後の教授会の開催について	議事録署名人
		2. 科研費申請に伴うサポートについて	山崎 公美子
		3. 学生支援について	

05	意見を求	1. 退学について	令和4(2022)年
	める事項	2. 公認欠席の取扱いについて	6月22日
		3. 令和4 (2022) 年度 入学と生活に関する学生アンケートの	15:30~16:10
		実施案について	講義室 1327・WEB
			構成員 52 人
	報告事項	1. 実習追加施設一覧について(看護、放射)	出席者 49 人
		2. 2022 前期定期試験時間割について	欠席者 3人
		3. 試験実施要領訂正箇所について	
		4. 演習室の利用について	議事録署名人
		5. 令和3 (2021) 年度 FD セミナー報告について	山田 敦士
	その他	1. 保健医療学部教授会日程について	
		2. 科研費申請に伴うサポーター及び学生支援について	
06	意見を求	1. 休学・除籍について	令和4 (2022) 年
	める事項	2. 公認	7月27日
		欠席に関する文言について	15:30~16:00
		3. 令和4 (2022) 年度前期定期試験結果について (放射)	講義室 1327・WEB
			構成員 52 人
	報告事項	1. 令和4 (2022) 年度前期定期試験時間割(確定版) ついて	出席者 48 人
		2. 令和4 (2022) 年度非常勤講師委嘱一覧について (検査)	欠席者 4人
		3. 実習指導教員委嘱等について (リハ)	
		4. 仮進級試験時間割について	議事録署名人
		5. 学生委員会からのおしらせ 2022-2 発信について	吉野 淳一
		6. 学生への懲戒等の処分事案について	
		7. 「学生への自己肯定感アンケート」の進捗状況について	
	その他	1. 自己点検・評価委員会からのお知らせ	

07	意見を求	1. 退学・休学・復学について	令和4(2022)年
	める事項	2. 公欠の取扱いについて	8月24日
		3. 教員の再公募について	15:30~16:05
		4. 教員選考結果について	講義室 1327・WEB
			構成員 52 人
	報告事項	1. 定期試験時間割 2022 前期(放射 3 年)について	出席者 46 人
			欠席者 6人
	その他	1. 講義室の工事について	
		2. 予算の執行について	議事録署名人
		3. 令和3 (2021) 年度年報の発刊、公開について	浅井 さおり
08	意見を求	1. 退学・休学・復学について	令和4(2022)年
	める事項	2. 公欠の取扱いについて	9月14日
		3. 令和4 (2022) 年度後期開始にあたっての学生指導について	15:30~16:10
		4. 令和4 (2022) 年度前期定期試験結果について	講義室 1327・WEB
		5. 教員公募について(看護)	構成員 52 人
			出席者 46 人
	報告事項	1. 令和4 (2022) 年度前期定期試験受験資格者について(放射	欠席者 6人
		3年)	
		2. 非常勤講師変更について (検査・リハ)	議事録署名人
		3. 令和4 (2022) 年度第2回 FD セミナー報告について	淺沼 広子
		4. 第7回日本医療大学体育大会の開催について	
	その他	1. 国際交流に伴う講演会について	
		2. 山崎史郎客員教授の講義について	
		3. 学科長不在時の代理者の選任について	

00	本日 + 上	1 沿兴 任党区の以下	Δ±π 4 (0000) /π
09	意見を求	1. 退学・休学について	令和4(2022)年
	める事項	2. 臨床工学科教育課程(カリキュラム)の変更について	9月28日
		3. 令和4 (2022) 年度前期定期試験結果について(看護)	15:30~16:40
			講義室 1327・WEB
	報告事項	1. 実習追加施設一覧について	構成員 52 人
		2. 基礎看護学実習 I の追加依頼について(看護)	出席者 52 人
		3. 学生委員会からのおしらせ 2022-3	欠席者 0人
		4. 学友会動向(体育大会予定、学内団体)	
		5. 令和4 (2022) 年度第3回「FD セミナー」の開催について	議事録署名人
		6. 令和5 (2023) 年度「総合型選抜 (前期)」の実施計画につ	石橋 晃仁
		いて	
	その他	1. 持ち回り教授会について	
		2. 委員会の再編成及び委員会規程の見直しについて	
10	意見を求	1. 退学・休学について	令和4 (2022) 年
	める事項	2. 教員選考結果について(放射)	10月26日
		3. 教員公募における教員選考委員会立ち上げについて(看護・	15:30~16:40
		リハ)	講義室 1327・WEB
		4. 学生懲戒処分案について	構成員 52 人
			出席者 48 人
	報告事項	1.追実習願について(看護-在宅看護実習・成人看護実習Ⅱ)	欠席者 4人
		2. 非常勤講師の変更について (放射)	
		3. 4年生の定期試験結果について(看護・リハ)	議事録署名人
		4. 令和4 (2022) 年度後期定期試験評価日程について	伊津美 孝子
		5. 令和 5 (2023) 年度 総合型選抜 (前期) の合否について	
	その他	1. 令和 5 (2023) 年度科研費申請件数について	
		 2.委員会再編成と規程の一部修正(追記)について	
		3. 教育理念と保健医療学部の 4P について	
	l		

11	意見を求	1. 休学について	令和4 (2022) 年
	める事項	2. 次年度非常勤委嘱予定一覧について(看護・リハ・放射・検	11月24日
		査・工学)	15:30~15:55
			講義室 1451・WEB
	報告事項	1. 実習指導員(模擬患者)の委嘱及び科目担当について(看	構成員 52 人
		護)	出席者 38 人
		2. 令和4 (2022) 年度前期定期試験結果について(看護追加	欠席者 14人
		分)	
		3. 令和4 (2022) 年度後期定期試験時間割(看護4年・放射4	議事録署名人
		年)・日程(リハ4年)・早期実施について(放射3年)	井上 由紀子
		4. 実習施設の追加について(リハ)	
		5. 日本医療大学紀要投稿規程の一部改正について	
		6. 令和5 (2023) 年度学校推薦型選抜(指定校・公募前期)の	
		合否について	

12	意見を求	1. 退学・休学について	令和4(2022)年
	める事項	2. 次年度非常勤委嘱予定一覧について(看護・リハ・放射)	12月28日
		3. 教員選考結果について	15:30~16:30
		4. 教員公募及び内部昇任における選考委員会立ち上げについて	講義室 1327・WEB
		5. 休学の学生に対する在籍料(仮称)の新設について	構成員 52 人
			出席者 49 人
	報告事項	1. 令和4 (2022) 年度前期定期試験結果について(看護追加	欠席者 3人
		分)	
		2. 令和4 (2022) 年度後期定期試験時間割について	議事録署名
		3. 令和4 (2022) 年度後期定期試験評価日程について	梅森 祥央
		4. 実習指導教員委嘱等について(リハ)	
		5. 学生委員会からのお知らせ	
		6. 令和5 (2023) 年度 学校推薦型選抜 (指定校・公募後期)	
		の合否について	
	その他	1. 人権擁護委員会からのお知らせ	
		2. 保健医療学部の3つのポリシー策定の進捗状況について	
		3. 令和5 (2023) 年度日本医療大学生涯学習講座の担当教員の	
		推薦について	
13	意見を求	1. 退学について	令和5(2023)年
	める事項	2. 次年度非常勤委嘱予定一覧(取消・追加・変更)について	1月25日
		3. 成績評価の疑義申し立てに関する申し合わせについて	15:30~16:00
		4. 教員選考結果について(看護・リハ・放射)	講義室 1327・WEB
		5. 教員公募・内部昇任における選考委員会立ち上げについて	構成員 52 人
		(看護)	出席者 49 人
			欠席者 3人
	報告事項	1. 令和4 (2022) 年度学術助成費及び教育向上研究費の活動報	
		告書の提出について	議事録署名
		2. 令和5 (2023) 年度一般選抜(前期) 実施計画(案) につい	及川 直樹
		て	

14	意見を求	1. 退学について	令和5(2023)年
	める事項	2. 卒業判定について	2月8日
		3. 次年度非常勤委嘱予定一覧(追加・変更)について(リハ・	15:30~16:30
		臨検)	講義室 1327 · WEB
		4. 教員選考結果について	構成員 52 人
			出席者 49 人
	報告事項	1. 令和 5 (2023) 年 1 月 1 日付事務局改編に伴う規程条項の読	欠席者 3人
		み替えについて	
		2. 令和5 (2023) 年度一般選抜入試(前期)及び大学入学共通	議事録署名
		テスト(前期)の合否について	大堀 具視
	その他	1. 委員会の再編成と規程の見直しについて	
15	意見を求	1. 退学・休学について	令和5(2023)年
	める事項	2. 保健医療学部の3つのポリシー(案)について	2月22日
		3. 規程の改正について	15:30~16:30
			講義室 1451・WEB
	報告事項	1. 日本医療大学大学院保健医療学研究科(仮称)の設置計画に	構成員 52 人
		係る概要について	出席者 50 人
		2. 日本医療大学研究報告会について	欠席者 2人
	その他	1. 令和5 (2023) 年度学年歴について	議事録署名
			河原畑 尚美

16	意見を求	1. 退学・休学について	令和5(2023)年
	める事項	2. 卒業保留者の卒業認定について(リハ)	3月8日
		3. 非常勤講師一覧(変更)について(看護・放射・臨検)	15:30~17:00
		4. 進級判定について	講義室 1327・WEB
		5. 令和4 (2022) 年度仮進級申請実施内容について	構成員 52 人
			出席者 49 人
	報告事項	1. 進級判定以降のスケジュールについて	欠席者 3人
		2. 新入生オリエンテーション・在学生ガイダンスについて	
		3. 令和 5 (2023) 年度大学共通テスト (中期) の合否について	議事録署名
		4. 令和5 (2023) 年度一般選抜 (後期)・総合型選抜 (後期)	菊地 実
		の実施計画(案)について	
	その他	1. 令和 5 (2023) 年度教授会日程及び構成員について	
		2. 令和5 (2023) 年度日本医療大学生涯学習講座日程・担当者	
		について	
		3. 令和4 (2022) 年度卒業式の実施概要について	
		4. 研究費等の支出について	

17	意見を求	1. 退学・休学・復学について	令和5(2023)年
	める事項	2. 卒業保留者の卒業認定について(リハ)	3月29日
		3. 進級保留者の進級認定結果について (放射)	15:30~17:00
		4. 保健医療学部の3つのポリシー案について	大講堂
		5. 非常勤講師の変更について(臨検)	構成員 52 人
		6. 共同研究・受託研究取扱規程の制定について	出席者 48 人
		7. 教員選考結果について	欠席者 4人
	報告事項	1. 欠席届新様式(案)について	議事録署名
		2. カリキュラムの読み替え表について	岸上 博俊
		3. 保健管理委員会から年間の活動報告について	
		4. 学生への懲戒等処分について	
		5. 令和5 (2023) 年度大学入学共通テスト (後期)・一般選抜	
		(後期)・総合型選抜(後期)の合否について	
	その他	1. 令和5 (2023) 年度入学式実施要領(案) について	

令和4 (2022) 年度 総合福祉学部教授会

回		議案:報告事項	開催日時
01	意見を求	1. 教務委員会	令和4 (2022) 年
	める事項	・新入学生の既修得単位認定について	4月20日
		2. 学生委員会	15:00~17:30
		・学生からの食堂メニュー要望について	1号棟 講義室 301
		3. その他	構成員 20 人
		・地域貢献センターについて	出席者 20 人
			欠席者 なし
	報告事項	1. 教務委員会	
		・教務委員会事業計画(案)作成における実習日程提供について	議事録署名人
		・山崎史郎客員教授『基調講演会』について	塚辺 博崇
		2. 学生委員会	
		・学内団体・学友会について	
		・令和4 (2022) 年度社会福祉士修学資金について	
		3. 保健管理委員会	
		4. 通信教育部の状況について	
		5. 学生募集について	
		・パンフレットおよび高校生への配布資料について	
		・学生募集に関する課題について	
		6. コロナ対策に関する事項	
		・ゴールデンウイーク明けの授業体制について	
	その他	1. 成績評価に関する疑義申し立てについて	
		2. ココルク江別への学生施設見学について	
		3. 介護福祉士養成施設としての講義記録について	
		4. 留学生別科の動向	
		5. 白澤正和氏の FD 研修について	
		6. アンデルセングルメ祭りについて	

0.0	辛日ナ. 上	1	△∓π 4 (0000) <i>t</i> r
02	意見を求	1. 介護福祉士養成の北海道厚生局報告に係る授業記録簿等につ	
	める事項	いて	5月18日
		2. 教授会運営に関する議案提出などの手続きについて	15:00~16:30
		3.「地域貢献センター」経過報告	1 号棟 講義室 301
		4. 附帯事項等に関する「履行状況報告書」(5/13 提出)の回答	構成員 20 人
		について	出席者 20 人
			欠席者 なし
	報告事項	1. 令和4 (2022) 年度履修登録一覧について	
		2. 日本医療大学・試験実施要領等について	議事録署名人
		3. 自由文庫の設置について	石黒 匡人
		4. 学生の車輛通学について	
		5. FD セミナーについて	
		6. 図書・学術振興委員会	
		7. 4/28 第 1 回必達プロジェクト報告	
		8. 介護施設経営士の資格を中国人留学生4名に取得させる方策	
		について	
		9.CCRC 江別 施設研修(案)	
		10. 各学科予算の示達について	
03	意見を求	1. 令和4(2022)年度・総合福祉学部 前期定期試験時間割	令和4 (2022) 年
	める事項	(案・本試験) について	6月15日
			15:00~16:00
	報告事項	1. 令和4 (2022) 年度学生アンケートの実施について	1 号棟 講義室 301
		2. 学内団体の新規申請受付について	構成員 20 人
		3. 専任教員採用等設置計画変更書(AC 教員調査)の判定結果	出席者 20 人
		(文部科学省)	欠席者 なし
		4. 地域貢献センター経過報告	
		5.通信教育部設置にかかる経過報告	議事録署名人
		6. 介護のしごと魅力アップ推進事業への参画について	忍 正人
		7. 高校訪問の活動についての現状報告と今後の予定	
		8. 日医大フェスティバルの出店役割分担一覧(案)について	

04	意見を求	1. 定期試験に係る新型コロナウイルス感染症関係の対応につい	令和4(2022)年
	める事項	て	7月20日
		2.令和4(2022)年度入学と生活に関する学生アンケートの実	15:00~16:20
		施案について	1 号棟 講義室 301
		3. 学生ボランティア活動の積極的な推奨について	構成員 20 人
			出席者 20 人
	報告事項	1. 学生への懲戒等の処分事案について	欠席者 なし
		2. 抗体価・ワクチン接種の実施について	
		3. ノテ福祉会との共同研究におけるテーマ募集について	議事録署名人
		4. 真栄キャンパスにおけるキャリア支援部門の設置について	織田 なおみ
		5. 6月26日(土)一日体験入学の成果と課題	
		6. 高校訪問の活動についての概況報告と今後の予定	
		7. 7月16日(土)オープンキャンパスについて	
		8. 科学研究費申請に向けた勉強会について	
		9. 授業アンケートの着実な実施	
		10. 国試対策に関する総長面談の結果	
05	報告事項	1. 留学生の動向に関する進捗報告	令和4(2022)年
		2. 学生募集活動に関する進捗報告(一日体験入学、OC、高校訪	8月24日
		問等)	14:00~15:00
		3. 白澤、大橋両客員教授によるオンライン講義の件について	1 号棟 講義室 301
			構成員 20 人
	その他	1. 介護施設経営士認定資格受講スケジュールについて	出席者 20 人
			欠席者 なし
			議事録署名人
			加藤 敏文

66 意見を求 める事項 1. 会和4 (2022) 年度前期定期款験結果一覧について 9月14日 14:30~15:30 1 号棟 講義室 301 構成員 20 人 出席者 20 人 大席者 なし バス) 1. 後期履修登録変更期間の変更について 2. 山崎史郎各員教授 基調講演について 4. 学生募集活動に関する進捗報告 (一日体験、オープンキャン バス) 1. 後期履修登録変更の結果告 (一日体験、オープンキャン バス) 大席者 なし 大席者 なし 大席者 なし 67 報告事項 4. 10 月 22 日 (上) 入試に関する担当者説明会について 2. 山崎史郎各員教授の読み替え科目について 2. 山崎史郎各員教授の読み替え科目について 4. 10 月 22 日 (上) 入試に関する担当者説明会について 4. 10 月 22 日 (上) 入試に関する担当者説明会について 4. 1. 通信教育部の授業実施方法について 2. 「日本医療大学紀要投稿規程」の改正について 数多事項 4. 1. 本年度非常勤講師委嘱予定一覧(変更・予定)について 2. 学生への懲戒処分について 3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 4. 文部科学省による実地調査について 3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 4. 文部科学省による実地調査について 3. 人字福祉会との共同研究についての経過報告 4. 文部科学省による実地調査について 4. 文部科学省による実地調査について 3. 大宮部者 1人 3. 本年度非常知識を取りたこのによる実地調査について 4. 本年度 2. 上記を記述を定して 4. 本年度 2. 日本医療大学紀要投稿規程」の改正について 4. 本年度 3. 人を認定 3. 人を認定 3. 人を認定 3. 人を認定 3. 人を認定 4. 人を記述 4. 人を認定 4. 人を記述 4				
報告事項 1. 後期限修登録変更期間の変更について 2. 山崎史郎客員教授 基調講演について 3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 4. 学生募集活動に関する進捗報告(一日体験、オープンキャン バス) 5. 通信教育部総合福祉学部ソーシャルワーク学科の設置認可に ついて 差値教育 1. 後期履修登録変更の結果について 2. 山崎史郎客員教授の読み替え科目について 3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 4. 10 月 22 日(上)入試に関する担当者説明会について 15:00~16:00 日	06	意見を求	1. 令和4 (2022) 年度前期定期試験結果一覧について	令和4(2022)年
報告事項 1. 後期限修登録変更期間の変更について 2. 山崎史郎客員教授 基調講演について 3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 4. 学生募集活動に関する進捗報告 (一日体験、オープンキャン		める事項		9月14日
2. 山崎史郎客員教授 基調講演について 構成員 20人 出席者 20人 人				14:30~15:30
3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 4. 学生募集活動に関する進捗報告(一日体験、オープンキャン 次ス) 5. 通信教育部総合福祉学部ソーシャルワーク学科の設置認可に 2 総事録署名人 2 超石 全 その他 1. 保健管理委員会からの報告 07 報告事項 1. 後期履修登録変更の結果について 2. 山崎史郎客員教授の読み替え科目について 3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 15:00~16:00 1 号棟 講義室 301 構成員 20 人 出席者 20 人 欠席者 なし 2 に 1 証信教育部の授業実施方法について 1 日本医療大学紀要投稿規程」の改正について 2 に 1 日末 1 日末 1 日本 1 日末 1 日末 1 日末 1 日末 1 日末		報告事項	1. 後期履修登録変更期間の変更について	1 号棟 講義室 301
4. 学生募集活動に関する進捗報告 (一日体験、オープンキャン バス) 5. 通信教育部総合福祉学部ソーシャルワーク学科の設置認可に			2. 山崎史郎客員教授 基調講演について	構成員 20 人
バス) 5. 通信教育部総合福祉学部ソーシャルワーク学科の設置認可に 議事録署名人 越石 全			3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告	出席者 20 人
5. 通信教育部総合福祉学部ソーシャルワーク学科の設置認可に 議事録署名人 越石 全			4. 学生募集活動に関する進捗報告(一日体験、オープンキャン	欠席者 なし
おお 全			パス)	
その他 1. 保健管理委員会からの報告			5. 通信教育部総合福祉学部ソーシャルワーク学科の設置認可に	議事録署名人
07 報告事項 1.後期履修登録変更の結果について 令和4 (2022) 年 2. 山崎史郎客員教授の読み替え科目について 10月19日 3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 15:00~16:00 4. 10月22日(土)入試に関する担当者説明会について 1 号棟 講義室 301 構成員 20人 欠席者 なし 08 意見を求			ついて	越石 全
07 報告事項 1.後期履修登録変更の結果について 令和4 (2022) 年 2. 山崎史郎客員教授の読み替え科目について 10月19日 3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 15:00~16:00 4. 10月22日(土)入試に関する担当者説明会について 1 号棟 講義室 301 構成員 20人 欠席者 なし 08 意見を求				
2. 山崎史郎客員教授の読み替え科目について		その他	1. 保健管理委員会からの報告	
3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 4. 10月22日(土)入試に関する担当者説明会について 1 号棟 講義室 301 構成員 20人 出席者 20人 欠席者 なし 8 意見を求 1. 転学部・転学科について かる事項 2. 「日本医療大学紀要投稿規程」の改正について 初る事項 2. 「日本医療大学紀要投稿規程」の改正について おお事項 1. 次年度非常勤講師委嘱予定一覧(変更・予定)について 2. 学生への懲戒処分について 3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 4. 文部科学省による実地調査について 接過報告 15:00~16:00 1 号棟 講義室 301 構成員 20人 出席者 19人 欠席者 1人	07	報告事項	1. 後期履修登録変更の結果について	令和4 (2022) 年
4. 10月22日(土)入試に関する担当者説明会について 1号棟 講義室 301 構成員 20人 出席者 20人 欠席者 なし 議事録署名人 坂野 大樹 08 意見を求 1. 転学部・転学科について 令和4 (2022)年 2. 「日本医療大学紀要投稿規程」の改正について 11月16日 15:00~16:00 報告事項 1. 次年度非常勤講師委嘱予定一覧(変更・予定)について 1号棟 講義室 301 構成員 20人 3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 出席者 19人 欠席者 1人 議事録署名人			2. 山崎史郎客員教授の読み替え科目について	10月19日
その他 1. 通信教育部の授業実施方法について			3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告	15:00~16:00
その他 1. 通信教育部の授業実施方法について 出席者 20 人 欠席者 なし 議事録署名人 坂野 大樹 08 意見を求 1. 転学部・転学科について 令和4 (2022) 年 3. 「日本医療大学紀要投稿規程」の改正について 11 月 16 日 15:00~16:00 報告事項 1. 次年度非常勤講師委嘱予定一覧(変更・予定)について 1号棟 講義室 301 2. 学生への懲戒処分について 構成員 20 人 出席者 19 人 久席者 1人 後事録署名人			4. 10月22日(土)入試に関する担当者説明会について	1 号棟 講義室 301
欠席者 なし 議事録署名人 坂野 大樹 1. 転学部・転学科について 令和4 (2022) 年 8る事項 2. 「日本医療大学紀要投稿規程」の改正について 11月16日 15:00~16:00 報告事項 1. 次年度非常勤講師委嘱予定一覧 (変更・予定) について 2. 学生への懲戒処分について 2. 学生への懲戒処分について 構成員 20 人 出席者 19 人 4. 文部科学省による実地調査について 欠席者 1人 議事録署名人				構成員 20 人
議事録署名人 坂野 大樹		その他	1. 通信教育部の授業実施方法について	出席者 20 人
坂野 大樹 08 意見を求 1. 転学部・転学科について				欠席者 なし
坂野 大樹 08 意見を求 1. 転学部・転学科について				
1. 転学部・転学科について 令和4 (2022) 年 おる事項 2. 「日本医療大学紀要投稿規程」の改正について 11月16日 15:00~16:00 報告事項 1. 次年度非常勤講師委嘱予定一覧 (変更・予定) について 1号棟 講義室 301 2. 学生への懲戒処分について 構成員 20人 3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 出席者 19人 久席者 1人 次席者 1人 後事録署名人				議事録署名人
める事項2. 「日本医療大学紀要投稿規程」の改正について11月16日 15:00~16:00報告事項1. 次年度非常勤講師委嘱予定一覧(変更・予定)について1号棟 講義室 301 構成員 20人2. 学生への懲戒処分について構成員 20人3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告出席者 19人 欠席者 1人4. 文部科学省による実地調査について次席者 1人				坂野 大樹
報告事項 1. 次年度非常勤講師委嘱予定一覧(変更・予定)について 1 号棟 講義室 301 2. 学生への懲戒処分について	08	意見を求	1. 転学部・転学科について	令和4 (2022) 年
報告事項1. 次年度非常勤講師委嘱予定一覧(変更・予定)について1 号棟 講義室 3012. 学生への懲戒処分について構成員 20 人3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告出席者 19 人4. 文部科学省による実地調査について欠席者 1 人		める事項	2. 「日本医療大学紀要投稿規程」の改正について	11月16日
2. 学生への懲戒処分について 構成員 20 人 3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 出席者 19 人 4. 文部科学省による実地調査について 欠席者 1 人 議事録署名人				15:00~16:00
3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告 出席者 19 人 4. 文部科学省による実地調査について 欠席者 1 人 議事録署名人		報告事項	1. 次年度非常勤講師委嘱予定一覧(変更・予定)について	1 号棟 講義室 301
4. 文部科学省による実地調査について			2. 学生への懲戒処分について	構成員 20 人
議事録署名人			3. ノテ福祉会との共同研究についての経過報告	出席者 19 人
			4. 文部科学省による実地調査について	欠席者 1人
佐藤恵				議事録署名人
				佐藤 恵

mt I	49 N		A = . /
臨時	報告事項	1. 令和5 (2023) 年度学校推薦型選抜(指定校) (公募前期)	令和4(2022)年
		の合否について	11月24日
			16:30~17:00
			1 号棟 講義室 301
			構成員 20 人
			出席者 17 人
			欠席者 3人
			議事録署名人
			鈴木 幸雄
09	意見を求	1. 令和4 (2022) 年度後期定期試験時間割 (本試験) について	令和4(2022)年
	める事項		12月21日
			15:00~15:30
	報告事項	1. 総合福祉学部・次年度非常勤講師委嘱予定一覧(変更)につ	1 号棟 講義室 301
		いて	構成員 20 人
		2. 通信教育部・ソーシャルワーク学科 次年度非常勤講師委嘱	出席者 19 人
		一覧について	欠席者 1人
		3. 令和5 (2023) 年1月7日 (土) 入試相談会の開催について	
		4. 令和 5 (2023) 年度学校推薦型選抜(後期)の合否について	議事録署名人
		5. 12月23日(金) 真栄キャンパス消防訓練(一部訓練)に	銭本 隆行
		ついて	
10	意見を求	1. 成績疑義照会について	令和5(2023)年
	める事項	2. 在籍料について	1月25日
			16:30~17:45
	報告事項	1. 学生アンケートについて(集計結果)	1 号棟 講義室 301
		2. 令和5 (2023) 年度一般選抜 (前期) 実施計画 (案) につい	構成員 20 人
		T	出席者 20 人
		3. 令和 5 (2023) 年度『生涯学習講座』担当教員のお願いにつ	欠席者 なし
		いて	
	その他	4. 転学部・転学科について(進捗報告)	議事録署名人
			高橋 銀司
		1. 介護福祉マネジメント学科 学生募集のための BS	
		ı	

11	意見を求	1. 日本医療大学 学則の一部改正について	令和5(2023)年
	める事項	2. 日本医療大学 教授会規程の一部改正について	2月15日
		3. 日本医療大学 通信教育課程に関する規程について	15:00~16:10
		4. 日本医療大学 通信教育課程履修規程について	1 号棟 講義室 301
			構成員 20 人
	報告事項	1. 理事長依頼の BS の結果とその経緯について	出席者 20 人
		2. 「送迎付き学校見学・授業等」の取り組み状況の報告	欠席者 なし
		3. 令和5 (2023) 年1月1日付事務局改編に伴う各種規程の読	
		み替えについて	議事録署名人
		4. 令和5 (2023) 年度一般選抜入試(前期)及び大学入学共通	塚辺 博崇
		テスト(前期)の合否について	
		5. 通信教育部 総合福祉学部 ソーシャルワーク学科 第1期合	
		否判定について	
	その他	1.令和5(2023)年度 総合福祉学部 学年暦(案)について	
		2. 日本医療大学 第9回研究報告会について	
		3. 2023 キャリアガイダンスについて	

12	意見を求	1.後期定期試験結果について	令和5(2023)年
	める事項	2. 進級判定について	3月15日
		3. 日本医療大学 非常勤講師規程の改正(案)について	15:00~16:30
		4. 令和5 (2023) 年度委員会構成員の変更について	1 号棟 講義室 301
		5.通信教育部長(案)について	構成員 20 人
			出席者 18 人
			欠席者 2人
	報告事項	1. 令和5 (2023) 年度 総合福祉学部 非常勤講師の変更につ	
		いて	議事録署名
		2. 令和5 (2023) 年度 入学式・新入生(在学生) オリエン	照井 レナ
		テーション等について	
		3. 学生の自家用車輌通学要綱について	
		4. 令和5 (2023) 年度大学入学共通テスト (中期) の合否につ	
		いて	
		5. 令和5 (2023) 年度一般選抜(後期)、総合型選抜(後	
		期)、共通テスト(後期)の合否について	
		6. 通信教育部 総合福祉学部 ソーシャルワーク学科 第2期合	
		否判定について	
		7. 令和6 (2024) 年度入学生確保に向けた高校訪問について	
		8. 学部長報告	
	その他	1. 令和 5 (2023) 年度 学年暦 (総合福祉学部・通信教育部)	
		について	
		2. 令和5 (2023) 年度日本医療大学「生涯学習講座」日程およ	
		び担当者について	
		3. 令和5 (2023) 年度教授会日程および構成員について	

委員会	図書・学術振興委員会
委員長名	本語
安良以石	教 授: 俵紀行、加藤敏文
1# - L =	准教授:相馬幸恵
	講師:合田央志、魚住諒、越石全
	助教:高平昂
A = (2-2-2)	事務局:杉原章仁 図書司書:藤ノ木良子、梅津愛、栗本瑞恵
令和4 (2022) 年度	実施内容・結果
事業計画	
1. 令和4 (2022)	令和4 (2022) 年度は、新学部・新学科増設となったことから、和・洋雑誌の精
年度の図書の購入・	選を行い購入・受入を行った。
受入	また、2か所(月寒・真栄)となった各図書館において、蔵書の充実を図るた
	め、各学部・学科で図書購入リストを作成し、次年度以降の図書購入の準備を行っ
	た。
2. 図書の蔵書等の	新学部・新学科増設にともない、設置経費で購入した図書の受入・整理を行っ
資産確認と資産整理	た。
	また、月寒本館では書架の再配架作業を行った。これにより全書架への図書の配
	架バランスが整い、利便性・保守性が大幅に向上した。
3. 紀要第9巻を発	令和4 (2022) 年度は紀要投稿規定、執筆要領を大幅に見直し、自然科学系論文
刊	を主とする保健医療学部と人文科学系を主とする総合福祉学部、双方の研究者から
	の投稿に対応できるようにした。第9巻の編集過程においてさらなる検討事項が出
	てきており、それらは第 10 巻に向けて委員会に置いて協議する必要がある。
	しかし、いままで自然科学系の論文しか掲載されてこなかった本学紀要にとっ
	て、掲載論文の分野が広がったことは大きな転換点となった。
	紀要第9巻は現在編集中であり、令和5 (2023) 年6月頃の発刊を目指してい
	る。
4. 第9回研究報告	これまで報告会はコロナ禍で実施を見合わせていたが、令和4(2022)年度は全
会(保健医療学部・	学科共同で、第9回日本医療大学研究報告会を令和5 (2023) 年3月29日(水)に
総合福祉学部)	3年ぶりに開催した。
	当日登壇して発表を行うほか、新たに研究成果として5分程度にまとめた研究内
	容の動画の提出も全研究者に依頼した。当日参加ができない場合はその動画を放映
	することで発表に代えた。動画は今後、大学 HP 等で公開することを検討している。

5. 新型コロナ感染 予防対策に向けた図 書館の運営について

図書館の利用について人数制限・利用時間制限などはおこなわなかった。ただし、閲覧席、個室の利用時には密を避けること、換気扇を常に稼働させることを呼びかけた。

ふたたび感染拡大が起こった8月上旬から9月上旬にかけては、学生の校舎への 立ち入りを禁じたことにより、図書館も原則利用できないこととなった。

その間、貸出・文献取り寄せ等、教員に対するサービスは通常通り行った。また、学生から希望があれば、教員を介して文献取り寄せができる仕組みを構築し、 学習環境に応じたサービスを心がけた。

委員会	キャリアセンター運営委員会
委員長名	センター長:保健医療学部リハビリテーション学科 教授 大堀具視
	教 授:草薙美穂、照井レナ
	准教授:近藤和夫、及川直樹
	講師:小池祐史、斎藤徳
構成員	助教:藤田智、山下浩紀
	センター事務員:小岩志保
	- 事務局:杉原章仁、三木つかさ
令和4 (2022) 年度	
事業計画	実施内容・結果
1. センターの方針	・令和4 (2022) 年度 キャリア教育、就職支援を実施するうえで常勤1名体制であ
	 る。学生支援が出来るよう人員補充は急務である。なお本年度在籍学生数は 1,508
・令和4 (2022) 年度、既存	 人(令和4(2022). 5. 1 現在)である。
学科においては学生定員増	● 各学科部門員との連携により事務局機能を保つことができているが引き続きセン
や新たに臨床工学科が開設	ター事務員の適切な人員増員、事務員のスキルアップは急務である。オンラインを
された。また、真栄キャンパ	活用した学生相談支援や添削指導は学生サービスの充実を図っており対応すること
	ができている。事務処理業務の効率化(業務の見直しや資料室の環境整備、受験記
	録や資料のデータ化等)については学生目線での整備を前年度以上に整備が出来て
	いる。来訪頂いた病院関係者や業者等との関係性は一層強化しつつ本学学生の市場
	価値を高めることに注力できた。
の強化が求められる。主な	
業務は規程第2条に示す、	夕光灯ルスのようルマ港南し、マールケ本回送 4 日並 1 4 よ ノゲンマ ウエリーン
(1)キャリア構築のための情	
報提供及び発信、(2)キャリ	テーションの実施をはじめ、全学科全学年の学生に向けて「本学キャリアセン
ア支援等に関するセミナー	ター」の周知を図るとともに、学生に対し礼儀や挨拶の重要性のほか職業観の意識
及びイベントの企画、開催、	づけを行っているが学科による統一は未だ実施することが出来ておらず次年度に体
運営全般、(3)キャリア構築	制を整えていく。なお、本年度から真栄キャンパスに新学部が開設したが、セン
や就労の相談援助、(4)その	ター職員は常駐しておらず掲示物や備品設置のみにとどまっている。将来的には
	キャンパスごとのセンター体制を置く予定である。本学として、学科共通プログラ
	ムのほか、目指すべき職種を以て必要たるキャリア教育の構築が必要である。
年度においても、各学科と	
の連携を図り、学生一人ひ	・就職支援に係る個別指導(履歴書や小論文添削)や質疑応答については、感染症
とりの個性を大切に、自己	 予防や業務の効率化を第一に本年度も基本的にリモート活用をして対応した。な
実現に向けての支援を図り	

キャリアセンターとして業お、面接指導や個別相談は対面で実施を実施した。なお最近では Web 面接や Web 病 務遂行を行った。学生が、社院見学会も多くなっているため 適宜対応した。

会で職業専門職としての資 質を備えるべく、低年次か らのキャリア教育を大切に 今後も充実を図れるような 支援サービスを行っていく ことが求められる。

・学科独自のキャリア教育については、その学年、学生の質を考慮のうえ適宜調整 を図り、実施内容や時期、回数など定期的な見直しを行い、少しずつ対応でき た。学科や学年により学生の傾向など課題を適宜 担当部門員と連携を取り教育現 場と情報共有を図ることができている。

・将来にわたり継続的持続的に高い就職率を達成すべく、各医療機関や施設等と本 学の関係性の強化を図っていく。学科により採用市場の傾向や時期の違いを鑑み、 学内就職合同説明会の実施(リハビリテーション学科)や、実習先への就職強化、 新規就職先開拓等を行い、道内のみならず道外にも広く本学学生の活躍の場を拡げ て行くことが引き続き大切である。また本学卒業生が入職後、その専門職で持続的 に活躍し成長していくうえで離職率の調査を例年通り実施した。卒後も継続的に社 会で活躍できるようセルフマネジメントの意識づけは重要な課題である。引き続 き、本学の学生を採用したい、と思われるような人材育成を部門員と協力のうえ本 センターとしての活動意義を担っていく。

2. 学科共通

・学生自身が、社会 人になっても自ら主 体的に行動し、真の 専門職として豊かな 人間性を兼ね備え、 継続的に活躍し続け ることが出来るよう な人材育成をしてい くため、低年次から 各講座では、社会人 基礎力や挨拶の大切 さ、コミュニケー ション能力の強化

学生の個別指導に力を注ぐ。対面のみならず、リモート支援を柔軟に活用し個人 の資質を伸ばしていけるような言葉掛けや本人に気付きや思考力を育てていけるよ 「う、部門員と連携し個別支援の強化を図っていく。とくに医療人として必要となる」 コミュニケーション能力の強化、日本語力、論理的思考、レジリエンス等 社会で今 後も活躍していくうえで資する力を養っていけるようなキャリアデザイン講座の組 立て、個別相談での支援を行っていく。

就職ガイドブック

学科共通の内容としデータ化し学生へ配付、活用を図る。

・ガイダンス・オリエンテーション

各学科学年に向けて、本キャリアセンターの紹介を行う。

・求人票管理システム

等、本学学生として 個性を活かせる支援 の充実を図ってい <。

求人票閲覧システムは令和3(2021)年度6月から導入。本年度も継続学生への 情報サービスの充実および事務作業の簡略化を図った。

・履歴書様式の無料化

随時キャリアセンターにて設置配付およびダウンロード形式にて配布。学生への サービス向上を図っており応募先指定の履歴書様式も印刷して渡している。

• 離職調査

通常どおり実施。離職率は前年比同様の割合(約3.8%)

就労機関との連携のもと、本学学生が早期離職にならぬようキャリア支援での意識 づけを行いガダンス等でも学生支援を図っていく。

[保健医療学部]

4年生

就職活動ガイダンス

【看護学科】

- ・履歴書・小論文 添削支援
- ・100%内定率をめざ ・面接個別指導
- し、さらに社会人基
- ・キャリア講座「小論文対策」

礎教育の強化を図

3 年生

る。また低年次から

・キャリアガイダンス

適したキャリアデザ

|・キャリア講座「就活スタートアップ講座 自己分析・履歴書」

イン講座を開催する

・キャリア講座「実習直前講座」

とともに、学生の意

・キャリア講座「就活スタート講座 採用市場を知る」

識向上をめざす。

・キャリア講座「卒業生トーク会」「3職種からの講話」

また、本年度より看

・キャリア講座「履歴書・面接基礎講座」

護研究演習Ⅱ(卒業

• 進路希望調査

研究)における看護

2年生

領域ごとに学生の就

• キャリアガイダンス

職支援をスタートし

・キャリア講座「基礎実習直前講座」

た。引き続き学科と

・キャリア講座「就活スタートUP(自己分析)」

密な連携により学生

1 年生

へ支援していく。

・キャリアガイダンス

※添削対応・質疑応

・キャリア講座「自己理解」

答は Teams 対応

112

【リハビリテーショ

4 年生

ン学科】

・就職活動ガイダンス

・100%内定率をめざ ・進路希望調査

し、さらに社会人基

・就職対策資料配布と就活オリエンテーション

礎教育の強化を図

・キャリア教育研修

る。また低年次から

キャリアデザイン

適したキャリアデザ

履歴書の書き方、面接対策

イン講座を開催する とともに、学生の意 |・学内就職説明会(午前の部51施設・午後の部42施設)

識向上をめざす。

市内のほか道内外の病院・施設など来訪

3年生

・就職活動ガイダンス

※添削対応·質疑応

・キャリア教育研修 テーマ:接遇

答は Teams 対応

2年生

・就職活動ガイダンス

・キャリア教育研修 テーマ:自己分析、表現

1年生

・就職活動ガイダンス

・キャリア教育研修 テーマ:初年次教育

【診療放射線学科】

4 年生

・100%内定率をめず 学科開催により病院協力のもと学生へ病院の説明会を実施。

し、さらに社会人基

本年度は 北見赤十字病院、JA 旭川厚生連病院、社会医療法人孝仁会(釧路)

礎教育の強化を図

・就職活動ガイダンス

る。また低年次から

• 進路希望調査

適したキャリアデザ

・キャリアプラン講座「履歴書・面接講座」

イン講座を開催する

3年生

とともに、学生の意

・キャリアプラン講座「基礎実習直前講座」

識向上をめざす。

2 · 3 · 4年生

・臨床実習報告会(10月):臨床実習における学生同士の情報共有および下学年に対

※添削対応・質疑応

2年生

答は Teams 対応

する情報提供。プレゼンテーションのスキルアップ

	・キャリア教育研修 テーマ:自己分析、表現
	1年生
	・就職活動ガイダンス
	・キャリア教育研修 テーマ:初年次教育
【臨床検査学科】	2年生
・低年次から適した	・キャリア講座 初年次教育(12月実施)
キャリアデザイン講	テーマ:大学生活「今」を考える【行動計画_思考の転換】
座を開催するととも	(内容) 大学生「時間管理と自己管理」/思考と行動 ~「脳」の仕組み/採用市場と
に、学生の意識向上	就職活動に向けて
をめざす。	~じぶんの「夢」実現のために
	1 年生
	・キャリア講座 初年次教育(10月実施)
	テーマ:大学生活「今」を考える【行動計画_思考の転換】
	(内容) 大学生として身に付けるべき力/大学生活の4年間を考える/脳の習慣「思
	考と行動」~じぶんの「夢」実現のために
【臨床工学科】	1年生
・低年次から適した	・キャリア講座 初年次教育(11月実施)
キャリアデザイン講	テーマ:大学生活「今」を考える【行動計画_思考の転換】
座を開催するととも	(内容) 大学生として身に付けるべき力/大学生活の4年間を考える/脳の習慣「思
に、学生の意識向上	考と行動」~じぶんの「夢」実現のために
をめざす。	
[総合福祉学部]	1年生
【介護福祉マネジメ	・キャリア講座
ント学科】	テーマ「総合福祉学部生のキャリアガイダンス」
低年次から適した	(内容) キャリアキックオフ
キャリアデザイン講	今後 10 年間のあなたのキャリアを築くために
座を開催するととも	キャリアセンターと部門員の2部構成
に、学生の意識向上	※本年度は総合福祉学部全体を対象としてランチョンセミナーの形式として実施し
をめざす。	た。

【ソーシャルワーク	*上記 学部開催とした。
学科】	
低年次から適した	
キャリアデザイン講	
座を開催するととも	
に、学生の意識向上	
をめざす。	

委員会	教務委員会(保健医療学部)
委員長名	委員長:保健医療学部リハビリテーション学科 教授 岸上博俊
構 成 員	教 授:山崎公美子、井上由紀子、河原畑尚美、滋野和恵、向井康詞、杉本芳則、 木村徹、品川雅明、德永祐一、千原伸也、竹內文也 准教授:近藤和夫、清本憲太、島勝美 講 師:岡田一範、斎藤徳、斎藤高志 事務局:本庄勝巳、澤口敏明、水野誠、杉原彰仁、本間詩乃、宗形文、北宙恵、 北川喜音、山形奈穂、小野寺陽香
令和4 (2022) 年度	
	実施内容・結果
事業計画	① 塩利ココよウノエラの電洗瓜のマ人よいよりサイフ
1. 4/11/4/(=//1)	① 新型コロナウイルスの感染状況に合わせた対応を行った。
る事項	② 既修得単位の認定(該当学科)を行った。 ③ 履修登録一覧の確認(各学科)を行った。
	① 腹形立跡―見の確認(谷子科)を行った。 ④ 前期・後期成績審議(各学科)を行った。履修規程の見直しとして、
	(日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本)
	⑤ 実習施設変更承認申請(各学科)を行った。
	⑥ 追実習の審査(看護学科)を行った。
	⑦ 追試験の審査(各学科)を行った。
	② 令和5 (2023) 年度新入生オリエンテーションの内容を検討した。
	令和 5 (2023) 年度在校生ガイダンスの内容を検討した。
2. 定期試験及びその	① 試験実施要領の確認・見直した。
の試験に関する事項	② 定期試験受験者一覧作成(学科別)した。
	③ 定期試験時間割作成(学科別)した。
	④ 待機担当教員調整(学科別)を行った。
	⑤ 定期試験の科目のバランス調整を行った。
	⑥ 試験監督者、追・再試監督者の調整(学科別)を行った。
	⑦ 試験配布教室の設置を行った。
3. 授業計画及び実	① 非常勤講師委嘱等の検討を行った。
施、授業担当者に関	② 年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等を取りまとめた。
する事項	

4. 成績評価、単位	① 学生の出席・成績状況を教務委員会で確認し、教授会にて報告した。
認定、進級及び卒業	② 進級及び卒業に関しては、進級及び卒業要件に沿い、教務委員会で最終確認
に関する事項	し、教授会にて報告した。
	③ 成績判定に関する WG を立ち上げ、本学の状況を確認した。
5. 休学、退学、除	各学科における休学・退学、復学などは、規程に沿い対応した。
籍、復学、その他学	
籍に関する事項	

6. 学生便覧、講義	1	キャンパスハンドブックの見直しを行った。
要綱に関する事項	2	シラバス改訂を行った。(事前事後学習時間の記載を主として)
	3	学年暦(各学科・学年別)の検討し作成した。
	4	履修の手引きの見直しを行った。
7. その他教務に関	1	オフィスアワーの調査(前期・後期)と学生周知を行った。
する事項	2	令和5 (2023) 年度教務委員会事業計画(案)を作成した。
	3	公認欠席の規定の見直しを行った。
	4	教室管理の台帳を作成した。
	(5)	試験の疑義申し立ての運用変更を行った。
	6	リメディアル教育の検討を行った。
	7	実習 WG の検討を行った。

委員会	教務委員会(総合福祉学部) 	
委員長名	委員長:総合福祉学部介護福祉マネジメント学科 准教授 塚辺博崇	
	教 授:笹岡眞弓、伊藤一	
構成員	講師:佐藤恵、銭本隆行	
一种 / C	助教:山下浩紀	
	事務局:本庄勝巳、澤口敏明、水野誠、近藤義明、渡邊駿	
令和4 (2022) 年度	実施内容・結果	
事業計画	夫 施 内 谷 ・ 柏 木	
1. 教育課程に関す	① 新型コロナウイルスの感染状況に合わせた対応を行った。	
る事項	② 既修得単位の認定(該当学科)を行った。	
	③ 履修登録一覧の確認(各学科)を行った。	
	④ 前期・後期成績審議(各学科)を行った。	
	⑤ 追試験の審査(各学科)を行った。	
	⑥ 令和5 (2023) 年度新入生オリエンテーションの内容を検討した。	
	令和5 (2023) 年度在校生ガイダンスの内容を検討した。	
2. 定期試験及びその	① 試験実施要領の確認・見直した。	
の他の試験に関する事	② 定期試験受験者一覧作成(学科別)した。	
項	③ 定期試験時間割作成(学科別)した。	
	④ 定期試験の科目のバランス調整を行った。	
	⑤ 試験監督者、追・再試監督者の調整(学科別)を行った。	
	⑥ 試験配布教室の設置を行った。	
3. 授業計画及び実	① 非常勤講師委嘱等の検討を行った。	
施、授業担当者に関	② 年間非常勤講師等の委嘱等を取りまとめた。	
する事項		
4. 成績評価、単位	① 学生の出席・成績状況を教務委員会で確認し、教授会にて報告した。	
認定、進級及び卒業	② 進級に関しては、進級要件に沿い、教務委員会で最終確認し、教授会にて報告	
に関する事項	した。	
5. 学生便覧、講義	① キャンパスハンドブックの見直しを行った。	
要綱に関する事項	② シラバス改訂を行った。(事前事後学習時間の記載を主として)	
	③ 学年暦(各学科・学年別)の検討し作成した。	
	④ 履修の手引きの見直しを行った。	

その他教務に関する ① オフィスアワーの調査(前期・後期)と学生周知を行った。 事項 ② 令和5(2023)年度教務委員会事業計画(案)を作成した。 ③ 公認欠席の規定の見直しを行った。 ④ 試験の疑義申し立ての運用変更を行った。

カリキュラム委員会(保健医療学部)
委員長:診療放射線学科 教授 西山修輔
教 授:山田敦士、岸上博俊、浅沼広子、梅森祥央
准教授:西山徹、清本憲太、島勝美、工藤元嗣
講師:原田圭子、斎藤高志
事務局:本庄勝巳、本間詩乃、北宙恵、宗形文、山形奈穂、北川喜音、小野寺陽
香、澤口敏明、水野誠
実施内容・結果
臨床工学科において指定規則改正に伴うカリキュラム変更申請があり、順次作業
を進めた結果、年度内に文科省の承認が得られた。この際に、特に基礎分野におけ
る選択科目の設定などは学科横断的に検討を要することが認識された。
卒業生に対する卒業時アンケートは、看護学科、リハビリテーション学科、診療
放射線学科で継続的に実施している。今年度は学修到達度の項目に加えて、補助金
の関係で「大学生活を通じた満足度」についての項目を含めて実施することとな
り、卒業生のいる3学科で実施した。アンケート調査の位置づけや集計結果の活用
方法を検討する必要がある。
コロナ禍の中でもありカリキュラム委員会では研修会の実施検討が進まなかった
が、FD委員会主催でアセスメントポリシーに関する教育研修会が行われた。
保健医療学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッショ
ン・ポリシーの策定が急がれたため、各学科の3つのポリシーと大学の基本理念、
学部の教育目標の案に照らし、各教員からの意見も踏まえて3つのポリシーの案を
策定した。

委員会	カリキュラム委員会(総合福祉学部)	
委員長名	委員長:総合福祉学部ソーシャルワーク学科 講師 銭本隆行	
	准教授:塚辺博崇、平野啓介	
構 成 員	助教:山下浩紀	
	事務局:渡邊駿	
令和4 (2022) 年度	中华中京 社里	
事業計画	実施内容・結果	
1. 運営企画の作成	1. 初年度のため、事業計画を作成することからはじめた。まず、AC 期間中におけ	
	る活動について、教務委員会とカリキュラム委員会の担当部分の住み分けを確認	
	し、今後は AC 期間終了時を念頭に、1,2年目は検討していき、3年目から実際の	
	カリキュラム修正について検討をしていくこととした。	
2. カリキュラムの	2. AC 期間中における指定規則の変更は、原則不可のため、科目数バランスの課題	
検討	を検討していき、次年度にさらなる検討を加えていくこととした。	

委員会	自己点検・評価委員会
委員長名	委員長:保健医療学部リハビリテーション学科 教授 向井康詞
	教 授:山崎久美子、杉本芳則、品川雅明、千原伸也、伊藤一、笹岡真弓、
	岸上博俊、竹内文也
構成員	准教授:泉水朝貴、福山篤司、松浦智和
(特·)	講師:中澤洋子、小池祐史
	助教:織田なおみ
	事務局:松平貴、中川勝義、小川雅人
令和5年度	実施内容・結果
事業計画	夫 旭 門谷・柏木
1. 日本医療大学年	令和4 (2022) 年8月に発行することができた。事務局の迅速な処理により、予
報第7号の発行	定よりも早く発行できた。教授会で報告し、HP 上に公開した。
2. 令和3 (2021)	年報第7号を元に自己点検評価を行った。評価基準は大学評価機構の基準を用い
年度の教員評価・各	た。結果は学長、運営委員会、IR 室に報告し、大学内での PCDA サイクルの流れを
員会報告の点検実施	構築するよう働きかけた。
3. データの収集	各委員会の議案書、議事録の提出を求め、事務局で管理することとした。

委員会	学生委員会(保健医療学部)
委員長名	委員長:保健医療学部リハビリテーション学科 教授 石橋晃仁
	准教授:福山篤司
	講師:吉田香、川崎文、新開谷深、村上元、白石祐太、林泰弘、斎藤徳
構 成 員	助 教:磯辺正道、髙平昂
	事務局:澤口敏明(令和5(2023)年1月より本庄勝巳)、杉原章仁(令和5
	(2023) 年1月より中野渉)、松原玲奈
令和4 (2022) 年度	
事業計画	実施内容・結果
1. 学生委員会の通	定例の委員会を毎月第2水曜日の教授会後に開催。学生委員会を毎月第2水曜
常業務(学生委員会	日、計10回開催(1月と3月は流会)した。コロナ禍のために第2回(5月)は
活動の説明とキャン	teams を用いた遠隔で実施した。また適宜議題が発生すると持ち回りで決議を行っ
パスの環境整備と学	た。
生生活の情報提供、	新入生オリエンテーション、ガイダンスで「日本医療大学 SNS に関するガイドラ
情報発信、学内交流	イン」の注意喚起と啓発を行った。
事業、学生の学外活	「学生委員会からのお知らせ」を3回発行(ユニパによる配信)した。
動への支援)	ニュースレター「あずまし」は、総合福祉学部とも情報共有・協議は行ったもの
	の、発刊には至らなかった。
	令和4 (2022) 年度学生アンケートは、7月~10月の期間で実施し、簡易集計
	し、12 月度の教授会にて報告の上、アルファオフィスにて教職員に情報共有した。
	令和5 (2023) 年度版の CAMPUS HAND BOOK の該当箇所への加筆・修正を行った。
2. 学生委員会主催	学生顕彰の成績優秀者顕彰対象学生 98 名 (社会貢献賞:該当者なし) に対して、
事業(学生の生活指	4月27日(水)学長室で各学科代表者に対する授与式を挙行した。
導や人間力の向上)	令和4 (2022) 年度「入学と学生生活に関するアンケート調査」の実施(前述)
	「いのちのパネル展」実施 12月 12日~12月 16日
	協力:北海道交通事故被害者の会 小野 茂 様
	「命の講演会」実施 1月11日(水)、19日(木) 大講堂
	講師:髙室典子 先生(助産院エ・ク・ボ 院長)
	参加学生 1月11日 (水):55名 1月19日 (木):94名
3. 学友会支援事業	学友会定例総会は、5月14日(土)オンライン開催となった。
学内団体関連	

	学内団体は、既存団体が4団体、新規団体が8団体となった。学内イベントでの
	活動はあったが、体育館の使用制限などコロナ禍による影響で、すべての団体が十
	分な活動ができたとは言い難い。
	大学祭を6月18日(土)「日医大フェスティバル」として、学友会と大学法人と
	の共催にて実施した。 (本学および敷地内施設)
	体育大会を10月8日(土)に実施した。(きたえーる)
	選挙管理委員会より、第10代学友会会長選挙にむけた立候補を令和5 (2023) 年
	3月17日~24日に受け付けた。
	年度末に各学内団体の未回収活動報告書の回収と継続願の提出を依頼し、次年度
	活動継続団体の確認と設置申請の受付を行った。
	次年度継続申請は8団体であった。
	学科活動費の支出確認を行った。臨床検査学科より申請があがった。
	学友会からの卒業記念品(携帯マグ)の選定調整等をおこなった。
4. 奨学金に関する	今年度は当委員会が関わる奨学金案件は無かった。
事項	
5. 国際交流、海外	学内団体の CBR サークルの活動として、チャイルド・ファンド・ジャパンに対し
研修に関する事項	て海外向けの寄付活動があった。
6. その他	学部長より、「学生の皆さんからの声を聞く会」開催の提案があり、7月26日に
	予定したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期とし、年度内の開催
	には至らなかった。

委員会	学生委員会(総合福祉学部)
委員長名	委員長:総合福祉学部介護福祉マネジメント学科 教授 石黒匡人
	教 授:林美枝子
	准教授:忍正人
構成員	講師:越石全
	事務局:近藤義明、村上理絵子
令和4 (2022) 年度	
事業計画	実施内容・結果
1. 学生委員会の通	・学生委員会を通常毎月第2水曜日に開催した。
常業務(学生委員会	(なお、曜日の変更および不開催の回もあった。)
活動の説明とキャン	・新入生オリエンテーション、ガイダンスを4月に実施した。
パスの環境整備と学	・環境整備と学生の居場所作りはわずかながら進めた。
生生活の情報提供、	(なお、自由文庫については、新型コロナ感染の拡大が続いたため、準備段階で
情報発信、学内交流	中断した。)
事業、学生の学外活	・ニュースレター「あずまし」の発刊はできなかった。
動への支援)	・「学生委員会からのお知らせ」を適宜配信した。
(基本的に保健医療	・日ごろの生活指導、および長期休暇前の過ごし方に関して、また、学生の犯罪の
学部で策定された計	被害や加害、事故等について注意喚起を行った。
画に基づいて運営す	・令和4 (2022) 年度学生アンケートを実施した。
ることとしてきた。	・新入生オリエンテーション、ガイダンスで「日本医療大学 SNS に関するガイドラ
以下同じ。)	イン」の注意喚起と啓発を行った。
	・令和 5 (2023) 年の CAMPUS HAND BOOK の加筆・修正を検討した。
2. 学生委員会主催	・成績優秀者・社会貢献者の学生顕彰対象学生を選定した。
事業(学生の生活指	・安心・安全週間の実施については、特段の催しなどはできなかった。
導や人間力の向上)	・命をまなぶイベントとして、第 10 回「いのちのパネル展」と講演会を実施した。
	(なお、講演会については、月寒で実施された講演の配信という形で行った。)
3. 学友会支援事業	・学友会定例総会を支援した。
	・学友会を支援共同し、日医大フェスティバルの実施に当たった。
	・体育大会を支援した。
学内団体関連	・学内団体の継続申請・新規申請を受付け、承認した。
4. 奨学金に関する	・学内団体や日医大フェスティバルなどで必要に応じて実施
事項	

5. 国際交流、海外	・特段実施した事項はない。
研修に関する事項	

委員会	入学試験委員会
委員長名	委員長:学長 太田誠
構 成 員	教 授:小野幸子、山崎公美子、向井康詞、杉本芳則、品川雅明、千原伸也、
	笹岡眞弓、伊藤一、草薙美穂、大堀具視、石橋晃仁、石黒匡人
	(学生募集対策委員会委員長) 対馬徳昭、(事務局長) 青手木良光
	事務局:本庄勝巳、山田武俊、三雲康平、山川大志
令和4 (2022) 年度	
事業計画	実施内容・結果
1. 令和5 (2023)	1. 令和5 (2023) 年度 入学試験の合否判定
年度 入学試験の合	入学者選抜委員会から上程された合格者案について協議し、以下の通り合格者を
否判定	決定した。
	【総合型選抜(前期)】
	≪保健医療学部≫
	看護学科:68人受験 59人合格
	リハビリテーション学科理学療法学専攻:46人受験 44人合格
	リハビリテーション学科作業療法学専攻:10人受験 8人合格
	診療放射線学科:41 人受験 36 人合格
	臨床検査学科:23 人受験 19 人合格
	臨床工学科:9人受験 9人合格
	 保健医療学部 5 学科合計:197 人受験 175 人合格
	≪総合福祉学部≫
	介護福祉マネジメント学科:1人受験 1人合格
	ソーシャルワーク学科:1人受験 1人合格
	 総合福祉学部2学科合計:2人受験 2人合格
	 2 学部 7 学科合計:199 人受験 177 人合格
	【総合型選抜(後期)】
	≪保健医療学部≫
	看護学科: 2人受験 2人合格
	リハビリテーション学科理学療法学専攻:0人受験 0人合格
	Z = Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z

リハビリテーション学科作業療法学専攻: 0人受験 0人合格

診療放射線学科:1人受験 1人合格

臨床検査学科:0人受験 0人合格

臨床工学科:0人受験 0人合格

保健医療学部5学科合計:3人受験3人合格

≪総合福祉学部≫

介護福祉マネジメント学科: 0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科: 0人受験 0人合格

総合福祉学部2学科合計:0人受験 0人

2学部7学科合計:3人受験 3人合格

【学校推薦型選抜(指定校)】

≪保健医療学部≫

看護学科:33人受験 33人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻:38人受験 38人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻:12人受験 12人合格

診療放射線学科:23人受験 23人合格

臨床検査学科:14人受験 14人合格

臨床工学科:6人受験 6人合格

保健医療学部5学科合計:126人受験 126人合格

≪総合福祉学部≫

介護福祉マネジメント学科: 2人受験 2人合格

ソーシャルワーク学科:6人受験 6人合格

総合福祉学部2学科合計:8人受験 8人合格

2学部2学科合計:134人受験 134人合格

【学校推薦型選抜(公募前期)】

≪保健医療学部≫

看護学科:22 人受験 21 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻:7人受験 6人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻: 0人受験 0人合格

診療放射線学科:15人受験 14人合格

臨床検査学科: 4人受験 4人合格

臨床工学科:1人受験 1人合格

保健医療学部5学科合計:49人受験 46人合格

≪総合福祉学部≫

介護福祉マネジメント学科: 0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科:0人受験 0人合格

総合福祉学部は受験者なし

2学部2学科合計:49人受験 46人合格

【学校推薦型選抜(公募後期)】

≪保健医療学部≫

看護学科:10人受験 9人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻:2人受験 2人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻: 0人受験 0人合格

診療放射線学科:3人受験 1人合格

臨床検査学科:3人受験 1人合格

臨床工学科:1人受験 1人合格

保健医療学部5学科合計:19人受験 14人合格

≪総合福祉学部≫

介護福祉マネジメント学科: 0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科: 0人受験 0人合格

総合福祉学部は受験者なし

2 学部 2 学科合計: 19 人受験 14 人合格

【一般選抜(前期)】

≪保健医療学部≫

看護学科:135人受験 67人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻:34人受験 25人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻: 9人受験 9人合格

診療放射線学科:67人受験 37人合格

臨床検査学科: 45 人受験 30 人合格

臨床工学科:6人受験 5人合格

保健医療学部 5 学科合計: 296 人受験 173 人合格

≪総合福祉学部≫

介護福祉マネジメント学科:0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科:4人受験 4人合格

総合福祉学部2学科合計:4人受験 4人合格

2 学部 2 学科合計: 300 人受験 177 人合格

【一般選抜(後期)】

≪保健医療学部≫

看護学科:7人受験 5人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻:1人受験 0人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻:0人受験 0人合格

診療放射線学科:5人受験 0人合格

臨床検査学科: 4人受験 3人合格

臨床工学科:2人受験 2人合格

保健医療学部5学科合計:19人受験 10人合格

≪総合福祉学部≫

介護福祉マネジメント学科: 1人受験 1人合格

ソーシャルワーク学科: 0人受験 0人合格

総合福祉学部2学科合計:1人受験 1人合格

2 学部 2 学科合計: 20 人受験 11 人合格

【大学入学共通テスト利用選抜(前期)】

≪保健医療学部≫

看護学科:115人受験 52人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻:59人受験 36人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻:14人受験 14人合格

診療放射線学科:85人受験 40人合格

臨床検査学科:50人受験 23人合格

臨床工学科:6人受験 4人合格

保健医療学部 5 学科合計: 329 人受験 169 人合格

≪総合福祉学部≫

介護福祉マネジメント学科: 0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科:6人受験 6人合格

総合福祉学部2学科合計:6人受験 6人合格

2 学部 2 学科合計: 335 人受験 175 人合格

【大学入学共通テスト利用選抜(中期)】

≪保健医療学部≫

看護学科:5人受験 4人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻:2人受験 2人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻:1人受験 1人合格

診療放射線学科:6人受験 4人合格

臨床検査学科: 4人受験 3人合格

臨床工学科:0人受験 0人合格

保健医療学部5学科合計:18人受験 14人合格

≪総合福祉学部≫

介護福祉マネジメント学科: 0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科: 0人受験 0人合格

総合福祉学部は受験者なし

2学部2学科合計:18人受験 14人合格

【大学入学共通テスト利用選抜 (後期)】

≪保健医療学部≫

看護学科:4人受験 0人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻: 0人受験 0人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻:1人受験 1人合格

診療放射線学科: 3人受験 1人合格

臨床検査学科:1人受験 1人合格

臨床工学科:0人受験 0人合格

保健医療学部5学科合計:9人受験 3人合格

≪総合福祉学部≫

介護福祉マネジメント学科: 0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科:0人受験 0人合格

総合福祉学部は受験者なし

2学部2学科合計:9人受験 3人合格

合計:1,086 人受験 754 人合格(前年1,203 人受験 784 人合格)

委員会	入学者選抜委員会
委員長名	委員長:保健医療学部リハビリテーション学科 教授 向井康嗣
	【保健医療学部】
	看護学科:山崎公美子、松本真由美、
	リハビリテーション学科:泉水朝貴
	診療放射線学科:杉本芳則、阿部匡史
構成員	臨床検査学科:品川雅明、德永祐一、澁谷斉
	臨床工学科: 千原伸也、齊藤高志
	【総合福祉学部】
	介護福祉マネジメント学科:伊藤一、塚辺博崇
	ソーシャルワーク学科:笹岡眞弓、忍正人
	事務局:本庄勝巳、山田武俊、三雲康平、山川大志
令和4 (2022) 年度	安长
事業計画	実施内容・結果
1. 令和5 (2023)	1. 令和 5 (2023) 年度入学試験の実施
年度入学試験の実施	・予定通り、総合型選抜(前期・後期)、学校推薦型選抜(指定校、公募前期、公
	募後期)、一般選抜(前期、後期)、大学入学共通テスト利用選抜(前期、中期、
	後期)を実施した。
	・大学入学共通テスト利用選抜を除く各選抜において「実施要領」、「学科試験
	監督要領」「面接試験実施要領」を作成し、説明会を開催し周知した。
	・大学入学共通テスト利用選抜にあたり共同実施大学である北星学園大学と連
	携し実施した。
	・毎回の入試において、新型コロナウイルス対策を講じながら各選抜を実施し
	た。一部の入試において、体調不良者が発生したが、文科省方針に基づき、無事
	令和5 (2023) 年度の選抜試験を実施することができた。
	・一般選抜(前期)において、函館試験会場設置4年目で14人が出願し、今年
	度より、帯広で地方試験を初めて実施し、15人が出願し受験した。
2. 令和5 (2023)	2. 令和 5 (2023) 年度各入学試験の合格者案作成について
年度入学試験合格者	・以下の通り合格者案を作成し入試委員会に上程した。
案の作成	総合型選抜(前期):
	看護学科
	68 人受験 59 人合格
•	

リハビリテーション学科理学療法学専攻

46 人受験 44 人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

10 人受験 8 人合格

診療放射線学科

41 人受験 36 人合格

臨床検査学科

23 人受験 19 人合格

臨床工学科

9人受験 9人合格

介護福祉マネジメント学科

1人受験 1人合格

ソーシャルワーク学科

1人受験 1人合格

計:199人受験 177人合格

総合型選抜(後期):

看護学科

2人受験 2人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

0人受験 0人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

0人受験 0人合格

診療放射線学科

1人受験 1人合格

臨床検査学科

0人受験 0人合格

臨床工学科

0人受験 0人合格

介護福祉マネジメント学科

0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科

0人受験 0人合格

計: 3人受験 3人合格

学校推薦型選抜(指定校):

看護学科

33 人受験 33 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

38 人受験 38 人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

12 人受験 12 人合格

診療放射線学科

23 人受験 23 人合格

臨床検査学科

14 人受験 14 人合格

臨床工学科

6人受験 6人合格

介護福祉マネジメント学科

2人受験 2人合格

ソーシャルワーク学科

6人受験 6人合格

計: 134 人受験 134 人合格

学校推薦型選抜(公募前期):

看護学科

22 人受験 21 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

7人受験 6人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

0人受験 0人合格

診療放射線学科

15 人受験 14 人合格

臨床検査学科

4人受験 4人合格

臨床工学科

1人受験 1人合格

介護福祉マネジメント学科

0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科

0人受験 0人合格

計: 49 人受験 46 人合格

学校推薦型選抜(公募後期):

看護学科

10 人受験 9 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

2人受験 2人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

0人受験 0人合格

診療放射線学科

3人受験 1人合格

臨床検査学科

3人受験 1人合格

臨床工学科

1人受験 1人合格

介護福祉マネジメント学科

0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科

0人受験 0人合格

計: 19 人受験 14 人合格

一般選抜(前期):

看護学科

135 人受験 67 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

34 人受験 25 人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

9人受験 9人合格

診療放射線学科

67 人受験 37 人合格

臨床検査学科

45 人受験 30 人合格

臨床工学科

6人受験 5人合格

介護福祉マネジメント学科

0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科

4人受験 4人合格

計: 300 人受験 177 人合格

一般選抜 (後期):

看護学科

7人受験 5人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

1人受験 0人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

0人受験 0人合格

診療放射線学科

5人受験 0人合格

臨床検査学科

4人受験 3人合格

臨床工学科

2人受験 2人合格

介護福祉マネジメント学科

1人受験 1人合格

ソーシャルワーク学科

0人受験 0人合格

計: 20 人受験 11 人合格

大学入学共通テスト利用選抜(前期):

看護学科

115 人受験 52 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

59 人受験 36 人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

14 人受験 14 人合格

診療放射線学科

85 人受験 40 人合格

臨床検査学科

50 人受験 23 人合格

臨床工学科

6人受験 4人合格

介護福祉マネジメント学科

0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科

6人受験 6人合格

計: 335 人受験 175 人合格

大学入学共通テスト利用選抜(中期):

看護学科

5人受験 4人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

2人受験 2人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

1人受験 1人合格

診療放射線学科

6人受験 4人合格

臨床検査学科

4人受験 3人合格

臨床工学科

0人受験 0人合格

介護福祉マネジメント学科

0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科

0人受験 0人合格

計: 18 人受験 14 人合格

大学入学共通テスト利用選抜 (後期):

看護学科

4人受験 0人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

0人受験 0人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

1人受験 1人合格

診療放射線学科

3人受験 1人合格

臨床検査学科

1人受験 1人合格

臨床工学科

0人受験 0人合格

介護福祉マネジメント学科

0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科

0人受験 0人合格

計: 9人受験 3人合格

合計:1,086 人受験 754 人合格(前年1,203 人受験 784 人合格)

3. 入学前学習課題 の実施

- 3. 入学前学習課題の実施
 - ・総合型選抜(前期) および学校推薦型選抜(指定校、公募前期、公募後期) 合格者に対し実施した。
 - ・令和5 (2023) 年度入学試験では学科共通の課題を課し実施した。

委員会	研究倫理委員会
	委員長:保健医療学部臨床検査学科 教授 德永祐一
	教 授:進藤ゆかり、森口眞衣、樋口健太、竹内文也、石黒匡人、加藤敏文、 鈴木幸雄 准教授:及川直樹、矢口智恵、松浦智和
	講 師:松村寛子、阿部匡史、澁谷斉、齊藤高志 学 外:東海林哲郎、松永隆裕 事務局:杉原章仁、梅津愛、山崎愛菜、柳亮輔、横矢絵理
令和4 (2022) 年度 事業計画	実施内容・結果
1.委員会の開催	毎月一回開催される研究倫理委員会において、審査申請のあった研究計画書につ
(倫理審査)	いて審議し、研究実施の適否を判断した。
	○通常審査:32件 前年比:約130% (R3年度:24件)
	学部内訳:保健医療学部 27 件、総合福祉学部 5 件
	○迅速審査(承認案件の軽微な変更): 9件
	○多機関共同研究の審査: 2 件
2. 研究倫理教育の推	研究開発に関する行動規範をはじめ、研究成果の発表方法や研究費の適切な使用
進	など、科学研究に携わる者が身につけるべき事項の修得を目的とした研究倫理講座
	の受講機会を創出した。
	○講座:日本学術振興会研究倫理 e ラーニングコース
	〇対象:本学教職員
3.研究倫理研修の開	全体研修は開催できなかったが、学部/学科増設により申請者からの問い合わせが
催	増えたため、個別対応による研究倫理関連の情報提供を実施した。
	教員の増加と申請・問い合わせ内容の多様化を踏まえ、次年度以降の研修内容の
	精査を進めている。
4. 研究倫理審査申請	学部・学科増や申請内容の変化に対応するため、現行の倫理審査申請書の修正を
書及び同申請書作成	行う。
マニュアルの改訂等	① プルダウン内容修正追記等の申請書微調整
	② マニュアル改定に向けた修正事項の整理検討

5. その他	審査の円滑性向上のため、以下のとおり事務手続きの見直しや関係他部門との調
	整を進めた。
	① 審査案件に係る対象範囲の明確化:本学の実状を踏まえたチャートを作成し、
	該当しない研究についての審査案件処理を明確化した。
	② 迅速審査の手続きシステム化:原則として申請案件と同じ所属の委員が審査を
	担当するものとして報告書様式を整理、審査マニュアルも整備した。
	③ 委員会審査手続きの円滑化:申請書〆切予定日を事前開示し、申請者の便宜を
	図った。また承認後の発議処理を整理し、申請者への結果通知までの時間短縮を
	図った。
	④ 図書・学術振興委員会との連携:紀要「執筆要領」内容を調整し、審査案件処
	理のチャートを踏まえた内容への整合性を図った。
	⑤ 検討事案の対応準備:学部・学科増設および教員増に伴う申請案件の多様化、
	また委員会再編に伴う審査関連情報の共有化に向けて、次年度以降での検討に必
	要な情報の収集・整理・確認の態勢を強化した。

委員会	不正調查委員会
委員長名	委員長:保健医療学部臨床検査学科 教授 德永祐一
	教 授:山崎公美子、向井康詞、杉本芳則、品川雅明、千原伸也、伊藤一、笹岡眞
	弓、森口眞衣
構成員	准教授:及川直樹、矢口智恵、忍正人
件 戍 貝	講師:澁谷斉、加川宗芳、佐藤恵
	助 教:髙平昂
	事務局:青手木良光、杉原章仁、葛西若菜
令和4 (2022) 年度	実施内容・結果
事業計画	
1. 研究費不正行為	不正対象はなく調査の実施はなかった。
の調査	
2. 研究不正の調査	不正対象はなく調査の実施はなかった。

委員会	研究費審査委員会
委員長名	委員長: 学長 太田誠
	教授:草薙美穂、佐々木由紀子、西山修輔、竹内文也、照井レナ、鈴木幸雄
構成員	講師:合田央志、岡田一範
	事務局:杉原章仁、葛西若菜、村上理絵子、山崎愛菜、柳亮輔
令和4 (2022) 年度	
事業計画	実施内容・結果
1. 令和4 (2022)	令和4 (2022) 年度学術助成費、教育向上研究費の配当額の算定
年度学術助成費、教	公募要領に従った計画調書により審査され交付額を決定
育向上研究費の配当	
額の算定	
2. 令和4 (2022)	令和4(2022)年度研究費申請状況
年度研究費の公募・	(1) 看護学科
申請	学術助成費 (3件)、教育向上研究費 (1件)
・執行	代表・共同研究者総数 (13 名)
	(2) リハビリテーション学科
	学術助成費 (7件)、教育向上研究費 (0件)
	代表・共同研究者総数 (24 名)
	(3) 診療放射線学科
	学術助成費 (2件)、教育向上研究費 (5件)
	代表・共同研究者総数 (20 名)
	(4) 臨床検査学科
	学術助成費 (6件)、教育向上研究費 (0件)
	代表・共同研究者総数 (13 名)
	(5) 臨床工学科
	学術助成費 (3件)、教育向上研究費 (2件)
	代表・共同研究者総数 (12 名)
	(6) 介護福祉マネジメント学科
	学術助成費 (4件)、教育向上研究費 (6件)
	代表・共同研究者総数 (17 名)
	(6) ソーシャルワーク学科
	学術助成費 (0件)、教育向上研究費 (2件)

	代表・共同研究者総数 (6名)
3. 令和4 (2022)	3月29日に研究報告会を開催した。
年度研究活動報告	報告数:看護学科(4件)、リハビリテーション学科(7件)、診療放射線学科(7
	件)、臨床検査学科(6件)、臨床工学科(5件)、介護福祉マネジメント学
	科 (10件)、ソーシャルワーク学科 (2件)

委員会	人権擁護委員会
委員長名	委員長:保健医療学部リハビリテーション学科 教授 向井康詞
	教 授:山崎公美子、杉本芳則、品川雅明、千原伸也、笹岡眞弓、伊藤一、石橋晃
	仁、森口眞衣、溝部佳代、林美枝子
4 4	准教授:菊池実
構成員	講師:村上正和、齊藤高志、銭本隆行
	助 教:磯辺正道
	事務局:青手木良光
令和4 (2022) 年度	安长山 <u>农</u> 处用
事業計画	実施内容・結果
1. 関連規程の改定	規定修正案の再検討を行うとともに、人権擁護調査委員会の設置に関する事項に
に関する話し合い	ついて、本年度は事案が発生しなかったため審議はしていない。
2. 人権侵害の申し	人権侵害は発生しなかったため、調査委員会の設置と調査の支援は行われていな
立てが発生した場合	い。そのため、事実認定に関する調査報告を受けることも、解決策を審議し学長に
の対応	提出することもなかった。
3. ハラスメントが	学内でハラスメントの申し立てがあり、その小委員会の調査全てに本委員会委員
発生し、ハラスメン	長が立ち会った。
ト防止委員会から学	他の事業所や他学の教職員や学生との間でハラスメントは発生せず、事実確認の
長に提出された解決	場等への臨席を求められることもなかった。
案、およびその対応	
に関して、被申立人	
あるいは申立て人か	
らの再調査の申し出	
があった場合の対応	
4. 人権侵害に関す	特記することはなかった。
る防止のための啓発	
事業の実施と情報提	
供	

委員会
構成員 講師:合田恵理香、村上正和、黒蕨邦夫、遊谷斉、越石全 助 教:高橋銀司 事務局:澤口敏明、本間詩乃、中塚栞
構成員 講師:合田恵理香、村上正和、黒蕨邦夫、澁谷斉、越石全助教:高橋銀司事務局:澤口敏明、本間詩乃、中塚栞
構成員 助 教:高橋銀司 事務局:澤口敏明、本間詩乃、中塚栞
事務局:澤口敏明、本間詩乃、中塚栞 実施内容・結果 実施内容・結果 実施内容・結果 実施内容・結果 実施内容・結果 接業評価アンケートは令和2 (2020) 年度より導入された新システムのユニパに 移行した。新しいユニバーサルパスポートでの実施について、教員や学生への周知 が不足していたため、今年度は複数回のアナウンスや最終講義時に10分程度の時間 を設けることを各教員へ依頼し実施した。実験実習については引き続き検討改善を 行う。 行う。 行う。 新教務システムの導入により、うまく周知できていなかったため、教員からの フィードバックが課題であった。教員コメントの入力開始日や終了日、学生への公 オフィードバックの 開開始日と終了日を明確にし、授業評価アンケートの実施について印刷物の配布や アルファオフィスによるアナウンスを行った。 今年度は下記の様に3回の研修会を行い全教員が最低でも1度は研修会に参加しいての計画 教育力の向上を図った。 第1回:令和4 (2022) 年5月23日 (月) 16時30~17時30 「科研費に関する講演」白澤政和(国際医療福祉大学大学院) 第2回:令和4 (2022) 年7月22日 (金) 16:30~17:30
令和4 (2022) 年度 事業計画 実施内容・結果 1. 教育効果の評価 計画について *授業アンケートの 実施 授業評価アンケートは令和2 (2020) 年度より導入された新システムのユニパに 移行した。新しいユニバーサルパスポートでの実施について、教員や学生への周知 が不足していたため、今年度は複数回のアナウンスや最終講義時に10 分程度の時間 を設けることを各教員へ依頼し実施した。実験実習については引き続き検討改善を 行う。 2. 教育効果の評価 計画について *フィードバックの 実施 新教務システムの導入により、うまく周知できていなかったため、教員からの フィードバックが課題であった。教員コメントの入力開始日や終了日、学生への公 *フィードバックの 開開始日と終了日を明確にし、授業評価アンケートの実施について印刷物の配布や アルファオフィスによるアナウンスを行った。 3. 教育力向上につ いての計画 *教育力の向上を図った。 *教員研修会の実施 今年度は下記の様に3回の研修会を行い全教員が最低でも1度は研修会に参加し 教育力の向上を図った。 第1回:令和4 (2022) 年5月23日(月) 16時30~17時30 「科研費に関する講演」白澤政和(国際医療福祉大学大学院) 第2回:令和4 (2022) 年7月22日(金) 16:30~17:30
事業計画 1. 教育効果の評価 授業評価アンケートは令和2 (2020) 年度より導入された新システムのユニパに 移行した。新しいユニバーサルパスポートでの実施について、教員や学生への周知 *授業アンケートの が不足していたため、今年度は複数回のアナウンスや最終講義時に10 分程度の時間 を設けることを各教員へ依頼し実施した。実験実習については引き続き検討改善を 行う。 2. 教育効果の評価 新教務システムの導入により、うまく周知できていなかったため、教員からの フィードバックが課題であった。教員コメントの入力開始日や終了日、学生への公 *フィードバックの 開開始日と終了日を明確にし、授業評価アンケートの実施について印刷物の配布や 実施 アルファオフィスによるアナウンスを行った。 3. 教育力向上につ 今年度は下記の様に3回の研修会を行い全教員が最低でも1度は研修会に参加し 教育力の向上を図った。 第1回:令和4 (2022) 年5月23日(月)16時30~17時30 「科研費に関する講演」白澤政和(国際医療福祉大学大学院) 第2回:令和4 (2022) 年7月22日(金) 16:30~17:30
1. 教育効果の評価 授業評価アンケートは令和2 (2020) 年度より導入された新システムのユニパに 移行した。新しいユニバーサルパスポートでの実施について、教員や学生への周知 が不足していたため、今年度は複数回のアナウンスや最終講義時に10分程度の時間 を設けることを各教員へ依頼し実施した。実験実習については引き続き検討改善を 行う。 2. 教育効果の評価 新教務システムの導入により、うまく周知できていなかったため、教員からの フィードバックが課題であった。教員コメントの入力開始日や終了日、学生への公 **フィードバックの 開開始日と終了日を明確にし、授業評価アンケートの実施について印刷物の配布や アルファオフィスによるアナウンスを行った。 3. 教育力向上につ 今年度は下記の様に3回の研修会を行い全教員が最低でも1度は研修会に参加し 教育力の向上を図った。 **教員研修会の実施 第1回:令和4 (2022) 年5月23日(月)16時30~17時30 「科研費に関する講演」白澤政和(国際医療福祉大学大学院) 第2回:令和4 (2022) 年7月22日(金) 16:30~17:30
計画について 移行した。新しいユニバーサルパスポートでの実施について、教員や学生への周知 が不足していたため、今年度は複数回のアナウンスや最終講義時に 10 分程度の時間 を設けることを各教員へ依頼し実施した。実験実習については引き続き検討改善を 行う。 2. 教育効果の評価 新教務システムの導入により、うまく周知できていなかったため、教員からの フィードバックが課題であった。教員コメントの入力開始日や終了日、学生への公 *フィードバックの 開開始日と終了日を明確にし、授業評価アンケートの実施について印刷物の配布や アルファオフィスによるアナウンスを行った。 3. 教育力向上につ 今年度は下記の様に 3 回の研修会を行い全教員が最低でも 1 度は研修会に参加し 教育力の向上を図った。 *教員研修会の実施 第 1 回:令和 4 (2022) 年 5 月 23 日 (月) 16 時 30~17 時 30 「科研費に関する講演」白澤政和 (国際医療福祉大学大学院) 第 2 回:令和 4 (2022) 年 7 月 22 日 (金) 16:30~17:30
*授業アンケートの が不足していたため、今年度は複数回のアナウンスや最終講義時に10分程度の時間 を設けることを各教員へ依頼し実施した。実験実習については引き続き検討改善を 行う。 2. 教育効果の評価 新教務システムの導入により、うまく周知できていなかったため、教員からの フィードバックが課題であった。教員コメントの入力開始日や終了日、学生への公 *フィードバックの 開開始日と終了日を明確にし、授業評価アンケートの実施について印刷物の配布や アルファオフィスによるアナウンスを行った。 3. 教育力向上につ 今年度は下記の様に3回の研修会を行い全教員が最低でも1度は研修会に参加し 教育力の向上を図った。 *教員研修会の実施 第1回:令和4(2022)年5月23日(月)16時30~17時30 「科研費に関する講演」白澤政和(国際医療福祉大学大学院)第2回:令和4(2022)年7月22日(金)16:30~17:30
実施 を設けることを各教員へ依頼し実施した。実験実習については引き続き検討改善を行う。 2. 教育効果の評価 新教務システムの導入により、うまく周知できていなかったため、教員からのフィードバックが課題であった。教員コメントの入力開始日や終了日、学生への公*フィードバックの 開開始日と終了日を明確にし、授業評価アンケートの実施について印刷物の配布やアルファオフィスによるアナウンスを行った。 3. 教育力向上につ 今年度は下記の様に3回の研修会を行い全教員が最低でも1度は研修会に参加しいての計画 教育力の向上を図った。 *教員研修会の実施 第1回:令和4 (2022) 年5月23日(月)16時30~17時30「科研費に関する講演」白澤政和(国際医療福祉大学大学院)第2回:令和4 (2022)年7月22日(金)16:30~17:30
(行う。
2. 教育効果の評価 新教務システムの導入により、うまく周知できていなかったため、教員からの フィードバックが課題であった。教員コメントの入力開始日や終了日、学生への公 *フィードバックの 開開始日と終了日を明確にし、授業評価アンケートの実施について印刷物の配布や アルファオフィスによるアナウンスを行った。
計画について フィードバックが課題であった。教員コメントの入力開始日や終了日、学生への公 *フィードバックの 開開始日と終了日を明確にし、授業評価アンケートの実施について印刷物の配布や アルファオフィスによるアナウンスを行った。
*フィードバックの 開開始日と終了日を明確にし、授業評価アンケートの実施について印刷物の配布や 実施 アルファオフィスによるアナウンスを行った。 3. 教育力向上につ 今年度は下記の様に3回の研修会を行い全教員が最低でも1度は研修会に参加しいての計画 教育力の向上を図った。 *教員研修会の実施 第1回:令和4(2022)年5月23日(月)16時30~17時30 「科研費に関する講演」白澤政和(国際医療福祉大学大学院) 第2回:令和4(2022)年7月22日(金)16:30~17:30
実施 アルファオフィスによるアナウンスを行った。 3. 教育力向上につ 今年度は下記の様に3回の研修会を行い全教員が最低でも1度は研修会に参加しいての計画 教育力の向上を図った。 *教員研修会の実施 第1回:令和4(2022)年5月23日(月)16時30~17時30 「科研費に関する講演」白澤政和(国際医療福祉大学大学院) 第2回:令和4(2022)年7月22日(金)16:30~17:30
3. 教育力向上につ 今年度は下記の様に3回の研修会を行い全教員が最低でも1度は研修会に参加しいての計画 教育力の向上を図った。 *教員研修会の実施 第1回:令和4(2022)年5月23日(月)16時30~17時30 「科研費に関する講演」白澤政和(国際医療福祉大学大学院) 第2回:令和4(2022)年7月22日(金)16:30~17:30
いての計画 *教員研修会の実施 第1回:令和4(2022)年5月23日(月)16時30~17時30 「科研費に関する講演」白澤政和(国際医療福祉大学大学院) 第2回:令和4(2022)年7月22日(金)16:30~17:30
*教員研修会の実施 第1回:令和4(2022)年5月23日(月)16時30~17時30 「科研費に関する講演」白澤政和(国際医療福祉大学大学院) 第2回:令和4(2022)年7月22日(金)16:30~17:30
「科研費に関する講演」白澤政和(国際医療福祉大学大学院) 第2回:令和4(2022)年7月22日(金) 16:30~17:30
第2回:令和4(2022)年7月22日(金)16:30~17:30
「科学研究費申請に向けた勉強会」看護学科
11 4 WASKET BUT - LAW TO COMPANY OF BUT BUT BUT BUT A TO A TAIL
ワーク学科 松浦智和 准教授
第 3 回:令和4 (2022) 年 11 月 11 日 (金) 16 時 30~17 時 30
「成績評価基準とアセスメントポリシー(成績評価への組織的な対応~アセ
スメントプランの策定と運用)」田中正弘(筑波大学)
4. 教育力向上につ 令和4 (2022) 年9月2日 (金) に開催された「北海道 FDSD フォーラム 2021」
いての計画 に本校の FD 委員が出席した。また、フォーラムに関する情報を FD 委員会のメン
*授業方法の開発 バーに紹介し情報共有を行った。
5. その他 北海道大学等の主催で FD に関するセミナーをアルファオフィスなどで本学の教員
に周知し教育力の向上を図った。

委員会	教員選考委員会
委員長名	委員長:学長 太田誠
構成員	教 授:小野幸子、山崎公美子、向井康詞、杉本芳則、品川雅明、千原伸也
	審查委員:都度指定
令和4(2022)年度	実施内容・結果
事業計画	夫 他 内 谷 ・ 福 未
1. 本学専任教員の採	(1)委員会の開催について
用又は昇任につい	計 11 回の委員会を開催した。
て、候補者の審査を	(2) 採用について
行う。審査は、日本	計 30 件の公募を行い、36 名の候補者について審査を行った。
医療大学教員選考委	(3) 昇任について
員会規程に定められ	計8名の候補者について審査を行った。
ている資料の収集と	
調査によって総合的	
に行う。	

委員会・委員長名	ハラスメント防止委員会
	委員長:保健医療学部リハビリテーション学科 教授 向井康詞
	教 授:山崎公美子、杉本芳則、品川雅明、千原伸也、伊藤一、笹岡眞弓、石橋晃
構成員	仁石黒匡人
	事務局:青手木良光、松平貴、中川勝義、櫻井浩介、小川雅人
令和4 (2022) 年度	
事業計画	実施内容・結果
1. ハラスメントの	日本医療大学ハラスメントの防止等に関する規程に定められている通り、ハラス
排除及び防止に係る	メントの排除及び防止に関する啓発のため、来年度学生に周知される CAMPUS GUIDE
指導及び改善に関す	の関連部分の修正・加筆を実施した。
ること	
2. ハラスメントの	3月24日に、教職員を対象とするハラスメント関連の研修「ハラスメント防止啓
排除及び防止のため	発研修 2022」を大学事務局と共催で実施した。
の啓発活動及び研修	
に関すること	
3. 苦情の申立てに	3-1 苦情申立てに対しては、すみやかに受理の可否を審議することになってい
関する事実関係の調	たが、令和4(2022)年度は6件の苦情申立てがあった。
査、審議等に関する	(エビデンス 2 議事録)
こと	3-2 上記6件のうち5件については調査小員会が設置され、調査後に審議を行
	い、結果を学長に報告した。1件については調査小委員会を設置せず、審議を行
	い、結果を学長に報告した。
	3-3 昨年度から、被申立人が他の事業所の雇用者や他学の学生で、申し立て内
	容が事実であると確認された場合は、その対応、再発防止を要請することになっ
	ていたが、そうした案件は発生しなかった。また本学の教職員や学生が行為者
	で、その調査や対処を他の事業所や他学から求められることもなかった。
4. 総括と報告	4-1 今年度のハラスメント発生は苦情申し立ての受理6件となっている。
	4-2 年度末に報告書を IR 室に提出する。

委員会	保健管理委員会
委員長名	委員長:保健医療学部看護学科 教授 松本真由美
構 成 員	教 授:梅森祥央、林美枝子
	准教授:泉水朝貴、菊地実、松浦智和
	講師:小宅千恵子
	助教:髙平昂
	保健室:本間美恵
	事務局:澤口敏明、中野渉、三木つかさ
	保健管理委員会は令和4(2022)年度新規に立ち上がった委員会である。学生た
目的	ちの大学生活への適応や心身の健康・修学を支援することに関わる事項を審議し、
н ну	保健室・カウンセリングルーム・障害学生支援部署を中心に保健管理を統括するこ
	とを目的とする。
令和4 (2022) 年度	実施内容・結果
事業計画	JOHN THE MEDICAL
1. 健康診断の日程	令和4 (2022) 年度は、年度当初に一斉健診日を設定することが困難であり、事
調整と結果返却	務職員が日医大病院、各学科長と煩雑な日程調整を担い、全学科全学年のスケ
	ジューリングを行い、4月から6月までに実施した。血液検査の結果は随時返却さ
	れたが、全健診結果の返却に時間を要し、9月に至った学科・学年があった。次年
	度の健診については日医大病院とよりスムーズな実施に向け調整ずみである。
2. 小児感染症ワク	医療・福祉系の学生の場合、実習時に小児ワクチン4種、B型肝炎、その他学科
チン接種指導	によって求められる感染症の抗体値が基準値を上回る必要がある。入学前からワク
	チン接種の必要性について文書で指導し、罹患歴や母子手帳に記載されているワク
	チン接種歴の複写の提出を促した。
	1年生の健診時の抗体価検査結果をもとに、学生自身がワクチン接種の必要性を
	理解し、基準値以下の場合は接種についての理解を促すために、今年度からワクチ
	ン接種管理表書き方指導を学科ごとに実施した。しかし、理解不足の学生が多数お
	り、保健室での指導は困難を極めた。
3. B型肝炎ワクチン	B型肝炎ワクチン接種は全学科のほぼ全員の学生が接種を要するため、健診同様
集団接種指導	日医大病院との時間調整が難航した。学生たちに個別接種を推奨し、集団接種人数
	を縮小した結果、実施の目処がたち、6月から12月にかけ、集団接種希望者に対
	し、3回の接種を終了した。

4. 学生の傷病、相談、健診後指導

主なものは以下の通りである。

- 1. コロナ陽性、不整脈で自宅から救急搬送、病院で精密検査後、不整脈の手術治療を実施。
- 2. 拒食症症状あり、体重コントロール不良にて相談対応。
- 3. 過換気発作にて保健室救急搬送後、既往歴を確認。
- 4. 帯状疱疹ヘルペスによるベル麻痺と急性扁桃炎による高熱で2名が緊急入院。
- 5. 試験日や授業中に血管迷走神経反射発症例が5件。
- 6.メンタル面での相談は学生が8名と職員2名。内容は人間関係や実習中のストレスによる胃腸障害、家庭内事情、学業不振等。自分の思いを語ることで次の行動につながり、自己解決に至れた場合があった。
- 7. 健診結果 D ランクの学生指導を実施。

学生自身が保健室やカウンセリングルームを来室するか、学担等から促されて来室した学生たちの中で、受診が必要と判断された場合は保健室職員やカウンセラーが適切な診療科を紹介し、受診に至った。軽快し、その後の報告に訪れる学生がいる一方、事件化したものもあり、切れ目のない相談支援について課題が残った。

5. 障害学生支援

本学の2学部7学科のうち、4学科に6名の支援対象者が在席する。令和元 (2019) 年度からの継続者が4名、令和4 (2022) 年度からの新規対象者が2名である。支援対象は本人からの支援申請書の提出があった場合であり、支援を求めない障害のある学生は在籍していると考えられる。

支援対象者の内訳は身体障害1名、精神・発達障害2名、その他3名である。 主な支援内容は講義時や定期試験時の座席の配慮、本人の同意を得て科目担当 者、学担らと情報共有の上、個別に必要な配慮を実施した。

身体・精神の障害に加え、昨今は難病等身体疾患と関連し、支援を求める学生が 増加している。今後は、学生たちの多様な状況にあわせ、適切な合理的配慮の実施 が必要である。

カウンセリング ルームの利用

担当臨床心理士が相談・援助活動と、予防・教育・広報活動、その他として学生相談にかかわる情報収集、研修会への参加等を実施した。個別相談数は、実数 20人、延べ数が 50~60 件である。

7. 真栄キャンパス 保健室・カウンセリ ングルーム設置状況

真栄の保健室・カウンセリングルームについては、学生数が少なく、また、隣接する真栄クリニックが急病対応できることから、令和4 (2022) 年度の開設はなかった。

ワクチン接種状況の管理は豊平キャンパスの保健室が担った。今後も保健室・カウンセリングルーム設置を進めていく。

委員会	日本医療大学留学生別科
	以
安貝文石	
	令和4 (2022) 年4月~
	別科長(准教授)平野啓介、講師 唐煒、講師 一色舞子、助手 千葉直子
	※必要に応じて国際交流センター(オブザーバー出席:片桐、小林)出席
	令和 4 (2022)年 9 月~
構 成 員	青手木良光、別科長(准教授)平野啓介、講師 唐煒、講師 一色舞子、
	助手 千葉直子、事務 劉莎
	令和4 (2022) 年 10 月~
	青手木良光、小林妙高、鎌田顕、別科長(准教授)平野啓介、講師 唐煒、
	講師 一色舞子、助手 千葉直子、事務局 劉莎、宮田貴喜、渡邊駿、栗本瑞恵
	※必要に応じて総務グループ(片桐裕一、彦坂崇之)出席
令和4 (2022) 年度	実施内容・結果
事業計画	夫 旭 門台・柏木
1. 留学生募集	(1) 募集エージェントとの折衝・オンラインプレゼンテーションを毎月・随時実
	施した(主担当 唐)
	(2) 留学生の出入国在留管理局への手続き・折衝について法人本部(法人事務局
	長・事務局長付職員)の協力を得た。
	(3) 令和5 (2023) 年4月期留学生、保護者へのオンラン面談実施
2. 生活支援	(1)9月期留学生(1名:韓国)の受け入れに伴い、留学生の生活ニーズに応じ
	て対応、在住区役所への申請等を行った。その際には法人本部(法人事務局
	長・国際交流センター・事務局長付職員・真栄キャンパス事務職員)、総合福祉
	学部教員の協力を得た。
	(2) 令和5 (2023) 年4月期留学生(1名:韓国)の受け入れに伴い、生活ニー
	ズに応じて対応、在住区役所への申請等を行った。その際には法人本部(法人
	事務局長・事務局長付職員)の協力を得た。
3. 学習支援	(1) 9月期留学生(1名:韓国)の受け入れに伴い、留学生へ授業を実施した。
	また留学生の学習ニーズに応じて随対応した。その際には法人本部(法人事務
	局長・国際交流センター・事務局長付職員・真栄キャンパス事務職員)、総合福
	祉学部教員の協力を得た。
	(2) 教育課程の見直しを実施し、留学生の日本語理解が進むよう改定した。担当
	教員での科目担当を決定しシラバス作成にあたった。

4. 進路支援	9月期留学生(1名:韓国)の受け入れに伴い、総合福祉学部への入学を強く希
	望
	していることも鑑み、適切な進路選択ができるよう助言・支援を行った。その際に
	は法人本部(法人事務局長・国際交流センター・事務局長付職員・真栄キャンパス
	事務職員)、総合福祉学部教員の協力を得た。
5. 日本語支援	(1) 留学生への日本語支援 (9月期1名)
	(2) 留学生予定者への日本語支援(令和5 (2023) 年4月期1名)
	(3)技能実習生入国後講習
	(4)技能実習生第35回介護福祉士国家試験受験予定者に関連する日本語支援
6. その他各種支援	(1) 4月16日~技能実習生入国後講習(日本語支援)を担当した(主担当 千
	葉・副担当 一色・その他非常勤)
	(2) 2月23日~技能実習生入国後講習(日本語支援)を担当した(主担当 千
	葉・副担当 一色)
	(3)技能実習生への日本語 e ラーニングシステム(新システム導入)に伴う問題
	等の移行業務を行った
7. 留学生別科委員	毎月1回定期的に開催した。各担当から報告・連絡・相談を受け情報共有を行っ
会の開催	た。
	令和4 (2022) 年4月13日 (水) 10時50分~11時55分
	令和4 (2022) 年5月25日 (水) 10時00分~12時25分
	令和4 (2022) 年6月23日 (木) 15時00分~16時10分
	令和4 (2022) 年7月19日 (火) 9時30分~12時00分
	令和4 (2022) 年8月9日 (火) 9時30分~12時40分
	令和4 (2022) 年9月7日 (水) 9時30分~12時10分
	令和4 (2022) 年10月7日(金)14時30分~15時40分
	令和4 (2022) 年11月18日(金) 9時30分~12時00分
	令和4 (2022) 年 12 月 19 日(月) 13 時 15 分~14 時 10 分
	令和5 (2023) 年1月19日 (木) 10時00分~12時00分
	令和5 (2023) 年2月13日(月)13時00分~14時30分
	令和5 (2023) 年3月7日 (火) 15時00分~16時10分

委員会	日本医療大学認知症研究所
委員長名	所長:対馬輝美
	対馬輝美研究員、髙橋光彦研究員、林美枝子研究員、八田達夫研究員、浅井さおり
構 成 員	研究員、岸上博俊研究員、東海林哲郎研究員、田村素子研究員、小林孝広研究員、
	荒木めぐみ研究員、新岡美樹研究員、銭本隆行研究員
令和4 (2022) 年度	実施内容・結果
事業計画	夫 施 内 谷 ・ 柏 木
1. 研究事業	
1-1 「アスパラガス	株式会社アミノアップからの受託研究として、ノテ福祉会の介護事業所の入居
茎抽出物(ETAS®50)	者、利用者を対象に、アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の臨床効果を図るための試
の軽度認知症患者に	験を平成30 (2018) 年10月から開始し、令和2 (2020) 年2月で終了した。研究
対する臨床効果の検	成果を令和2(2022)年2月に Journal「Evidence-Based Complementary and
証Ⅱ」	Alternative Medicine」に論文として投稿し、8月に Accept され、受託研究は終了
	した。
1-2 スヌーズレン研	ノテ福祉会と共同し、「スヌーズレン」に関する研究を継続している。
究	
2. 社会貢献活動	日本医療大学の1年生を対象に、認知症サポーターの養成講座を今年度も実施し
認知症サポーター養	た。リハビリテーション学科の2年生に対してはフォローアップ講座も実施した。
成講座	また日本医療大学社会人講座においても、その1回で認知症サポーター養成講座を
	提供した。
3. その他	ニッセイ財団から研究助成を受けて実施していた研究において、一連の成果を公
過去の研究補助金の	表してきたが、今年度はその最後となる介入研究に関する論文を『日本医療大学紀
成果発表	要』第9巻に投稿し受理された。「認知症介護者支援への小規模多機能型居宅介護事
	業所の新たな展開に関する研究-アセスメント・シートによる介入研究の効果につ
	いて-」(23-33ページ) である。

- 11. 教員の自己点検・評価
- 11-1 教員の教育・研究・社会活動
- 11-1-① 総長、学長

氏名<u>島本</u>和明 学部<u>保健医療学部</u>学科<u>看護学科</u>職階<u>総長・教授</u>専門分野:高血圧、生活習慣病、メタボリックシンドローム 教育活動:

責任科目:形態機能学Ⅱ(1年次、1単位、30時間)、形態機能学Ⅳ(1年次、1単位、30時間)、疾病論Ⅰ(2年次、1単位、30時間)、内科学(2年次、1単位、30時間)、臨床検査医学総論Ⅰ(1年次、1単位、15時間)、臨床検査医学総論Ⅱ(2年次、1単位、15時間)、医療総論(1年次、1単位、15時間)、臨床医学概論(2年次、2単位、30時間)、医学概論(1年次、2単位、30時間)

担当科目:形態機能学Ⅱ(30 時間)、形態機能学Ⅳ(30 時間)、疾病論Ⅰ(30 時間)、 内科学(30 時間)、臨床検査医学総論Ⅰ(15 時間)、臨床検査医学総論Ⅱ(15 時間)、医療総論(15 時間)、臨床医学概論(30 時間)、医学概論(30 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

入試委員会、国試対策委員会(委員長)、大学院設置準備委員会(委員長) 学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、国際高血圧学会、日本循環器学会、日本 本老年医学会、日本循環器病予防学会、日本心臟病学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:日本高血圧協会(理事長)、社会福祉法人 恩賜財団済生会 北海道済生会支部 (会長)、札幌産学官医療連携協議会(座長)、北海道心臓協会(副理事長)、公益財団法人伊藤医薬学術交流財団(副理事長)、日本臨床研究フォーラム J-ARF(副理事長)、公益財産法人 先進医薬研究振興財団(理事)、一般財団法人つしま医療福祉研究財団(理事)、一般財団法人 つくし奨学・研究基金(評議員)、一般財団法人禎心会記念財団(評議員)、一般財団法人代謝異常治療研究基金(評議員)、国土交通省 社会資本整備審議会(専門委員)、士別市健康づくりアドバイザー

顕彰:瑞宝中綬章、北海道功労賞

 氏名
 太田 誠 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階

 学長・教授

専門分野:理学療法概論·原論、健康政策、神経筋促通治療学

教育活動:

責任科目:理学療法概論(1年次、1単位、30時間)、理学療法概論演習(1年次、1単位、30時間)、健康政策論(4年次、1単位、15時間)、リハビリテーション概論(3年次、1単位、15時間)

担当科目:理学療法概論(30 時間)、理学療法概論演習(30 時間)、健康政策論(15 時間)リハビリテーション概論(15 時間)

非常勤講師:北海道医療大学(修士課程「リハビリテーション管理学特論」4時間)、 北海道医療大学(リハビリテーション科学部4年「臨床実習V」2時間)

学内委員会・学科内業務等:

運営会議、教授会、入学試験委員会(委員長)、研究費審査委員会(委員長)、教員選考委員会(委員長)、国際交流委員会(委員長)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本予防理学療法学会、北海道リハビリテーション学会 (理事・学術委員)、 北海道神経リハビリテーション治療フォーラム (世話人)

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:一般社団法人北海道リハビリテーション専門職協会(会長)、公益社団法人日本理学療法士協会(監事)、公益社団法人北海道理学療法士会(政策提言委員会委員長)、特定非営利活動法人HPT(監事)、札幌市理学療法赤十字奉仕団(委員長)、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構(評価員)、一般社団法人北海道へルスケア・ロボット協会(理事)、北海道マラソン(大会役員)、札幌国際スキーマラソン(実行委員会役員)、北海道地域医療介護総合確保基金(介護分)検討協議会及び北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画検討協議会(委員)

顕彰:(一社) リハビリテーション教育評価機構 評価員表彰状

11-1-2 保健医療学部 看護学科教員

氏名 小野 幸子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授·学部長

専門分野:老年看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:老年看護概論(3時間)、老年看護援助論I(1.5時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

国際交流委員会 (委員長)、学部長

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本老年看護学会(査読委員)、日本看護科学学会、日本認知症ケア学会、日本 看護学教育学会(査読委員)、日本看護学会、北日本看護学会(査読委員)、日本 看護管理学会(査読委員)、日本公衆衛生看護学会、日本死の臨床研究会、千葉 看護学会(査読委員)、日本保健医療福祉専門職種連携教育学会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究 (C) 「看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築」研究代表者

基盤研究(C)「看護基礎教育における高齢者のケア倫理教育プログラムの開発」

基盤研究(C)「高齢者ケア施設の看護職に向けた新任期看護師の教育支援ガイド作成の支援モデルの構築」

基盤研究(C)「特別養護老人ホームにおける WBT 併用ケア管理教育プログラムの開発」

社会活動:新潟県立看護大学老年看護学領域研究会における老年看護 CNS コース修了生 2 名を対象に老年看護 CNS 受験に向けた、WEB を活用した教育支援、ノテ福祉会高齢者ケア施設・事業所の看護職・介護職対象の研修会講師、新潟県立看護大学博士前期課程(主指導)の修了生 5 名の学会発表に向けたメール指導

北海道看護協会 令和 4 (2022) 年度北海道専任教員養成講習会:「看護教育方

法論Ⅱ⊥講師

顕彰:なし

氏名<u>山崎 公美子</u> 学部 <u>保健医療学部</u> 学科<u>看護学科</u> 職階<u>教授・学科長</u>専門分野:基礎看護学、看護教育学、看護歴史・占領史 教育活動:

責任科目:看護学概論(1年次、2単位、30時間)、臨床看護技術演習(4年次、1単位、30時間)、基礎看護学実習 I (2年次、1単位、45時間)、基礎看護学実習 I (2年次、2単位、90時間)、診療放射線学科・基礎看護学(2年次、1単位、15時間)

担当科目:看護学概論(30時間)、看護過程論(30時間)、臨床看護技術演習(30時間)、

看護研究演習 I (24 時間)、看護研究演習 II (30 時間)、基礎看護学実習 I (45 時間)、基礎看護学実習 II (90 時間)、診療放射線学科・基礎看護学 (4 時間)

非常勤講師:札幌医科大学(看護教育論1)

学内委員会・学科内業務等:

教務委員会、研究倫理委員会、自己点検・評価委員会、入学試験委員会、入学 者選抜委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、教員選考委員会、国際交流 委員会、学生懲戒委員会、学生募集対策委員会、学科長

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

American Association for the History of Nursing、日本看護歴史学会、日本看護科学学会、日本看護教育学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発」研究代表者

社会活動:日本医療大学 生涯学習講座 11 月:「看護師の目配り気配り」講師 北海道看護協会 令和4 (2022) 年度北海道専任教員養成講習会:「看護教育方 法論 II | 講師

顕彰:なし

氏名<u>浅井 さおり</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>看護学科</u> 職階<u>教授</u> 専門分野: 老年看護学

教育活動:

責任科目:老年看護学概論(2年次、2単位、30時間)、老年看護援助論 I (2年次、1単位、30時間)、老年看護学実習 I (3年次、2単位、90時間)、老年看護学実習 II (4年次、2単位、90時間)

担当科目:老年看護学概論(14 時間)、老年看護援助論 I (12 時間)、老年看護学実習 I (90 時間)、老年看護学実習 II (90 時間)、老年看護援助論 II (20 時間)、看護ゼミナール I (28 時間)、看護研究演習 I (22 時間)、看護研究演習 II (28 時間)、臨床看護技術演習(4 時間)、初期実習(45 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

学年担任(4年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本保健医療行動科学会、日本看護科学学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本認知症ケア学会、日本健康科学学会、聖路加看護学会、死の

臨床研究会、日本看護倫理学会、日本公衆衛生学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 伊津美 孝子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 特任教授

専門分野:基礎看護学、看護情報学、看護管理学

教育活動:

責任科目:看護倫理(3年次、1単位、15時間)、看護管理(3年次、1単位、15時間)、 統合実習(4年次、2単位、90時間)

担当科目:看護の基本技術論(15時間)、看護倫理(15時間)、看護管理(15時間)、統

合実習(90時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:なし

学術活動:

所属学会·研究会等:

看護管理学会、看護研究学会、情報システム教育学会

科学研究費 (研究資金) の取得:

基盤研究 (C) 「医療ビッグデータ時代における看護の見える化推進 e ラーニングシステムの開発」研究代表者

社会活動:教育システム情報学査読 2編担当

顕彰:なし

氏名<u>井上 由紀子</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>看護学科</u> 職階<u>教授・副学科</u> 長

専門分野:小児看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:小児看護学概論 (10.5 時間)、小児看護援助論 I (6 時間)、小児看護援助論 I (9 時間)、小児看護学実習 (90 時間)、看護研究演習 I (22.5 時間)、看

護研究演習Ⅱ(22.5時間)、臨床看護技術演習(6時間)

非常勤講師:なし

学内委員会 · 学科内業務等:

教務委員会、副学科長

学術活動:

所属学会・研究会等:なし

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 河原畑 尚美 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野:老年看護学

教育活動:

責任科目:老年看護援助論Ⅱ(3年次、1単位、30時間)、災害看護(4年次、1単位、15時間)

担当科目:老年看護概論(10時間)、老年看護援助論 I (6時間)、老年看護援助論 II (30時間)、老年看護学実習 I (90時間)、老年看護学実習 II (90時間)、災害看護(15時間)、初期実習(15時間)、看護研究演習 I (20時間)、看護研究演習 II (30時間)、臨床看護技術演習(8時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

教務委員会、学年担任(3年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本老年看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護管理学会、日本感染看護学会、日本死の臨床研究会、日本災害看護学会、日本循環器看護学会、北日本看護学会、日本認知症ケア学会、大学病院の緩和ケアを考える会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「看護基礎教育における高齢者のケア倫理教育プログラムの開発」研究代表者

基盤研究(C)「看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築」

社会活動:日本看護系大学協議会災害連携教員、日本医療大学病院 院内研修講師「看護 過程」

顕彰:なし

氏名 草薙 美穂 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野:小児看護学

教育活動:

責任科目:小児看護学概論(3年次、2単位、16時間)、小児看護援助論I(3年次、1単位、8時間)、小児看護学実習(4年次、2単位、90時間)

担当科目:初期実習(20 時間)、小児看護援助論Ⅱ(20 時間)、看護研究演習Ⅱ(30 時間)、臨床看護技術演習(10 時間)

非常勤講師:令和4 (2022) 年北海道保育士等キャリアアップ研修「乳児保育の意義」 e ラーニング講師

学内委員会 • 学科内業務等:

図書・学術振興委員会 (委員長)、キャリアセンター運営委員会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本小児看護学会、日本小児保健協会、乳幼児保健学会、北海道母性衛生学会

科学研究費 (研究資金) の取得:

基盤研究 (C)「ファミリーパートナ―シップモデルに基づく育児支援―支援者の人材育成への方略―」研究代表者

基盤研究(B)「親子の相互作用を重視した観察法に基づく虐待予防・育児支援システムの開発研究」

基盤研究(C)「親による乳幼児への体罰を防ぐための支援ガイドラインの開発」

基盤研究(B)「子育て世代包括支援における親子の関係性支援スキルアップ研修プログラムの開発」

社会活動:北海道小児救急電話(#8000)相談員

顕彰:なし

氏名 小山 満子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野:母性看護学、助産学、看護教育学

教育活動:

責任科目:母性看護学概論(2年次、2単位、30時間)、母性看護援助論 I (3年次、1単位、15時間)、母性看護援助論 II (3年次、1単位、15時間)、母性看護学実習(4年次、2単位、90時間)、看護教育(4年次、1単位、15時間)

担当科目:母性看護学概論(30時間)、母性看護援助論 I(15時間)、母性看護援助論 I(30時間)、母性看護学実習(58時間)、初期実習(27時間)、看護教育(15時間)、看護研究演習 I(30時間)、看護研究演習 I(30時間)、 臨床看護技術演習(4時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

教授会、教員選考委員会、領域長会議、実習施設の継続活動、実習施設新規 開拓の活動業務

学術活動:

所属学会·研究会等:

母性衛生学会学術集会、日本看護学科学会学術集会、日本思春期学会、日本 本看護教育学学会、日本助産師学会、日本フォレンジック看護学会、助産 師教育協議会

科学研究費(研究資金)等の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名: 佐々木 由紀子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野: 成人看護学、看護管理学、がん看護学

教育活動:

責任科目:成人看護学概論(2年次、2単位、30時間)、成人看護学持論(2年次、1単位、30時間)、成人看護学実習Ⅱ(4年次、2単位、90時間)、看護ゼミナールⅠ(2年次、1単位、30時間)、健康教育論(3年次、1単位、15時間)

担当科目:成人看護学概論(30時間)、成人看護援助論 I (15時間)、成人看護援助論 II (7時間)、成人看護援助論 III (8時間)、成人看護持論(22時間)、成人看護学実習 I (180時間)、成人看護学実習 II (90時間)、看護ゼミナール I (30時間)、看護研究演習(30時間)、看護を知る(15時間)、チーム医療論(4時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

教授会、研究費審查委員会、教員選考委員会、学年担任(4年生)、看護学実 習病院開拓

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護学教育学会、日本看護歴史学会、医療事故・紛争対応研究会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:病院での研修講師

顕彰:なし

氏名 滋野 和恵 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野: 精神看護学

教育活動:

責任科目:精神看護援助論 I (3年次、1単位、15時間)、精神看護援助論 II (3年次、1単位、30時間)、精神看護学実習(3年次、2単位、90時間)、看護研究(3年次、1単位、30時間)、看護研究演習 II (4年次、1単位、30時間)、初期実習(1年次、45時間)

担当科目:精神看護学援助論 I (15 時間)、精神看護援助論 II (30 時間)、精神看護学実習 (450 時間)、看護研究 (30 時間)、看護研究演習 II (30 時間)、初期実習 (45 時間)、看護研究演習 I (22 時間)、臨床看護技術演習 (6 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

学生委員会、FD 委員会、実習検討会、カリキュラム検討会、体験入学

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

教務委員会、実習検討会、カリキュラム検討会、学年担任(1年生)

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言者、北海道看護協会学会委員会 委員・査読委員、インターネットジャーナル看護科学研究査読委員、日本看護 研究学会第31回北海道地方会学術集会実行委員(事務局長)

顕彰:なし

氏名 進藤 ゆかり 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野:地域・在宅看護学、老年看護学、家族看護学、慢性看護学

教育活動:

責任科目:在宅看護学概論(2年次、2単位、30時間)、在宅看護援助論 I (3年次、1単位、30時間)、在宅看護援助論 II (3年次、1単位、30時間)、在宅看護論 実習 (4年次、2単位、90時間)

担当科目:在宅看護学概論(30時間)、在宅看護援助論 I (30時間)、在宅看護援助論 II (26時間)、在宅看護学実習(90時間)、看護研究演習 I (60時間)、看護研究演習 II (60時間)、臨床看護技術演習(15時間)、初期実習(45時間)

非常勤講師:札幌医科大学(がん専門医療人セミナー講師)

学内委員会 • 学科内業務等:

教授会、倫理委員会、実習・実習室検討会長、カリキュラム検討会

学術活動:

所属学会·研究会等:

ホスピスケア研究会、看護総合科学研究会(評議員、理事、会計)、日本家族 看護学会、日本精神保健看護学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会、日 本看護科学学会、日本看護学教育学会、北海道ペインクリニック学会、北海 道公衆衛生学会(評議員)、日本公衆衛生看護学会、日本地域看護学会、日本 在宅看護学会、日本看護研究学会、Public Health Nursing (査読委員)、看 護科学研究(査読委員)

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「非がん性慢性痛を抱えたがん患者に対するオピオイド鎮痛薬 治療の現状と課題」研究代表者

基盤研究 (C) 「終末期がん患者の望む生き方を支える看護師の対話力獲得モデルと尺度の開発」

基盤研究(C)「視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発」

基盤研究 (C) 「在宅・訪問看護における精神看護ケアの多職種協同システムの提案」

社会活動:科研製薬株式会社 社外プロトコール等アドバイザー、札幌市立大学茶部サークルボランティア講師、北海道大学病院 看護師による特定行為に関する委員会

顕彰:なし

氏名 高橋 美和 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野:看護管理学、統合看護学、基礎看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:初期実習(45時間)、基礎看護学実習Ⅱ(90時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

教授会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本看護管理学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本国際保健医療学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:東北大学看護管理学研究会運営委員

顕彰:なし

氏名 松本 真由美 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野:精神保健学、社会福祉学、発達心理学

教育活動:

責任科目:社会福祉学(1年次、1単位、15時間)、心理学(1年次、1単位、15時間)、 人間関係の科学(1年次、1単位、15時間)、発達心理学(1年次、1単位、 15時間)、ボランティア活動(2年次、1単位、30時間)、心の健康科学 I(2 年次、1単位、15時間)、心の健康科学 II(2年次、1単位、15時間)、看護 研究演習(4年次、2単位、60時間)、心理学(1年次、1単位、15時間)、 人間関係の科学(1年次、1単位、15時間)、心理学(1年次、1単位、15時 間)、人間関係の科学(1年次、1単位、15時間)

担当科目:社会福祉学(15 時間)、ボランティア活動(15 時間)、心理学(45 時間)、人間関係の科学(45 時間)、発達心理学(15 時間)、心の健康科学 I (2 時間)、心の健康科学 II (2 時間)、看護研究演習(60 時間)

非常勤講師:北星学園大学(精神保健の課題と支援)

学内委員会・学科内業務等:

教授会、保健管理委員会(委員長)、入学者選抜委員会、入学前学習課題担当 (責任者)、学年担任(2年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本精神障害者リハビリテーション学会、日本地域・病院精神学会、日本精神保健福祉学会、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会(地域委員)、日本学生相談学会、北海道地域福祉学会(理事・学術誌編集委員長)、北海道社会福祉学会

科学研究費 (研究資金) の取得:

基盤研究(C)「政策決定過程における精神障害当事者委員参画と当事者活動との関連」研究代表者

基盤研究(C)「精神科病院における非自発的入院患者の権利擁護に関する調査研究」研究代表者

社会活動:精神障害者回復者クラブすみれ会理事、北海道庁総務部法務・法人局北海道史編さん委員会社会・文化小部会委員、精神医療国家賠償請求訴訟研究会専門部会担当、2022 年度「第 25 回精神保健福祉士全国統一模擬試験」問題作成者(株式会社 M3 エデュケーション)、大阪精神医療人権センター権利擁護システム研究会精神医療審査会班担当、精神医療権利擁護団体どさんこコロ代表

顕彰:なし

氏名: 宮本 篤 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 特任教授

専門分野:医療薬学

教育活動:

責任科目:

看護学科:総合医療論/医学概論(1年次、1単位、15時間)、臨床薬理学(2年次、1単位、30時間)、臨床薬理学(3年次、1単位、30時間)、チーム医療論(2年、1単位、3時間)

リハビリテーション学科: 薬理学 (1年次、1単位、30時間)、保健医療論 (2年次、1単位、15時間)、チーム医療論 (3年次、1単位、1.5時間)

診療放射線学科:総合医療論/医学概論(1年次、1単位、15時間)、薬理学(2年次、 1単位、15時間)、臨床薬理学(2年次、1単位、15時間)、チーム医療論(2 年次、1単位、3時間)

臨床検査学科:臨床薬理概論(2年次、1単位、15時間)

担当科目:

看護学科:形態機能学IV (6時間))

非常勤講師:北海道文教大学看護学科(臨床薬理学)、吉田学園医療歯科専門学校臨床工学技師科(臨床薬理学)、浦河赤十字看護専門学校(薬理学)、北海道消防学校(救急救命士処置拡大二行為講習)

学内委員会・学科内業務等:なし

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

(公社) 日本薬剤師会会員、(一社) 日本緩和医療薬学会名誉会員

科学研究費(研究資金)の取得: なし

社会活動: (一社) 日本医療安全調査機構北海道ブロック地域推薦窓口担当者(日本医療薬学会代表)、(一社) 北海道薬剤師会相談役、(一社) 北海道病院薬剤師会顧問

顕彰: なし

氏名 森口 眞衣 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野:アジアの医療思想史、医学概念史、宗教精神医学

教育活動:

責任科目:倫理学(1年次、1単位、15時間)、医療と論理学(1年次、1単位、15時間)、生命倫理(1年次、1単位、15時間)、医療と宗教(1年次、1単位、15時間)、医療と哲学(1年次、1単位、15時間)

担当科目:倫理学(30時間)、医療と論理学(15時間)、医療と宗教(30時間)、医療と 哲学(30時間)、生命倫理(45時間)、看護研究演習(60時間) 非常勤講師:札幌保健医療大学(生命倫理)、北海道教育大学(日本社会の特質)、北翔 大学(生命倫理)、北星学園大学(仏教の思想と文化)、苫小牧看護専門学校 (哲学、生命倫理)

学内委員会・学科内業務等:

教授会、研究倫理委員会 (有識者委員)、人権擁護委員会、不正調査委員会、 入学前学習課題担当、令和4 (2022) 年度オープンキャンパス入試特別講座 担当 (講師)、令和4 (2022) 年度ハラスメント防止啓発研修担当 (講師)

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本医学哲学・倫理学会、日本生命倫理学会、日本宗教学会、日本印度学仏教 学会、日本精神病理学会、日本精神医学史学会(監事、評議員)、日本病跡学 会、日本森田療法学会、インド思想史学会、九州医学哲学・倫理学会(監事)、

北海道生命倫理研究会(コアメンバー)、北海道大学文学研究科宗教学研究会 科学研究費(研究資金)の取得:

> 基盤研究(C)「精神療法の成立と展開における宗教動態との接点および影響 関係の研究」研究代表者

> 基盤研究(A)「アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及び その思想史的研究」

社会活動:北海道生命倫理研究会第 19 回セミナー(令和4 (2022) 年度夏季)「講演1」 座長(令和4 (2022) 年8月6日)

顕彰:なし

氏名 山田 敦士 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野:言語人類学、言語教育、東南アジア地域研究

教育活動:

責任科目:スタートアップ講座(1年次、1単位、15時間)、日本語表現(1年次、1単位、30時間)、中国語(1年次、1単位、30時間)、中国語(2年次、1単位、30時間)

担当科目:スタートアップ講座(15 時間)、日本語表現(194 時間)、中国語(210 時時間)

非常勤講師:北星学園大学(中国語)

学内委員会・学科内業務等:

教授会、カリキュラム委員会、入学前課題担当、看護学科カリキュラム検討会、オープンキャンパス入試対策講座、バトミントン部顧問

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本言語学会、日本中国語学会(評議員)、北海道民族学会(運営委員)、社会言語科学会、初年次教育学会、中国人文学会、家畜資源研究会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究 (B) 「タイ文化圏に関する言語事典の編纂に向けて」 日本医療大学学術助成費「アジア諸言語における文法化現象の記述的、類型 的研究」研究代表者

社会活動:International Conference on Austroasiatic Linguistics 査読委員 顕彰:なし

氏名 吉野 淳一 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 特任教授

専門分野:精神看護学

教育活動:

責任科目:精神看護学概論(2年次、2単位、30時間)、現代の看護と課題(4年次、1単位、15時間)

担当科目:精神看護援助論(30時間)、精神看護学実習(90時間)

非常勤講師: 札幌市立大学大学院

学内委員会・学科内業務等:

学年担任(3年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本集団精神療法学会、日本家族療法研究会、日本精神保健看護学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:日本精神保健看護学会(査読委員)、北海道家庭生活総合カウンセリングセンター (代表理事)、NPO法人きなはれ(理事)

顕彰:なし

氏名 工藤 悦子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野:小児看護学

教育活動:

責任科目:小児看護援助論Ⅱ(3年次、2単位、30時間)

担当科目:小児看護援助論 II (30 時間)、小児看護学実習 (90 時間)、看護ゼミナール II (30 時間)、臨床看護技術演習 (30 時間)、看護研究演習 I (30 時間)、看護

研究演習Ⅱ (30 時間)、初期実習 (45 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

国際交流委員会、国試対策小委員会、実習室・実習検討会、オープンキャンパ

ス体験入学担当、シミュレーション室 WG

学術活動:

所属学会・研究会等:

日本小児保健協会、日本小児看護学会、日本思春期学会、日本看護科学学会、日本看護技術学会、日本教育工学会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究 (C)「小児看護学実習に携わる看護師のための循環型現任教育プログラムの開発と評価」研究代表者

基盤研究(C)「子どもと家族へのグリーフサポートにおけるコミュニティケアの検証と再構築の試み」

基盤研究(C)「視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発」

社会活動:北海道看護協会保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言

顕彰:なし

氏名 __相馬 幸恵__ 学部_ 保健医療学部__ 学科_ 看護学科__ 職階_ 准教授__

専門分野: 看護管理学、経営学

教育活動:

責任科目:医療安全(2年次、1単位、15時間)、看護ヘルスアセスメント論(2年次、 1単位、30時間)、診療過程の援助技術(2年次、1単位、30時間)

担当科目:生活援助技術論III (30 時間)、初期実習(45 時間)、医療安全(15 時間)、看護へルスアセスメント論(30 時間)、診療過程の援助技術(30 時間)、看護過程論(30 時間)、基礎看護学実習 I (45 時間)、基礎看護学実習 II (30 時間)、看護ゼミナール I (30 時間)、看護研究演習 I (30 時間)、看護研究演習 II (30 時間)、臨床看護技術演習(30 時間)、統合実習(90 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

図書・学術振興委員会、学年担任(4年生)

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本看護管理学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、しごと能力研究学会(推薦理事)、日本労務学会、日本情報経営学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:北海道看護協会看護師職能 I 委員

顕彰:なし

氏名 鶴木 恭子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野:基礎看護技術

教育活動:

責任科目:看護の基本技術論(1年次、2単位、16時間)

担当科目:看護の基本技術論(16 時間)、生活援助技術 I (21 時間)、看護ヘルスアセスメント論(8 時間)、生活援助技術III(8 時間)、看護ゼミナール I (22 時間)、看護研究演習 II (30 時間)、臨床看護技術演習(4 時間)、看護初期実習(45

時間)、基礎看護学実習 I (45 時間)、基礎看護学実習 II (90 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

学生募集必達プロジェクト

学術活動:

所属学会・研究会等:

日本看護技術学会、日本看護科学学会、高齢者ケアリング学研究会、北海道 日独協会

科学研究費(研究資金)の取得:

挑戦的研究(萌芽) 「ひとり暮らし高齢者に対するナラティブ睡眠ケアプログラムの効果評価」

社会活動:生涯学習講座 講師

顕彰:なし

専門分野:成人看護学、周術期看護、クリティカルケア

教育活動:

責任科目:成人看護援助論II (3年次、1单位、30時間)、成人看護学実習I (3年次、4单位、90時間)、応急処置法(3年次、1单位、30時間)

担当科目:成人看護援助論 I (10 時間)、成人看護学特論(16 時間)、成人看護援助論 II (26 時間)、成人看護援助論 II (24 時間)、診療過程の援助技術(4 時間)、成人看護学実習 I (90 時間)、看護研究演習 I (26 時間)、看護研究演習 II (30 時間)、臨床看護技術演習(6 時間)、初期実習(45 時間)、応急処置法(16 時間)、呼吸リハビリテーション特論(4 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会 · 学科内業務等:

人権擁護委員会、日本医療大学紀要内部査読者、看護学科・科研アドバイザー、 カリキュラム検討会、学年担任(1年生)

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本手術看護学会(査読委員)、日本手術医学会、日本クリティカルケア看護学会、日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護技術学会、日本看護学教育学会、看護総合科学研究会(理事、評議員)、日本看護技術学会、日本教育工学会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「手術患者の術中低体温を予防する『手術室入退出時ほっとケアプログラム』の開発」

研究代表者

社会活動:日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員、卓越研究員候補者選考委員会 書面審査員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員、北海道大学病院診療 補助業務従事者(研修、看護師への研究指導)、北海道大学病院看護職集合教育 講師(がん看護エキスパート養成ベーシックコース第1回目「がん看護概論」 担当)、北海道大学大学院保健科学研究院客員研究員、日本医療大学第2回 FD セミナー「科学研究費申請に向けた勉強会」講師・パネラー

顕彰:なし

氏名 小宅 千恵子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野:地域・在宅看護学、産業保健看護

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:在宅看護学概論(8時間)、在宅看護学援助論 I (22 時間)、在宅看護学援助 論 II (16 時間)、地域・在宅看護学実習(90 時間)、看護研究演習 I (30 時間)、初期実習(45 時間)、臨床看護技術演習(16 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

保健管理委員会、シミュレーション室 WG

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本産業衛生学会、日本産業衛生学会北海道地方会産業保健看護部会(研修委員長)、日本禁煙学会(職場の禁煙委員会委員、会計担当)、日本公衆衛生学会、北海道公衆衛生学会、日本老年看護学会、動機づけ面接トレーナーネットワーク(MINT)メンバー

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:第32回産業衛生学会全国協議会実行委員、北海道産業保健総合支援センター相 談員、動機づけ面接トレーナーネットワーク (MINT) メンバー

顕彰:なし

氏名 鏡山 浩美 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野:成人看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:成人看護学援助論 I (8時間)、成人看護学特論(6時間)、看護研究演習 I (14時間)、呼吸リハビリテーション特論(4時間)、診療過程の援助技術(8時間)、成人看護学実習 I (8時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:なし

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本看護科学学会会員、日本看護管理学会会員、日本看護技術学会会員、看 護総合科学研究会会員、日本看護協会・北海道看護協会会員、日本農村医学 会会員

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究 (C) 「16 時間夜勤を行う看護師の睡眠構造の特徴と疲労および健康 関連 QOL との関連」研究代表者

社会活動:なし 顕彰:なし

氏名 合田 恵理香 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野:成人看護学 急性期看護、クリティカルケア看護

教育活動:

責任科目:成人看護援助論Ⅲ(3年次、1単位、28時間)

担当科目:成人看護援助論 I (10 時間)、成人看護援助論 II (10 時間)、成人看護学特論 (16 時間)、成人看護学実習 I (180 時間)、成人看護学実習 II (90 時間)、診療過程の援助技術(8 時間)、看護研究演習 I (26 時間)、看護研究演習 II (60 時間)、臨床看護技術演習 (4 時間)、応急処置法 (18 時間)、呼吸リハビリテーション特論 (2 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

FD 委員会、実習検討会、看護研究演習 I 担当グループ

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本クリティカルケア看護学会、日本看護学教育学会、日本看護管理学会、日本ヒューマンケア心理学会、日本 看護歴史学会、日本音楽療法学会、日本統合医療学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 中澤 洋子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野:成人看護学

教育活動:

責任科目:成人看護援助論 I (2年次、1単位、30時間)

担当科目:初期実習(10時間)、成人看護援助論 I (26時間)、成人看護援助論 II (6時間)、成人看 護援助論 II (22時間)、成人看護学特論(22時間)、看護研究演習 I (30時間)、看護研究演習 II (30時間)、成人看護学実習 I (180時間)、成人看護学実習 II (90時間)、看護ゼミナール I (12時間)、看護ゼミナール II (4時間)、臨床看護技術演習(12時間)

非常勤講師:なし

学内委員会·学科内業務等:

自己点検・評価委員会、学年担任(3年)、オープンキャンパス・体験入学担 当、国師対策小委員会委員

学術活動:

所属学会 · 研究会等:

がん看護学会 会員、日本看護科学学会 会員、日本看護教育学会 会員、日本 看護研究学会 会員、北日本看護学会 会員

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動: HAndS (学生ホスピタルアート) 運営委員、千歳市ボランティア清掃

顕彰:なし

氏名 原田 圭子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野:基礎看護学領域、地域在住高齢者の閉じこもり予防

教育活動:

責任科目:生活援助技術Ⅲ(1年次、1単位、30時間)、看護過程論(2年次、1単位、

30 時間)

担当科目:看護の基本技術論(4時間)、初期実習(45時間)、生活援助技術 I(4時間)、

生活援助技術 II (12 時間)、生活援助技術 III (44 時間)、看護ヘルスアセスメント論 (32 時間)、看護過程論 (34 時間)、基礎看護学実習 I (45 時間)、基礎看護学実習 II (90 時間)、看護研究(8 時間)、看護研究演習 II (26 時間)、看護研究演習 II (30 時間)、看護でミナール II (2 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

学年担任(2年生)、実習室・実習検討会、国試対策小委員会、カリキュラム 委員、看護学科庶務(リーダー)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本老年看護学会、北海道公衆衛生学会、高知女子大学看護学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:デリバリークラス(北海道札幌南陵高校)

顕彰:なし

氏名 松村 寛子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野:地域・在宅看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:在宅看護援助論 I (20 時間)、在宅看護援助論 II (18 時間)、看護ゼミナール I (24 時間)、臨床看護技術演習 (8 時間)、看護研究演習 I (22 時間)、看

護研究演習Ⅱ(30時間)、在宅看護学概論(8時間)、OSCE(4時間)

非常勤講師:なし

学内委員会,学科内業務等:

倫理委員会、学年担任(1年生)

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

北海道公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護学教育学会、日本産業衛生学会

科学研究費 (研究資金) の取得:

教育研究向上費

社会活動:日本産業衛生学会 看護部会、札幌イーグルス(保健関連担当)、ハンギングバスケット協会 広報

顕彰:なし

氏名 吉田 香 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野:基礎看護学、看護教育

教育活動:

責任科目:生活援助技術 I (1年次、1単位、30時間)、看護研究演習 I (3年次、1単位、30時間)

担当科目:看護学概論(30時間)、看護の基本技術論(30時間)、生活援助技術 I (30時

間)、生活援助技術 II (30 時間)、生活援助技術 III (30 時間)、診療過程の援助技術 (30 時間)、看護過程論 (30 時間)、基礎看護学実習 I (45 時間)、基礎看護学実習 II (90 時間)、看護研究演習 I (30 時間)、看護研究演習 II (30

時間)、看護研究(30時間)、臨床看護技術演習(30時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:なし

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護歴史学会、北海道医療大学看護福祉学部学会、看護科学研究学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本看護協会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:一般社団法人 日本看護学教育学会第32回学術集会 発展部門(口演)優秀演題賞 受賞

氏名 吉田 直美 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野:老年看護学、腎不全(透析)看護

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:老年看護学概論 (10 時間)、老年看護援助論 I (4 時間)、老年看護援助論 I (20 時間)、老年看護学実習 I (90 時間)、老年看護学実習 I (90 時間)、看護研究演習 I (30 時間)、看護研究演習 I (30 時間)、看護ゼミナール I (30

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

シミュレーション室WG

時間)、初期実習(45時間)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本老年看護学会、日本老年社会科学会、日本認知症ケア学会、日本腎不全

看護学会、日本透析医学会、日本看護科学学会、北海道医療大学看護福祉学 部学会、北海道透析療法学会、ヒューマンケア研究学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:日本腎不全看護学会査読委員、日本老年社会科学会査読委員

顕彰:なし

氏名 大久保 未央 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野:老年看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:初期実習(45時間)、看護ゼミナール I(28時間)、老年看護学概論(4時間)、

老年看護援助論 I (4 時間)、老年看護学援助論 Π (2 時間)、老年看護学実習 I (90 時間)、看護研究演習 I (26 時間)、看護研究演習 Π (30 時間)、老

年看護学実習Ⅱ (90 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

実習検討会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本老年看護学会、日本口腔ケア学会、日本認知療法・認知行動療法学会、集団認知療法研究会、北海道公衆衛生学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 柏民 圭太 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野:基礎看護学分野

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:生活援助技術 Ⅰ (18 時間)、生活援助技術 Ⅱ (26 時間)、生活援助技術 Ⅲ (10

時間)、看護ヘルスアセスメント論 (26 時間)、診療過程の援助技術 (8 時間)、 看護過程論 (14 時間)、看護研究演習 I (26 時間)、看護研究演習 II (30 時間)、看護ゼミナール II (4 時間)、臨床看護技術演習 (6 時間)、初期実習 (45

時間)、基礎看護学実習 I (45 時間)、基礎看護学実習 II (90 時間)

非常勤講師:デリバリークラス2校(岩見沢西高校、札幌啓北商業高校)

学内委員会・学科内業務等:

国家試験対策小員会、学年担任(2年生)、庶務係

学術活動:

所属学会・研究会等:日本看護科学学会、日本脳神経看護研究学会、日本保健医療福祉 連携教育学会

科学研究費(研究資金)の取得:教育向上研究費

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 佐藤 みゆき 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野:在宅看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:在宅看護援助論 I (19.5 時間)、在宅看護援助論 I (9.3 時間)、在宅看護論 実習 (90 時間)、看護ゼミナール I (30 時間)、看護研究演習 I (30 時間)、 看護研究演習 I (30 時間)、臨床技術演習 (10 時間)、初期実習 (45 時間)、

看護ゼミナールⅡ (30 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

国師対策小委員会、実習・実習室検討委員会、オープンキャンパス・1日体 験入学

学術活動:

所属学会・研究会等:公益社団法人日本看護科学学会、一般社団法人日本看護学教育学会、一般社団法人日本在宅をア学会、一般社団法人日本在宅看護学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:地域ボランティア

顕彰:なし

氏名 佐藤 予右子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野:老年看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:老年看護援助論 I (2時間)、老年看護援助論 II (20時間)、老年看護学実習

I(90 時間)、老年看護学実習 II(90 時間)、看護研究演習 I(26 時間)、看

護研究演習Ⅱ(30時間)、看護研究ゼミナールⅠ(4時間)、臨床看護技術演

習(4時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

学年副担任(1年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:日本老年看護学会、日本 CNS 学会、日本看護管理学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:日本医療大学病院看護部 院内研修「退院支援・退院調整研修」講師、ノテ福 社会 地域包括ケアシステムにおける在宅支援事例報告会「地域包括ケアシス テムにおける医療・看護の役割」講師

顕彰:なし

氏名 中村 江衣 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野:基礎看護学、がん看護、緩和ケア

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:生活援助技術 I (40 時間)、生活援助技術 II (28 時間)、生活援助技術 III (62 時間)、看護ヘルスアセスメント論 (62 時間)、看護過程論 (18 時間)、診療 過程の援助技術 (6 時間)、初期実習 (45 時間)、基礎看護学実習 I (45 時間)、基礎看護学実習 II (90 時間)、看護ゼミナール I (28 時間)、臨床看護技術演

習 (4時間)、研究演習 I (26時間)、研究演習 II (30時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

学年担任(4年生)、オープンキャンパス、体験入学

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本緩和医療学会、がん看護学会、日本専門看護師協議会、北海道専門看護師の会、日本 CNS 学会、日本創傷・オストミー・失禁管理学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 服部 かおる 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野:精神看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:精神看護学概論(30時間)、精神看護学援助論 I (15時間)、精神看護学援助論 I (30時間)、精神看護学実習(90時間)、看護ゼミナール I (30時間)・看護ゼミナール II (30時間)、看護研究(30時間)、看護研究演習 I (30時間)・看護研究演習 II (30時間)、初期実習(45時間)、統合実習(90時間)

非常勤講師:大原学園大原医療福祉専門学校

学内委員会・学科内業務等:

学年担任(3年生)、国試対策小委員会、0C&体験入学

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

北日本看護学会、日本精神保健看護学会、一社)日本精神科看護協会、一社) 日本腎不全看護学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 春名 美恵 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野:成人看護学領域

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:成人看護援助論 I (30 時間)、成人看護援助論 II (30 時間)、成人看護援助論 III (30 時間)、成人看護接助論 III (30 時間)、成人看護特論 (30 時間)、成人看護学実習 I (180 時間)、成人看護学実習 II (90 時間)、統合実習 (90 時間)、初期実習 (45 時間)、看護研究演習 II (30 時間)、看護ゼミナール I (30 時間)、臨床看護技術演習 (30 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:なし

学術活動:

所属学会・研究会等:日本看護研究学会、日本クリティカルケア看護学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 和田 ゆい 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野:基礎看護学、老年看護看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:看護学概論(8時間)、看護の基本技術論(4時間)、生活援助技術 I (30時間)、生活援助技術 II (30時間)、生活援助技術 II (30時間)、看護過程論(16時間)、臨床看護技術演習(14時間)、看護研究演習 I (30時間)、看護研究演習 I (30時間)、基礎看護学実習 I (45時間)、基礎看護学実習 II (90時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:学年担任(1年生)

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本老年看護学会、日本認知症ケア学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、北海道公衆衛生学会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発」

社会活動:なし 顕彰:なし

氏名 渡邉 美樹 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野:老年看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:老年看護学概論(30 時間)、老年看護学援助論 I (30 時間)、老年看護援助論 II (20 時間)、看護過程演習(30 時間)、研究演習 I (30 時間)、研究演習 II (30 時間)、初期実習 I (45 時間)、老年看護学実習 II (450 時間)、老年看護学実習 I (450 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会 · 学科内業務等:

オープンキャンパス担当

所属学術活動・学会・研究会等:

教育研究向上費「高齢者福祉施設における専門職間の連携・協働上の困難と その要因」

社会福祉法人ノテ福祉会「多職種連携・協働」についての大規模調査 老年看護学学会、日本看護管理学会、日本看護科学学会、日本保健医療福祉 教育学会、日本看護福祉学会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「特別養護老人ホームにおける看護師のための実効的な薬剤・

服薬管理方法の開発」

社会活動:社会福祉法人ノテ福祉会研修会の準備等担当、研修内容の選定、公益財団法人

認知症の人と家族の会新潟県支部広報

顕彰:なし

氏名 久保田 麻理子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助手

専門分野:成人看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:診察過程の援助技術(3時間)、成人看護援助論 I (11時間)、成人看護特論

(12 時間)、成人看護援助論 Π (11 時間)、成人看護援助論 Π (12 時間)、成人看護学実習 Π (180 時間)、成人看護学実習 Π (90 時間)、看護研究演習 Π

(19 時間)、看護研究演習Ⅱ (30 時間)、看護ゼミナールⅠ (30 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等: 親睦会役員

学術活動:

所属学会・研究会等:なし

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 難波 亨 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助手

専門分野:精神看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:看護研究演習 I (30 時間)、看護研究演習 II (30 時間)、精神看護援助論 I (3

時間)、精神看護援助論Ⅱ(12時間)、精神看護学実習(90×5時間)、初期実

習(45時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:卒業時到達度委員会

学術活動:

所属学会・研究会等:

看護総合科学研究会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発」

社会活動: なし

顕彰:なし

氏名 本間 公 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助手

専門分野:基礎看護学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:初期実習(18 時間)、生活援助技術論 I (52 時間)、生活援助技術論 II (20 時間)、生活援助技術論 II (30 時間)、看護ヘルスアセスメント論(6 時間)、看護過程論(16 時間)、基礎看護学実習 I (45 時間)、基礎看護学実習 II (90 時

間)、臨床看護技術論(26時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

シミュレーション室ワーキンググループメンバー

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本循環器看護学会、日本循環器病予防学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

11-1-3 保健医療学部 リハビリテーション学科教員

 氏名
 向井
 康詞
 学部
 保健医療学部
 学科
 リハビリテーション学科
 職階
 教

 授・学科長

専門分野:解剖学、運動器障害、運動生理学

教育活動:

責任科目:解剖学 I (1年次前期、2単位 30 時間)、解剖学 II (1年次後期、2単位、30 時間)解剖学演習(1年次前期、2単位 60 時間)、臨床判断学(基礎編)(2年次後期、1単位 30 時間)、臨床判断学(応用編)(3年次後期、1単位 30 時間)、卒業研究 I (3年次通年、2単位 60 時間)、卒業研究 II (4年次前期、1単位 30 時間)

担当科目:解剖学 I (30 時間)、解剖学 II (30 時間)、解剖学演習 (60 時間)、臨床判断学 (基礎編) (30 時間)、臨床判断学 (応用編) (30 時間)、臨床実習 I (理学療法) (90 時間)、臨床実習 II (理学療法) (180 時間)、臨床実習 II (理学療法) (720 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

運営委員会、教務委員会、自己点検評価委員会、入試委員会、入学者選抜委員会、人権擁護委員会、不正調査委員会、ハラスメント防止委員会、解剖学見 学実習担当

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本理学療法士協会、北海道理学療法士会、日本義肢装具学会、日本運動生理学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動: なし

顕彰:なし

氏名<u>石橋 晃仁</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>リハビリテーション学科</u> 職階 教授

専門分野:神経障害理学療法学

教育活動:

責任科目:理学療法セミナーI(1年次、1単位、30時間)、理学療法セミナーII(2年次、1単位、30時間)、理学療法セミナーIII(3年次、1単位、30時間)、神経障害理学療法学演習(3年次、1単位、30時間)、日常生活活動基礎学(3年次、1単位、30時間)、日常生活活動基礎学(3年次、1単位、30時間)、理学療法総合演習(4年次、1単位、30時間)、臨床実習 I(2年次、2単位、90時間)、臨床実習 I(3年次、4単位、180時間)、臨床実習 I(4年次、7単位、315時間)、臨床実習 IV(4年次、7単位、315時間)

担当科目:理学療法セミナーI (30 時間)、理学療法セミナーII (30 時間)、理学療法セミナーII (14 時間)、神経障害理学療法学(30 時間)、神経障害理学療法学演習(30 時間)、日常生活活動基礎学(30 時間)、チーム医療論(2 時間)、理学療法総合演習(2 時間)、卒業研究I (60 時間)、卒業研究II (30 時間)、リハビリテーション管理学(12 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

学生委員会委員(委員長)、学生懲戒委員会委員(委員長)、入学試験委員会 委員、ハラスメント防止委員会委員、教員選考委員、ハラスメント相談員、理 学療法学専攻長、学年担任(理学療法学専攻4年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本理学療法士協会、北海道理学療法士会(社会局介護予防・健康増進支援 部員)、認知神経リハビリテーション学会、北海道リハビリテーション学会、 日本リハビリテーションスポーツ学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:日本医療大学生涯学習講座 講師、札幌市理学療法赤十字奉仕団 副委員長、 STV ラジオ「工藤じゅんきの十人十色」ツルハ千年カメは万年健康一口メモ 講

顕彰:なし

氏名<u>大堀 具視</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>リハビリテーション学科</u> 職階 教授

専門分野:作業療法(身体障害)

教育活動:

責任科目:作業療法概論(1年次、1単位、30時間)、発達障害作業治療学(3年次、2単位、60時間)、身体障害作業治療学(3年次、2単位、60時間)、日常生活適応学(3年次、1単位、30時間)、作業療法治療学特論(3年次、1単位、30時間)、リハビリテーション管理学(4年次、1単位、30時間)、作業療法総合演習(4年次、1単位、30時間)

担当科目:作業療法概論(30時間)、発達障害作業治療学(60時間)、身体障害作業治療学(60時間)、日常生活適応学(30時間)、作業療法治療学特論(30時間)、リハビリテーション管理学(30時間)、作業療法総合演習(30時間)

非常勤講師:至誠会看護専門学校(老年看護学)、IMS 札幌内科リハビリテーション病院 (臨床指導)、特別養護老人ホーム芦別慈恵園(技術指導)、特別養護老人ホーム和寒芳生苑(技術指導)、特別養護老人ホーム新さっぽろの里(技術指導)、特別養護老人ホーム日本介護江別(技術指導)

学内委員会・学科内業務等:

作業療法学専攻長、キャリアセンター(センター長)、入試委員会

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

(社)日本作業療法士協会、(公社)北海道作業療法士会、作業療法研究学会、 日本生態心理学会、日本ボバース研究会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:学術誌「作業療法」編集委員、学術誌「作業療法の実践と科学」査読委員、札幌 市介護認定審査会委員、北海道老人保健施設協議会 研修講師、介護労働安定 センター栃木支部 研修会講師、芦別市みんなで介護考える会 研修会講師、 福井県老人福祉施設協議会 研修講師、静岡県社会福祉協議会 研修会講師、 千葉県社会福祉協議会 研修会講師、空知老人福祉施設協議会 研修会講師、 障害者支援施設仁優園 研修会講師、社会福祉法人ノテ福祉会 研修会講師

顕彰:なし

氏名<u>岸上 博俊</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>リハビリテーション学科</u> 職階 教授

専門分野:高齢期作業療法、地域作業療法

教育活動:

責任科目:地域リハビリテーション論(2年次、30時間、単位)、高齢期障害作業治療学(3年次、30時間、2単位)、日常生活適応学(ADL)(3年次、20時間、1単位)、作業療法治療学特論(治療理論)(3年次、30時間、1単位)、作業療法治療学特論(シーティング)(3年次、20時間、1単位)

担当科目:基礎作業学演習(2時間)、作業療法評価学(4時間)、地域リハビリテーション演習(12時間)、身体障害作業治療学(中枢神経系)(20時間)、作業療法セミナーIII(4時間)、作業療法総合演習(2時間)、研究法(4時間)、卒業研究 II(60時間)、臨床実習 II(時間)、臨床実習 II(時間)、臨床実習 II(時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

教授会、自己点検評価委員会(委員長)、教務委員会(委員長)、図書・学術振 興委員会、カリキュラム委員会、リハビリテーション学科カリキュラム委員会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本作業療法士協会、北海道作業療法士会(理事)、障害学会、作業療法を社 会学・障害学する研究会

科学研究費(研究資金)の取得:

受託研究 (株式会社クオリ)

社会活動:札幌市内における訪問作業療法実施

顕彰:なし

氏名<u>佐藤 秀紀</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>リハビリテーション学科</u> 職階 特任教授

専門分野:保健福祉学、老年社会科学、リハビリテーション学

教育活動:

責任科目: リハビリテーション論 (1年次、2単位、30時間)、生活環境学 (3年次、1単位、15時間)、高齢期障害理学療法学 (3年次、1単位、30時間)

担当科目:リハビリテーション論(30時間)、地域理学療法学(8時間)、生活環境学(15時間)、高齢期障害理学療法学(30時間)、代謝免疫高齢者理学療法学(4時間)、臨床実習

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:なし

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本保健福祉学会(査読委員)、日本社会福祉学会(査読委員)、日本老年社会科学学会(査読委員)

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名<u>八田 達夫</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>リハビリテーション学科</u> 職階 特任教授

専門分野:作業療法学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:発達障害作業治療学(30 時間)、就労支援作業療法学(12 時間)、作業療法特論(シーティング)(10 時間)

非常勤講師:北星学園大学(リハビリテーション論)、北海道医療大学(発達障害作業療 法学演習)

学内委員会・学科内業務等:なし

学術活動:

所属学会・研究会等: 所属学会・研究会等: 日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、 日本職業リハビリテーション学会(ブロック理事)、日本リハビリテーション 工学協会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:社会福祉法人ノテ福祉会ノテふるさと、スヌーズレン療法支援

顕彰:なし

氏名<u>泉水 朝貴</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>リハビリテーション学科</u> 職階 准教授

専門分野:バイオメカニクス、運動器障害理学療法、徒手理学療法、スポーツ理学療法 教育活動:

責任科目:運動器障害理学療法学(3年次、1単位、30時間)、運動器障害理学療法学演

習(3年次、1単位、30時間)、スポーツ理学療法学(3年次、1単位、30時間)

担当科目:運動器障害理学療法学(30時間)、運動器障害理学療法学演習(30時間)、スポーツ理学療法学(30時間)、解剖学演習(60時間)、運動学演習(30時間)、 軟部組織治療学(30時間)

非常勤講師:北海道ハイテクノロジー専門学校(運動学)

学内委員会・学科内業務等:

自己点検評価委員会、入学者選抜委員会、健康管理等運営委員会、臨床実習 担当

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本理学療法士協会、日本整形外科スポーツ医学会、日本運動器徒手理学療法学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:「メディカルスタッフのための解剖セミナー」インストラクター、「少年野球肘 検診」スタッフ

顕彰:なし

氏名<u>及川 直樹</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>リハビリテーション学科</u> 職階 准教授

専門分野: 運動器障害、上肢機能障害、ハンドセラピィ

教育活動:

責任科目:作業療法評価学演習(骨・関節系)(2年次、1単位、30時間)、身体障害作業治療学(運動器・内部障害系)(3年次、1単位、30時間)、義肢装具作業療法学(3年次、1単位、15時間)、義肢装具作業療法学演習(3年次、1単位、15時間)、福祉用具学(3年次、1単位、15時間)

担当科目:作業療法評価学演習(骨・関節系)(30時間)、身体障害作業治療学(運動器・内部障害系)(22時間)、義肢装具作業療法学(15時間)、義肢装具作業療法学演習(11時間)、体表解剖学(45時間)、作業療法セミナー I(15時間)、作業療法セミナー I(15時間)、作業療法とデナー I(15時間)、作業療法治療学特論(ハンドセラピィ)(4時間)、作業療法学概論(1時間)

非常勤講師:札幌リハビリテーション専門学校(作業療法各論)

学内委員会・学科内業務等:

教授会、研究倫理委員会、キャリアセンター運営委員会、学年担任(作業療法学専攻1年生)、国家試験対策担当教員、就職活動支援担当教員、障害学生対応委員、必達募集プロジェクト、解剖見学実習担当教員

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本肩関節学会、日本整形外科超音波学会、日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、北海道ハンドセラピィ研究会(幹事)

科学研究費(研究資金)の取得:

日本医療大学学術助成費

社会活動: Asian Journal of Occupational Therapy reviewer、学術誌「作業療法」査読者、学術誌「作業療法の実践と科学」査読者、北海道作業療法士会学術部編集委員、厚生労働省指定臨床実習指導者講習会講師、メディカルスタッフのための運動器解剖セミナーインストラクター、羊ヶ丘病院臨床・研究指導、道都大学男女バスケットボール部メディカルスタッフ・トレーナー、北海道ハンドセラピィ研究会教育講演、NPO 法人北海道野球協議会少年野球肘健診、北海道高等学校安全互助会健康安全普及啓発事業講師3校、北海道作業療法士会新人研修講師(運動器疾患)2テーマ

顕彰:「臨床整形外科」最優秀論文賞 2021

及川直樹,清本憲太,泉水朝貴,明本聡,榊善成,鈴森雄貴,大堀具視:肘痛の経験を有する野球選手における尺側手根屈筋および浅指屈筋筋力と最大握力発揮時の手関節背屈角度の関係. 臨床整形外科. 56 (11): 1367-1372, 2021

2021年 作業療法の実践と科学最優秀論文賞

清本憲太,小川尚平,小椋伸一,有澤沙織,<u>及川直樹</u>,村上元,大堀具視:痛みの破局的思考の重症度が,痛みの強度や感情,生活障害に与える影響-地域在住高齢者による検討.作業療法の実践と科学.3(3)65-73,2021

氏名清本憲太学部保健医療学部学科リハビリテーション学科職階准教授

専門分野:疼痛、知覚、整形外科学、作業療法学

教育活動:

責任科目:作業療法評価学(2年次、1単位、30時間)、作業療法評価学演習(基礎評価) (2年次、1単位、30時間)、作業療法評価学演習(中枢神経系)(2年次、 1単位、30時間)、作業療法評価学演習(神経・筋力系)(2年次、1単位、 30時間)、作業療法治療学特論(ハンドセラピィ)(3年次、1単位、30時間)

担当科目:基礎作業学演習(30時間)、作業療法治療学(内部障害・運動器障害)(30時間)、作業療法治療学(中枢神経系)(60時間)、日常生活適応学(ADL)(60時間)、生理学演習(30時間)、作業療法セミナーⅡ(30時間)

非常勤講師:埼玉県立大学(身体機能作業療法学演習/基礎)、札幌リハビリテーション 専門学校(作業療法特論 ハンドセラピィ)、藤女子大学(日常生活活動)、 我汝会えにわ病院(非常勤作業療法士)

学内委員会・学科内業務等:

教務委員会委員、カリキュラム委員会委員、学科内カリキュラム検討委員会、 臨床実習担当(専攻内)、学年担任(作業療法学専攻3年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本作業療法士協会、日本ハンドセラピィ学会、日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、日本作業療法研究学会、北海道整形災害外科学会、北海道骨粗鬆症研究会、北海道作業療法士会(教育部員)、北海道ハンドセラピィ研究会(理事)

科学研究費(研究資金)の取得:

日本医療大学学術助成費

日本医療大学学術助成費(一側で生じた触覚情報を共有すると反対側の触覚の学習が生じるか?

-触覚フィードバック装置ゆびレコーダー®を用いた検討-:代表者)

社会活動:学術誌 作業療法 論文査読委員、作業療法ジャーナル 論文査読委員、作業療法の実践と科学 論文査読委員、日本作業療法士協会学会演題審査委員、北海道作業療法士会学会演題審査委員、北海道作業療法士会教育部員

顕彰:令和4(2022)年6月 令和3(2021)年度 作業療法の実践と科学 最優秀論文 賞

論文題目:痛みの破局的思考の重症度が,痛みの強度や感情,生活障害に与える影響一地域在住高齢者による検討一(<u>清本憲太</u>,小川尚平,小椋伸一,有澤沙織,及川直樹,村上元,大堀具視)

2022年7月 2022年度 北海道整形災害外科学会学術奨励賞

論文題目: High bone turnover state under osteoporotic changes induces pain-like behaviors in mild osteoarthritis model mice (<u>Kenta Kiyomoto</u>, Kousuke Iba, Megumi Hanaka, Koji Ibe, Hikaru Hayakawa, Atsushi Teramoto, Makoto Emori, Toshihiko Yamashita) "

令和4 (2022) 年6月 令和3 (2021) 年度 臨床整形外科 最優秀論文賞 論文題目: 肘痛の経験を有する野球選手における尺側手根屈筋および浅指屈筋筋力 と最大握力発揮時の手関節背屈角度の関係(及川直樹,<u>清本憲太</u>,泉水朝貴,明本 聡,榊善成,鈴森雄貴,大堀具視)

氏名<u>近藤 和夫</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>リハビリテーション学科</u> 職階 准教授

専門分野:内部障害理学療法学(循環器理学療法)

教育活動:

責任科目:運動療法学(2年次、1単位、30時間)、運動療法学演習(2年次、1単位、30時間)、呼吸・循環器障害理学療法学(3年次、1単位、30時間)、代謝・免疫系障害理学療法学(3年次、1単位、30時間)、呼吸リハビリテーション特論(3年次、1単位、15時間)

担当科目:生理学演習(30時間)、運動学演習(30時間)、理学療法総合演習(2時間)、 運動療法学(30時間)、運動療法学演習(30時間)、臨床実習Ⅲ(315時間)、 呼吸・循環器障害理学療法学(30時間)、代謝・免疫系障害理学療法学(26時間)、臨床実習Ⅳ(3115時間)、呼吸リハビリテーション特論(15時間)、地域リハビリテーション学演習(4時間)、卒業研究Ⅰ(60時間)、卒業研究Ⅱ(30時間)

非常勤講師:千歳リハビリテーション大学(内部障害理学療法学)、北都保健福祉専門学校(内部障害系の理学療法)、北海道大野記念病院臨床指導

学内委員会・学科内業務等:

教務委員会、学年担任(理学療法学専攻1年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本循環器理学療法学会(理事)、日本心臓リハビリテーション学会(評議員)、 日本臨床運動療法学会(評議員)、日本循環器学会(心不全療養指導士実務部 会委員)、日本心不全学会、日本心臓リハビリテーション学会北海道支部(庶 務幹事)、北海道内部障害リハビリテーション研究会(代表幹事)

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:北海道理学療法士会(常任理事)、北海道総合保険医療協議会地域保健専門委員会循環器疾患対策小委員会(委員)、北海道災害福祉支援ネットワーク会議(委員、北海道災害派遣福祉チーム員)、北海道災害リハビリテーション推進協議会(理事)

顕彰:なし

 氏名
 西山
 徹
 学部
 保健医療学部
 学科
 リハビリテーション学科
 職階
 推

 教授

専門分野:義肢装具学、身体運動学

教育活動:

責任科目:義肢装具学(3年次、1単位、30時間)、義肢装具学演習(3年次、1単位、30時間)、運動学Ⅱ(2年次、2単位、30時間)、運動学演習(2年次、1単位、30時間)理学療法評価学(運動器系)(2年次、1単位、30時間)、理学療法評価学演習(運動器系)(2年次、2単位、60時間)

担当科目:義肢装具学(30時間)、義肢装具学演習(30時間)、運動学Ⅱ(30時間)、理学療法評価学(運動器系)(30時間)、理学療法評価学(神経系)(30時間)、理学療法評価学演習(運動器系)(60時間)、理学療法評価学演習(神経系)(60時間)、運動学演習(30時間)、義肢装具作業療法学(4時間)、災害リハビリテーション(2時間)、臨床実習Ⅱ(理学療法)(6時間)、臨床実習Ⅱ(理学療法)(12時間)、卒業研究Ⅰ(30時間)、卒業研究Ⅱ(60時間)

非常勤講師:北海道医療大学(義肢装具学Ⅱ)、札幌リハビリテーション専門学校(義肢 関連理学療法)

学内委員会・学科内業務等:

教授会、カリキュラム委員会、学年担任(理学療法学専攻2年生)、理学療法 学専攻臨床実習担当、理学療法学専攻カリキュラム担当、バレーボールサークル顧問

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本支援工学理学療法学会(編集委員)、日本理学療法士協会、日本義肢装具学会、日本理学療法科学学会、臨床歩行分析研究会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「模擬義足を用いた新しい歩行練習に関する基礎的研究」研究 代表者

社会活動:STV ラジオ「工藤じゅんきの十人十色」ゲスト出演、「北海道理学療法」・「日本 支援工学理学療法学会誌」査読者

顕彰:なし

 氏名
 矢口
 智恵
 学部
 保健医療学部
 学科
 リハビリテーション学科
 職階

 推教授

専門分野:神経生理学、運動生理学、姿勢制御

教育活動:

責任科目:運動学 I (1年次、2単位、30時間)、生理学演習(2年次、1単位、30時間)、人間発達学(2年次、2単位、30時間)、研究法(3年次、1単位、30時間)、発達障害理学療法学(3年次、1単位、30時間)

担当科目:運動学 I (30 時間)、生理学演習 (30 時間)、人間発達学 (30 時間)、研究法 (30 時間)、発達障害理学療法学 (30 時間)、臨床実習 I (理学療法) (6 時間)、臨床実習 II (理学療法) (12 時間)、臨床実習 II (理学療法) (24 時間)、臨床実習 IV (理学療法) (24 時間)、卒業研究 I (60 時間)、卒業研究 II (60 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

研究倫理委員会、学年担任(理学療法学専攻4年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本健康行動科学会(編集委員、理事)、日本理学療法士協会、Society for Neuroscience、日本臨床神経生理学会、日本生理人類学会(評議員)

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「高齢者における体性感覚と視覚への注意分散と姿勢制御の関連」研究代表者

基盤研究(C)「随意的な前・後傾姿勢運動時の位置感覚情報への注意と脳の活性化」

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名<u>合田 央志</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>リハビリテーション学科</u> 職階 講師

専門分野:福祉用具学、福祉住環境論

教育活動:

責任科目:情報科学演習(1年次、1単位、15時間)、基礎作業学演習(1年次、1単位、 15時間)、作業療法セミナーⅢ(3年後期、1単位、30時間)

担当科目:基礎作業学演習(15 時間)、作業療法評価学演習(神経・筋力系)、(15 時間)、作業療法評価学演習(骨・関節系)(15 時間)、作業療法セミナー I(15 時間)、生理学演習(30 時間)、作業療法セミナーII(15 時間)、作業療法セミナーⅢ(30 時間)、生理学演習(30 時間)、運動学演習(15 時間)、卒業研究 I(15 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

FD 委員会, 図書学術振興委員会, 研究費審查委員会, 相互授業参観

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本作業療法学会、北海道作業療法士会、北海道作業療法学会(演題査読委員)、日本リハビリテーション工学カンファレンス

科学研究費(研究資金)の取得:

日本医療大学学術助成費取得

社会活動:全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック 幹事

顕彰:なし

氏名<u>小林 英司</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>リハビリテーション学科</u> 職階 講師

専門分野:神経障害理学療法、神経解剖学、認知症学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:神経障害理学療法学(6時間)、神経障害理学療法学演習(45時間)、日常生活基礎学(13.5時間)、解剖学演習(45時間)、理学療法評価学(神経系)(9時間)、理学療法評価学演習(神経系)(24時間)、臨床判断学(基礎編)(33時間)、臨床判断学(応用編)(22.5時間)

非常勤講師:札幌医科大学保健医療学部(解剖学、解剖学実習)、北海道文教大学大学院 リハビリテーション科学研究科(修士課程)(高齢者リハビリテーション学特 論、高齢者リハビリテーション学特論演習)、北海道文教大学人間科学部理学 療法学科(神経障害理学療法学)

学内委員会・学科内業務等:学年担任(理学療法学専攻4年生)、解剖見学実習担当 学術活動:

所属学会·研究会等:

日本神経理学療法学会(専門会員 A)、日本支援工学理学療法学会(専門会員 A)、日本基礎理学療法学会、日本体力医学会、日本認知症学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本神経難病リハビリテーション研究会、北海道理学療法士協会、日本プライマリ・ケア連合学会北海道支部(プライマリ・ケア北海道地方会実行委員)

科学研究費(研究資金)の取得:

科研費(若手研究)「唾液 mi RNA 測定による認知症発症抑制機序の解明: アストロサイトに着目した検討」研究代表者

基盤研究 (C)「アルツハイマー病理に抗する認知症予防法と機序解明―献体 脳を用いた前向き研究」

社会活動:通所リハビリテーションノテげんきのでる里との共同研究、製鉄記念室蘭病院との共同研究、北海道内のリハビリテーション関連病院・大学との多施設共同研究、湘南医療大学保健医療学部・札幌医科大学解剖学第一講座との共同研究、函館市医師会看護リハビリテーション学院生体医工学研究センターとの共同研究、「コメディカルスタッフのための神経解剖学セミナー」運営責任者、「プライマリ・ケア北海道地方会」学会実行委員、道内の脳卒中リハビリに携わる理学療法士の研究会(通称:脳卒中を語る会)

顕彰:なし

氏名 新開谷 深 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

専門分野:運動器理学療法、徒手理学療法

教育活動:

責任科目:体表解剖学(1年次、1単位、30時間)、徒手関節治療学(3年次、1単位、30時間)、軟部組織治療学(3年次、1単位、30時間)、物理療法学(3年次、1単位、30時間)、物理療法学演習(3年次、1単位、30時間)

担当科目:体表解剖学(30時間)、理学療法セミナーI(6時間)、徒手関節治療学(30時間)、軟部組織治療学(30時間)、物理療法学(30時間)、物理療法学演習(30時間)、卒業研究I(60時間)、卒業研究I(30時間)、卒業研究I(60時間)、

非常勤講師:北翔大学(健康運動実践論)

学内委員会・学科内業務等:

学生委員会、国家試験・実習担当

学術活動:

所属学会·研究会等:

公益(社)日本理学療法協会、公益(社)北海道理学療法士会,日本整形徒手療法協会、日本運動器徒手療法学会、マニュアルセラピー研究会

科学研究費 (研究資金) の取得:

マーカーレスモーションキャプチャーによる氷雪寒冷圏域在住高齢者の歩行 分析 研究代表者

地域在住高齢者における社会参加がフレイルの発生リスクに及ぼす影響の検 証

社会活動:北海道理学療法士会 学会研修部および総務部

顕彰:なし

 氏名
 松崎 由里子
 保健医療学部
 学科
 リハビリテーション学科
 職階
 講

 師

専門分野:地域理学療法学、高齢者理学療法学、公衆衛生学

教育活動:

責任科目:地域リハビリテーション学演習(2年次、1単位、15時間)、理学療法評価学演習(運動器系)(2年次、2単位、60時間)

担当科目:地域理学療法学(15 時間)、理学療法評価学(運動器系)(30 時間)、生理学演習(30 時間)、災害リハビリテーション(15 時間)、卒業研究 I(30 時間)、卒業研究 I(30 時間)

非常勤講師: 札幌医科大学(地域理学療法学)

学内委員会・学科内業務等:

PT 専攻実習担当

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本理学療法士協会、日本公衆衛生学会、日本老年療法学会、日本国際保健医療学会、応用老年学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:理学療法学(査読委員),北海道理学療法士会社会局介護予防・健康増進支援部(部長),北海道理学療法(査読委員),独立行政法人国際協力機構(JICA) 国際緊急援助隊(登録者),令和4(2022)年度東月寒地区地域ケア会議(講師)

顕彰:なし

氏名 村上 元 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

専門分野:精神障害作業療法

教育活動:

責任科目:精神障害作業治療学(3年次、2単位、58 時間)、就労支援作業療法学(3年次、1単位、10 時間)、作業療法セミナーⅡ(2年次、1単位、30 時間)、作業療法セミナーⅠ(1年時、1単位、26 時間)

担当科目:生理学演習(30時間)、作業療法概論(2時間)、作業療法評価学演習(基礎) (2時間)、地域リハビリテーション学演習(6時間)、発達障害作業治療学 (20時間)、卒業研究 I (60時間)、卒業研究 II (30時間)、人間発達学(14時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

学学生委員会、人権擁護委員会、学年担任(作業療法学専攻4年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

北海道作業療法士会(論文審査委員)、日本作業療法士協会、SST 普及協会(北海道支部副支部長・学術委員)、日本認知療法・認知行動療法学会、日本認知・行動療法学会、日本パーソナリティ心理学会

科学研究費 (研究資金) の取得:

学内学術助成費「大学生における被害妄想的観念に自閉スペクトラム症傾向 と逆境体験が及ぼす影響」研究代表者

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名: <u>村上 正和</u> <u>保健医療学部</u> 学科<u>リハビリテーション学科</u> 職階<u>講</u>

専門分野:高次脳機能障害、脳卒中、在宅リハビリテーション、動作解析

教育活動:

責任科目:高次脳機能障害作業治療学(3年次、1単位、30時間)、地域作業療法学(3年次、1単位、30時間)、高次脳機能障害学(3年次、1単位、30時間)、福祉住環境論(3年次、1単位、30時間)

担当科目:高次脳機能障害作業治療学(20時間)、地域作業療法学(20時間)、高次脳機能障害学(20時間)、福祉住環境論(16時間)、作業療法評価学(基礎評価)(26時間)、解剖学演習(60時間)、高齢期作業治療学(20時間)、作業療法概論(2時間)、日常生活適応学(ADL)(8時間)、地域リハビリテーション学(2時間)、作業療法セミナーⅡ(30時間)、作業療法セミナーⅢ(30時間)、作業療法をシー・Ⅲ(30時間)、作業療法をシー・Ⅲ(30時間)、存業研究Ⅰ(60時間)、卒業研究Ⅱ(20時間)、臨床実習Ⅱ(作業療法)(90時間)、臨床実習Ⅱ(作業療法)(180時間)、臨床実習Ⅲ(作業療法)(360時間)、臨床実習Ⅳ(作業療法)(360時間)、作業療法総合演習(30時間)

非常勤講師:北海道医療大学地域包括ケアセンター(臨床指導)

学内委員会・学科内業務等:

人権擁護委員会、FD 委員会、臨床実習担当、国試対策委員会、学科カリキュラム検討 WG、初任者研修担当、学年担任(作業療法学専攻2年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

北海道作業療法学会,日本作業療法士協会,日本肩関節学会,認知神経リハビリテーション学会,日本訪問リハビリテーション協会,神経難病リハビリテーション研究会,日本作業行動学会,日本呼吸ケアリハビリテーション学会,北海道リハビリテーション学会,日本心臓リハビリテーション学会,日本摂食嚥下リハビリテーション学会,脳神経とリハビリテーション研究会,作業療法神経科学研究会,日本腎臓リハビリテーション学会,日本サルコペニア・フレイル学会

科学研究費(研究資金)の取得:

若手研究「360° カメラと VR 技術を併用した視覚誘導性自己運動錯覚の効果」 研究代表者

社会活動: NPO 法人 iCare ほっかいどうボランティアスタッフ、あそびログイベントスタッフ

顕彰:なし

備考:北海道言語聴覚士協会道南支部研修会

氏名 坂口 友康 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 助教

専門分野:小児理学療法、地域理学療法、高齢者、予防理学療法、痛み、認知症

教育活動:

責任科目:理学療法評価学(神経系)(2年次、1単位、30時間)、理学療法評価学演習 (神経系)(2年次、2単位、60時間)

担当科目:理学療法評価学(運動器)(14 時間)、理学療法評価学演習(運動器)(30 時間)、理学療法評価学(神経系)(16 時間)、理学療法評価学演習(神経系)(30 時間)、臨床判断学(基礎編)(30 時間)、臨床判断学(応用編)(30 時間)、理学療法セミナーII(30 時間)、地域理学療法学(2 時間)、卒業研究 I(30 時間)、本業研究 II(60 時間)、臨床実習 II(理学療法)(8 時間)、臨床実習 II(理学療法)(32 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

理学療法臨床実習 I 担当、学生就職サポート教員、カリキュラム検討委員 学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本理学療法士協会、日本公衆衛生学会、日本小児理学療法学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 坂口_紀子 _ 保健医療学部 _ 学科 リハビリテーション学科 _ 職階 <u>助教</u>

専門分野:シーティング、福祉用具、高齢期作業療法

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:作業療法評価学演習(6時間)、身体障害作業治療学(7.5時間)、高齢期作業

治療学(7.5時間)、作業療法治療学特論(3時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

ハラスメント相談員、国家試験対策担当、臨床実習運営

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本作業療法士協会、日本リハビリテーション工学協会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 渋川 佳彦 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 助教

専門分野: バイオメカニクス、車いすシーティング

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:理学療法評価学(運動器系)(30 時間)、理学療法評価学演習(運動器系)(60 時間)、理学療法評価学(神経系)(30 時間)、理学療法評価学演習(神経系)(60 時間)、運動療法学演習(30 時間)、臨床実習 I (90 時間)、臨床実習 I (135 時間)、臨床実習 II (720 時間)、卒業研究 I (60 時間)、地域リハビリテーション学演習(30 時間)、義肢装具学演習(30 時間)、理学療法セミナーIII (30 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

学年担任(理学療法学専攻3年生)、国家試験対策

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

公益社団法人日本理学療法士協会および北海道理学療法士会会員、特定非営 利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会会員、一般社団法人理学 療法科学学会会員

科学研究費(研究資金)の取得:

学内学術助成費「歩行時の反応性方向転換動作における運動戦略と注視点移動の潜時の関連」研究代表者

社会活動:「東月寒童夢セーフティフェスタ 2022」にて日本医療大学ブースの企画・運営、 会議参加

顕彰:なし

氏名<u>三浦 紗世</u> 保健医療学部 学科<u>リハビリテーション学科</u> 職階<u>助教</u> 専門分野:公衆衛生学、予防医学、理学療法学

教育活動:

責任科目:ウィメンズヘルスケア論(3年次、1単位、15時間)、予防医学(1年次、1単位、15時間)

担当科目:ウィメンズヘルスケア論(15 時間)、予防医学(15 時間)、理学療法評価学(運動器系)(30 時間)、理学療法評価学演習(運動器系)(60 時間)、理学療法評価学演習(神経系)(60 時間)、運動学演習(30 時間)、臨床判断学(基礎編)(30 時間)、卒業研究 I(60 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

学年担任(理学療法学専攻2年生)、国家試験対策委員、障害学生対応委員会、 募集必達プロジェクト、教員親睦会、学科会議議事録担当

学術活動:

所属学会・研究会等:

日本理学療法士協会、理学療法科学学会

科学研究費(研究資金)の取得:

学内助成費 マーカーレスモーションキャプチャーによる氷雪寒冷圏域在住 高齢者の歩行分析

学内助成費 地域在住高齢者における社会参加がフレイルの発生リスクに及ぼす影響の検証

社会活動:公益社団法人北海道理学療法士会 学術局 学術誌部編集委員、査読委員

顕彰:なし

備考:科研費「高齢者における足趾把持力が降雪期の転倒発生に及ぼす影響」(研究活動スタート支援)(代表者)継続中

11-1-④ 診療放射線学科教員

氏名<u>杉本 芳則</u> <u>保健医療学部</u> 学科<u>診療放射線学科</u> 職階<u>教授・学科長</u> 専門分野:放射線技術学

教育活動:

責任科目:系統解剖学演習(1年次、1単位、10時間)、診療画像技術学概論(2年次、1単位、6時間)、診療画像技術学 I (一般撮影)(2年次、2単位、16時間)、画像解剖学 I (X線画像)(2年次、2単位、12時間)、応急処置法(演習)(4年次、1単位、8時間)、臨床実習 I (3年次、4単位、180時間)、臨床実習 II (4年次、6単位)、放射線技術学特別講義(4年次、1単位、2時間)、卒業研究(4年次、4単位、120時間)

担当科目:系統解剖学演習(10時間)、診療画像検査学概論(6時間)、診療画像技術学概論(6時間)、診療画像技術学I(一般撮影)(16時間)、画像解剖学I(X線画像)(12時間)、診療画像技術学II(造影検査)(2時間)、応急処置法(演習)(8時間)、臨床実習I、臨床実習II、放射線技術学特別講義(2時間)、卒業研究(120時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

教授会、教務委員会、自己点検・評価委員会、入学試験委員会、入学者選抜委

員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、教員選考委員会、ハラスメント防止 委員会、国際交流委員会、学生懲戒委員会、学生募集対策委員会、国家試験対 策委員会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本放射線技術学会、日本 CT 検診学会、日本消化器がん検診学会(北海道支部放射線研修委員)、日本診療放射線技師会、日本消化器画像診断情報研究会(常任世話人)、日本医用画像管理学会、札幌ニューテクノロジー研究会(相談役)、日本消化器がん検診精度管理評価機構、大阪消化管撮影技術研究会

科学研究費(研究資金)の取得:

学内教育向上研究費「MR 装置における性能評価法の習得を目的とした疑似体験型教材の開発」

学内教育向上研究費「大学教育において学習機材が学修効果に及ぼす影響」

社会活動:なし 顕彰:なし

氏名 木村 徹 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野:医療画像情報学、医療画像工学、医療画像処理学

教育活動:

責任科目:医療画像処理学(2年次、1単位、15時間)、医用工学実験(2年次、1単位、45時間)、診療画像技術学実験Ⅱ(3年次、1単位、45時間)、医療画像工学(3年次、2単位、30時間)、医療画像情報学(3年次、2単位、30時間)、医療画像情報学演習(4年次、1単位、30時間)、総合演習Ⅰ(4年次、1単位、30時間)

担当科目:医療画像処理学(15 時間)、医用工学実験(15 時間)、診療画像技術学実験 II (26 時間)、医療画像工学(30 時間)、医療画像情報学(30 時間)、医療画像情報学演習(30 時間)、総合演習 I (6 時間)、臨床実習 I (4.5 時間)、臨床実習 II (45 時間)、補講:国家試験対策(第1種放射線取扱主任者試験対策講義)(30 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会·学科内業務等:

教授会、教務委員会、国家試験対策委員会、学年担任(2年生)、臨床実習編 成統括

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本アイソトープ協会、日本放射線技術学会、日本教育工学会、日本診療放

射線学教育学会(理事)、日本放射線技師教育学会、生体医工学会、精密工学 会、日本保健科学学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 俵 紀行 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野:磁気共鳴医工学、スポーツ医科学

教育活動:

責任科目:放射線科学概論、画像解剖学Ⅱ (MRI・超音波・造影画像)、MRI 検査学、医療

安全管理学

担当科目:総合演習Ⅱ、卒業研究、障害学特論(リハビリテーション学科)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

教授会、図書·学術振興委員会、国際交流委員会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本放射線技術学会、医用画像情報学会、 日本磁気共鳴医学会、日本医学物理学会、日本骨形態計測学会、日本診療放射線技師会、北海道放射線技師会、 European Society of Radiology、International Section for Magnetic Resonance Technologists

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:日本磁気共鳴医学会代議員

顕彰:なし

氏名 西山 修輔 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野:プラズマ計測学

教育活動:

責任科目:放射線物理学(1年次、2単位、30時間)、放射線物理学演習(2年次、1単位、30時間)、電気・電子工学(2年次、2単位、30時間)、医用工学(2年次、2単位、30時間)、医用工学(1年次、2単位、30時間)、医用工学実験(2年次、1単位、45時間)

担当科目:放射線物理学(30時間)、放射線物理学演習(30時間)、電気・電子工学(30時間)、医用工学(2年次)(30時間)、医用工学(1年次)(30時間)、医用工学(1年次)(30時間)、医用工学実験(15時間)、放射線物理学実験(24時間)、放射線・物理学実験(30時間)、診療画像機器学(4時間)、総合演習 I (専門基礎領域)(8時間)、卒

業研究 (120 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

教授会、カリキュラム委員会 (委員長)、研究費審査委員会

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

応用物理学会、プラズマ・核融合学会

科学研究費 (研究資金) の取得:

基盤研究 (C)「半導体レーザーを用いた二段励起レーザー誘起蛍光法による 高感 度電界計測法の開発」研究代表者

核融合科学研究所一般共同研究「LHD における長光路に適した飽和吸収分光法の開発」研究代表者

核融合科学研究所一般共同研究

「シース電場計測のための水素原子バルマーアルファ線キャビティリングダウン飽和吸収分光 法の開発」

社会活動:なし 顕彰:なし

氏名 樋口 健太 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野:放射化学・環境放射線、保健物理学・放射線管理学、放射線教育

教育活動:

責任科目:化学(1年次、1単位、15時間)、医療コミュニケーション学(1年次、1単位、15時間)、放射化学演習(2年次、1単位、30時間)、臨床解剖学演習(3年次、1単位、30時間)、画像診断学Ⅲ(胸部・心大血管・消火器他)(4年次、2単位、30時間)、画像診断学Ⅲ(演習)(4年次、1単位、30時間)、総合演習(臨床領域)(4年次、1単位、30時間)、卒業研究(4年次、4単位、120時間)

担当科目:化学(15 時間)、医療コミュニケーション学(15 時間)、放射化学(45 時間)、 放射化学(45 時間)、放射化学演習(30 時間)、臨床解剖学演習(30 時間)、 画像診断学Ⅱ(胸部・心大血管・消火器他)(30 時間)、画像診断学Ⅲ(演習) (30 時間)、総合演習Ⅰ(基礎領域)(4 時間)、卒業研究(120 時間)、チーム医療(15 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

教授会、FD 委員会(委員長)、研究倫理委員会、学年担当(1年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、放射線安全取扱部会、日本放射線公衆安全学会、診療放射線学教育学会、日本放射線技師教育学会、北海道放射線技師会、札幌放射線技師会、日本放射線技術学会北海道支部会、日本放射線技術学会学術推進員、日本放射線技術学会 北海道支部 放射線計測防護専門委員、日本保健物理学会、日本放射線影響学会

科学研究費(研究資金)の取得:

日本医療大学教育向上研究費 研究代表者

放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点

社会活動:北海道 FDSD 協議会委員、日本医療大学生涯学習講座、環境省情報発信事業「ラジエーションカレッジセミナー」講師選出

顕彰:日本放射線技術学会 研究奨励賞・技術奨励賞 (撮影分野 (CT))、日本放射線技術学会 北海道支部 Radiological Physics and Technology 本部雑誌掲載賞 (学会表彰)

氏名:<u>菊地 実</u> <u>保健医療学部</u> 学科<u>診療放射線学科</u> 職階<u>准教授</u> 専門分野:医用生体工学、医用システム、放射線科学 教育活動:

責任科目:超音波検査学(3年次、2単位、30時間)

担当科目:診療画像技術学概論(2時間)、診療画像技術学実験Ⅱ(CT,超音波,眼底)(45時間)、診療画像機器学実験(45時間)、系統解剖学演習(10時間)、診療画像検査学概論(4時間)、臨床実習Ⅰ(180時間)、臨床実習Ⅱ(270時間)、卒業研究(120時間)

非常勤講師:北海道医療大学(画像検査学演習)、北海道医薬専門学校(超音波検査学、 超音波検査学実習)、吉田学園(放射線工学概論)

学内委員会 • 学科内業務等:

教授会、人権擁護委員会、保健管理委員会、臨床実習 WG、就職活動 WG 学術活動:

所属学会・研究会等:日本超音波医学会(地方会幹事)、日本超音波検査学会(地方会委員、査読委員、標準化委員)、日本糖尿病学会、日本アミロイドーシス学会、 北海道 CVT (血管診療技師)の会(代表幹事)

科学研究費 (研究資金) の取得:

基盤研究(C)「糖尿病非専門看護師のためのインスリン注射技術に関する新たな教育ツールの開発」

基盤研究 (C)「AI 技術によるインスリン自己注射管理指導のためのエコーシステムの開発」研究代表者

社会活動:超音波検査技術指導(愛育病院、則武クリニック、深瀬医院)

顕彰:なし

氏名 島 勝美 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 准教授

専門分野:放射線治療、放射線計測、放射線防護

教育活動:

責任科目:診療放射線学概論(1年次、1単位、15時間)、放射線計測学(3年次、2単位、30時間)、放射線計測学演習(4年次、1単位、30時間)、核医学検査技術学(3年次、2単位、30時間)、核医学検査技術学演習(4年次、1単位、30時間)、放射線治療機器学(3年次、1単位、15時間)、放射線安全管理学(3年次、2単位、30時間)、関係法規(4年次、1単位、15時間)

担当科目:診療放射線学概論(15 時間)、放射線計測学(30 時間)、放射線計測学演習(30 時間)、放射線治療機器学(15 時間)、放射線安全管理学(30 時間)、関係法規(15 時間)、画像解剖学 I (X 線画像)(6 時間)、総合演習 I (6 時間)、放射線科学概論(15 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会 · 学科内業務等:

教授会、教務委員、カリキュラム委員、2年副担任、臨床実習 WG

学術活動:

所属学会・研究会等:日本放射線技師会、北海道放射線技師会、札幌市放射線技師会、 日本医学物理士会、日本放射線技術学会、日本放射線技術学会放射線治療部 会、日本医学物理学会、日本放射線腫瘍学会、日本アイソトープ協会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名: <u>福山 篤司</u> <u>保健医療学部</u> 学科 <u>診療放射線学科</u> 職階 <u>准教授</u> 専門分野: 診療画像機器学、磁気共鳴検査学、医療技術評価学、放射線科学 教育活動:

責任科目:診療画像機器学(2年次、2単位、30時間)、診療画像技術学Ⅱ(造影検査) (3年次、2単位、30時間)、診療画像機器学演習(3年次、1単位、30時間)、画像診断学Ⅰ(頭部・頸部・脊髄)(3年次、2単位、30時間)、診療画像機器学実験(3年次、1単位、45時間)、核医学検査機器学(3年次、2単位、30時間)

担当科目:診療画像機器学(24 時間)、診療画像技術学Ⅱ(造影検査)(26 時間)、診療画像機器学演習(30 時間)、画像診断学Ⅰ(頭部・頸部・脊髄)(6 時間)、診

療画像技術学概論 (2時間)、診療画像検査学概論 (4時間)、診療画像機器学実 験 (45時間)、臨床実習 I (180時間)、臨床実習 II (225時間)、総合演習 II (8時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

教授会、自己点検・評価委員会、学生委員会、学科内卒業研究 WG、学年担任 (3年生)

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本磁気共鳴医学会、日本放射線技術学会、4D FLOW 研究会、医用画像情報学会、十勝放射線技師会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「撮像時間短縮技術を使用した MR 画像による血流動態解析の精度検証に関する研究」研究代表者

学内教育向上研究費「MR 装置における性能評価法の習得を目的とした擬似体験型教材の開発」研究代表者

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 阿部 匡史 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 講師

専門分野:放射線治療技術学

教育活動:

責任科目:情報科学(1年次、1単位、15時間)、情報科学演習(1年次、1単位、30時間)、核医学検査技術学概論(3年次、2単位、30時間)、放射線治療技術学概論(3年次、2単位、30時間)、放射線治療技術学(3年次、2単位、30時間)、放射線治療計測学(4年次、1単位、15時間)、放射線治療技術学演習(4年次、1単位、30時間)、総合演習II(4年次、1単位、30時間)

担当科目:情報科学(15 時間)、情報科学演習(30 時間)、診療画像技術学実験Ⅱ(48 時間)、放射線治療技術学概論(30 時間)、放射線治療技術学(30 時間)、放射線治療技術学演習(30 時間)、総合演習Ⅱ(30 時間)、卒業研究(120 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

研究倫理委員会、入学者選抜委員会、国家試験対策小委員会、学年担任(4 年生)、臨床実習、就職活動

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、日本放射線技術学会北海道支部(理事、放射線治療専門委員会委員長)、日本放射線腫瘍学会、日本医学物理学会、日本医学物理士会、北海道放射線治療研究会(世話人代表)、日本放射線治療品質管理機構(北海道地区相談員)、日本放射線治療専門放射線技師認定機構(北海道地区指導者)、北海道放射線治療を語る部屋(幹事)

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 加川 宗芳 _ 保健医療学部 _ 学科 _ 診療放射線学科 _ 職階 _ 講師 _

専門分野:生体医工学、医療機器

教育活動:

責任科目:数学 I (指数・対数・三角関数)(1年次、2単位、30時間)、数学 II (微分・積分・微分方程式)(1年次、1単位、15時間)、数学Ⅲ(統計学)(1年次、1単位、15時間)、医用工学(1年次、1単位、15時間)、医用工学実習(1年次、1単位、45時間)

担当科目:数学 I (指数・対数・三角関数)(30 時間)、数学 II (微分・積分・微分方程式)(30 時間)、数学Ⅲ(統計学)(30 時間)、放射線・物理学実験(45 時間)、 医用工学(15 時間)、医用工学実習(45 時間)

非常勤講師:吉田学園医療歯科専門学校(電子工学Ⅰ、電子工学Ⅱ、機械工学)

学内委員会・学科内業務等:

不正調查委員会

学術活動:

所属学会 · 研究会等:

日本生体医工学会、日本医療機器学会、日本医工学治療学会、日本教育工学会

科学研究費 (研究資金) の取得:

教育向上研究費「医療系大学における医工学学習の動機付けを喚起する学習 環境の構築と実践」研究代表者

社会活動:第36回臨床工学技士国家試験 試験委員

顕彰:なし

氏名<u>黒蕨 邦夫</u> <u>保健医療学部</u> 学科<u>診療放射線学科</u> 職階<u>講師</u> 専門分野:放射線技術学 予防医学

教育活動:

責任科目:医療職としての責任と役割(4年次、1単位、15時間)、放射線カウンセリング学(4年次、1単位、15時間)、医療機器安全管理学(4年次、1単位、15時間)、診療画像技術学実験 I (2年次、1単位、45時間)、診療画像検査学概論(1年次、2単位、30時間)

担当科目:医療職としての責任と役割(15 時間)、放射線カウンセリング学(15 時間)、 医療機器安全管理学(15 時間)、診療画像技術学実験 I (25 時間)、診療画像 検査学概論(6 時間)、診療画像技術学 I (15 時間)、画像解剖学 I (10 時間)、 総合演習 I:専門基礎領域(2 時間)、総合演習 II:臨床領域(4 時間)、統合 実習:学内(看護学科)(4 時間)、卒業研究(120 時間)

非常勤講師:北海道大学 医学部保健学科(臨床超音波検査学)

学内委員会,学科内業務等:

人権擁護委員会 FD委員会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本放射線技術学会(撮影部会委員会 乳房撮影ガイドライン普及班委員)、 日本放射線技術学会北海道支部(監事)、日本乳癌検診学会(代議員)、日本乳 癌検診精度管理中央委員会(技術委員)、日本乳癌学会、日本超音波検査学会、 日本消化器がん検診学会、北海道公衆衛生学会、日本診療放射線技師会、札 幌ニューテクノロジー研究会(監事)

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:北海道がん対策推進委員会特別委員、札幌市がん対策部会 乳癌部会 委員、 札幌市健康づくり推進協議会 臨時委員、ピンクリボン in Sapporo 理事 顕彰:なし

氏名 白石 祐太 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 講師

専門分野:放射線生物学

教育活動:

責任科目:放射線生物学(1年次、2単位、30時間)、X線CT検査学(3年次、2単位、30時間)、医療情報管理学(4年次、1単位、15時間)、画像解剖学Ⅲ(3年次、1単位、30時間)、放射線物理学実験(2年次、1単位、45時間)、放射線・物理学実験(1年次、1単位、30時間)

担当科目:放射線生物学(30時間)、X線CT検査学(30時間)、医療情報管理学(15時間)、画像解剖学Ⅲ(30時間)、診療画像検査学概論(30時間)、総合演習Ⅰ(30時間)、総合演習Ⅱ(30時間)、放射線物理学実験(45時間)、診療画像技術学実験Ⅱ(45時間)、医用工学実験(45時間)、放射線・物理学実験(30

時間)、卒業研究 (120 時間)、臨床実習 I (180 時間)、臨床実習 II (270 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

学生委員会、学年担任(3年生)、臨床実習担当

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本医学物理学会、Radiological Society of North America

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 小笠原 凌介 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 助教

専門分野:核医学、診療放射線学教育学、放射線治療

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:核医学検査技術学(2時間)、診療画像機器学実験(28時間)、診療画像技術

学実験 I (48 時間)、診療画像技術学実験 Π (28 時間)、放射線・物理学実験 (44 時間)、卒業研究 (120 時間)、臨床実習 Π (180 時間)、臨床実習 Π (270

時間)

非常勤講師:なし

学内委員会,学科内業務等:

国家試験対策小委員会(学科内)

学術活動:

所属学会 · 研究会等:

日本診療放射線学教育学会、日本放射線技術学会

科学研究費(研究資金)の取得:

学内教育向上研究費「大学教育において学習教材が学習効果に及ぼす影響」

研究代表者

学内学術助成費「進化的アルゴリズムを用いた画像再構成フィルタの適応に

関する基礎的検討し

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 藤田 智 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 助教

専門分野:基礎医学大要、核医学検査技術学、超音波検査技術学、診療画像検査学、画像

診断学 I

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:画像診断学 I (3年次、2単位、30時間)、系統解剖学演習(1年次、1単位、30時間)診療画像技術学 II (3年次、2単位、30時間)、診療画像機器学演習(3年次、1単位、30時間)、診療画像機器学(2年次、1単位、30時間))、障害学特論(臨床検査学科2年次、1単位、30時間)、診療画像技術学実験 I (2年次、1単位、45時間)、診療画像技術学実験 II (3年次、1単位、45時間)、診療画像機器学実験(3年次、1単位、45時間)、総合演習 II (4年次、1単位、30時間)、卒業研究(4年次、4単位、60時間)、臨床実習 I (3年次、4単位、180時間)、臨床実習 II (4年次、6単位、270時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

キャリアセンター運営委員会、募集必達プロジェクト、国家試験対策小委員会、就職活動

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本診療放射線技師会、札幌放射線技師会、日本放射線技術学会、日本保健物理学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

11-1-5 臨床検査学科教員

氏名<u>品川 雅明</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>臨床検査学科</u> 職階<u>教授・学科</u> 長

専門分野:基礎看護学、看護教育学、看護歴史・占領史

教育活動:

責任科目:微生物学(2年次、1単位、15時間)、臨床微生物学I(2年次、1単位、6時間)、臨床微生物学実習I(2年次、1単位、45時間)

担当科目:臨床検査入門(2時間)、臨床検査機器総論演習(12時間)、チーム医療論(看護学科2年 2時間)、チーム医療論(リハビリテーション学科3年 2時間)

非常勤講師:札幌医学技術福祉歯科専門学校(臨床微生物学)、苫小牧看護専門学校(微 生物学)

学内委員会・学科内業務等:

運営会議、教授会、IR 運営会議、教務委員会、自己点検·評価委員会、入試

委員会、入学者選抜委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、教員選考委員会、ハラスメント委員会、国際交流委員会、学生募集対策委員会、日本医療大学生涯学習講座、日本医療大学認知症研究所、日本医療大学 PCR 検査センター事業(管理責任者)、オープンキャンパス、一日体験入学、入試相談会

学術活動:

所属学会·研究会等:

北海道臨床衛生検査技師会(副会長)、日本臨床微生物学会(理事)、日本臨床衛生検査技師会、日本感染症学会、日本化学療法学会、MALDI マルディノミクスの会(世話人)、札幌感染症談話会(代表世話人)、北海道微生物検査研究会(世話人)

科学研究費(研究資金)の取得:

日本医療大学学術助成費、受託研究費(関東化学株式会社)、共同研究費(ベックマン・コールター株式会社)、受託研究費(ベックマン・コールター株式会社)

社会活動:日本臨床微生物学会【認定技師制度(委員長)・認定医制度委員・地区制度委員・ 認定臨床微生物検査技師制度審議会あり方委員・研修施設認定委員(委員長)・ 認定試験作成委員】、日本臨床検査学教育協議会評議員、医学検査査読委員、大 学説明ガイダンス講師(札幌月寒高校)、志望群別集会講師(北広島高校)、札 幌市 PCR 検査センター事業(協力員)

顕彰:なし

氏名 淺沼 広子 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 教授

専門分野:病理組織、細胞学、解剖学

教育活動:

責任科目:解剖学(1年次、1単位、15時間)、解剖学演習(1年次、1単位、30時間)、 病理検査学実習(2年次、1単位、30時間)

担当科目:解剖学(15 時間)、解剖学演習(30 時間)、組織細胞学実習(45 時間)、臨床検査入門(2 時間)、検査機器総論演習(4 時間)、生涯特論(2 時間)、臨床血液学実習 I(45 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

カリキュラム委員、国際交流委委員、ハラスメント相談委員

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本癌学会、日本病理学会、日本臨床免疫学会、日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会

科学研究費(研究資金)の取得:

学内学術助成「ホルモン受容体陽性乳がんの免疫治療に向けた病理組織学的 解析」 代表者

社会活動: 札幌市 PCR 検査センター事業 (協力員)、日本医療大学 PCR 検査センター事業 (検査員)

顕彰:なし

氏名 梅森 祥央 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 教授

専門分野:臨床化学

教育活動:

責任科目:化学(1年次、1単位、15時間)、生化学Ⅱ(1年次、1単位、15時間)、臨床化学Ⅱ(2年次、2単位、30時間)、臨床化学実習Ⅱ(2年次、1単位、45時間)、障害学特論(2年次、1単位、4時間)

担当科目:化学(15 時間)、生化学Ⅱ(15 時間)、臨床検査入門(2 時間)、検査機器総論 演習(6 時間)、臨床化学Ⅱ(30 時間)、臨床化学実習Ⅰ(45 時間)、臨床化学 実習Ⅱ(45 時間)、障害学特論(4 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

カリキュラム委員会、保健管理委員会

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本臨床化学会(評議員、北海道支部幹事)、日本臨床検査医学会(評議員、北海道支部幹事)、北海道臨床衛生検査技師会(精度管理委員)、日本臨床衛生検査技師会、日本医療検査科学会、日本臨床検査学教育協議会

科学研究費(研究資金)の取得:

学内学術助成「質量分析法による認知症の血液バイオマーカーの構築」代表 者

社会活動:日本臨床化学会酵素・試薬専門委員会委員、医学検査査読委員、札幌市 PCR 検査センター事業(協力員)、日本医療大学 PCR 検査センター事業(検査員)、北海道衛生検査所精度管理専門委員、生涯学習講座講演(1月)

顕彰:なし

氏名 德永 祐一 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 教授

専門分野:病理学、病理検査学、組織細胞学、細胞診検査学

教育活動:

責任科目:組織細胞学(1年次、1単位、15時間)、組織細胞学実習(1年次、1単位、

45 時間)、病理学(1年次、1単位、15 時間)、病理検査学(2年次、1単位、 15 時間)

担当科目:組織細胞学(15 時間)、組織細胞学実習(45 時間)、病理学(15 時間)、解剖学演習(30 時間)、検査機器総論演習(10 時間)、病理検査学(15 時間)、病理検査学実習(45 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

研究倫理委員会(委員長)、教務委員会、日本医療大学 PCR 検査センター事業 (検査員)

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会、細胞検査士会、北海道細胞検査士会(副会長)、The International Academy of Cytology

科学研究費(研究資金)の取得:

学内学術助成費「ホルモン受容体陽性乳がんの免疫治療に向けた病理組織学 的解析」 分担者

社会活動: 札幌市 PCR 検査センター事業 (協力員)、医療関連サービス振興会 北海道地区 委員長、医療関連サービス振興会 衛生検査所専門部会調査指導中央委員会委員、 医療関連サービス振興会 医療関連サービス制度 (衛生検査所業務) 調査指導 員

顕彰:なし

氏名 魚住 諒 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 講師

専門分野:免疫学、リウマチ学、輸血学

教育活動:

責任科目:免疫学(1年次、1単位、15時間)、臨床免疫学I(2年次、1単位、15時間)、臨床免疫学II(2年次、1単位、15時間)、臨床免疫学実習I(2年次、1単位、45時間)

担当科目:免疫学(15 時間)、臨床免疫学 I (15 時間)、臨床免疫学 II (15 時間)、臨床免疫学 II (15 時間)、臨床免疫学 II (45 時間)、医療安全管理学実習(45 時間)、臨床検査入門(4 時間)、検査機器総論(2 時間)

非常勤講師:北海道大学医学部保健学科(輸血·移植検査学)、北海道文教大学(臨床検 査概論)

学内委員会・学科内業務等:

図書・学術振興委員会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本リウマチ学会、日本病理学会、日本臨床衛生検査技師会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動: 札幌市 PCR 検査センター事業 (協力員)、創成高校進路相談会 (代表講演)、北 星高校出張講義

顕彰:なし

氏名 岡田 一範 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 講師

専門分野:臨床生理学、超音波検査学

教育活動:

責任科目:臨床生理学 I (2年次、1単位、15時間)、臨床生理学 II (2年次、1単位、15時間)、臨床生理学 III (2年次、1単位、15時間)、臨床生理学 II (2年次、1単位、15時間)、臨床生理学実習 I (2年次、2単位、90時間)

担当科目:臨床生理学 I (8時間)、臨床生理学 II (8時間)、臨床生理学 II (15時間)、 臨床生理学実習 I (90時間)、検査機器総論演習 (2時間)

非常勤講師:

北海道大学医学部保健学科(臨床生理学 I)、北海道情報大学(臨床検査概論)、 吉田学園医療歯科専門学校(画像検査学実習)、札幌看護医療専門学校(臨床 生理学演習)

学内委員会・学科内業務等:

教務委員会、教務委員会内成績評価ワーキンググループ、研究費審査委員会、 学年副担任(1年生)、オープンキャンパス、一日体験入学

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本臨床衛生検査技師会、北海道臨床衛生検査技師会(札幌地区会事務局長)、日本心エコー図学会、日本超音波検査学会、日本超音波医学会、日本循環器学会、日本動脈硬化学会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「高齢糖尿病患者の足の柔軟性に働きかける足浴プログラムの効果検証」分担者

学内学術助成「血流依存性血管拡張反応と関連する動脈硬化指標の探索」 代 表者

社会活動:出前講義(北星学園女子高等学校、1回)、日本医療大学PCR 検査センター事業 (検査員)、札幌市PCR 検査センター事業(協力員)、The international journal of cardiovascular imaging 査読者 (5件)、Cardiovascular Ultrasound 査読 者(1件) 顕彰:なし

氏名___小池__祐史___ 学部__保健医療学部___学科__臨床検査学科__ 職階__講師__

専門分野:公衆衛生学,臨床微生物検査学

教育活動:

責任科目:公衆衛生学(2年次、1単位、15時間)、医動物学(2年次、1単位、15時間)、感染管理学(2年次、1単位、15時間)

担当科目:公衆衛生学(8時間)、医動物学(15時間)、臨床微生物学 I (10時間)、感染管理学(8時間)、臨床微生物学実習 I (45時間)、検査機器総論演習 II (2時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

自己点検・評価委員会、キャリアセンター運営委員会、日本医療大学 PCR 検査センター事業(協力員)

学術活動:

所属学会·研究会等:

北海道臨床衛生検査学会(常務理事,微生物部門長)、日本臨床衛生検査技師会(北日本支部微生物部門員)、日本臨床微生物学会(評議員)、日本臨床・分析中毒学会、感染症対策・未来創造ミーティング北海道地区(代表世話人)、日本感染症教育研究会(IDATEN)北海道(世話人)、札幌感染症談話会(世話人)、北海道微生物検査研究会(世話人)

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:

札幌市 PCR 検査センター事業(協力員)、札幌市医師会夜間急病センター(協力員)、日本医療大学 PCR 検査センター事業(協力員)、第10回北日本支部医学検査学会実務委員

顕彰:なし

氏名 澁谷 斉 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 講師

専門分野:臨床生化学、一般検査学

教育活動:

責任科目:臨床検査入門(1年次、1単位、15時間)、生化学 I (1年次、1単位、15時間)、検査機器総論演習(1年次、1単位、30時間)、臨床化学 I (1年次、1単位、15時間)、一般検査学 I (1年次、1単位、15時間)、一般検査学 II (2年次、1単位、15時間)、一般検査学実習(2年次、1単位、45時間)、臨床化学実習 I (2年次、1単位、45時間)

担当科目:臨床検査入門(2時間)、生化学 I (15 時間)、検査機器総論演習(10 時間)、 臨床化学 I (15 時間)、一般検査学 I (15 時間)、一般検査学 II (15 時間)、一般検査学実習(45 時間)、臨床化学実習 I (45 時間)、臨床化学実習 II (45 時間)

非常勤講師:吉田学園医療歯科専門学校(臨床化学)

学内委員会・学科内業務等:

研究倫理委員会委員、FD委員会委員、PCR検査

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本臨床衛生検査技師会、日本検査医学会(北海道支部幹事)、日本臨床化学会(北海道支部幹事)

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動: 札幌市 PCR 検査センター事業(協力員)

顕彰:瑞宝双光章受章(令和4(2022)年4月)

氏名 高橋 裕之 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 講師

専門分野:臨床血液学、臨床遺伝子染色体学

教育活動:

責任科目:臨床血液学 I (2年次、1単位、15時間)、臨床血液学 II (2年次、1単位、15時間)、臨床血液学実習 I (2年次、1単位、45時間)

担当科目:臨床血液学 I (15 時間)、臨床血液学 II (15 時間)、臨床血液学実習 I (45 時間)、臨床検査入門 (2 時間)、検査機器総論 (2 時間)、障害学特論 (2 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

入学者選抜委員会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本臨床衛生検査技師会、日本検査血液学会 (評議員)、日本サイトメトリー学会、日本人類遺伝学会、日本染色体遺伝子検査学会 (理事)、日本血液学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動: 札幌市 PCR 検査センター事業 (協力員)

顕彰:なし

氏名<u>林泰弘</u>学部<u>保健医療学部</u>学科<u>臨床検査学科</u>職階<u>講師</u> 専門分野:医療安全管理学、臨床生理学

教育活動:

責任科目:医療安全管理学実習(2年次、1単位、45時間)

担当科目:医療安全管理学実習(45時間)、医療安全管理学(8時間)、障害学特論(6時間)、検査機器総論演習(2時間)、臨床生理学実習I(72時間)、臨床微生物学実習I(45時間)、臨床生理学II(8時間)

非常勤講師:札幌看護医療専門学校(臨床生理学演習)、吉田学園(臨床検査総合演習Ⅱ) 学内委員会・学科内業務等:

学生委員会、日本医療大学 PCR 検査センター事業(検査員)、オープンキャンパス、一日体験入学、入試相談会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本細菌学会、日本臨床衛生検査技師会、日本輸血・細胞治療学会、日本臨床神経生理学会、日本環境感染学会、日本臨床・分析中毒学会、札幌輸血談話会(会員)

科学研究費(研究資金)の取得:

学内学術助成費「LC-MS/MS を用いた PBP2'の検出」 代表者

社会活動: 札幌市 PCR 検査センター事業 (協力員)、タスク・シフト/シェアに関する厚生 労働大臣指定講習会における北海道臨床検査技師会実技講習会 WG 委員、日医大 フェスにおける臨床検査技師学科体験、分野別講師(釧路明輝高等学校)

顕彰:なし

氏名<u>磯辺 正道</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>臨床検査学科</u> 職階<u>助教</u>専門分野:管理マネジメント、チーム医療(多職種連携)、保健医療教育活動:

責任科目:医療安全管理学(2年次、1単位、6時間)、関係法規(3年次、1単位、12時間)、臨床検査マネジメント論(3年次、1単位、12時間)、臨床検査管理学 I(3年次、1単位、12時間)、保健医療福祉概論(1年次、1単位、12時間)、臨床病棟検査概論(2年次、1単位、12時間)

担当科目:保健医療福祉概論(12 時間)医療安全管理学(6 時間)、感染管理学(6 時間)、 医療安全管理学実習(34.5 時間)、臨床免疫学実習 I(34.5 時間)、障害学特論 (4.5 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

学生委員会、学年担任(2年生)

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本医学検査学会、日本環境感染学会、日本医療検査科学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動: 三笠市社会協議会、三笠市立三笠中学校 講演、岩見沢西高校出前講義、札幌市 PCR 検査センター事業 (検査員)、北海道臨床衛生検査技師会 検査研究部門総合管理部門長、日本臨床検査連盟 執行委員 北海道支部長、北海道臨床衛生検査技師会タスク・シフト/シェア WG 委員長、三笠サッカー協会 会長、空知サッカー協会 理事長、北海道サッカー協会 理事、三笠市スポーツ協会理事長、三笠市スポーツ推進委員、三笠市コミュニティースクール 委員長、三笠市立三笠中学校 同窓会長、三笠市若松町東町内会 会長、三笠市社会教育委員

顕彰:なし

11-1-6 臨床工学科教員

氏名<u>千原 伸也</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科 <u>臨床工学科</u> 職階<u>教授・学科長</u> 専門分野:血液浄化装置学、生体機能代行装置学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:チーム医療論(2時間)

非常勤講師:吉田学園医療歯科専門学校(生体機能代行装置学,血液浄化実習)

学内委員会・学科内業務等:

運営会議、教授会、運営会議、教務委員会、自己点検・評価委員会、入試委員会、入学者選抜委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、教員選考委員会、ハラスメント委員会、国際交流委員会、学生募集対策委員会、オープンキャンパス、一日体験入学、入試相談会

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本臨床工学技士会、日本集中治療医学会(評議員、集中治療専門臨床工学技士 試験委員会、専門臨床工学技士制度委員会)、日本人工臓器学会(評議員)、日本 急性血液浄化学会(評議員)、日本アフェレシス学会、日本血液浄化技術学会、 北海道臨床工学技士会、エンドトキシン血症救命治療研究会、日本集中治療医学 会北海道支部会(連絡協議員)、日本アフェシス学会北海道地方会(幹事) 北海 道呼吸管理研究会(世話人)

科学研究費(研究資金)の取得:

科研費(若手研究)「持続的血液浄化療法における局所冷却法を用いた抗凝固」 研究代表者 受託研究「G-1 カラムと CHF 施行時の各種サイトカイン除去クリアランスと 安全性に関する検討」(JIMRO 株式会社)研究分担者

受託研究「ヘモフィール CH 希釈条件によるサイトカイン吸着性能 in vitro 研究」(東レ・メディカル株式会社)研究分担者

社会活動:北海道の医療機関における電波利用推進協議会委員(総務省北海道総合通信局)

顕彰:なし

氏名_瀧本 将人_ 学部 保健医療学部 学科 臨床工学科 職階 教授

専門分野:腫瘍学、分子生物学

教育活動:

責任科目:解剖生理学 I (1年次、2単位、30時間)、分子医化学(1年次、2単位、30時間)、形態機能学 I (1年次、1単位、30時間)、生命科学(1年次、1単位、15単位)、疾病論 II (2年次、1単位、30時間)、生理学 I (1年次、1単位、30時間)、生理学 II (1年次、1単位、30時間)、病態生理学(2年次、1単位、15時間)、生命科学(1年次、1単位、15時間)

担当科目:解剖生理学 I (30 時間)、分子医化学 (30 時間)、医療総論 (2 時間)、形態機能学 I (30 時間)、生命科学 (15 時間)、疾病論 II (30 時間)、生理学 I (30 時間)、生理学 I (30 時間)、生理学 I (30 時間)、生理学 I (30 時間)、病態生理学 (15 時間)、生命科学 (15 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会·学科内業務等:

ワクチン接種実行委員会委員

学術活動:

所属学会 · 研究会等:

日本癌学会、日本分子生物学

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:札幌がんセミナー広報委員

顕彰:なし

氏名 竹内 文也 学部 保健医療学部 学科 臨床工学科 職階 教授

専門分野: 生体医工学、生体計測

教育活動:

責任科目:情報処理 I (1年次、2単位、30時間)、情報処理 II (1年次、2単位、14時間)、計測工学(1年次、2単位、30時間)、電気工学実習(1年次、1単位、45時間)

担当科目:情報処理 I (30 時間)、応用数学(8 時間)、情報処理 II (14 時間)、計測工学 (30 時間)、電気工学実習(45 時間)

非常勤講師:吉田学園医療歯科専門学校(化学、システム工学)

学内委員会・学科内業務等:

研究倫理委員会、研究費審查委員会、教務委員会、自己点検評価委員会、学 年副担任(1年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本生体医工学会(代議員)、計測自動制御学会(LE 部門生理・生体工学部会主査)、電子情報通信学会、日本生体磁気学会

科学研究費(研究資金)の取得:

教育向上研究費「論理思考能力向上のための教育プログラムの構築と評価」 研究代表者

社会活動:日本医療大学生涯学習講座 講師

顕彰:なし

氏名 中村 孝夫 学部 保健医療学部 学科 臨床工学科 職階 教授

専門分野:生体工学

教育活動:

責任科目:電気工学 I (1年次、2単位、22.5時間)、電気工学 II (1年次、2単位、22.5

時間)、医用工学概論(1年次、2単位、22.5時間)

担当科目:電気工学 I (22.5 時間)、電気工学 II (22.5 時間)、医用工学概論 (22.5 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:なし

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本人工臓器学会(特別会員)、日本マイクロニューログラフィ学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:臨床工学技士教科書委員会解説集担当登録

顕彰:なし

氏名__工藤__元嗣___ 学部__保健医療学部__ 学科__臨床工学科__ 職階__准教授__

専門分野:臨床工学教育、血液浄化、呼吸療法、医療安全

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:解剖生理学演習(30時間)、解剖生理学Ⅱ(30時間)、臨床工学総論(14時間)

非常勤講師:吉田学園医療歯科専門学校(医用機器安全管理学 I • Ⅱ、医用治療機器学

I · Ⅱ、臨床医学総論Ⅲ)

学内委員会 · 学科内業務等:

カリキュラム委員会、募集必達プロジェクト、FD 委員会、ハラスメント調査委員 学術活動:

所属学会 · 研究会等:

日本臨床工学技士教育施設協議会(理事、教育委員会委員長)、日本臨床工学技士会(卒前教育委員会委員長、生涯教育委員)、北海道臨床工学技士会(理事、教育委員会)、日本生体医工学会(ME 教育委員会、第2種 ME 技術実力検定試験作問委員)、日本生体医工学会北海道支部(幹事)、日本高気圧環境・潜水医学会(幹事)

科学研究費(研究資金)の取得:

JSPS 科研費(基盤 B)「臨床工学技士養成教育の質保証に資する評価体系の確立」分担者

受託研究「G-1 カラムと CHF 施行時の各種サイトカイン除去クリアランスと 安全性に関する検討」(株式会社 JIMRO) 分担者

受託研究「ヘモフィール CH 希釈条件によるサイトカイン吸着性能 in vitro 研究」(東レ株式会社) 責任者

社会活動:1) 学会・セミナーの企画運営

日本臨床工学技士教育施設協議会主催「第8回臨床工学技士養成教員学術研 究会」企画・運営・講演、日本臨床工学技士会主催「厚生労働省告示研修」運 営・講演、日本生体医工学会主催「北海道生体医工学会地方会」企画・運営、北 海道臨床工学技士会主催「北海道臨床工学会」企画・運営、北海道臨床工学技 士会教育委員会主催「手術室セミナー」企画・運営・座長、北海道臨床工学技士 会教育委員会主催「不整脈セミナー」企画・運営、日本臨床工学技士会・日本臨 床工学技士教育施設協議会共催「第 21 回日本臨床工学技士教育研究会」企画· 運営・講演、日本臨床工学技士会・日本臨床工学技士教育施設協議会共催「事 前臨床実習指導者講習会」の企画・運営・講演・ファシリテータ、北海道臨床工 学技士会教育委員会主催「消化器内視鏡セミナー」企画・運営、日本臨床工学 技士会•日本臨床工学技士教育施設協議会共催「第1回臨床実習指導者講習会」 の企画・運営・講演・ファシリテータ、日本臨床工学技士会・日本臨床工学技士 教育施設協議会共催「第2回臨床実習指導者講習会」の企画・運営・講演・ファ シリテータ、北海道臨床工学技士会教育委員会主催「統計セミナー」企画・運 営・座長、北海道臨床工学技士会教育委員会主催「人材育成セミナー」企画・運 営、日本臨床工学技士会・日本臨床工学技士教育施設協議会共催「第3回臨床 実習指導者講習会」の企画・運営・講演・ファシリテータ

2) 認定試験、検定試験などの作問

第二種 ME 技術実力検定試験(日本生体医工学会) 作問分野担当者、臨床工

学技士国家試験全国統一模擬試験(日本臨床工学技士恐育施設協議会)、第1回 ~第3回の医用機器安全管理学分野作問責任者、臨床工学技士国家試験全国統 一模擬試験(メジカルビュー社)、第1回~第3回の医用治療機器学分野作問責 任者、医療機器管理認定試験(日本臨床工学技士会) 作問

顕彰:第33回日本血液浄化学会 ベストプレゼンテーションアワード(共同)

氏名 斉藤 徳 学部 保健医療学部 学科 臨床工学科 職階 講師

専門分野:災害が医療に及ぼす影響について、医療安全に関する研究

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:臨床工学総論(2時間)

非常勤講師:北海道情報大学(生体機能代行装置学実習 I)、吉田学園医療歯科専門学校

(生体機能代行装置学実習 I 、生体機能代行装置学実習 II)

学内委員会・学科内業務等:

学生委員会、国際交流委員会、キャリアセンター運営委員会、教務委員会、 日本医療大学親睦会役員会(監事)、臨床工学科会計、ME2 種試験対策講義、 入学式、入試相談会、オープンキャンパス、日医大フェス学科体験、一日体験 入学、石狩翔陽高等学校職業体験、東海大学付属札幌高等学校職業体験、学 校推薦型選抜面接委員、一般選抜監督員、高校訪問

学術活動:

所属学会 · 研究会等:

日本臨床工学技士会、北海道臨床工学技士会、日本血液浄化技術学会、日本医療機器学会、日本呼吸療法医学会、日本医工学治療学会、日本医療教授システム学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本集中治療医学会、日本行動医学会、日本医学教育学会、日本ストレスマネジメント学会、日本認知・行動療法学会、日本カウンセリング学会、医療安全心理行動学会、日本臨床工学技士教育施設協議会(教科書委員会委員)、第48回日本血液浄化技術学会学術大会・総会(事務局長)、臨床工学技士臨床実習指導者講習会(ファシリテータ)

科学研究費(研究資金)の取得:

学術助成費「災害時における地域に特化した血液透析治療についての現状の 問題点に関する研究」研究代表者

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名<u>齊藤 高志</u> 学部<u>保健医療学部</u> 学科<u>臨床工学科</u> 職階<u>講師</u> 専門分野:人間医工学、教育学、社会・安全システム科学

教育活動:

責任科目: 医用機器学概論 I (1年次、2単位、30時間)

担当科目:臨床工学概論(4時間)、電気工学実習(45時間)、情報処理Ⅱ(15時間)

非常勤講師:札幌医療科学専門学校(医療安全学)

学内委員会・学科内業務等:

教務委員会、カリキュラム委員会、入学者選抜委員会、研究倫理委員会、人 権擁護委員会、ハラスメント相談員

学術活動:

所属学会·研究会等:

公益社団法人日本生体医工学会

科学研究費(研究資金)の取得:

学内学術助成「ヒトの視覚機能に基づく医療機器表面の異常検知手法の研究」 代表者

社会活動:公益社団法人北海道臨床工学技士会 公益事業推進委員会

顕彰:なし

氏名 髙平 昂 学部 保健医療学部 学科 臨床工学科 職階 助教

専門分野:臨床工学

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:解剖生理学 I (4.5 時間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

保健管理委員会、学生委員会、図書・学術振興委員会、大学祭実行委員会

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本臨床工学技士会、北海道臨床工学技士会(教育委員会副委員長)、科学研究 費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

11-1-⑦ 総合福祉学部 ソーシャルワーク学科教員

氏名 笹岡 眞弓 学部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学科 職階 教授・学部 長・学科長

専門分野:保健医療福祉分野、医療ソーシャルワーク、災害ソーシャルワーク

教育活動:

責任科目:医療福祉とマネジメント

担当科目:なし非常勤講師:なし

学内委員会·学科内業務等:

運営委員会、連絡会議、教授会、学科会議、教務委員会、自己点検・評価委員会、入試員会、入学者選抜員会、ハラスメント防止委員会、学生懲戒委員会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本社会福祉学会(学会賞審査委員)、日本保健医療社会福祉学会(理事)、日本 保健医療福祉連携教育学会(理事)、日本医療ソーシャルワーカー協会(理事)、 救急認定ソーシャルワーカー認定機構(理事)

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:ソーシャルケアサービス研究協議会(政策担当代表)、日本医療ソーシャルワーカー協会 石巻支援活動統括責任者

顕彰:なし

 氏名
 鈴木 幸雄
 学部
 総合福祉学部
 学科
 ソーシャルワーク学科
 職階
 特

 任教授

専門分野:子ども家庭福祉、社会福祉

教育活動:

責任科目:社会福祉の原理と政策 I・Ⅱ、児童・家庭福祉

担当科目:社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、児童・家庭福祉、医療福祉とマネジメント、

他

非常勤講師:なし

学内委員会,学科内業務等:

研究費審查委員会、研究倫理委員会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、児童福祉法研究会、他

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:石狩市社会福祉審議会会長

顕彰:なし

 氏名
 ②
 正人
 学部
 総合福祉学部
 学科
 ソーシャルワーク学科
 職階
 准数

 授

専門分野:地域福祉、高齢者福祉、ボランティア

教育活動:

責任科目:ボランティア活動(1年次、1単位、15時間)

担当科目:ボランティア活動(15時間)

非常勤講師:北見日赤看護大学(社会保障論)旭川大学(社会事業発達史、福祉経営論)、

札幌学院大学(地域福祉論 A)

学内委員会・学科内業務等:

入試選抜委員会、学年担任(1年生)

学術活動:

所属学会·研究会等:

北海道地域福祉学会(会長)、日本地域福祉学会(理事)、日本福祉教育ボランティア学習学会、日本社会福祉学会、日本社会福祉士会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名<u>松浦 智和</u> 学部<u>総合福祉学部</u> 学科<u>ソーシャルワーク学科</u> 職階<u>准</u>教授

専門分野:精神保健学、精神保健福祉学

教育活動:

責任科目:障害者福祉(1年次、2単位、30時間)、現代の精神保健の課題と支援 I (1年次、2単位、30時間)

担当科目:基礎演習(6時間)

非常勤講師:日本赤十字北海道看護大学(公衆衛生学)

学内委員会・学科内業務等:

研究倫理委員会、自己点検・評価委員会、保健管理委員会、学生募集対策委 員会、ハラスメント相談員

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本精神保健福祉学会(理事)、日本公衆衛生学会、日本社会福祉学会 科学研究費(研究資金)の取得:

> 若手研究「統合失調症患者の子育ての課題と精神保健福祉士の支援モデルに 関する研究」研究代表者

> 基盤研究(C)「精神保健ソーシャルワークの効果的展開のための諸条件の検討: 北海道の歴史から」研究分担者

学内教育向上研究費「上川・空知地域におけるソーシャルワーク・スーパー

ビジョン・システム構築に関する実証的研究 研究代表者

社会活動:一般社団法人北海道精神保健福祉士協会理事、一般社団法人日本ソーシャルワー

ク教育学校連盟北海道ブロック副会長、NPO 法人まちの森(当別町)理事

顕彰:なし

氏名 越石 全 学部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学科 職階 講師

専門分野:ソーシャルワーク・ケア実践、ソーシャルワーク実習、スーパービジョン

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:基礎演習(20時間)・ソーシャルワークの理論と方法 I(30時間)

非常勤講師:札幌医学技術福祉歯科専門学校 介護福祉士科 「人間の理解Ⅱ」

学内委員会・学科内業務等:

図書・学術委員会、学生委員会、FD委員会、学生募集対策委員会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本社会福祉教育学会、教育哲学学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:

日本ソーシャルワーク教育学校連盟 北海道ブロックプロジェクト委員、北海道社会福祉士会 実習委員、北海道社会福祉士会 認定社会福祉士 スーパーバイザー、日胆地区市民成年後見人養成講座 講師

顕彰:なし

氏名<u>銭本 隆行</u> 学部<u>総合福祉学部</u> 学科<u>ソーシャルワーク学科</u> 職階<u>講</u> <u>師</u>

専門分野:高齢者福祉、地域福祉、国際医療福祉

教育活動:

責任科目:保険医療福祉行政論(看護2年次、1単位、15時間)、保険医療福祉行政論(看護1年次、1単位、15時間)、関係法規(看護2年次、1単位、15時間)、基礎演習(SW1年次、2単位、30時間)、高齢者福祉(SW1年次、2単位、30時間)

担当科目:保険医療福祉行政論(30時間)、関係法規(15時間)、基礎演習(30時間)、 高齢者福祉(30時間)

非常勤講師:北星学園大学(国際比較福祉論、海外の福祉制度)、札幌学院大学(地域福祉論 B)

学内委員会・学科内業務等:

教務委員会、カリキュラム委員会(委員長)、人権擁護委員会、国際交流委員

学術活動:

会

所属学会·研究会等:

日本地域福祉学会、日本社会福祉学会、日本認知症ケア学会、北海道地域福祉学会、北海道社会福祉学会、社会政策学会、対人支援職種の教育課程の見直しに係る諸外国動向の検討会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「ハラスメント問題に対応するソーシャルワーカー養成のための集学的研究」研究分担者

社会活動:なし

顕彰:なし

 氏名
 山下
 浩紀
 学部
 総合福祉学部
 学科
 ソーシャルワーク学科
 職階
 助

 教

専門分野:ソーシャルワーク、社会福祉士養成教育、障害者虐待防止

教育活動:

責任科目:ソーシャルワークの基盤と専門職 I (1年次、2単位、30時間)

担当科目: ソーシャルワークの基盤と専門職 I (1年次、2単位、30時間)、基礎演習(1年次、2単位、60時間)

非常勤講師:北星学園大学(相談援助演習 I · 相談援助演習 II)

学内委員会・学科内業務等:

教務委員会、カリキュラム委員会、地域貢献センター(センター長)

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本地域福祉学会、日本社会福祉士会、東洋大学福祉社会開発研究センター客員研究員、日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロック用語説明プロジェクト委員

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動: 札幌市消防局救急救命士養成所 第 29 期救急救命士養成課程「社会保障と社会福祉」 講師

顕彰:なし

11-1-8 総合福祉学部 介護福祉マネジメント学科教員

氏名<u>伊藤</u> 学部<u>総合福祉学部</u> 学科<u>介護福祉マネジメント学科</u> 職階<u>教</u> 授・学科長

専門分野:医療経営、医療マーケティング

教育活動:

責任科目:経営学入門(1年次、1単位、15時間)、医療マーケティング(3年次、2単位、30時間)、持続可能社会と地域医療福祉経営(3年次、2単位、30時間)、地域活性化と地域医療(4年次、2単位、30時間)、地域連携実践(3年次、2単位、30時間)、医療流通システム論(3年次、2単位、30時間)、専門演習 II(3年次、4単位、60時間)、専門演習 II(4年次、4単位、60時間)、卒業研究(4年次、4単位、60時間)、医療経済学(2年次、2単位、15時間)

担当科目:医療福祉とマネジメント (7.5 時間)、経営学入門 (15 時間)、医療マーケティング (15 時間)、持続可能社会と地域医療福祉経営 (15 時間)、地域活性化と地域医療 (30 時間)、地域連携実践 (15 時間)、医療流通システム論 (30 時間)、専門演習 I (60 時間)、専門演習 II (60 時間)、卒業研究 (60 時間)、医療経済学 (15 時間)

非常勤講師:小樽商科大学(流通システム論)

学内委員会・学科内業務等:

教務委員、自己点検評価委員、ハラスメント防止委員、入試選抜委員、入試 委員、IR 運営委員、不正調査委員、人権擁護委員、国際交流委員、教員選考 委員

学術活動:

所属学会·研究会等:

医療マネジメント学会、日本病院管理学会、日本商業学会、日本地域活性学会(北海道部会監事)、生活経済学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:医療安全管理者養成講習会・講師

顕彰:なし

 氏名
 石黒
 匡人
 学部
 総合福祉学部
 学科
 介護福祉マネジメント学科
 職階

 教授

専門分野:行政法、租税法

教育活動:

責任科目:法学入門(1年、1単位、15時間)

担当科目:法学入門(15時間)

非常勤講師:北海道大学法学部(行政法Ⅲ)、小樽商科大学(租税法、行政法Ⅱ)

学内委員会・学科内業務等:

総合福祉学部学生委員会(委員長)、研究倫理委員会、入試委員会、ハラスメント防止委員会、学生懲戒委員会

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本公法学会、租税法学会

科学研究費 (研究資金) の取得:

基盤研究(C)「法の定立・解釈・適用における地域特性の影響:北海道の事例に基づく分野横断的研究」(継続) 代表者

学内助成「アクティブ・ラーニングの教育方法等の実施による学生満足度向 上および教育効果の調査の研究」 分担者

社会活動:札幌市コンプライアンス委員会委員長、小樽市情報公開・個人情報保護審査会会長、小樽市行政不服審査会会長、小樽市ラブホテル建築規制委員会会長、北しりべし廃棄物処理広域連合情報公開・個人情報保護審査会会長、令和4(2022)年度小樽市行政評価有識者会議座長、小樽市コンプライアンス委員会副委員長、江別市情報公開審査会副会長、江別市個人情報保護審査会副会長

顕彰:なし

 氏名
 加藤
 敏文
 学部
 総合福祉学部
 学科
 介護福祉マネジメント学科
 職階

 教授

専門分野:経営学

教育活動:

責任科目:事業構想論(3年次、2単位、30時間)、サービス産業論(4年次、2単位、30時間)、専門演習 I・II(3年次、2単位、30時間)、専門演習 III・IV(4年次、2単位、30時間)、卒業論文(4年次、2単位、30時間)

担当科目:マーケティング入門(1年次、2単位、20時間)、地域連携実践(3年次、2単位、32時間)、持続可能社会と地域医療福祉経営(4年次、2単位、14時間)、通信教育マーケティング入門(1年次、2単位、16時間)、通信教育 持続可能社会と地域医療福祉経営(4年次、2単位、14時間)

非常勤講師:なし

学内委員会 • 学科内業務等:

研究倫理委員会、図書・学術振興委員会

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本商業学会、北方マーケティング研究会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名<u>志渡 晃一</u> 学部<u>総合福祉学部</u> 学科<u>介護福祉マネジメント学科</u> 職階 教授

専門分野:公衆衛生学、疫学、保健統計学

教育活動:

責任科目:保健医療統計(看護学科、1単位、12時間)、公衆衛生学(看護学科、1単位、12時間)、公衆衛生学(診療放射線学科、1単位、12時間)、衛生学(診療放射線学科、1単位、12時間)、統計学(看護学科、1単位、12時間)、統計学(理学療法学科、1単位、12時間)

担当科目:保健医療統計(12時間)、公衆衛生学(24時間)、衛生学(12時間)、統計学(24時間)

非常勤講師:北海道医療大学(公衆衛生学)、美唄聖華高等学校(公衆衛生学)

学内委員会・学科内業務等:なし

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本社会医学会(評議員)、日本疫学会、日本社会福祉学会、北海道公衆衛生学会(理事)

科学研究費(研究資金)の取得:

学内学術助成費「高等教育機関に所属する学生のライフスタイルと健康」 代 表者

社会活動:北海道家庭生活カウンセリングセンター研修

顕彰:なし

氏名<u>照井 レナ</u> 学部<u>総合福祉学部</u> 学科<u>介護福祉マネジメント学科</u> 職階 教授

専門分野:医療福祉経営、まちづくり、地域・在宅看護学教育、訪問看護、災害看護教育活動:

責任科目:医療のしくみ(1年次、2単位、18時間)

担当科目:医療のしくみ(1年次、2単位、18時間)

非常勤講師:旭川医科大学医学系研究科修士課程(看護理論特論、看護研究特論)、札幌 医科大学(保健医療福祉行政論 II、家族看護論)、札幌国際大学(子どもの保 健、子どもの健康と安全)、天使大学(多職種連携演習)、日本医療大学(ボラ ンティア論)

学内委員会・学科内業務等:

キャリアセンター運営委員会、研究費審査委員会、高校生ソーシャルビジネ スプランコンテスト(プロジェクトマネージャー)

学術活動:

所属学会・研究会等:

日本看護科学学会(代議員)、地域活性学会(理事,論文査読者)、北海道公衆衛生学会(評議員)、日本地域看護学会、日本在宅ケア学会、日本在宅看護学会、日本看護管理学会、日本人間工学会、日本エンドオブライフケア学会、看護質的統合法(KJ法)研究会、母性衛生学会、日本創傷・オストミー・失禁管理学会、北海道医療大学看護福祉学部学会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「過疎地域市町村で医療的ケア児を支援するための災害時システムの構築」研究分担者

在宅医療助成 勇美記念財団 調査研究費助成

「訪問看護ステーションの経営品質と個人と組織の能力向上に関する研究 ①:経験学習尺度の開発」研究代表者

学内学術助成費「訪問看護ステーションの経営品質と個人と組織の能力向上 に関する研究②:経験学習と組織学習の関連」研究代表者

社会活動:特定非営利活動法人飛んでけ車いすの会(理事)、札幌駅前通まちづくり株式会社 (プロジェクト「人体改造カブ式会社」コーディネーター)、社会福祉法人札 幌恵友会(評議員)、蘭越町(まちづくり応援大使)、株式会社プリコーション/ 訪問看護ステーションいっぽにほさんぽ(取締役)、新人訪問看護ナースを応援 する会メンバー、ホームホスピス®開設準備メンバー、米-1グランプリ in らんこし (特別審査員)

顕彰:なし

氏名<u>林 美枝子</u> 学部<u>総合福祉学部</u> 学科<u>介護福祉マネジメント学科</u> 職階 教授

専門分野:医療人類学、介護人類学、社会医学

教育活動:

責任科目:

看護学科:文化人類学(1年次、1単位、15時間)、北海道史(1年次、1単位、15時間)、医療と社会(1年次、1単位、15時間)、家族論(2年次、1単位、15時間)、家族論(2年次、1単位、15時間)

リハビリテーション学科: 医療と社会(1年次、1単位、15時間)、文化人類学(1年次、 1単位、15時間)、北海道史(1年次、1単位、15時間)

診療放射線学科:医療と社会(1年次、1単位、15時間)、文化人類学(1年次、1単位、

15 時間)、北海道史(1年次、1単位、15 時間)

臨床検査学科:医療と社会(1年次、1単位、15時間)、文化人類学(1年次、1単位、 15時間)、北海道史(1年次、1単位、15時間)

臨床工学学科:医療と社会(1年次、1単位、15時間)、文化人類学(1年次、1単位、15時間)、北海道史(1年次、1単位、15時間)

介護福祉マネジメント学科:北海道史(1年次、1単位、15時間)

ソーシャルワーク学科:北海道史(1年次、1単位、15時間)

担当科目:看護学科 医学概論 (2時間)、リハビリテーション学科 保健医療論 (2 時間)、診療放射線学科 医学概論 (2時間)

非常勤講師:札幌国際大学(地域社会と健康、現代の医療、現代民俗学)

学内委員会•学科内業務等:

教授会、学生委員会、保健管理委員会

学術活動:

所属学会・研究会等:

日本文化人類学会、日本民俗学会、日本公衆衛生学会、日本介護福祉学会、 日本認知症ケア学会、北海道民族学会、日本死と臨床研究会、北海道ジェン ダー研究会

科学研究費(研究資金)の取得:

基盤研究(C)「住民参加による日本型看取りのドゥーラ導入の課題と臨死期ケアの変容について」

学内助成「医療・福祉系学部のためのデス・ポジティブ・ムーブメントに則 った「死生学」の授業内容の検討とテキスト案の作成」

社会活動:日本医療大学生涯学習講座 講演、滝川市教育委員会 講演、岩見沢市 講演、 公益財団法人市町村振興協会 評議員、一般財団法人道民活動振興センター 評議員、北海道民族学会 運営委員、北海道史編さん委員会 専門委員、北海 道社会功労賞 推薦委員、北海道文化審議会 委員、公益財団法人北海道女性 協会 理事、北海道生産性本部 理事、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動 協会 評議員、札幌市社会福祉審議会 委員、熊谷市史編集委員 特別調査員、 札幌市国民健康保険運営協議会 委員、北海道 SDGs 連絡会議 委員、札幌市介 護保険事業計画推進委員会 副委員長、Qの会・北海道 会長

顕彰:なし

 氏名
 塚辺 博崇
 学部
 総合福祉学部
 学科
 介護福祉マネジメント学科
 職階

 准教授

専門分野:財務会計、監査

教育活動:

責任科目:会計学入門(1年次、2単位、30時間)、簿記入門(1年次、2単位、30時

間)

担当科目:会計学入門(1年次、2単位、30時間)、簿記入門(1年次、2単位、30時

間)

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:

教務委員会(委員長)、カリキュラム委員会、入学者選抜委員会、衛生委員会、 募集必達プロジェクト

学術活動:

所属学会・研究会等:日本会計研究学会、日本企業経営学会、日本商業教育学会 科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:北海道警察札幌方面留置施設視察委員、中小企業診断士実務補習副指導員

顕彰:なし

氏名<u>佐藤</u>恵 学部<u>総合福祉学部</u> 学科<u>介護福祉マネジメント学科</u> 職階 講師

専門分野:介護過程の展開、認知症、認知症ケア、脳死と臓器移植、ターミナルケア 教育活動:

責任科目:介護過程 I (1年次、2単位、60時間)

担当科目:基礎演習(60時間)

非常勤講師:なし

学内委員会 · 学科内業務等:

教務委員会、不正調査委員会、ハラスメント防止委員会、総合福祉学部転学 部転学科プロジェクトメンバー

学術活動:

所属学会 · 研究会等:

老年看護学学会、日本エンドオブライフケア学会、日本死の臨床研究会、日本リスクマネジメント学会、日本介護支援専門員協会、日本生活支援学会

科学研究費(研究資金)の取得:

学内助成「高齢者福祉施設における専門職間の連携・協働上の困難とその要因~A 法人の現状調査から~」 研究代表者

学内助成「技能実習生が習得する移転対象となる業務区分内容の習熟化に関する研究」

社会活動:北海道介護福祉士会釧根支部研修会講師、介護技能実習評価試験監督(「初級」・「専門級」)実施、社会福祉法人ノテ福祉会 ノテ中の島・ノテとみざわの里開設時職員研修実施

顕彰:なし

氏名<u>織田 なおみ</u> 学部<u>総合福祉学部</u> 学科<u>介護福祉マネジメント学科</u> 職 階<u>助教</u>

専門分野:介護教育、介護実習、生活支援技術等

教育活動:

責任科目:生活支援技術 IA(1年次・2単位・60時間)、生活支援技術 IB(1年次・2単位・60時間)、介護の基本 IA(1年次・4単位・60時間)

担当科目:生活支援技術 I A (60 時間)、生活支援技術 I B (60 時間)、介護の基本 I A (60 時間)、介護総合演習 I A (30 時間)

非常勤講師:札幌医学技術福祉歯科専門学校(介護の基本Ⅱ・生活支援技術Ⅱ・介護過程IV・介護総合演習Ⅱ)、大原医療秘書専門学校 (学内実習)

学内委員会・学科内業務等:

自己点検・評価委員会 委員、学年担任(1年生)、 実習調整 等

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本介護福祉士会、日本介護学会、日本介護福祉教育学会、北海道医療大学看護福祉学部学会

科学研究費 (研究資金) の取得:

学内助成「新カリキュラム導入後の介護実習区分Ⅱにおける実習学生の学びの特徴 ~実習学生の実習報告書とアンケート調査から」

学内助成「技能実習生が習得する移転対象となる業務区分内容の習熟化に関する研究」

社会活動:北海道介護福祉士会(理事)、北海道社会福祉協議会研修

顕彰:なし

氏名<u>坂野 大樹</u> 学部<u>総合福祉学部</u> 学科<u>介護福祉マネジメント学科</u> 職階 助教

専門分野:病院経営、医療情報、病院経営人材育成

教育活動:

責任科目:なし

担当科目:医療のしくみ、基礎演習

非常勤講師:北海道大学大学院保健科学院(医療マネージメント特講)

学内委員会・学科内業務等:

親睦会役員

学術活動:

所属学会·研究会等:

日本医療マネジメント学会、日本医療情報学会、日本シミュレーション&ゲーミング学会

科学研究費(研究資金)の取得:学内助成

社会活動:第42回医療情報学連合大会実行委員

顕彰:なし

氏名<u>髙橋 銀司</u> 学部<u>総合福祉学部</u> 学科<u>介護福祉マネジメント学科</u> 職階 助教

専門分野: 非営利法人における市民活動、社会福祉

教育活動:

責任科目:コミュニケーション技術 I (1年次、2単位、30時間)、介護総合演習 I A (1年次、2単位、30時間)

担当科目:コミュニケーション技術 I (30 時間)、介護総合演習 I A (30 時間)、基礎演習 (30 時間)

非常勤講師:専門学校北海道福祉・保育大学校(介護の基本Ⅲ)、札幌心療福祉専門学校(社会保障 I)、札幌医学技術福祉歯科専門学校(コミュニケーション技術 I)

学内委員会・学科内業務等:

FD委員会、地域貢献センター構成員

学術活動:

所属学会・研究会等:日本 NPO 学会、日本社会福祉学会、日本介護学会、北海道地域福祉学会

科学研究費(研究資金)の取得:学内助成

社会活動:一般社団法人福祉システム北海道代表理事(理事長)、札幌市市町村審査会委員、 札幌市市民活動サポートセンター市民活動相談員、福祉系教育教材動画の配信、 介護初任者研修および介護実務者研修等講習会講師

顕彰:なし

11-1-9 留学生別科教員

氏名<u>平野 啓介</u> 学部<u>総合福祉学部</u> 学科<u>留学生別科・介護福祉マネジメント</u> 学科

職階 別科長・准教授

専門分野:介護福祉士養成教育、介護過程教授方法、発達障害(特に自閉症スペクトラム症、注意欠如・多動性障害等)を持つ方への就労支援・生活支援

教育活動:

責任科目:人間関係とコミュニケーション I (1年次、2単位、30時間)、人間関係とコミュニケーション II (1年次、2単位、30時間)、基礎演習(1年次、2単位、60時間)

担当科目:人間関係とコミュニケーション I (30 時間)、人間関係とコミュニケーション II (30 時間)、基礎演習 (60 時間)、医療福祉とマネジメント (8 時間)

非常勤講師:社会福祉法人ノテ福祉会(介護職員実践研修)、札幌医学技術福祉歯科専門学校(障害の理解I、生活支援技術III-3)、旭川大学短期大学部(障がい者福祉論II)

学内委員会・学科内業務等:

留学生別科長、学生募集対策委員会(募集必達プロジェクト委員)、カリキュ ラム委員会委員

学術活動:

所属学会·研究会等:

北海道医療大学看護福祉学部学会、北海道社会福祉学会、日本社会医学会、 日本コミュニケーション学会、日本職業リハビリテーション学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動: 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課 令和4 (2022) 年度適切な介護教員講習 会のあり方に関する調査研究事業検討委員会 委員

顕彰:なし

氏名 一色 舞子 学科 留学生別科 職階 講師

専門分野:言語学、日本語教育学

教育活動:

責任科目:文法 I (1年次、3単位、37.5 時間)、読解 I (1年次、3単位、37.5 時間間)、口頭表現 I (1年次、2単位、25 時間)、アカデミック日本語 A I (1年次、2単位、22.5 時間)、文法 II (1年次、3単位、37.5 時間)、読解 II (1年次、3単位、37.5 時間)、口頭表現 II (1年次、2単位、25 時間)、アカデミック日本語 A II (1年次、2単位、22.5 時間)

担当科目:なし

非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:なし

学術活動:

所属学会 • 研究会等:

日本言語学会、日本語学会、日本語教育学会、日本語文法学会、日本語習熟論学会、朝鮮語教育学会

科学研究費(研究資金)の取得:学内助成 共同研究

社会活動:技能実習生入国後講習

顕彰:なし

氏名 唐 煒 学科 留学生別科 職階 講師

専門分野:日本語学・中国語学・対照言語学

教育活動:

責任科目:なし担当科目:なし

非常勤講師:北海道大学(中国語 I・中国語演習)、東海大学(中級中国語会話Ⅱ) 学内委員会・学科内業務等:留学生エージェント会社を開拓・留学生募集の宣伝活動

学術活動:

所属学会・研究会等:日本訓点学会・日本中国学会・日中言語比較学会・北海道大学国語国

文研究会

科学研究費(研究資金)の取得:学内助成 共同研究

社会活動:なし

顕彰:なし

氏名 千葉 直子 学科 留学生別科 職階 助手

専門分野:日本語学・中国語学・対照言語学

教育活動:

責任科目:なし 担当科目:なし 非常勤講師:なし

学内委員会・学科内業務等:なし

学術活動:

所属学会·研究会等:

看護と介護の日本語教育研究会、日本語教育学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:介護技能実習生への日本語教育

顕彰:なし